

# 上野国分僧寺・ 尼寺中間地域

前橋市元総社町小見地区，群馬郡群馬町大字東国分村前・薬師道南・  
中道南・上野道南(植野道南)・高井道東地区に所在する遺跡の埋蔵  
文化財発掘調査報告書 8分冊中の第2分冊。

— 関越自動車道(新潟線)地域埋蔵  
文化財発掘調査報告書第20集 —

図 表 編

1987

群馬県教育委員会  
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



(図表編)

頁	行・図等	正 誤
12		F区第22号住居跡→F区第22号址
14		F区第24号住居跡→F区第24号址
19		F区第38号住居跡→F区第38号址
21		F区第43号住居跡→F区第43号址
41		G区第27号住居跡→G区第27号址
67		G区第100号住居跡→G区第100号址

資料	財群県理蔵文化財	01-320
	調査事業団保管	41-3
NO. 63-597	昭和63年7月26日	(5)



# 上野国分僧寺・ 尼寺中間地域

前橋市元総社町小見地区，群馬郡群馬町大字東国分村前・薬師道南・中道南・上野道南(植野道南)・高井道東地区に所在する遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書 8分冊中の第2分冊。

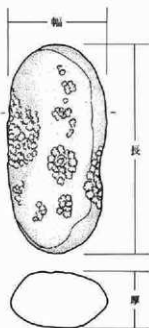
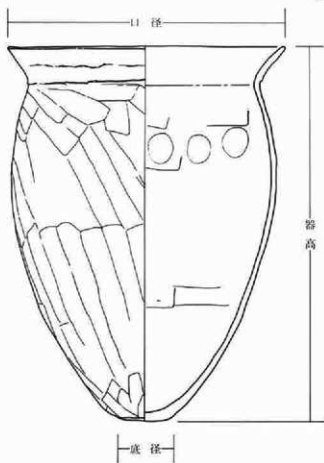
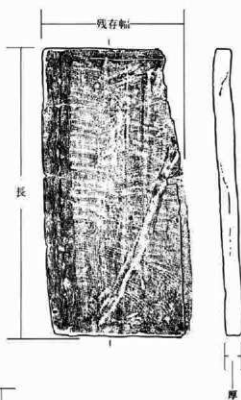
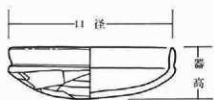
一関越自動車道(新潟線)地域埋蔵  
文化財発掘調査報告書第20集一

目 表 編

1987

群 馬 県 教 育 委 員 会  
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団









## 第3章 第1節 古墳時代～平安時代

## F区第1号住居跡

測図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
6-1 92	須恵器 埴 B	覆土内 破片片	□ 底高 (14.6) — 6.8 4.8	黒色鉱物粒子	中性焰	灰黄 灰	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。底部調整。口縁部に炭化物が若干付着。	
6-2 92	須恵器 埴 C I	掘り方内 破片片	□ 底高 14.9 — 7.6 5.6	白色粒子	還元焰	灰	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
7-1 92	須恵器 埴 D	覆土内 破片片	□ 底高 12.7 — 5.8 4.7	黒色粒子 白-黒色鉱物粒子	中性焰	灰 灰白	口縁部はやや外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
7-2 92	須恵器 埴 C I	覆土内 破片片	□ 底高 (13.8) (7.1) 5.5	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	褐灰	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
7-3 92	須恵器 埴 C I	覆土内 ほぼ球形	□ 底高 12.5 — 5.9 4.8	#	中性焰	にぶい 褐橙	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
7-4 92	須恵器 埴 C II	掘り方内 破片片	□ 底高 (15.2) — 7.5 5.7	黒色鉱物粒子	#	灰黄	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
7-5 92	土師器 埴 C II	カマド内 破片片	□ 底高 15.7 — 7.2 4.9	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	にぶい 橙	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
7-6 92	土師器 埴 E	覆土内 破片片	□ 底高 (16.4) — 8.7 7.7	#	#	にぶい 黄橙	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
7-7 92	灰陶器 埴	覆土内 破片片	□ 底高 (14.9) (8.9) 4.3	美濃系		灰	口縁部はやや外反する。轆轤成形(右回転)。付高台。塗手法は刷毛塗り。	
7-8 92	土師器 壺 C III	カマド内 破片片	□ 底高 (19.1) — (8.1)	黒色鉱物粒子 赤褐色粒子	酸化焰	にぶい 橙	「コ」の字状口縁。紐作り。外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内面胴部は寛撫で。	
7-9 92	土師器 壺 C III	カマド内 破片片	□ 底高 (18.8) — (14.7)	#	#	にぶい 橙黄灰	「コ」の字状口縁。紐作り。外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内面胴部は寛撫で。	
7-10 92	土師器 台付壺	覆土内 破片片	□ 底高 (12.7) — (14.2)	白色粒子 黒色鉱物粒子	#	にぶい 黄灰黄褐	「コ」の字状口縁。紐作り。外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内面胴部は寛撫で。	
8-1 92	瓦 女瓦	覆土内 破片片	厚 1.9	#	還元焰	灰	横巻き造り。凹面に布の合せ目あり。凸面隅叩きを擦削している。	
8-2 92	瓦 女瓦	掘り方内 破片片	厚 2.5	#	中性焰	灰	横巻き造り。凹面磨砂紙、凸面整形後隅叩き。凸面寛描き文字残欠。	
8-3 92	鉄 刀子	覆土内	残長 10.0 身長 6.0				身長 $\times$ 0.5を計り、切先を欠損する。全体錆化が進む。	基重 4.0 12.8

## F区第2号住居跡

測図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
10-1 92	土師器 坏 C II	覆土内 破片片	□ 底高 (12.9) — (3.8)	黒色鉱物粒子	酸化焰	にぶい 褐	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	

第1節 古墳時代～平安時代

10-2 92	土師器 坏C II	覆土内 破片残	口 径高 (12.2) — 3.6	黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は内湾する。体部・底部は削り、口縁部・器内面は横撫で。	
10-3 92	須恵器 坏D II	覆土内 破片残	口 径高 (13.4) (8.4) 3.6	白色粒子	還元焰	灰	口縁部は外傾する。縦縞整形(右回転)。底部は回転起し。	
10-4	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.3	白色粒子 黒色鉱物粒子	#	灰白	凹面粘土板剥ぎ取り痕。	
10-5 92	石器 磨石	覆土内 完形	長 幅 厚 12.8 11.0 3.3	石英閃緑岩			全体に磨耗している。側縁部に敲打痕がみられる。	重 750

F区第3号住居跡

調査番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
12-1	土師器 坏E	覆土内 破片残	口 径高 (11.4) — 4.0	黒・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	赤褐	口縁部は内湾する。体部・底部は削り、口縁部・器内面は横撫で。	
12-2	須恵器 坏C I	覆土内 破片残	口 径高 (15.7) (6.3) 5.6	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	灰白 灰	口縁部はやや外反する。 縦縞整形(右回転)。付高台。	
12-3	黒色土器 埴	覆土内 破片残	口 径高 (14.6) (7.0) 5.3	黒色鉱物粒子	酸化焰	に よ い 橙 黒	口縁部は外反する。縦縞整形(右回転)。付高台。内面はみがきによる調整後吸炭させている。	
12-4 92	黒色土器 埴	覆土内 破片残	口 径高 (15.1) — (5.7)	黒色粒子 黒色鉱物粒子	#	に よ い 黄 緑 黒	口縁部は外反する。縦縞整形(右回転)。内面はみがきによる調整後吸炭している。	
12-5	灰輪器 埴	掘り方内 底部残存	口 径高 — 5.2 (1.4)	美濃系		灰白	底部は回転削り、付高台。 内面底部に重ね焼き痕あり。	
12-6	土師器 差C IV	覆土内 破片	口 径高 (18.3) (6.5) (5.6)	白色粒子 黒色粒子	酸化焰	赤黒	「コ」の字状口縁。紐作り、外面割部は削り、口縁部は横撫で、内面割部は異撫で。	口唇部に2段の縁あり
12-7 93	須恵器 黒~刷部片	覆土内 黒~刷部片	口 径高 — (19.5)	白色粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰白	紐作り後縦縞整形。 紐状の粘土を肩部に貼付している。	
12-8	瓦 女 瓦	覆土内 破片残	厚 2.2	白・黒色粒子 赤褐色粒子	中性焰	#	焼きき造り。 凸面叩き後撫で。	

F区第4号住居跡

調査番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
13-1 93	須恵器 坏C I	カマド内 ほぼ完形	口 径高 (13.9) — 4.8	白色鉱物粒子	還元焰	灰	口縁部は外反する。縦縞整形(右回転)。付高台。内面に若干炭化物が付着する。	高台部欠損
13-2 93	須恵器 坏C II	カマド内 ほぼ完形	口 径高 13.4 6.1 5.6	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	に よ い 橙 灰 黄 褐	口縁部は外反する。 縦縞整形(右回転)。付高台。	
13-3	須恵器 坏C II	カマド内 破片残	口 径高 (13.3) (6.5) 5.6	白色鉱物粒子	#	浅黄灰	口縁部は外反する。 縦縞整形(右回転)。付高台。	
14-1	須恵器 埴	覆土内 破片残	口 径高 — (7.0) 4.9	黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰白	縦縞整形(右回転)。付高台。	口縁部欠損
14-2	須恵器 坏	カマド内 破片	口 径高 — (6.0) (3.0)	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	黒褐	縦縞整形(右回転)。	口縁部欠損

## F区(3・4・5号住居跡)

14-3 93	須恵器 埴C I	カマド 掘り方内	口底高 12.2 6.6 5.0	白色鉱物粒子	中性焰	灰白 黄橙	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。内外面炭化物付着。	破片欠
14-4	須恵器 埴	貯蔵穴内 破片	(13.9) 口底高 (4.0)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	還元焰	灰白	口縁部は外傾する。轆轤整形。	
14-5 93	須恵器 高台付皿	覆土内 ほぼ完形	口底高 13.3 7.6 2.7	白色粒子 黒色粒子	#	灰	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
14-6	土師器 壺C IV	カマド内 口・胴部片	(18.9) 口底高 (9.8)	黒・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	明褐	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は真削り、口縁部は横撫で、内面胴部は荒撫で。	口唇部に2段の稜あり
14-7	須恵系 羽釜C	カマド内 破片	(18.0) 口底高 (6.4)	白・黒色粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰白	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。罫は貼り付け。	
14-8	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.2	白色粒子 赤褐色粒子	中性焰	潮灰	一枚作り。凹面粘土板割き取り痕あり。布目の擦消し。凸面縄印き。	

## F区第5号住居跡

調査番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
16-1 93	土師器 環F	覆土内 ほぼ完形	口底高 11.5 4.1 2.9	黒色鉱物粒子	酸化焰	灰白 黄橙	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
16-2 93	須恵器 埴C II	覆土内 破片	(13.5) 口底高 (6.0) 4.8	白色粒子	中性焰	黒	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。器内・外面を炭炭させている。	
16-3 93	須恵器 埴C I	覆土内 残存	口底高 14.3 7.2 6.1	黒色粒子	還元焰	灰白	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
16-4	須恵器 埴C I	覆土内 残存	口底高 (12.9) 7.0 5.3	白色鉱物粒子	中性焰	#	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
16-5 93	土師器 高台付皿	覆土内 身部完形	口底高 17.9 — 3.3	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	灰白 黄橙	口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。 焼成前に底部中心に穿孔あり。	高台部欠損
16-6	灰釉陶器 高台付皿	覆土内 破片欠	(12.9) 口底高 (7.5) 2.8	美濃系		灰白	口縁部は外反する。轆轤成形(右回転)。付高台。底部は撫で調整。底軸手法は浸掛。	
16-7 93	灰釉陶器 埴	覆土内 体部完形	口底高 — 7.6 (2.8)	#		#	轆轤成形。底部は回転削削り。付高台。 施軸手法は彫毛塗り。	口縁部欠損
16-8 93	土師器 壺C IV	覆土内 残存	口底高 18.1 — 12.0	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	酸化焰	灰白 黄橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は真削り、口縁部は横撫で、内面胴部は荒撫で。	外面胴部に炭化物付着
16-9 93	須恵器 壺	覆土内 破片	口底高 — —	黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形。器内・外面炭化物付着。	
16-10	須恵系 羽釜C	カマド内 破片	(21.0) 口底高 (11.1)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	中性焰	黄橙 灰白	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形。罫は貼り付け。胴部下半は荒削り。	口・胴部残存
16-11	須恵系 羽釜C	カマド 掘り方内	口底高 (18.0) (12.5)	#	酸化焰	黄橙 灰白 黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形。罫は貼り付け。	
16-12	須恵系 羽釜C	カマド内 破片欠	口底高 (19.0) — (8.8)	#		黄橙 灰白 黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形。罫は貼り付け。	
17-1 93	須恵系 羽釜C	カマド内	口底高 (19.0) — (10.4)	#	還元焰	灰白 淡黄橙	紐作り後轆轤整形。口縁部は内傾する。	

第1節 古墳時代～平安時代

17-2	土師器 壺	覆土内 瓦	口 径 高 (6.0) (11.5)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	酸化焰	明赤褐	紐作り成形。外面底部・胴部は荒削り。内面は磨で。	
17-3	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.7	白・赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	淡黄	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。荒削り。	
17-4	瓦 女瓦	覆土内 破片瓦	厚 2.1	白色粒子 黒色鉱物粒子	#	灰白	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕あり。	
17-5	瓦 女瓦	覆土内 瓦	厚 1.6	赤・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	#	黒褐	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕あり。布目の擦消し。凸面縄叩き。	提攜き文字 瓦文字不明
17-6 93	石 磨 丸磨石	覆土内 完形	長 幅 厚 17.5 6.8 4.8	石英斑岩			厚みがあり均整がとれている。全体磨耗している。両端部に敲打痕あり。	重 907.4
17-7 93	鉄 器 釘	覆土内	長 幅 重 11.0 0.9 49.4				先端部欠損し「L」字形に変形、基部端潰れている。断面方形。	
17-8 93	鉄 器 不 明	覆土内	長 幅 重 (7.2) 1.0 19.2				断面不整形円形。両端欠損し様不明。	
17-9 93	鉄 器 釘	覆土内	長 幅 重 (5.45) 0.3 6.5				断面方形と考えられる。錆が進んだためが細かい。両端欠損。	
17-10 93	鉄 器 釘	覆土内	長 幅 重 (5.0) 0.3 5.6				断面方形、先端部残存し基部方向若干変形。	
17-11 93	鉄 器 釘	覆土内	長 幅 重 (3.8) 0.7 7.2				断面長方形、両端欠損。	
17-12 93	鉄 器 釘	覆土内	長 幅 重 (6.5) 0.5 9.6				断面方形、基部・先端部共に欠損。	

F区第6号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
18-1 94	須恵器 坏D II'	貯蔵穴内 ほぼ完形	口 径 高 12.0 6.5 3.0	黒色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	にぶい 褐	口縁部は外傾する。縦縞整形。 底部は荒削り。	
18-2 94	須恵器 埴C I	カマド内 1/4残存	口 径 高 (13.3) (6.8) (5.1)	黒色粒子	#	#	口縁部は外反する。 縦縞整形(右回転)。付高台。	
18-3 94	須恵器 埴C II	貯蔵穴内 1/6残存	口 径 高 (14.2) 6.4 5.4	黒色鉱物粒子	#	浅黄 灰	口縁部は外反する。 縦縞整形(右回転)。付高台。	
18-4	須恵器 碗	貯蔵穴内 1/6残存	口 径 高 (16.6) (6.7)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	にぶい 黄橙	口縁部は外反する。縦縞整形(右回転)。	底部欠損

F区第7号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
20-1 94	須恵器 埴D	覆土内 1/6残存	口 径 高 (16.1) (6.2)	白色粒子 黒色粒子	中性焰	にぶい 黄橙	口縁部は外反する。 縦縞整形(右回転)。付高台。	高台部欠損
20-2 94	須恵器 埴C II	覆土内 完形	口 径 高 13.4 6.7 4.8	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰白	口縁部は外反する。 縦縞整形(右回転)。付高台。	

## F区(6・7・8・9号住居跡)

20-3 94	須恵器 埴C I	覆土内 完形	口底 高	13.4 5.9 5.0	黒色粒子 白・黒色鉱物粒子	中性焰	灰白 浅黄橙	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
20-4 94	須恵器 埴C I	覆土内 片残存	口底 高	(13.7) 7.8 4.6	白色粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
20-5 94	須恵器 埴C II'	貯蔵穴内 ほぼ完形	口底 高	13.4 7.8 3.4	白色粒子 黒色粒子	中性焰	灰白 黄灰	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
20-6 94	灰胎陶器 高台付皿	覆土内 ほぼ完形	口底 高	13.0 7.0 2.6	美濃系		灰白	口縁部は外傾する。轆轤成形(右回転)。付高台。底部回転磨で調整。施釉手法は浸掛。	
20-7	土師器 埴D	覆土内 片残存	口底 高	(23.3) — (9.5)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	酸化焰	橙 灰黄橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は鼠削り、口縁部は横撫で、内面胴部は磨撫で。	口唇部は2 段の稜あり
20-8	須恵系 羽釜A	覆土内 片残存	口底 高	(19.0) — (10.8)	白色鉱物粒子	#	橙 灰黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。磨は貼り付け。	
20-9	須恵系 羽釜A	覆土内 片残存	口底 高	(21.4) — (11.8)	黒・赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	#	に ぶ い 橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。磨は貼り付け。外面胴中に鼠削り施す。	
20-10 94	鉄器 刀子	覆土内	長 幅 重	(4.7) 0.8 7.5				身の一部残存。	
21-1	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	(2.2)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。 凸面縄印き。	
21-2	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	(2.1)	白色粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。凹面布目の横消し。 凸面縄印き。	
21-3	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	(1.8)	白・黒色粒子 黒色鉱物粒子	#	に ぶ い 橙	一枚作り。凹面布目の横消し。 凸面粘土板割ぎ取り痕。縄印き。	
21-4	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	(1.6)	白色粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰黄橙	一枚作り。凹・凸面に粘土板割ぎ取り痕。 凸面斜格子印き。	
22-1	瓦 男瓦	覆土内	厚	2.0	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	暗灰黄	半截作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。	

## F区第8号住居跡

押出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
23-1	須恵系 土釜	覆土内 口~胴部片	(20.8) — (5.4)	黒色粒子 赤褐色粒子	酸化焰	橙 灰黄橙	紐作り後轆轤整形。	
23-2	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 (1.2)	黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	褐灰	一枚作り。凹面布合せ目痕。 凸面縄印き。	

## F区第9号住居跡

押出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
25-1 94	須恵器 埴B	覆土内 片残存	口底 高	13.6 — (4.6)	白色粒子 赤褐色粒子	中性焰	灰白	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。高台欠損(付高台)。	
25-2 94	須恵器 埴C II	覆土内 ほぼ完形	口底 高	13.0 6.1 5.1	白色粒子 黒色粒子	#	に ぶ い 黄 橙	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。	

第1節 古墳時代～平安時代

25-3 94	須恵器 埴C I	覆土内 %残存	口底高 13.1 6.3 5.1	白色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	灰黄 灰	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
26-1 94	須恵器 埴C I	覆土内 完形	口底高 13.4 6.6 5.2	白・黒色粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	淡黄	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。器内・外面を炭炭させている。	
26-2 94	須恵器 埴C II	覆土内 ほぼ完形	口底高 13.8 6.1 5.3	白・黒色粒子 赤褐色粒子	中性焰	灰黄褐 淡橙	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
26-3 94	須恵器 埴D	覆土内 ほぼ完形	口底高 14.3 6.2 5.1	白色粒子 赤褐色粒子	#	黄灰	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
26-4 94	須恵器 埴C II	覆土内 %残存	口底高 (13.3) 7.8 5.2	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	黒	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。器内・外面を炭炭させている。	
26-5 94	須恵器 埴C I	覆土内 完形	口底高 13.1 5.9 5.0	白・赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	にぶい 橙灰	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	器内面に炭 化物付着。
26-6 95	土師 質 埴E	覆土内 ほぼ完形	口底高 17.0 9.5 7.9	黒色鉱物粒子	#	にぶい 黄橙	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。内面は一部炭化 物付着。	
26-7 95	土師 器 脚部欠損 付埋	カマド内 脚部欠損	口底高 12.8 (15.0)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	酸化焰	明赤褐 黒褐	口縁部は外反する。紐作り。外面脚部は削り り、口縁部は横無で、内面脚部は炭無で。	
26-8 95	須恵器 瓶	覆土内 口・胴部欠	口底高 (24.5) — 15.2	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	中性焰	橙	紐作り後、轆轤整形。	
26-9 95	須恵器 瓶	覆土内 脚部破片	瓶 高 21.8 5.6	赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰白	紐作り後、轆轤整形。	
26-10 95	瓦 女	覆土内 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子	中性焰	淡黄橙	一枚作り。凸面斜格子叩き。 刻印文字瓦「勢」(凸面)。	
27-1 95	瓦 女	覆土内 破片欠	厚 2.6	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。 扁扁き文字瓦 文字不明(凸面)。	

F区第10号住居跡

棟号 区画番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考
28-1	須恵器 埴	覆土内 %残存	口底高 — 7.5 (3.6)	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	灰白	口縁部は欠損している。 轆轤整形。付高台。	
28-2	須恵器 埴	覆土内 %残存	口底高 — (7.0) (4.2)	黒色粒子 白色鉱物粒子	#	淡黄 黄灰	口縁部は欠損している。 轆轤整形。付高台。	
28-3 95	鉄 器 釘	カマド内	長 幅 重 (3.6) 0.5 6.3				断面方形で両端部共欠損。	
28-4 95	鉄 器 不 明	カマド内	長 幅 重 (4.7) 0.2 2.9				錆が濃み、断面形が丸か方形か判断できない。	

F区第11号住居跡

棟号 区画番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考
30-1 95	須恵器 坏E III	掘り方内 %残存	口底高 (13.2) (5.2) 4.3	白色粒子 黒色粒子	中性焰	橙 淡黄	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。	

## F区(10・11・12・13号住居跡)

30-2 95	須恵器 埴C I	覆土内 破片	口 底高	(13.0) (6.1) 5.0	黒色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	灰白	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
30-3	須恵器 埴	覆土内 片残存	口 底高	— 二 (2.0)	白・黒色粒子 赤褐色粒子	#	浅黄褐色	轆轤整形(右回転)。高台欠損(付高台)。	
31-1	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	2.0	白・黒色粒子 赤褐色粒子	#	褐色	一枚作り。凹面布目の擦消し。 凸面斜格子印き。刻印文字瓦「佐」(凸面)。	
31-2	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	2.1	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。 隈揃き文字瓦 文字不明(凸面)。	
31-3 95	鉄器 釘	覆土内	長 幅 重	(11.2) 0.3 12.5				断面方形で先端部欠損。基部扁平。	

## F区第12号住居跡

簿記番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
33-1	須恵器 埴	覆土内 片残存	口 底高	— 7.6 (3.6)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰白	轆轤整形(右回転)。付高台。	
33-2	須恵器 埴	掘り方内 破片写	口 底高	(16.5) (5.7)	白色粒子 黒色粒子	#	褐色	口縁部は外反する。轆轤整形。	
33-3	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	2.0	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	#	灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。 隈揃き文字瓦 文字不明(凸面)。	

## F区第13号住居跡

簿記番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
35-1 95	須恵器 坏DIV	カマド内 ほぼ完形	口 底高	11.9 6.3 4.1	白色粒子 黒色粒子	中性焰	にぶい 褐色	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。	
35-2 95	須恵器 埴C I	覆土内 完形	口 底高	12.8 6.4 5.2	黒色粒子	#	灰白 灰黄褐色	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
35-3 95	須恵器 埴C I	覆土内 ほぼ完形	口 底高	13.5 6.8 5.0	白色粒子 赤褐色粒子	#	にぶい 黄褐色	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
35-4 95	須恵器 埴C II	覆土内 完形	口 底高	14.3 6.5 4.8	白色粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰黄	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。口縁部の内外面に若干炭化物付着する。	
35-5	須恵器 埴C II	覆土内 片残存	口 底高	(14.0) 6.7 3.9	#	中性焰	灰白	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
35-6	須恵器 埴C II	覆土内 完形	口 底高	13.8 6.7 5.3	黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰白 灰	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
35-7	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	2.3	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	#	灰	一枚作り。 凸面隅叩き。	

## 第1節 古墳時代～平安時代

## F区第14号住居跡

博覧番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
37-1 95	須恵器 埴C I	カマド内 掘り方	口 底 高 (14.4) 5.5 5.6	白色粒子 黒色鉱物粒子	中性焼	灰白	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	片残存
37-2	須恵器 埴C I'	掘り方内 破片	口 底 高 (13.0) (6.0) 3.9	黒色粒子 白色鉱物粒子	#	に ぶ い い 橙 褐 灰	口縁部は外反する。 轆轤整形。付高台。	
37-3 95	須恵器 高台付皿	カマド内 破片	口 底 高 (13.0) (6.8) 2.7	黒色粒子	還元焼	灰	口縁部は外傾する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
37-4	土師器 埴E	掘り方内	口 底 高 — 4.2	黒・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	酸化焼	明赤褐	轆轤整形。	裾径(10.9)
37-5	須恵系 羽釜C	覆土内 口・胴部	口 底 高 20.0 — 7.5	赤褐色粒子 白色鉱物粒子	#	に ぶ い い 橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。脚は貼り付け。	
37-6	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白・黒色粒子 赤褐色粒子	中性焼	灰黄褐	一枚作り。	

## F区第15号住居跡

博覧番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
39-1	土師器 埴D I	カマド内 破片片	口 底 高 (10.9) — (3.0)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焼	に ぶ い い 橙	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横無で。	
39-2	土師器 埴	カマド内 破片片	口 底 高 (20.9) (5.0)	黒色粒子 白色鉱物粒子	#	橙	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横無で。	
39-3	土師器 埴C II	カマド内 破片	口 底 高 — (5.5)	白色粒子 黒色鉱物粒子	#	に ぶ い い 橙	口縁部は欠損している。紐作り。 外面胴部は寛削り、内面胴部は無で。	

## F区第16号住居跡

博覧番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
40-1 95	土師器 埴C II	覆土内 ほぼ完形	口 底 高 12.0 — 3.4	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焼	に ぶ い い 黄 橙	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横無で。	
40-2	土師器 埴C II	掘り方内 破片片	口 底 高 14.0 — 2.7	白色粒子 黒色粒子	#	に ぶ い い 橙	口縁部は外傾する。体部は寛削り、口縁部・器内面は横無で。	
40-3 95	須恵器 埴E I	覆土内 片残存	口 底 高 (13.7) 5.7 4.2	黒色粒子 白色鉱物粒子	中性焼	に ぶ い い 橙 褐 灰	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。	
40-4 95	須恵器 埴E II	覆土内 片残存	口 底 高 (12.6) (5.9) 3.9	白・黒色粒子 赤褐色粒子	#	に ぶ い い 黄 橙	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。	
40-5	須恵器 埴D III	掘り方内 破片	口 底 高 12.7 — (3.8)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	灰	口縁部は外傾する。轆轤整形。	
40-6	須恵器 埴	カマド内 破片	口 底 高 (18.0) (6.4)	白色粒子 黒色鉱物粒子	#	灰 白	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(左回転)。	



41-1	須惠器 坏	覆土内	口底高 — 5.5 2.8	黒色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	灰	口縁部は欠損している。轆轤整形。	
41-2	須惠器 埴	覆土内 底部残存	口底高 — (9.5) (2.7)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	灰白 にぶい 粗	口縁部は欠損する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
41-3	須惠器 埴	覆土内 底部残存	口底高 — 7.0 (3.0)	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤整形(右回転)。付高台。 底部は回転差起し。	
41-4	須惠器 蓋	掘り方内 隅部欠損	口底高 (16.9) — 3.2	#	中性焰	灰白	口唇部は下方に折り返す。轆轤整形(右回転)。 上半部は回転差有り。	
41-5 95	土師器 壺	カマド内 破片写	口底高 (15.7) — (6.6)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	酸化焰	粗 灰褐	口縁部は外反する。総作り。外面側部は高削り、口縁部は轆轤で、内部側部は篋脚で。	
41-5	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 (2.2)	白色粒子 黒色粒子	中性焰	灰	凸面叩き。	
41-7	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 (2.5)	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	褐灰	一枚作り。凹面粘土板割き取り直。 凸面斜格子叩き。	
41-8	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 (1.6)	黒色粒子 白色鉱物粒子	#	灰白	桶巻き直り。凹面布合せ目直。 凸面叩き。	

## F区第17号住居跡

掘出番号 図成番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
43-1 95	須惠器 坏E I	覆土内 ほぼ完形	口底高 13.0 5.7 4.1	白色粒子	還元焰	暗灰 灰白	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。 器内・外面は吸炭させている。	
43-2	須惠器 坏E I	覆土内 ほぼ完形	口底高 12.4 5.8 3.4	#	#	灰白 黒	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
43-3	須惠器 坏E III	覆土内 破片写	口底高 12.8 5.8 3.7	#	#	灰	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。	
43-4	須惠器 坏E I	覆土内	口底高 14.7 6.4 4.2	#	#	灰 灰白	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。	
43-5 96	須惠器 埴E III	覆土内 破片	口底高 14.9 5.0	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	#	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。高台欠損(付高台)。	
43-6	須惠器 埴C II	覆土内 ほぼ完形	口底高 14.4 (7.1) 4.9	黒色粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	#	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
43-7 96	須惠器 埴C II	覆土内 ほぼ完形	口底高 14.1 7.2 5.2	白色粒子	中性焰	灰 灰白	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
43-8	須惠器 埴C I	覆土内 ほぼ完形	口底高 14.0 7.1 4.6	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	灰白 灰	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
43-9	須惠器 埴	覆土内 ほぼ完形	口底高 — 7.9 4.2	白・黒色粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰白	口縁部は欠損している。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
43-10	須惠器 高台付皿	覆土内 片残存	口底高 (13.0) 6.7 2.8	白色粒子	中性焰	灰 灰黄	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
43-11 96	須惠器 高台付皿	覆土内 完形	口底高 12.6 6.8 2.7	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	

第1節 古墳時代～平安時代

F区第61号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
44-1 96	須恵器 埴C I	カマド内 %残存	口 底 高 14.0 7.5 4.9	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	灰 灰黄	口縁部は外反する。 壺罐形(右回転)。付高台。	
44-2 96	須恵器 埴	覆土内 口縁%欠	口 底 高 18.0 7.4 7.7	#	#	灰 灰黄	口縁部はやや外反する。 壺罐形(左回転)。付高台。	
44-3	須恵器 埴	覆土内 破片%	口 底 高 — (7.8) —	白色粒子 黒色鉱物粒子	#	灰白	口縁部は欠損している。 壺罐形。付高台。高台欠損。	
44-4 96	須恵器 高台付皿	カマド内 ほぼ完整	口 底 高 12.9 7.3 2.5	白色粒子 白・黒色鉱物粒子	還元焰	灰	口縁部は外反する。 壺罐形(右回転)。付高台。	

F区第62号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
45-1 96	土師器 破片%	カマド内 破片%	口 底 高 12.6 — 10.9	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面部は篋形、口縁部は横撫で、内面部は寛撫で。	
45-2 96	土師器 壺C II	覆土内 破片%	口 底 高 18.2 — 6.7	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	にぶい 黄橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面部は篋形、口縁部は横撫で、内面部は寛撫で。	
45-3	瓦 女瓦	ビント内 破片	厚 2.8	白・黒色粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰赤	一枚作り。凹面布目の摺消し。 凸面粘土板割ぎ取り痕、凸面斜格子叩き。	
46-1	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	#	灰	半截作り。凸面叩き。	
46-2	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 3.1	#	中性焰	灰黄褐	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。 隈描き文字瓦 文字不明(凸面)。	
46-3 96	石製品 砥石	覆土内	長 幅 厚 (3.6) 4.0 3.3	変質安山岩			断面方形の自然石。小口欠損。小口の他全面使用。手持砥石、黄砥。	

F区第63号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
47-1 96	須恵器 埴C I	覆土内 %残存	口 底 高 14.5 — 4.3	白色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	灰 黒	口縁部は外反する。 壺罐形(右回転)。高台欠損(付高台)。	
47-2	須恵器 埴C I	覆土内 %残存	口 底 高 (14.7) 7.3 4.8	白色粒子 白色鉱物粒子	#	灰白 灰	口縁部はやや外反する。 壺罐形(右回転)。付高台。	
47-3 96	須恵器 埴B	覆土内 %残存	口 底 高 14.4 5.6 5.6	白色鉱物粒子	還元焰	灰	口縁部はやや外反する。 壺罐形(右回転)。付高台。	
47-4	須恵器 埴B'	覆土内 %残存	口 底 高 (12.7) 6.3 3.1	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	灰黄	口縁部はやや外反する。 壺罐形(右回転)。付高台。	
47-5	黒色土器 埴	覆土内 破片	口 底 高 (19.4) — (6.7)	黒色鉱物粒子	#	にぶい 黄橙	口縁部は外反する。壺罐形(右回転)。 内面は磨きによる調整後吸炭させている。	

## F区 (61・62・63・19・20・21号住居跡)

47-6 96	黒色土器 埴	カマド内 破片Ⅱ	口 底高 (20.1) — 6.9	黒色粒子 赤褐色粒子	中性焰 黒	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。 内面は磨きによる調整後吸灰させている。	
47-7 96	灰胎陶器 埴	覆土内 %残存	口 底高 (13.7) 6.8 4.8	美濃系	灰	口縁部は外反する。轆轤成形(右回転)。付高 台。施釉手法は没掛。	

## F区第19号住居跡

簿記番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考
49-1 96	須 恵 器 坏EⅠ	カマド内 埋り方	口 底高 14.2 6.4 5.0	黒色鉱物粒子	中性焰	にぶい 黄橙	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。	
49-2	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 1.7	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰黄	一枚作り。凹面布目の擦消し。 凸面斜格子叩き。	

## F区第20号住居跡

簿記番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考
50-1	黒色土器 埴	覆土内	口 底高 — 8.0 (3.2)	白色粒子 黒色粒子	酸化焰	にぶい 赤褐	轆轤整形(右回転)。付高台。 内面磨きによる調整後吸灰させている。	口縁部欠損

## F区第21号住居跡

簿記番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考
51-1	須 恵 器 坏B'	覆土内 %残存	口 底高 (14.4) 8.0 4.9	黒色鉱物粒子	還元焰	灰白 灰	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。	
51-2	須 恵 器 坏DIV	覆土内 %残存	口 底高 (13.4) 7.4 3.1	黒色粒子	#	#	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
51-3 96	須 恵 器 埴DIV	カマド内 %残存	口 底高 (14.0) (6.0) 4.1	黒色粒子 白・黒色鉱物粒子	中性焰	灰 にぶい 橙	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。高台欠損(付高台)。	
51-4 96	須 恵 器 埴CⅠ	カマド内 完形	口 底高 13.0 6.2 4.8	黒色鉱物粒子	#	灰	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。	
51-5 96	須 恵 器 埴CⅡ	覆土内 %残存	口 底高 12.7 6.2 4.4	白色粒子 黒色粒子	#	にぶい 黄橙	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
51-6	須 恵 器 埴	覆土内 破片Ⅱ	口 底高 (17.3) (5.7)	白色粒子 赤褐色粒子	酸化焰	にぶい 橙	口縁部は外反する。轆轤整形	
52-1 96	須 恵 器 埴CⅡ	覆土内 %残存	口 底高 12.4 5.5 4.8	白色鉱物粒子	中性焰	灰	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
52-2 97	須 恵 器 埴CⅡ	覆土内 完形	口 底高 12.4 6.2 5.1	#	#	灰 にぶい 橙	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
52-3	須 恵 系 羽 蓋 B	覆土内 底部残存	口 底高 — (6.5) (4.6)	白色粒子 赤褐色粒子	酸化焰	淡赤橙	紐作り後轆轤整形。外面胴部刮り痕がはっきりしない。底部は寛撫で。	
52-4 97	須 恵 系 羽 蓋	覆土内 %残存	口 底高 19.9 17.9	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	にぶい 黄褐	口縁部は内湾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。脚は貼り付け。	

第1節 古墳時代～平安時代

52-5	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	黒色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	灰白	一枚作り。 刻印文字瓦。文字不明(凹面)。	
52-6	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.3	赤褐色粒子 白色鉱物粒子	#	#	筒巻き造り。凹面布目の擦消し。 凸面縄印き。	

F区第22号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
54-1 97	須恵器 坏E I	覆土内 ほぼ完形	□底高 14.4 7.7 4.0	黒色粒子	還元焰	灰白	口縁部はやや外反する。 縄縷整形(右回転)。	
54-2	土師質 坏	覆土内 片残存	□底高 — 5.9 2.6	白色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	にぶい 黄橙	口縁部は欠損している。 縄縷整形(右回転)。	
54-3	須恵器 埴	覆土内 片残存	□底高 (18.0) — (6.1)	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	口縁部は外反する。 縄縷整形(右回転)。	
54-4	灰釉陶器 高台付皿	覆土内 破片	□底高 (15.2) (7.7) (2.9)	黄褐色		灰白	口縁部は外反する。 縄縷成形(右回転)。付高台。施釉手法は浸掛。	

F区第23号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
56-1 97	須恵器 坏E I	覆土内 片残存	□底高 12.2 (5.0) 3.5	白色鉱物粒子	還元焰	灰	口縁部は外反する。 縄縷整形(右回転)。	
56-2 97	須恵器 坏B	覆土内 ほぼ完形	□底高 12.8 5.3 3.9	白色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	にぶい 黄灰	口縁部はやや外反する。 縄縷整形(右回転)。	
56-3	須恵器 埴E I	覆土内 片残存	□底高 14.1 6.4 5.1	白色粒子 黒色粒子	#	灰黄褐 灰	口縁部は外反する。 縄縷整形(右回転)。付高台。	
56-4	須恵器 埴C II	覆土内 片残存	□底高 (14.4) — (5.0)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	灰 褐灰	口縁部は外反する。 縄縷整形(右回転)。高台欠損(付高台)。	
56-5 97	須恵器 埴C II	覆土内 ほぼ完形	□底高 14.6 6.8 5.0	白色鉱物粒子	#	灰白	口縁部は外反する。 縄縷整形(右回転)。付高台。	
56-6	須恵器 埴B	覆土内 ほぼ完形	□底高 (14.1) 5.8 5.6	白色鉱物粒子 白色鉱物粒子	#	褐灰	口縁部はやや外反する。 縄縷整形(右回転)。付高台。	
56-7 97	須恵器 埴C I	覆土内 片残存	□底高 (14.6) 6.8 5.0	白色鉱物粒子	#	にぶい 黄橙	口縁部は外反する。 縄縷整形(右回転)。付高台。	
56-8	須恵器 埴C I	覆土内 片残存	□底高 14.4 — (5.2)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。 縄縷整形(右回転)。高台欠損(付高台)。	
56-9	須恵器 埴B	覆土内 片残存	□底高 (14.7) (8.1) 5.0	#	中性焰	褐灰 にぶい 橙	口縁部は外反する。 縄縷整形(右回転)。付高台。内面炭化物付着。	
57-1 97	須恵器 埴	覆土内 ほぼ完形	□底高 16.1 6.6 6.7	黒色鉱物粒子	#	にぶい 黄橙	口縁部はやや外反する。 縄縷整形(右回転)。付高台。	
57-2	須恵器 埴	覆土内 破片	□底高 (15.2) — (5.0)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	灰	口縁部は外反する。 縄縷整形(右回転)。高台欠損(付高台)。	

## F区(22・23号住居跡)

57-3	土器 台付 壺	覆土内 台座残存	口 底 高	— — 3.5	黒・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	樽	紐作り。内・外面横撫で。	直径8.4
57-4	須恵器 壺	カマド内 破片写	口 底 高	(27.0) — (3.9)	白色粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形。	
57-5 97	須恵器 壺	覆土内 底面残存	口 底 高	— (12.5) (3.0)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	灰白	紐作り後轆轤整形。	
57-6 97	須恵器 長頸壺	覆土内 口縁部欠損	口 底 高	— 8.7 (14.2)	#	#	灰	轆轤整形(右回転)。	直径4.0
57-7 97	灰釉陶器 高台付皿	覆土内 ほぼ完形	口 底 高	(14.0) — 6.5 3.9	美濃系	#	#	口縁部はやや外反する。 轆轤成形(右回転)。付高台。施釉手法は浸掛。	
57-8 97	灰釉陶器 高台付皿	覆土内 写残存	口 底 高	(14.7) — 6.8 3.2	#	#	#	口縁部はやや外反する。 轆轤成形(右回転)。付高台。施釉手法は浸掛。	
57-9 97	灰釉陶器 輪花皿	カマド内 ほぼ完形	口 底 高	16.9 7.6 5.0	#	#	#	口縁部は外反する。轆轤成形。付高台。 施釉手法は浸掛。口縁部の輪花数は4輪。	
57-10 97	灰釉陶器 高台付皿	覆土内 ほぼ完形	口 底 高	9.7 5.0 3.1	#	#	浅黄	口縁部は外反する。轆轤成形(右回転)。 付高台。施釉手法は浸掛。	底部外面に 墨書あり。
57-11 97	灰釉陶器 輪花皿	覆土内 写残存	口 底 高	16.6 7.8 4.1	#	#	灰白	口縁部は外反する。轆轤成形。付高台。施 釉手法は刷毛塗り。口縁部の輪花は4輪。	
57-12 98	灰釉陶器 耳皿	覆土内	口 底 高	9.4 4.0 (2.1)	#	#	灰白 オリーブ 灰	轆轤成形(右回転)。体部両側を内側に折り曲 げている。施釉手法は刷毛塗り。外面底部墨 書。	口縁部の一 部欠損。
57-13 97	緑釉陶器 椀	覆土内 破片	口 底 高	(14.8) — (3.4)	#	#	灰白	轆轤成形。体部中に屈曲を有し、口縁部は 外傾する。内面に陰刻花文を有する。	
58-1 98	須恵器 壺	覆土内 胴部破片	口 底 高	— — —	白・黒色粒子 赤褐色粒子	還元焰	#	紐作り叩き整形。内面を手掌で押さえながら 外面を叩いている。	
58-2 98	石 器 磨面み石	覆土内 ほぼ完形	長 幅 厚	12.9 6.9 3.5	玢岩			不定形を呈し、全体が磨耗しているが、先端 の一部に打ち欠けた痕がある。	重 508.0
58-3 98	石 器 磨面み石	覆土内 約写残存	長 幅 厚	9.0 6.7 3.5	石英閃緑岩			やや扁平。ほぼ中央と思われる部分から欠損。 全体が磨耗している。	重 336.2
58-4 98	鉄 器 不明	覆土内 完形	長 幅 重	8.0 0.6 38.0				断面方形で基部は扇状に曲げられ、先端は尖 っている。	
58-5 98	鉄 器 釘	覆土内 一部欠損	長 幅 重	(8.0) 0.6 20.0				断面長方形で先端部欠損。 基部は扁平な扇状を呈する。	
58-6 98	鉄 器 釘	カマド内 先欠損	長 幅 重	(5.0) 0.6 11.8				断面方形で、基部は扁平で「L」字形に潰れ ている。	
58-7 98	鉄 器 釘	カマド内 先欠損	長 幅 重	(4.3) 0.8 12.5				断面方形で、基部は潰れている。	
58-8 98	鉄 器 釘	カマド内 破片	長 幅 重	(3.2) 0.6 6.9				断面方形で、両端欠損。	
58-9 98	鉄 器 釘	カマド内 破片	長 幅 重	(3.3) 0.4 2.4				#	
58-10 98	鉄 器 不明	カマド内 破片	長 幅 重	(3.6) 0.6 5.9				錆が進み、断面が長方形か楕円形かの判断つ げがたい。	

第1節 古墳時代～平安時代

58-11 98	鉄 器 釘	カマド内 破片	長 幅重 (7.3) 0.8 21.6					断面方形で、両端欠損。	
58-12 98	鉄 器 不 明	覆土内 破片	長 幅重 (7.4) 0.8 16.6					断面形は58-10に近く釘であるかどうかの判 断はできない。	
58-13 98	鉄 器 釘	カマド内 破片	長 幅重 (5.1) 0.6 6.8					断面方形で、両端欠損。	
58-14 98	鉄 器 釘	覆土内 頭欠損	長 幅重 (7.4) 0.7 11.7					錆が進み、断面が方形であるかの判断はでき ない。	
58-15 98	鉄 器 釘	カマド内 頭欠損	長 幅重 (5.2) 0.5 7.0					断面方形で、先端部のみ残存。 先端部は尖っている。	
58-16 98	鉄 器 釘	カマド内 破片	長 幅重 (5.0) 0.6 7.2					断面方形で、両端欠損。	
58-17 98	鉄 器 釘	カマド内 破片	長 幅重 (4.4) 0.5 4.9					断面方形で、基部欠損。先端部も残存するも のか不明。	
58-18 98	鉄 器 釘	カマド内 先残存	長 幅重 (2.9) 0.5 2.8					断面方形。先端部のみ残存。	
58-19 98	鉄 器 釘	カマド内 破片	長 幅重 (3.4) 0.5 2.2					断面方形で、両端欠損。	
58-20 98	鉄 器 刀	カマド内 身欠損	長 幅重 (4.2) 0.6 8.5					茎残存部3.5cm、茎の重0.3×0.6cm。	
59-1 98	瓦 女瓦	覆土内 %残存	厚 1.8	黒色鉱物粒子	中性焰	灰黄		一枚作り。凹面粘土板割き取り瓦。 窪抜き文字瓦「大」(凹面)。凸面磯叩き。	
59-2 98	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	赤褐色粒子 白色鉱物粒子	#	にぶい 橙		凸面斜格子叩き。	

F区第24号住居跡

調査番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考
61-1	須 惠 器 坏E II	覆土内 %残存	□ 底高 (14.3) 6.1 5.0	黒色鉱物粒子	中性焰	灰白	口縁部は外反する。 轆轤成形(右回転)。	
61-2 98	須 惠 器 坏 B	カマド内 掘り方	□ 底高 (15.9) 8.1 4.8	#	#	灰	口縁部は外反する。 轆轤成形(右回転)。付高台。	%残存
61-3 98	須 惠 器 坏 C II	掘り方内 %残存	□ 底高 (15.1) 7.6 5.7	白色粒子 黒色鉱物粒子	#	灰 灰白	口縁部は外反する。 轆轤成形(右回転)。付高台。	
61-4	灰釉陶器 高台付皿	覆土内 破片	□ 底高 (17.9) (9.5) 2.8	美濃系		#	口縁部は外反する。轆轤成形(右回転)。付高 台。施釉手法は浸掛。	
61-5	灰釉陶器 高台付皿	覆土内 破片	□ 底高 (14.2) (7.0) 2.7	#		灰白 より一 ブ灰	口縁部はやや外反する。 轆轤成形(右回転)。付高台。施釉手法は浸掛。	
61-6	灰釉陶器 坏	覆土内 %残存	□ 底高 (8.0) (3.0)	#		灰白	口縁部は欠損している。 轆轤成形(右回転)。付高台。	
61-7	灰釉陶器 坏	覆土内 破片	□ 底高 (7.0) 4.5	#		浅黄	口縁部は欠損している。 轆轤成形。付高台。施釉手法は刷毛塗り。	

## F区(24・25号住居跡)

61-8 98	瓦 鍍瓦	覆土内 隅部欠損	径 長	15.6 — —	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰	半弁8葉蓮華文。中層の子葉は1+4。	厚 3.0
61-9	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚	2.2	赤褐色粒子	※	浅黄橙	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。 瓦揃き文字瓦、文字不明(凸面)。	
61-10	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	1.7	黒色粒子	※	暗灰黄	一枚作り。凸面斜格子叩き。	
61-11 99	瓦製門 女瓦	覆土内 破片	厚	2.2	黒・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	凸面正格子叩き。 瓦の転用。	
61-12	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚	1.8	黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	凸面平行叩き。	
61-13 99	土製品 羽口	カマド内 廻り方			白色鉱物粒子	中性焰	灰 橙	先端孔のまわりは酸化状態。	
61-14 99	鉄器 釘	覆土内 先欠損	長 幅 重	(7.3) 0.6 20.2				断面方形で頭は扁平で一部欠損。 身は屈曲し、先端部欠損。	
61-15 99	鉄器 釘	覆土内 破片	長 幅 重	(3.4) 0.4 2.9				断面方形。	
61-16 99	鉄器 不明	覆土内 破片	長 幅 重	(6.3) 0.6 9.2				断面方形で、両端欠損。	

## F区第25号住居跡

調査番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
63-1	須恵器 埴	覆土内 5%残存	口 底 高 — 6.0 (2.5)	白・黒色粒子 赤褐色粒子	中性焰	灰白	口縁部は欠損している。 轆轤整形(右回転)。付高台。		
63-2	須恵器 埴	覆土内 底部片残存	口 底 高 — 8.0 (2.0)	黒色粒子	還元焰	灰	口縁部は欠損している。 轆轤整形(右回転)。付高台。		
63-3 99	土師器 台付壺	掘り方内 5%残存	口 底 高 11.4 8.3 15.7	白・黒色粒子 赤褐色粒子	酸化焰	にぶい 橙 黒褐	「コ」の字状口縁。紐作り、外面側部は貫削り、 口縁部は横撫で、内面側部は貫撫で。	外面側部に 炭化物付着	
63-4	灰輪陶器 小形壺	覆土内 口へ裏面片	口 底 高 4.7 (2.3)	美濃系		灰白	轆轤成形。		
63-5	瓦 男瓦	掘り方内 破片	厚	2.1	赤褐色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	半截作りか。凹面粘土板剥ぎ取り痕。	
63-6	瓦 女瓦	掘り方内 5%残存	厚	2.7	※	酸化焰	橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。	
63-7 99	鉄器 不明	覆土内	長 幅 重 (14.8) 0.5 16.7					断面方形で釘に近似するが、長くまだ両端に 延びることから不明。	
63-8 99	鉄器 釘	覆土内	長 幅 重 11.2 0.5 18.2					断面方形で、頭は瘤状で、ほぼ方形である。	
63-9 99	鉄器 不明	覆土内	長 幅 重 4.5 0.2 2.3					断面形は方形と考えられるが細く、釘である か不明。	
63-10 99	鉄器 紡錘車	覆土内	長 幅 重 3.8 3.7 15.6					紡輪と考えられ、中央に軸穴と思われる穴が ある。	

第1節 古墳時代～平安時代

F区第27号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
63-11 99	土器 環DII	覆土内 与残存	口 底高 (12.0) (8.0) 3.5	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焙	橙	口縁部は外傾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横無で。	
63-12	土器 環DII	覆土内 破片	口 底高 14.0 (3.2)	黒色粒子 白色鉱物粒子	#	#	口縁部は外傾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横無で。	
63-13 99	鉄器 刀子	掘り方内	長 幅重 (8.7) 1.2 16.0				両端欠損。	茎 (3.8) 身 (4.9)
64-1	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.5	黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焙	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り底。彫抜き文字瓦「成」の逆字。(凸面)。	

F区第65号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
63-14 99	鉄器 不明	覆土内	長 幅重 (9.1) 2.2 14.3				扁平な板状で反がある。 種は不明。	

F区第26号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
66-1 99	須恵器 坏EIII	覆土内 与残存	口 底高 (12.6) (5.8) 3.9	白色粒子 白・黒色鉱物粒子	中性焙	にぶい 黄橙	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。	
66-2	須恵器 埴CI	覆土内 与残存	口 底高 (14.7) 7.0 6.1	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	還元焙	黄灰	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
66-3 99	須恵器 埴CI	覆土内 与残存	口 底高 15.9 7.3 5.8	黒色粒子 黒色鉱物粒子	#	灰白	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
66-4 99	須恵器 埴CII	貯蔵穴内 ほぼ完形	口 底高 14.4 6.7 4.8	白色粒子 黒色粒子	#	暗青灰	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	内面底部に 重ね焼き痕
66-5	須恵器 埴CI	覆土内 破片与	口 底高 (15.0) (4.9)	#	#	褐灰	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。高台欠損(付高台)。	
66-6 99	黒色土器 埴	覆土内 与残存	口 底高 13.1 5.4 3.2	白色粒子	#	黒	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。全面吸炭している。	
66-7	須恵系 羽釜C	覆土内 破片与	口 底高 20.0 (7.1)	赤褐色粒子 白色鉱物粒子	中性焙	褐灰	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。脚は貼り付け。	
66-8	須恵器 甕	覆土内 破片与	口 底高 (13.0) (19.0)	#	#	灰・オリーブ 黒	紐作り。叩き整形。外面側下半は寛削り後轆轤再整形。	
67-1 100	須恵器 横瓶	覆土内 胴部与	長 幅高 (40.2) (26.0) (25.2)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	還元焙	灰・オリーブ 黒	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)後轆轤再整形。	頸径 10.6
67-2 99	須恵器 甕	覆土内 破片	口 底高 — —	#	#	灰・オリーブ 灰	紐作り。叩き整形。 内面宛具は青海波文。	転用編み。



## F区(27・65・26・29号住居跡)

67-3 99	灰釉陶器 埴	貯蔵穴内 ほぼ完形	口 径 15.0 底 径 6.8 高 5.0	美濃系		灰白	口縁部はやや外反する。 轆轤成形(右回転)。付高台。施釉手法は浸掛。	外面底部に 墨書あり。
68-1 100	瓦 宇 瓦	覆土内 瓦残存	厚 1.8	赤褐色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	#	紐作り成形。凹面は撫で整形。	
68-2	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 1.9	黒色鉱物粒子	中性焰	#	一枚作り。 寛播き文字瓦。文字不明(凸面)。	
68-3 100	土製 羽 口	覆土内 破片	口 径 — 底 径 — 高 —	赤褐色粒子 白色鉱物粒子	#	灰 橙	先端部はガラス状に硬化している。	
68-4 100	鉄 器 不 明	覆土内	長 幅 重 8.3 1.2 31.9				断面長方形で「L」字形に屈曲。 鍵の可能性有。	
68-5 100	鉄 器 釘	#	長 幅 重 (8.5) 0.6 27.8				断面方形で基部欠損。	
68-6 100	鉄 器 不 明	#	長 幅 重 (3.0) 1.6 7.5				扁平な板状で、断面形は長楕円形である。種 不明。	

## F区第29号住居跡

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
70-1 100	土製器 環D II	覆土内 完形	口 径 11.8 7.7 3.5 底 径 — 高 —	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	明赤褐	口縁部は外反する。体部・底部は寛削り、口 縁部・器内面は横撫で。	外面底部に 「寺」の墨書
70-2 100	須恵器 環E III	覆土内 瓦残存	口 径 13.0 4.9 4.2 底 径 — 高 —	白色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	濃い 黄橙	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。 内面に灰化物付着。	
70-3	須恵器 環E II	覆土内 破片	口 径 (13.7) (6.5) 3.3 底 径 — 高 —	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰白 灰	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。	
70-4	須恵器 埴	覆土内 破片	口 径 — 6.5 4.5 底 径 — 高 —	黒色粒子 白色鉱物粒子	#	灰	口縁部は欠損している。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
70-5 100	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 径 — 6.8 (3.3) 底 径 — 高 —	#	#	淡黄 灰黄	口縁部は欠損する。轆轤整形(右回転)。 上半部は同径寛削り。裾部は貼り付け。	
70-6	土製器 栗C IV	カマド内 破片	口 径 (19.9) — (7.0) 底 径 — 高 —	#	酸化焰	明赤褐	「コ」の字状口縁。紐作り、外面割部は寛削り、 口縁部は横撫で、内面割部は寛撫で。	
70-7 100	土製器 栗C III	カマド内 掘り方	口 径 19.0 (8.2) 底 径 — 高 —	白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	明赤褐	「コ」の字状口縁。紐作り、外面割部は寛削り、 口縁部は横撫で、内面割部は寛撫で。	口縁部瓦残 存。
71-1 101	瓦 女 瓦	覆土内 一部欠損	厚 2.6	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰黄	一枚作り。凸面平行叩き。 寛播き文字瓦「成」(凸面)。	
72-1	瓦 女 瓦	カマド内 破片瓦	厚 3.3	#	#	#	一枚作り。凹面施撫で。	
72-2 100	鉄 器 釘	覆土内	長 幅 重 (4.9) 0.4 3.2				断面方形で屈曲している。	
72-3 100	鉄 器 釘	覆土内	長 幅 重 (3.6) 0.6 4.0				断面方形で、両端欠損。	

第1節 古墳時代～平安時代

F区第30号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
73-1	須恵器 埴	覆土内 与残存	口底高 (14.3) — (5.1)	白色粒子 黒色粒子	中性焰	淡黄	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。高台欠損(付高台)。	
73-2	須恵器 埴	覆土内 破片与	口底高 — (6.0) (1.8)	黒・赤褐色粒 子	#	にぶい 黄橙	轆轤整形(右回転)。付高台。	
73-3	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 (2.5)	白・赤褐色粒 子 黒色粒子	#	灰黄	一枚作り。凸面正格子叩き。	

F区第31号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
74-1	灰釉陶器 埴	覆土内 与残存	口底高 (16.0) (9.0) 5.4	美濃系		灰白	口縁部はやや外反する。 轆轤成形(右回転)。付高台。底部回転覓調整。	施軸手法は 没損。
74-2	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色粒子 白・黒色鉱物粒子	中性焰	明赤褐	半截作りか。凹面粘土板割ぎ取り痕。	

F区第32号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
76-1 101	土師 質 埴	カマド内 与残存	口底高 (19.3) 9.0 7.6	黒色鉱物粒子	中性焰	にぶい 橙	口縁部は外反する。 轆轤成形(右回転)。付高台。	
76-2	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	黒・赤褐色粒 子 黒色鉱物粒子	還元焰	黒褐	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕、布目の擦 消し。寛推き文字瓦「三」(凹面)。	凸面隅叩き
76-3	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色粒子 赤褐色粒子	中性焰	にぶい 黄橙	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕、布目の擦 消し。凸面正格子叩き。	
76-4 101	鉄 器 刀子	掘り方内	長短 重 (5.2) 1.2 10.9				基部は全く欠損。身の一部残存。	重ね 0.4×1.2

F区第33号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
77-1	灰釉陶器 高台付皿	覆土内 与残存	口底高 (15.0) (7.6) 2.7	美濃系		灰白	口縁部はやや外反する。 轆轤成形(右回転)。付高台。施軸手法は没損。	
77-2 101	白 磁 碗	覆土内 破片	口底高 — —	淡灰色(磁質) 白磁釉		乳白	碗の体部片。器内は薄い。 軸折は厚い。	中国製 晩唐～北宋
77-3	須恵器 甕	覆土内 破片	口底高 (22.0) — (6.5)	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り後、轆轤整形。	
77-4	須恵系 羽釜 C	覆土内 破片	口底高 (19.4) — (10.0)	赤褐色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	#	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右 回転)。背は貼り付け。	

77-5	須恵系 明蓋B	覆土内 破片	口底 高	(19.4) (5.8)	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	にぶい 橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。跡は貼り付け。	
77-6	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	2.4	白・黒色粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面正格子印き。	

## F区第35号住居跡

調査番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
78-1	須恵器 埴	覆土内 破片	口底 高	— (8.6) (2.1)	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤整形(右回転)。付高台。
78-2	須恵器 埴	掘り方内 片残存	口底 高	— (7.5) (4.4)	黒色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	#	口縁部は欠損している。 轆轤整形(右回転)。付高台。
78-3	灰釉陶器 壺	覆土内 破片	口底 高	— (8.5) —	美濃系		#	紐作り後轆轤成形。付高台。
78-4	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	1.8	白・黒色粒子 赤褐色粒子	酸化焰	にぶい 橙	一枚作り。菱抜き文字瓦(丁子)(凸面)。

## F区第36号住居跡

調査番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
79-1	須恵系 土 差	覆土内 破片	口底 高	(21.0) (3.9)	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	灰白	紐作り後轆轤整形。
79-2	須恵系 明蓋	覆土内 破片	口底 高	(19.2) — 7.0	黒・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	#	浅黄橙	口縁部は直立する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。跡は貼り付け。

## F区第37号住居跡

調査番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
80-1	須恵器 埴E II	覆土内 片残存	口底 高	(13.3) (6.3) 5.4	白色粒子 黒色粒子	中性焰	浅黄	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。
80-2	須恵器 埴E II	覆土内 ほぼ完形	口底 高	11.4 5.2 3.6	黒色粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰白 暗灰黄	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。
80-3	灰釉陶器 埴	覆土内 破片	口底 高	(14.8) (4.7)	美濃系		灰白	口縁部は外傾する。轆轤成形。 施釉手法は刷毛塗り。
80-4	灰釉陶器 耳皿	覆土内 破片	口底 高	— — —	#		オリーブ 黄	轆轤成形。底部は欠損。 体部両側を内側に折り曲げている。

## F区第38号住居跡

調査番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
81-1	須恵器 埴C I	覆土内 破片	口底 高	(16.0) (8.4) 5.2	白色粒子	中性焰	灰	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。

第1節 古墳時代～平安時代

81-2	須恵器 埴 B	覆土内 片残存	口 底 高	(14.4) 6.2 5.8	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	にぶい 暗灰黄	口縁部は外傾する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
81-3	須恵器 埴	覆土内 片残存	口 底 高	— (7.0) (3.4)	黒色粒子 白色鉱物粒子	#	灰白	轆轤整形(右回転)。高台欠損(付高台)。	
81-4	須恵器 埴	覆土内 破片	口 底 高	— (7.5) (2.0)	白色粒子 黒色粒子	還元焰	#	轆轤整形(右回転)。付高台。	
81-5	須恵器 高台付皿	覆土内 片残存	口 底 高	(14.0) 7.3 5.1	黒色鉱物粒子	#	灰白 灰	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
81-6	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	1.5	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	灰白	一枚作り。 凹面粘土板割ぎ取り痕。	

F区第39号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
82-1	須恵器 埴	覆土内 破片	口 底 高	(14.9) — (4.6)	黒色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	灰白	口縁部は外反する。轆轤整形。	
82-2	須恵器 埴	覆土内 破片	口 底 高	— (6.5) (3.0)	白色粒子 黒色鉱物粒子	#	#	轆轤整形。口縁部・底部欠損。	

F区第40号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
84-1 101	須恵器 埴 B	覆土内 片残存	口 底 高	(14.1) 6.6 4.7	白色粒子	還元焰	灰	口縁部は外傾する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
84-2 101	須恵器 埴 B	覆土内 破片	口 底 高	(14.5) 7.5 5.3	白色粒子 黒色粒子	中性焰	灰白 灰	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。外面炭化物付着。	
84-3	黒色土器 埴	掘り方内 ほぼ完形	口 底 高	15.3 8.9 5.3	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	浅黄橙 黒	口縁部は外傾している。轆轤整形(右回転)。付高台。内面はみがきによる調整後炭化している。	付高台。
84-4	灰釉陶器 埴	覆土内 破片	口 底 高	(18.1) 8.9 6.7	黄褐色	#	灰白	口縁部は外傾する。轆轤成形(右回転)。付高台。底部回転指掘り調整。施軸手法は浸掛。	
84-5	灰釉陶器 埴	覆土内 破片	口 底 高	(15.0) — (3.3)	#	#	灰	口縁部は外反する。轆轤成形。底部欠損。施軸手法は浸掛。	
84-6	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	1.7	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	#	一枚作り。凸面不整格子叩き。 刻印文字「瓦勢」(凸面)。	
84-7	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	1.8	白・黒色粒子 赤褐色粒子	酸化焰	にぶい にぶい	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。 凸面叩き。	
84-8 101	鉄器 不明	覆土内	長 幅 重	(7.2) 0.7 27.4				断面長方形で、頭は「L」字形に屈曲している。先端部欠損。釘か？	
84-9 101	鉄器 釘	掘り方内	長 幅 重	(4.0) 0.5 6.4				断面方形で、頭は潰れた様になっている。先端欠損。	
84-10 101	鉄器 釘	覆土内	長 幅 重	(6.2) 0.4 6.8				断面方形で、両端欠損。	

## F区第41号住居跡

調査番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
85-1	須恵器 埴	覆土内 互残存	□ 底高 (13.4) — (4.8)	白・黒色粒子 赤褐色粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。 体部下位は削削り。	
85-2	須恵系 羽蓋C	覆土内 破片	□ 底高 (20.8) — (7.0)	黒・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	にぶい 黄灰黄緑	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。罫は貼り付け。	
85-3	須恵系 羽蓋B	覆土内 破片	□ 底高 (19.1) — (4.5)	黒・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	#	にぶい 橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。罫は貼り付け。	
85-4	須恵器 罍	カマド内 互残存	□ 底高 (14.0) (14.7)	白・黒色粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形。 外面割部から底部削削り。	

## F区第42号住居跡

調査番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
86-1	須恵器 埴	覆土内 互残存	□ 底高 (13.4) — (3.2)	白色粒子 黒色粒子	中性焰	灰	口縁部はやや外反する。 轆轤整形。底部は欠損している。	
86-2	須恵器 埴	覆土内 破片	□ 底高 (16.5) — 5.9 (3.0)	黒色粒子 白色鉱物粒子	#	淡黄 灰	轆轤整形(右回転)。付高台。	
86-3	須恵器 埴	覆土内 破片	□ 底高 (6.0) — (6.0)	#	酸化焰	橙	轆轤整形(右回転)。付高台。	

## F区第43号住居跡

調査番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
88-1	須恵器 埴C II	覆土内 互残存	□ 底高 (15.3) (7.8) 5.1	白色粒子 黒色粒子	中性焰	にぶい にぶい	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
88-2	須恵器 埴C II	覆土内 互残存	□ 底高 (16.5) (8.0) 5.5	黒色鉱物粒子	#	にぶい 橙	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
88-3	灰釉陶器 埴	覆土内 破片	□ 底高 (6.4) — (1.8)	美濃系		灰白・ オリーブ 灰	轆轤成形底部回転削削り後付高台。 内面底部に重ね焼き痕あり。	
89-1 101	土製品 とりべ	覆土内 破片	□ 底高 9.9 — (3.7)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	黒・にぶ い赤褐	外面、継ぎにより不明。	
89-2	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.4	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	青灰	瓦指き文字瓦、文字不明(凹面)。	
89-3	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	赤褐色粒子 白色鉱物粒子	#	灰	瓦指き文字瓦、文字不明(凸面)。	
89-4	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	#	瓦指き文字瓦、文字不明(凸面)。	
89-5	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.1	赤褐色粒子 白色鉱物粒子	#	黒褐	一枚作り。凹面布目の擦消し。 凸面正格子印き。	

第1節 古墳時代～平安時代

89-6	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.5	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	黄灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。 寛幅き文字瓦文字不明(凸面)。	
89-7 101	石製 砥石	覆土内 完形	長幅厚 6.2 7.3 1.2	波紋岩			糸巻き状を呈す。手前小口に自然面あり。 左側面に横痕あり。	重 67.0
89-8 101	石器 薄編み石	覆土内 ほぼ完形	長幅厚 10.1 4.5 4.2	輝石安山岩 (粗粒)			断面円形状。全体に磨耗している。先端の一部が打ち欠けている。	重 298.0
89-9 101	石器 薄編み石	覆土内 欠	長幅厚 (6.7) (4.8) 3.5	砂岩			全体に磨耗している。側面の一部と先端に若干敲打痕あり。	重 176.8
89-10 101	鉄器 不明	覆土内	長幅重 5.6 0.7 6.2				基部断面は不整形で、刃部？と思われる部分は扁平である。	
89-11 101	鉄器 不明	覆土内	長幅重 (4.7) 0.6 3.5				断面長方形で両端欠損。	
89-12 101	鉄器 不明	覆土内	長幅重 (2.7) 0.7 2.0				断面楕円形で両端欠損。	

F区第44号住居跡

棟回番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
90-1 102	須恵器 埴川II	覆土内 欠残存	□底高 (14.0) (6.4) (5.7)	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	灰黄 灰	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
90-2	須恵器 埴川	覆土内 破片	□底高 — (6.8) (2.5)	白・赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	#	に 黄橙	口縁部は欠損している。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
90-3	須恵系 羽釜D	覆土内 破片	□底高 19.2 (7.5)	白色鉱物粒子	#	灰黄	口縁部は内湾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。踵は貼り付け、胴部下半・底部は篋削り。	内面に指頭 圧痕あり。
91-1	土師器 埴川	覆土内 破片	□底高 — (3.4) (3.7)	白・黒色粒子 赤褐色粒子	酸化焰	に 赤褐	紐作り。外面割部は篋削り。 内面割部は篋削り。	
91-2	瓦 女瓦	カマド内 欠残存	厚 2.9	赤褐色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	オリ ブ黒	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。 寛幅き文字瓦(家成)(凹面)。	
91-3 102	石器 薄編み石	覆土内 完形	長幅厚 12.7 5.4 4.3	砂岩			全体磨耗している。左側面は磨耗が強く磨石として利用されたとも考えられる。	重 432.0

F区第45号住居跡

棟回番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
92-1	須恵器 埴川	カマド内 欠残存	□底高 (14.2) — (4.0)	黒色粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰黄	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。高台欠損。	
92-2	須恵器 埴川	カマド内 欠残存	□底高 (13.1) — (5.0)	白色粒子 黒色粒子	中性焰	#	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。	
92-3	土師器 埴川E	覆土内 破片	□底高 — 11.8 (5.4)	#	還元焰	#	紐作り後轆轤整形(右回転)。付高台。	

## F区第46号住居跡

縄文番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
93-1 102	須恵器 坏DV	カマド内 片残存	口 底 高 11.9 6.0 4.1	白色紅物粒子	中性焰	にぶい 褐色	口縁部は肥厚し、やや外反する。 轆轤整形(右回転)。外面底部付近に灰化物付着。	
93-2 102	黒色土器 埴	覆土内 片残存	口 底 高 (17.2) — (6.7)	白色紅物粒子 黒色紅物粒子	#	にぶい 黄褐色	口縁部は内傾する。 轆轤整形(右回転)。高台欠損(付高台)。	内面吸込している。
93-3 102	黒色土器 埴	覆土内 片残存	口 底 高 — 8.1 (4.4)	黒色粒子	#	#	口縁部は欠損。轆轤整形(右回転)。付高台。 内面みがきによる調整後吸込させている。	底部回転旋削あり。
93-4 102	石製品 砥石	覆土内 完形	長 幅 厚 5.1 5.9 3.5	宍野石(安山岩質 軽石(ニツ品))			六つの面を持つやや変形した台形で、全体が磨耗し使用したと思われる。一ツ所孔がある。	重 75.8 手持砥石
94-1	緑釉陶器 埴	覆土内 破片	口 底 高 — 8.5 —	黄褐色系		オリ ブ灰	轆轤成形(右回転)。付高台。 全面に釉が施されている。	
94-2 102	須恵系 羽釜C	覆土内 片残存	口 底 高 18.8 — (18.4)	赤褐色粒子 白色紅物粒子	還元焰	明褐色 黒	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。罫は貼り付け、胴部下半・底部は篋削り。	

## F区第47号住居跡

縄文番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
96-1	須恵器 埴	覆土内 破片	口 底 高 (13.5) — (3.0)	白・赤褐色粒子 白色紅物粒子	酸化焰	にぶい 褐色	口縁部は外反する。轆轤整形。 底部欠損している。	
96-2	須恵系 羽釜C	覆土内 破片	口 底 高 (19.4) — (10.8)	白色紅物粒子 黒色紅物粒子	中性焰	にぶい 黄褐色	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。罫は貼り付け。	

## F区第49号住居跡

縄文番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
97-1 102	須恵器 埴CII	覆土内 片残存	口 底 高 13.6 5.6 4.8	白色粒子 白色紅物粒子	中性焰	淡黄 黒	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	内・外面に 墨書あり。
97-2 102	須恵器 埴CI	覆土内 片残存	口 底 高 13.6 6.1 5.0	白色粒子	#	淡黄	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
97-3 102	須恵器 埴CII	覆土内 片残存	口 底 高 13.0 6.4 5.1	白色粒子 黒色紅物粒子	#	にぶい 黄褐色	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
98-1 102	須恵器 埴CI	覆土内 片残存	口 底 高 (13.3) (5.6) (5.0)	黒・赤褐色粒子 黒色紅物粒子	#	淡黄	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
98-2 102	土師器 罫	カマド内 片残存	口 底 高 14.5 (15.6)	赤褐色粒子 白色紅物粒子	酸化焰	にぶい 褐色	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋削り。	
98-3	土師器 罫CIV	カマド内 破片	口 底 高 (15.9) — (7.5)	白・赤褐色粒子 黒色紅物粒子	#	明赤褐 暗赤褐	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋削り。	
98-4 102	須恵器 罫	覆土内 破片	口 底 高 — 16.6 (40.3)	赤褐色粒子 黒色紅物粒子	還元焰	灰白 灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き)後轆轤再整形。外面胴部下半は篋調整。	

第1節 古墳時代～平安時代

98-5 102	須志系 羽釜 B	甌土内 破片	口 底高 21.5 — (25.7)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	中性焰	淡黄 黒褐	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。罫は貼り付け、胴部下半・底部は荒削り。	
98-6	瓦 女瓦	甌土内 破片	厚 1.9	赤・黒褐色粒子 白色鉱物粒子	#	橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。 凸面斜格子印き。	
98-7	瓦 女瓦	甌土内 破片	厚 2.6	黒色粒子 赤褐色粒子	#	にぶい 黄橙	寄木痕。凹面粘土板剥ぎ取り痕。 凸面縄印き。	
99-1	瓦 男瓦	甌土内 破片	厚 2.0	赤・黒褐色粒子 白色鉱物粒子	#	淡黄 暗灰黄	凸面粘土板剥ぎ取り痕。 凸面平行印き。	

F区第50号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状況	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
102-1	須志器 埴C II	カマド内 完形	口 底高 15.0 7.2 4.9	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	灰白	口縁部は外反する。体部は裏らみを持つ。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
102-2	須志器 埴C II	カマド内 写残存	口 底高 14.5 7.2 4.6	黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	#	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
102-3 102	須志器 埴 B	甌土内 写残存	口 底高 (14.2) 5.8 5.5	白色粒子 黒色鉱物粒子	#	#	口縁部はやや外傾する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
102-4	須志器 埴C II'	甌土内 写残存	口 底高 (15.9) (6.6) 4.4	黒色粒子	中性焰	にぶい 黄橙	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
102-5 103	黒色土器	甌土内 写残存	口 底高 13.9 5.4 4.8	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	洗黄橙	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。内面みがきによる調整後吸炭している。	
102-6 103	灰輪陶器 埴	甌土内 写残存	口 底高 (11.1) — (2.5)	美濃系		灰白	口縁部は強く外反する。轆轤成形(右回転)。 体部は裏らみを持つ。施軸手法は刷毛塗り。	
102-7	須志器 埴	カマド内 破片	口 底高 15.0 — (3.9)	赤・黒褐色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	にぶい 黄橙	口縁部は外反する。 轆轤整形。底部は欠損。	
102-8	須志系 羽釜 C	カマド内 破片	口 底高 19.7 — (6.3)	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	#	灰黄褐	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。罫は貼り付け。	
103-1	須志系 羽釜 C	カマド内 破片	口 底高 16.9 — (7.0)	赤褐色粒子 白色鉱物粒子	#	灰白	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。罫は貼り付け。	
103-2 103	瓦 半瓦	カマド内 写残存	幅 高反 (18.0) (3.0) —	黒色粒子 白色鉱物粒子	#	にぶい 橙	右肩行草文。縄巻き造りか。凹面粘土板剥ぎ取り痕。	厚 2.3
103-3	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.2	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	オリーブ灰	一枚作り。凹・凸面粘土板剥ぎ取り痕。布目の擦消し。凸面斜格子印き。	
103-4 103	石 磨 薮編み石	甌土内 完形	長 幅厚 9.6 4.2 2.8	砂岩			先端やや細くなる小型の石。全体磨耗している。敲きによる割離みがある。	重 146.6
103-5 103	石 磨 薮編み石	甌土内 完形	長 幅厚 14.9 5.3 4.7	輝緑岩			不定形を呈する。全面磨耗している。一部敲きによる割離みがある。	重 744.5
103-6 103	鉄 釘	甌土内 先欠損	長 幅重 (11.3) 9.5 16.8				断面方形で頭は「L」字形に屈曲。	
103-7 103	鉄 紡錘車	甌土内	径 厚重 2.7 0.2 29.3				比較的残存状態は良好で、中央に軸穴と思われる穴有り。	紡錘残存



## F区第52号住居跡

調査番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
105-1 103	土師器 坏BIV	覆土内 完形	口底高 11.8 — 3.6	白色紅物粒子 黒色紅物粒子	酸化焰	橙	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
105-2 103	土師器 坏B I	覆土内 瓦残存	口底高 12.3 — (3.1)	〃	〃	〃	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
105-3 103	土師器 坏BIV	覆土内 瓦残存	口底高 11.9 — 3.3	〃	〃	〃	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
105-4 103	土師器 坏BIII	覆土内 瓦残存	口底高 (12.0) — 3.2	黒色紅物粒子	〃	〃	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
105-5 103	土師器 坏BIV	覆土内 完形	口底高 11.1 — 3.5	白色紅物粒子 黒色紅物粒子	〃	〃	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
105-6 103	土師器 坏BIV	覆土内 完形	口底高 10.2 — 3.0	〃	〃	〃	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
105-7 103	土師器 坏BIV	覆土内 瓦残存	口底高 (10.0) — 3.1	〃	〃	〃	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
105-8 103	土師器 坏BIV	覆土内、 瓦残存	口底高 (12.7) — 3.3	〃	〃	にぶい 褐	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
105-9 103	土師器 坏BIII	覆土内 ほぼ完形	口底高 12.7 — 3.9	〃	〃	橙	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
105-10 104	土師器 坏BIV	覆土内 瓦残存	口底高 12.6 — 3.9	〃	〃	〃	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
105-11 104	土師器 坏BIII	覆土内 瓦残存	口底高 (13.2) — (4.0)	〃	〃	にぶい 黄橙	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
105-12 104	土師器 坏BIII	覆土内 破片	口底高 (13.4) — (3.5)	〃	〃	橙	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
105-13 104	土師器 坏BIII	覆土内 瓦残存	口底高 (16.4) — (5.0)	赤褐色粒子 白・黒色紅物粒子	〃	〃	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
105-14 104	土師器 皿	掘り方内 瓦残存	口底高 (19.1) — 4.0	白色紅物粒子 黒色紅物粒子	〃	にぶい 褐	口縁部は外反する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
105-15 104	土師器 皿	覆土内 破片	口底高 (20.0) — (4.0)	白・赤褐色粒子	〃	橙	口縁部は外反する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
105-16 104	土師器 皿	覆土内 瓦残存	口底高 (19.2) — 3.4	白色紅物粒子 黒色紅物粒子	〃	にぶい 褐	口縁部は外反する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
105-17 104	須恵器 坏	覆土内 破片	口底高 — (7.0) (2.2)	白・黒色粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰	輪縁整形。底部回転削り。	
105-18 104	須恵器 蓋	覆土内 完形	口底高 19.4 — 4.8 3.2	赤褐色粒子 白色紅物粒子	中性焰	灰 浅黄	口唇部は下方に折り返す。輪縁整形(右回転)。上半部は回転削り。浅黄は貼り付け。	
106-1	土師器 蓋	覆土内 胴部破片	口底高 — —	黒・赤褐色粒子 黒色紅物粒子	酸化焰	にぶい 黄橙	紐作り。外面胴部は寛削り。内面胴部は横撫で。	

第1節 古墳時代～平安時代

106-2 104	須恵器 長圓壺	覆土内 頸部穴損	口 径 高 — 11.5 (12.9)	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	紐作り後機械整形。外面胴部は蔑削り。胴部には3本の平行沈線が入っている。	胴部に直径 6.5cmの穴 あり
106-3 104	石製品 砥石	覆土内 完形	長 幅 厚 11.2 5.9 4.0	流紋岩 (砥沢)			糸巻状で、断面は方形を呈す。両小口に自然面を残す他全部使用している。	重 325.9 平持砥石
106-4 104	石器 磨礪み石	覆土内 完形	長 幅 厚 16.6 8.1 4.5	角閃石安山岩			全面粗い感じの石。表面と側面に敲打痕あり。	重 735.5
106-5 104	石器 敲石	覆土内 完形	長 幅 厚 15.0 6.2 3.5	砂岩			不定形を呈す。全体に磨耗しているが敲きによる割離痕がみられる。	重 640.9

F区第56号住居跡

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
109-1 104	瓦 殿瓦	カマド内 破片	径 厚 16.7 — 2	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	単弁4葉蓮華文。十字中房。弁間は「T」字状開弁を配する。	厚 2.1
109-2	瓦 男瓦	カマド内 破片	厚 2.0	黒・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	#	灰	半截作り。 蔑掻き文字瓦「子女」凸面。	

F区第57号住居跡

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
110-1 104	石製品 防鉢車	覆土内 完形	上面 厚 下面 2.1 2.2 4.3	滑石			上・下面鑿出し研磨が施こされ、側面削りの調整が文様状に残る。穿孔は丁寧。	重 50.0
111-1 104	土師器 坏BIV	カマド内 完形	口 径 底 高 10.6 — 2.6	黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は内湾する。体部・底部は蔑削り、口縁部・胴内面は横撫で。	
111-2 104	土師器 坏BIV	カマド内 ほぼ完形	口 径 底 高 11.0 — 3.3	白色鉱物粒子	#	に よ い 濁	口縁部は直立する。体部・底部は蔑削り、口縁部・胴内面は横撫で。	
111-3 104	土師器 婁AIV	覆土内 1/2残存	口 径 底 高 22.0 — (21.0)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は蔑削り、口縁部は横撫で、内面胴部は横撫で。	
111-4 104	土師器 婁B I	覆土内 ほぼ完形	口 径 底 高 23.4 3.5 34.6	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	橙 黒濁	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は蔑削り、口縁部は横撫で、内面胴部は蔑削り。	

F区第58号住居跡

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
112-1 105	須恵器 埴C I	覆土内 ほぼ完形	口 径 底 高 14.2 6.5 5.4	白色粒子 黒色粒子	中性焰	灰	口縁部は外反する。 機械整形(右回転)。付高台。	
112-2 105	須恵器 坏DIV	覆土内 1/2残存	口 径 底 高 13.6 6.9 3.9	#	#	黄灰	口縁部はやや外反する。 機械整形(右回転)。	
113-1 105	瓦 男瓦	覆土内 1/2残存	厚 2.1	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰	半截作り。凹面布合せ目取。	
113-2	瓦 男瓦	覆土内 1/2残存	厚 2.0	黒・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	灰	半截作り。凸面横撫で。	

## F区第59号住居跡

調査番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	口底 口径 底高	目度(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
115-1 105	須恵器 坏EⅢ	カマド内 掘り方	口底 口径 底高	13.8 6.4 4.3	白色粒子 黒色粒子	中性焙	灰	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。	ほぼ完形
115-2	須恵器 埴D	覆土内 片残存	口底 口径 底高	12.0 — (3.4)	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焙	黒褐	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。高台欠損(付高台)。	
115-3 105	須恵器 埴CⅡ	覆土内 破片	口底 口径 底高	12.4 6.1 4.6	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	中性焙	灰黄褐	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
115-4 105	須恵器 埴CⅡ	覆土内 ほぼ完形	口底 口径 底高	12.2 5.7 4.9	〃	〃	灰黄	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
115-5 105	須恵器 埴CⅡ	覆土内 破片	口底 口径 底高	13.2 6.4 4.7	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焙	黒	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。器内・外面を吸炭させている。	
115-6	須恵器 埴CⅡ	覆土内 ほぼ完形	口底 口径 底高	12.1 5.9 4.4	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	中性焙	灰黒	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
116-1	須恵器 埴CⅡ	カマド内 破片	口底 口径 底高	(14.1) 7.1 5.0	白・黒色粒子 赤褐色粒子	〃	〃 黄橙	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
116-2	須恵器 埴CⅡ	覆土内 片残存	口底 口径 底高	15.2 — (4.5)	白・黒色粒子 黒色鉱物粒子	〃	灰 灰黄	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。高台欠損(付高台)。	
116-3 105	須恵器 埴CⅡ	覆土内 ほぼ完形	口底 口径 底高	12.7 6.4 4.4	白色粒子	〃	黒	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。器内・外面を吸炭させている。	
116-4 105	須恵器 埴CⅡ	カマド内 片残存	口底 口径 底高	(14.8) 7.3 6.0	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	〃	〃 褐	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
116-5	須恵器 埴CⅠ	カマド内 片残存	口底 口径 底高	(12.0) 6.0 4.4	〃	〃	灰白	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
116-6 105	須恵器 埴CⅠ	覆土内 片残存	口底 口径 底高	12.0 6.0 4.6	〃	〃	灰 に よ い 黄 橙	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
117-7	須恵器 埴CⅡ	カマド内 破片	口底 口径 底高	13.4 — (4.7)	白色粒子	〃	灰黄褐 に よ い 橙	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。内・外面に炭化物が付着する。	
116-8	須恵器 高 坏	覆土内 破片	口底 口径 底高	— — (6.0)	白色粒子 黒色粒子	還元焙	灰白	紐作り後轆轤整形。 坏部欠損。	
116-9 105	須恵器 壺	覆土内 破片	口底 口径 底高	— — —	白・赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	中性焙	〃	紐作り後轆轤整形。	
116-10 105	須恵器 壺	覆土内 破片	口底 口径 底高	— — 12.3	〃	酸化焙	に よ い 褐	紐作り後轆轤整形。	
116-11	須恵器 壺	覆土内 破片	口底 口径 底高	— — 11.5 (13.0)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	還元焙	灰	紐作り後轆轤整形・外面胴部は寛削り、底部は寛調整。	
117-1	瓦 男 瓦	覆土内 片残存	厚	1.6	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	〃	暗灰黄 に よ い 橙	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。	
117-2 105	瓦 男 瓦	覆土内 片残存	厚	1.2	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	中性焙	橙 黒	紐作り。凸面縄叩き、回転痕跡で後、手撫で。	

第1節 古墳時代～平安時代

117-3 105	石製品 砥石	覆土内 完形	長 幅 厚	3.1 3.2 2.5	黄紋岩 (砥沢)			ほぼ正方形を呈し、全面磨耗している。	重 45.7 手持砥石
117-4 105	鉄器 釘	覆土内 先欠損	長 幅 重	(3.9) 0.4 6.0				断面方形で、頭は扁平で傾斜している。	

F区第64号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
118-1	須恵器 杯E I	覆土内 ほぼ完形	□底 高	13.3 6.0 3.5	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	浅黄	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。	
118-2 105	須恵器 埴C II	掘り方内 片残存	□底 高	14.9 6.4 5.6	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	灰 灰白	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
118-3 106	須恵器 高台付皿	覆土内 片残存	□底 高	14.4 7.6 2.2	白色粒子 黒色粒子	#	灰白	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
118-4 106	須恵器 高台付皿	覆土内 片残存	□底 高	(14.1) (2.3)	黒色粒子	還元焰	灰	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
118-5	灰陶器 埴	覆土内 片残存	□底 高	(17.0) (4.2)	美濃系		#	口縁部は外反する。轆轤成形。 施釉手法は説明。	
118-6	灰陶器 埴	覆土内 破片	□底 高	— 7.0 —	#	#	#	轆轤成形。蓋部は回転製で、付高台。	
118-7	土師器 葉C III	覆土内 破片	□底 高	23.1 (8.3)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面割部は寛削り、 口縁部は横溝で、内面割部は直溝で。	
118-8	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	(1.9)	白・赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	中性焰	#	一枚作り。両面布目の擦削し。	
118-9	瓦 女瓦	掘り方内 破片	厚	(2.9)	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。 寛播き文字瓦 文字不明(凸面)。	

F区第75号址

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
119-1	土師器 杯C I	掘り方内 破片	□底 高	(12.0) (2.9)	白色粒子 黒褐色粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。体部・底部は寛削り、口 縁部・器内面は横溝で。	
119-2 106	須恵器 杯E I	覆土内 片残存	□底 高	(12.8) 6.3 3.5	白色粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。	
119-3 106	須恵器 杯E I	覆土内 片残存	□底 高	13.5 6.8 3.6	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	#	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。	
119-4 106	須恵器 埴C I'	覆土内 片残存	□底 高	13.5 6.6 3.7	白色粒子	中性焰	#	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
119-5	須恵器 埴	覆土内 破片	□底 高	— 7.6 (4.0)	白色粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	#	轆轤整形(右回転)。付高台。	
119-6	須恵器 埴	覆土内 破片	□底 高	— 7.7 3.0	白・黒色粒子 赤褐色粒子	中性焰	#	轆轤整形(右回転)。付高台。	

## F区(64号住居跡、75号址) G区(1・3号住居跡)

119-7	土師器 壺C II	覆土内 破片	口 底高 (9.1)	21.2 — (9.1)	黒色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙 灰黄褐色	「コ」の字状口縁。紐作り、外面割部は寛削り、 口縁部は横溝で、内面割部は寛削り。	
119-8	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	(1.7)	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面平行叩き。	
119-9	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚	(1.6)	黒・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	#	暗灰	半截作り。凹面粘土板割ぎ取り痕あり。 窪抜き文字瓦人(凸面)。	
119-10 106	鉄器 釘	覆土内 破片	長 幅重	(5.8) — 9.6 15.6				断面方形で、先端を欠損する。 頭は瘤状を呈する。	
119-11 106	鉄器 釘	覆土内 一部残存	長 幅重	(4.4) — 0.8 12.8				断面方形で両端欠損。	
119-12 106	鉄器 不明	覆土内 一部残存	長 幅重	(3.5) — 0.4 4.8				断面方形で両端欠損。	

## G区第1号住居跡

調査番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
121-1 106	土師器 坏C II	覆土内 破片	口 底高 (12.0) — (3.6)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	ぶい 橙	口縁部は内傾する。体部・底部は寛削り、口 縁部・器内面は横溝で。	
121-2 106	須恵器 埴	覆土内 瓦残存	口 底高 (15.7) — 8.4 6.4	黒色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	灰白	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
122-1	須恵器 埴	覆土内 瓦残存	口 底高 (16.1) — (5.5)	黒色粒子	#	黄灰	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。底部欠損。	
122-2	土師器 壺C II	覆土内 破片	口 底高 (21.0) — (6.1)	白色粒子 赤褐色粒子	酸化焰	明赤褐	「コ」の字状口縁。紐作り、外面割部は寛削り、 口縁部は横溝で、内面割部は寛削り。	口唇部に2 段の横あり
122-3 106	鉄器 不明	覆土内 破片	長 幅重 (12.1) — 2.1 27.2				屈曲する板状で、断面形は長楕円形である。 両端部を欠損するが鎌か?	
122-4 106	鉄器 不明	覆土内	長 幅重 4.5 — 4.4 57.6				方形の板状を呈する。 種不明。	厚 0.4

## G区第3号住居跡

調査番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
124-1 106	灰釉陶器 埴	覆土内 瓦残存	口 底高 (12.8) — 7.3 3.3	美濃系		灰白	口縁部は外傾する。 轆轤成形(右回転)。付高台。胎削手法は没掛。		
124-2	緑釉陶瓦 椀 皿	覆土内 破片	口 底高 (13.5) — (1.9)	美濃系		緑	口縁部は外反する。轆轤成形。体部中位を屈 曲させている。器内・外面薄く緑釉が掛かる。		
124-3 106	須恵器 壺	覆土内 瓦残存	口 底高 (14.5) — (20.7)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	中性焰	灰白 橙	紐作り後轆轤整形。 割部下半段調整。		
124-4 106	須恵系 羽釜 皿	カマド内 瓦残存	口 底高 (20.8) — (15.4)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	酸化焰	橙 黒	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。脚は貼り付け、割部下半・底部は寛削り。		
124-5	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚	3.0	白色鉱物粒子	中性焰	灰	横巻き造り。凹面布目の擦消しあり。 凸面叩き。	

第1節 古墳時代～平安時代

124-6	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.0	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面斜格子印キ。 凸面粘土板割ぎ取り痕あり。	
124-7 106	瓦 字瓦	カマド内 破片	幅 反高 (13.7) — 3.1	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	灰 にぶい 橙	一枚作り。凹面布目の捺押し、粘土板割ぎ取 り痕あり。凸面罫印キ。女瓦厚さ3.0。	右隣行唐草 文
124-8 106	鉄器 釘	覆土内 先欠損	長 幅重 (6.9) — 0.5 11.2				断面方形で基部は屈曲する。この部分が頭 か？先端欠損。	
124-9 106	石製品 紙石	覆土内	長 幅厚 (5.7) — (3.7) 3.1	流紋岩 (証沢)		淡黄灰	糸巻状。周小口欠損、左側面を除き全面使用。	重 55.9

G区第5号住居跡

採回番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
126-1	土器 環C I	覆土内 完形	□ 底高 13.1 — 3.2	黒色鉱物粒子	酸化焰	にぶい 橙	□縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、□ 縁部・器内面は横撫で。	
126-2 107	土器 環C II	覆土内 破片	□ 底高 13.1 — 3.5	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	橙	□縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、□ 縁部・器内面は横撫で。	
126-3 107	土器 環D I	掘り方内 当残存	□ 底高 (13.0) — 10.0 3.0	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	にぶい 黄橙	□縁部はやや内湾する。体部・底部は寛削り、 □縁部・器内面は横撫で。	
126-4	土器 環C II	掘り方内 破片	□ 底高 (11.6) — (3.4)	白色粒子 黒色鉱物粒子	#	#	□縁部は外傾する。体部・底部は寛削り、□ 縁部・器内面は横撫で。	
126-5 107	鉄器 刀子	カマド内	長 幅重 (8.7) — 0.7 7.5				茎と身の一部残存。	基 (2.2)
126-6 107	鉄器 刀子	カマド内	長 幅重 (8.6) — 0.6 4.9				身の一部と思われる。	
126-7 107	鉄器 釘	覆土内 先欠損	長 幅重 (9.7) — 0.7 17.7				断面長方形で、頭は瘤状を呈する。	

G区第6号住居跡

採回番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
128-1 107	須恵器 環E II	覆土内 当残存	□ 底高 (13.4) — (6.2) 4.7	白色粒子	中性焰	灰 灰白	□縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
128-2	須恵器 環E II	覆土内 破片	□ 底高 (13.8) — (4.3)	白色粒子 白色鉱物粒子	#	灰白	□縁部は外反する。体部はやや張りを持つ。 轆轤整形(右回転)。高台欠損(付高台)。	
128-3	須恵器 環C I	覆土内 当残存	□ 底高 (13.4) — (4.8)	黒色粒子	#	にぶい 黄橙	□縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。高台欠損(付高台)。	
128-4	須恵器 環C II	覆土内 破片	□ 底高 (15.0) — (4.5)	白色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	淡黄	□縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。底部 は欠損。	
128-5 107	須恵器 環	覆土内 当残存	□ 底高 (18.5) — (5.5)	白色粒子 黒色粒子	#	灰	□縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。 底部は欠損。外面に墨書あり。	
128-6	土器 器CIV	覆土内 破片	□ 底高 (21.0) — (8.0)	黒・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	にぶい 橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面割部は寛削り、 □縁部は横撫で、内面割部は寛削りで。	□唇部に2 段の縁あり

## G区(5・6・7・8号住居跡)

128-7	土師器 壺CIV	覆土内 破片	口 底高 (20.5) — (7.3)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内面胴部は寛撫で。	口唇部に2 段の縁あり
128-8 107	土師器 壺CIV	覆土内 反残存	口 底高 (19.0) — (13.4)	#	#	#	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内面胴部は寛撫で。	
129-1	土師器 壺CIV	覆土内 破片	口 底高 (17.9) — (7.7)	#	#	#	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内面胴部は寛撫で。	口唇部に2 段の縁あり
129-2 107	須恵系 羽釜B	覆土内 反残存	口 底高 (18.0) — (11.6)	白色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	#	口縁部は内傾する。紐作り後横縁整形(右回転)。踵は貼り付け。	
129-3 107	鉄器 釘	覆土内 先欠損	長 短重 (13.0) 0.4 24.3				断面方形で頭はわずかに「L」字形に屈曲する。	

## G区第7号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
131-1	土師器 坏DII	覆土内 破片	口 底高 (12.9) — 2.5	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は内傾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
131-2 107	須恵器 坏DIV	カマド内 反残存	口 底高 (12.9) 7.6 3.5	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰 灰白	口縁部は外傾する。横縁整形(右回転)。	
131-3 107	須恵器 坏DII	カマド内 %残存	口 底高 (12.3) 8.0 3.7	黒色粒子	#	灰	口縁部は外傾する。横縁整形(右回転)。底部は回転掘起し。	
131-4 107	須恵器 坏DII	覆土内 ほぼ完形	口 底高 (11.7) 7.3 3.7	白色粒子 黒色鉱物粒子	#	オリブ 灰	口縁部は外傾する。横縁整形(右回転)。底部は回転掘起し。	
131-5 107	須恵器 坏DII	覆土内 ほぼ完形	口 底高 (12.7) 7.5 3.7	黒色粒子 黒色鉱物粒子	#	灰	口縁部は外傾する。横縁整形(右回転)。底部は回転掘起し。外面底部に自然軸付着。	
131-6 107	土師器 壺BIII	覆土内 反残存	口 底高 (20.0) 5.5 27.8	黒・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内面胴部は寛撫で。	

## G区第8号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
132-1 107	須恵器 壺CI	覆土内 反残存	口 底高 (11.7) 5.2 5.2	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	浅黄	口縁部はやや外反する。横縁整形(右回転)。	
132-2 107	須恵器 壺CI	カマド内 反残存	口 底高 (13.1) (7.4) 4.6	#	#	灰白	口縁部は外反する。横縁整形(右回転)。付高台。	
132-3	須恵器 壺CI	覆土内 反残存	口 底高 (12.0) — (4.1)	#	#	灰白 灰	口縁部は外反する。横縁整形(右回転)。高台欠損(付高台)。	
133-1 107	須恵器 壺CII	覆土内 反残存	口 底高 (12.5) 5.5 4.9	白色粒子 黒色鉱物粒子	#	灰	口縁部は外反する。横縁整形(右回転)。付高台。	
133-2 107	須恵器 壺CII	覆土内 ほぼ完形	口 底高 (12.2) 5.9 4.7	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	黒	横縁整形(右回転)。付高台。器内・外面を嵌嵌させている。	
133-3 107	須恵器 壺CII	覆土内 ほぼ完形	口 底高 (11.7) 5.4 4.9	#	還元焰	灰	口縁部は外反する。横縁整形(右回転)。付高台。	

第1節 古墳時代～平安時代

133-4	須恵器 長頸壺	覆土内 底部残存	口 径高 — (9.4)	白色粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	黄灰	紐作り後縦線整形。	
133-5 108	須恵系 別形皿	覆土内 片残存	口 径高 (18.8) — (16.2)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は内傾する。紐作り後縦線整形(右回転)。踵は貼り付け。	
133-6	瓦 男瓦	覆土内 片残存	厚 2.2	白色粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	黒褐色	半軟作り。	
133-7 108	鉄器 不明	覆土内 破片	長 幅重 5.2 — 1.9 — 13.3				断面は台形で、中央部から縁状に断面方形の突起を有する。	
133-8 108	鉄器 釘	覆土内	長 径重 (11.0) — 0.5 — 17.8				断面方形で、錆が進んだためか両端が曲い。	
133-9 108	鉄器 釘	覆土内 先欠損	長 幅重 (4.1) — 0.3 — 4.7				断面方形で、頭は潰れたような状態を呈する。	

G区第10号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
135-1	土師器 環C I	覆土内 破片	口 径高 14.0 — (2.7)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	にぶい 橙	口縁部はやや内湾する。体部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
135-2	土師器 環C II	覆土内 片残存	口 径高 13.9 — (3.2)	白色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	#	口縁部はやや内湾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
135-3 108	土師器 環C I	覆土内 片残存	口 径高 13.4 — 3.8	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	#	口縁部は直立する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
135-4	土師器 環C I	覆土内 破片	口 径高 14.9 — (2.8)	白色粒子 黒色鉱物粒子	#	橙	口縁部はやや内湾する。体部・器内面は横撫で。	
135-5 108	須恵器 蓋	覆土内 完形	口 径高 16.5 — 3.5	白色粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。縦線整形(右回転)。上半部は回転寛削り。踵部は貼り付け。	幅み 4.4
135-6 108	須恵器 環E I	覆土内 片残存	口 径高 13.6 — 5.9 — 3.9	黒色鉱物粒子	酸化焰	にぶい 黄灰	口縁部は外傾する。 縦線整形(右回転)。	
135-7 108	土師器 壺B II	覆土内 完形	口 径高 22.1 — 3.5 — 29.5	黒・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	#	橙 洗黄橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内面胴部は寛撫で。	底部は平底
135-8	土師器 壺B II	覆土内 片残存	口 径高 20.6 — (18.2)	白・赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	#	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内面胴部は寛撫で。	
135-9	土師器 壺C I	覆土内 破片	口 径高 18.0 — 5.2	赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	#	#	「コ」の字状口縁。紐作り。外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内面胴部は寛撫で。	

G区第11号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
136-1 108	土師器 環C II	覆土内 片残存	口 径高 12.8 — 3.3	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外傾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
136-2 108	土師器 環D I	覆土内 片残存	口 径高 12.6 — (3.1)	赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	#	#	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	



## G区第12号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
138-1 108	須恵器 坏DIV	掘り方内 写残存	口 底 高 12.3 5.7 4.1	白色粒子 黒色粒子	中性焼	灰	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。	
138-2	須恵器 坏	覆土内 写残存	口 底 高 — 6.0 2.8	赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	#	黒褐	轆轤整形(右回転)。 器内・外面を収束させている。	
138-3	土師器 壺CII	カマド内 破片	口 底 高 — 21.0 (7.1)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焼	にぶい 赤褐	「コ」の字状口縁。紐作り、外密削部は寛削り、 口縁部は横撫で、内面削部は縦撫で。	内面口縁部 伏化付着
138-4	瓦 男瓦	カマド掘り 方内	厚 2.2	白色粒子 白色鉱物粒子	中性焼	にぶい 黄橙	半截作り。	破片
138-5 108	鉄器 釘	覆土内 先欠損	長 幅 重 (6.1) 0.9 12.9				断面方形で、頭は「T」字を呈する。	

## G区第13号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
140-1 108	土師器 坏C I	掘り方内 写形	口 底 高 12.4 3.4	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焼	橙	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口 縁部・器内面は横撫で。	
140-2 108	土師器 坏C I	掘り方内 写形	口 底 高 12.5 — 3.5	#	#	にぶい 黄橙	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口 縁部・器内面は横撫で。内面底部に一孔あり。	
140-3 108	須恵器 坏DI	覆土内 ほぼ写形	口 底 高 12.8 8.6 3.5	黒色粒子 黒色鉱物粒子	中性焼	灰	口縁部は外湾する。轆轤整形(右回転)。 底部は回転突起し後戻調整。	器内・外面 に自然付着
140-4 108	鉄器 釘	覆土内 頭欠損	長 幅 重 (3.4) 0.2 1.1				断面方形。先端部。	

## G区第14号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
142-1 108	土師器 坏C I	覆土内 写残存	口 底 高 11.2 — 3.6	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焼	橙	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口 縁部・器内面は横撫で。	
142-2 108	土師器 坏C I	覆土内 写残存	口 底 高 14.3 — 3.5	#	#	#	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口 縁部・器内面は横撫で。	
142-3	土師器 坏C I	覆土内 破片	口 底 高 (14.0) — (3.2)	#	#	#	口縁部は内湾する。体部は寛削り、口縁部・ 器内面は横撫で。底部欠損。	
142-4 108	土師器 皿	覆土内 写残存	口 底 高 (17.0) — 3.2	#	#	#	口縁部はほぼ直立する。体部・底部は寛削り、 口縁部・器内面は横撫で。	
142-5 108	土師器 埴	覆土内 写残存	口 底 高 (19.8) — 6.5	黒色鉱物粒子	#	#	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口 縁部・器内面は横撫で。	
142-6	土師器 埴	覆土内 写残存	口 底 高 (22.0) — 9.5	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	#	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口 縁部・器内面は横撫で。	

第1節 古墳時代～平安時代

142-7 109	須恵器 環	覆土内 片残存	口底高 (12.7) 7.6 3.3	白色粒子	還元焰	灰	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。	
142-8	須恵器 高環	覆土内 破片	口底高 — —	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	灰黄	轆轤整形。脚部に3ヶ所の透を有する。	
142-9 109	土師器 壺AII	貯蔵穴内 片残存	口底高 (3.9) (40.2)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙 黒褐	口縁部は欠損している。紐作り。外面割部は 荒削り、口縁部は横無で、内面割部は荒削りで。	
142-10 109	土師器 壺AIV	覆土内 片残存	口底高 20.4 (28.2)	赤褐色粒子 白色鉱物粒子	#	橙 黒褐	口縁部は外反する。紐作り。外面割部は荒削り、 口縁部は横無で、内面割部は荒削りで。	
142-11 109	石器 磨盤み石	覆土内 完形	長幅厚 13.9 6.7 3.9	石英閃緑岩			断面やや扁平。全体磨耗している。	重 561.7

G区第15号住居跡

測図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
144-1	須恵器 埴C II'	覆土内 完形	口底高 13.5 6.1 3.1	白色粒子 黒色粒子	中性焰	灰	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
144-2	須恵器 埴	カマド内 片残存	口底高 — 7.0 (4.1)	白色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	褪灰 灰白	口縁部は欠損している。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
144-3	土師器 壺	掘り方内 片残存	口底高 12.7 8.6	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	酸化焰	橙 黒褐	「コ」の字状口縁。紐作り、外面割部は荒削り、 口縁部は横無で、内面割部は荒削りで。	外面に灰化 物若干付着
144-4	土師器 壺C I	掘り方内 破片	口底高 (21.5) (6.2)	白色粒子 黒色鉱物粒子	#	明赤褐	「コ」の字状口縁。紐作り、外面割部は荒削り、 口縁部は横無で、内面割部は荒削りで。	
144-5	須恵系 引釜B	覆土内 破片	口底高 (19.0) — 5.7	白色粒子	中性焰	にぶい 黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。脚は貼り付け。	

G区第16号住居跡

測図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
146-1	須恵器 埴C I	貯蔵穴内 片残存	口底高 (16.9) 7.3 6.5	白色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	浅黄 黒褐	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高 台。器内・外面に若干灰化物付着。	
146-2	須恵器 埴	覆土内 片残存	口底高 (15.4) — (4.0)	黒色粒子	#	灰	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。 底部は欠損している。	
146-3	須恵器 埴	貯蔵穴内 片残存	口底高 (15.0) — (4.2)	#	#	#	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。 底部は欠損している。	
146-4	須恵器 埴	覆土内 片残存	口底高 — 8.0 (4.6)	白色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	にぶい 黄橙	轆轤整形(右回転)。付高台。	
147-1 109	土師器 台付壺	貯蔵穴内 片残存	口底高 12.1 (14.1)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	酸化焰	橙 黒褐	「コ」の字状口縁。紐作り、外面割部は荒削り、 口縁部は横無で、内面割部は荒削りで。	
147-2 109	石製品 破石	覆土内 ほぼ完形	長幅厚 (6.2) 2.7 2.6	流紋岩 (凝灰)		浅黄橙	糸巻状。片小口欠損。奥小口の他は全面使用。	重 44.4
147-3 109	石器 磨石	覆土内 完形	長幅厚 (11.0) 5.9 3.2	輝石安山岩 (粗粒)			断面やや扁平。全体磨耗している。下端部が 打ち欠けている。	重 315.9

## G区(15・16・17号住居跡)

147-4 109	石器 磨礪み石	貯蔵穴内 一部欠損	長幅厚 (11.3) (3.5) 2.8	黒色頁岩			断面方形を呈する細長い石。全体磨耗している。下部欠損又磨きによる割離もある。	重 224.7
147-5 109	石器 磨礪み石	覆土内 完形	長幅厚 13.0 5.9 4.2	輝石安山岩 (粗粒)			全体磨耗している。表面に磨きによる凹がある。	重 483.9
147-6	瓦 女瓦	貯蔵穴内 片残存	厚 2.8	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	焼き造りか、模骨痕が認められる。凹面粘土板割す取り状凸面平行印き後擦消し。菱摺き文字瓦「田」(凸面)。	

## G区第17号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
149-1 109	土師器 埴	覆土内 片残存	口 底 高 14.4 (3.5) 4.3	赤褐色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	明褐	口縁部は外傾する。体部・底部は覆削り、口縁部・器内面は横撫で。内面に暗文を施している。	
149-2	土師器 埴	覆土内 完形	口 底 高 12.7 — 3.5	白色粒子 白色鉱物粒子	#	橙	口縁部は外傾する。体部・底部は覆削り、口縁部・器内面は横撫で。内面に暗文を施している。	
149-3	土師器 埴	覆土内 片残存	口 底 高 (13.1) — (4.7)	#	中性焰	にぶい 褐	口縁部はやや外傾する。体部・底部は覆削り、口縁部・器内面は横撫で。内面に暗文を施している。	
149-4	須恵器 壺	覆土内 破片	口 底 高 — — —	白色粒子	#	オリ ブ 灰	横撫整形(右回転)。高台欠損(付高台)。	
149-5 109	須恵器 壺	覆土内 片残存	口 底 高 — — (8.7)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰	横撫整形。	
150-1 109	石器 不明	覆土内 完形	長 幅 厚 8.5 3.3 3.0	雲母石英片岩			細く小形で、全体になめらか。	重 119.2
150-2 109	石器 磨礪み石	覆土内 完形	長 幅 厚 14.3 5.8 4.3	輝石安山岩 (粗粒)			不定形を呈する石。全体磨耗している。先端に磨きによる割離あり。	重 511.3
150-3 110	石器 磨礪み石	覆土内 完形	長 幅 厚 15.2 5.9 4.3	#			先細りの不定形を呈する石。全体磨耗している。使用時の傷と思われる割離あり。	重 555.8
150-4 109	石器 磨礪み石	覆土内 完形	長 幅 厚 13.0 4.4 4.9	珩岩			断面三角形の不定形な石。全体磨耗している。	重 349.9
150-5 109	石器 磨礪み石	覆土内 一部欠損	長 幅 厚 (10.6) 4.7 3.8	輝石安山岩 (粗粒)			割離面の他は全体磨耗している。先端に磨きによる割離あり。	重 296.0
150-6 110	石器 磨礪み石	覆土内 完形	長 幅 厚 15.8 7.2 4.2	輝石安山岩			少し湾曲した石。全体磨耗している。両先端に使用時に出来たとと思われる打痕あり。	重 673.0
150-7 110	石器 磨礪み石	覆土内 完形	長 幅 厚 16.5 6.0 4.7	石英閃緑岩			先細りの不定形を呈する石。全体磨耗しているが磨きによる凹も多くの多目的利用と思われる。	重 728.7
150-8 109	石器 磨礪み石	覆土内 完形	長 幅 厚 13.8 7.1 6.1	輝石安山岩 (粗粒)			全体に荒く厚みのある石。両先端に火熱を受けている。	重 749.2
150-9 110	石器 磨礪み石	覆土内 完形	長 幅 厚 18.5 8.7 4.0	珩岩			湾曲した不定形な石。全体磨耗している。使用時と思われる打痕あり。	重 834.3

第1節 古墳時代～平安時代

G区第18号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
151-1	土師器 坏C I	覆土内 破片	口底高 [12.9] — (2.6)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は内湾する。体部・底部は貫削り、口縁部・器内面は横無で。	
151-2 110	須恵器 坏E I	覆土内 与残存	口底高 13.9 7.5 4.1	黒色鉱物粒子	還元焰	灰	口縁部はやや内湾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転甃起し。外面に若干自然釉あり。	
151-3	須恵器 坏DIV	覆土内 与残存	口底高 [14.0] (7.5) (4.2)	黒色粒子	"	灰	口縁部は外傾する。 轆轤整形(右回転)。	
152-1	土師器 壺B II	覆土内 破片	口底高 [21.6] — (8.1)	白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	明赤褐	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は貫削り、口縁部は横無で、内面胴部は貫削り。	
152-2	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	黄灰	一枚作り。凸面粘土板割き取り張りあり。凸面正格子印き。	
152-3 110	石器 磨礪み石	覆土内 完形	長幅厚 15.0 6.4 5.2	珩岩			全体に磨耗しているが、図左側面と表面は平で磨耗も顕著で磨石として利用されたと思う。	重 857.7

G区第19号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
154-1 110	須恵器 埴C II	カマド内 与残存	口底高 15.2 — (4.8)	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	灰 灰白	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。高台欠損(付高台)。	
154-2 110	須恵器 埴C I	覆土内 完形	口底高 16.2 8.2 4.9	白・黒色粒子 黒色鉱物粒子	"	灰白	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	器内・外面 炭化物付着
154-3 110	須恵器 埴C II	掘り方内 完形	口底高 14.5 6.1 5.4	白色粒子 黒色鉱物粒子	"	橙 灰	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。外面に炭化物付着。	
154-4 110	黒色土器 埴	カマド内 与残存	口底高 [19.9] — (7.4)	白色粒子 黒色粒子	"	黒 灰黄	口縁部は外反する。体部はやや張りを持つ。轆轤整形(右回転)。付高台。	内面を炭炭 させている
154-5	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.9	白色粒子 白色鉱物粒子	"	にぶい 黄橙	一枚作り。凹面粘土板割き取り張り 刻印・菱編み文字瓦(雷) (凸面)。	
154-6	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.0	白色粒子 黒色粒子	酸化焰	橙	凸面正格子印き。	
154-7 110	鉄器 釘	覆土内 破片	長幅重 (7.7) 0.4 10.3				断面方形で、両端欠損。	
154-8 110	石製品 砥石	覆土内 小口欠損	長幅厚 (5.0) (2.2) (1.9)	流紋岩 (磁沢)		浅黄橙	両小口欠損。小口の他全面使用している。	重 25.7

G区第20号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
156-1 110	土師器 坏	覆土内 与残存	口底高 [13.9] (7.8) 3.6	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	橙	口縁部は外傾する。体部・底部は貫削り、口縁部・器内面は横無で。	

## G区 (18・19・20・21号住居跡)

156-2 110	須 器 坏DIV	覆土内 瓦残存	口 底高 (11.6) 6.7 3.8	黒色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	灰白 灰	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。	
156-3 110	須 器 坏D皿	覆土内 瓦残存	口 底高 (12.0) 6.1 4.2	白色粒子 白色鉱物粒子	#	灰	口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。	
156-4	土 師 器 斐B II	覆土内 破片	口 底高 (21.9) — (5.6)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	明褐	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内面胴部は寛撫で。	

## G区第21号住居跡

検出番号 図成番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考
159-1	須 器 坏DIV	覆土内 瓦残存	口 底高 12.7 6.7 3.6	白色粒子 黒色粒子	中性焰	灰 灰白	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。	
159-2 110	須 器 坏DIV	覆土内 完形	口 底高 13.1 6.6 3.5	#	#	灰	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。	
159-3	黒色土器 埴	覆土内 瓦残存	口 底高 (16.4) 6.0 6.5	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	にぶい 黄橙 黒	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。 内面はみがきによる調整後炭灰さきせている。	
159-4	須 器 埴	覆土内 瓦残存	口 底高 14.8 — (4.3)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	にぶい 黄橙	口縁部は外反する。轆轤整形。	
159-5	灰輪陶器 高台付皿	カマド内 瓦残存	口 底高 14.7 6.6 3.3	美濃系		灰白	口縁部は強く外反する。 轆轤成形(右回転)、付高台。施釉手法は浸掛。	
159-6	灰輪陶器 高台付皿	覆土内 瓦残存	口 底高 (14.0) (6.0) 2.8	#	#	#	口縁部は強く外反する。 轆轤成形(右回転)、付高台。	
159-7 110	白 磁 埴	覆土内 破片	口 底高 — (6.8) (2.0)	磁質 白磁釉		乳白	轆轤成形。削り出し高台。 高台端部を除き施釉される。	中国製 五代～北宋
159-8	土 師 器 小形 壺	覆土内 破片	口 底高 11.5 — (6.9)	白色粒子 黒色粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は寛削り、 口縁部は横撫で、内面胴部は寛撫で。	
159-9	土 師 器 小形 壺	覆土内 破片	口 底高 (11.3) — (3.2)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	#	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は寛削り、 口縁部は横撫で、内面胴部は寛撫で。	
159-10	須 器 斐	掘り方内 破片	口 底高 — —	白色粒子 白・黒色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面格子叩き・内面丸具は 青海改文)	
160-1 110	灰輪陶器 把手付壺	覆土内 ほぼ完形	口 底高 — 12.3 —	狭段		灰白	紐作り後轆轤成形。把手部は欠損している。	
160-2	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	褐灰	紐作り。	
160-3	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白色粒子	中性焰	灰黄褐	一枚作り。凹面粘土板割き取り痕、又布目の 擦消しあり。凸面斜格子叩き。	
160-4	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	褐灰	一枚作り。凹面粘土板割き取り痕。	
160-5 111	鉄 器 小 刀	覆土内	長 幅重 (17.2) 2.0 52.3				両端を欠損し、全体形は不明。 基部に目抜き穴を有する。	身 重 10.2 7.0
160-6 111	鉄 器 釘	覆土内	長 幅重 (5.5) 0.4 3.9				断面方形で、先端部のみ残存。 先端部は「C」字状に屈曲する。	

第1節 古墳時代～平安時代

160-7 111	鉄器 不明	覆土内	長編重 4.2 0.9 7.2				断面長方形で一端を欠損する。全体に反り、先端部は「C」字状に屈曲。	
160-8 111	鉄器 不明	覆土内	長編重 (4.9) 0.9 6.6				断面長方形で一端を欠損する。残存端部は「L」字形に屈曲。	160-7に近似
160-9 111	鉄器 不明	覆土内	長編重 (19.6) 0.7 37.5				断面円形で、両端を欠損し、種不明。	
160-10 111	鉄器 紡錘車	覆土内 紡錘残存	径厚重 6.0 2.0 26.0				紡錘部のみ残存し、軸穴と思われる穴が中央に有り。	
160-11 111	鉄器 紡錘車	覆土内	径厚重 4.6 0.2 16.1				160-10より小さく、同様に軸穴を有する。状態は悪い。	

G区第22号住居跡

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
162-1	須恵器 埴輪D	覆土内 片残存	口底高 (13.5) — (4.5)	白色粒子 黒色粒子	中性焰	淡黄	口縁部はやや外反する。 轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	
162-2 111	須恵器 埴輪C I	覆土内 片残存	口底高 (13.7) (7.0) 4.7	#	#	灰白 黒	口縁部は外反する。 轆轤成形(右回転)。付高台。	
162-3	灰釉陶器 埴輪	覆土内 破片	口底高 — (8.0) (3.5)	美濃系		灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	
162-4 111	三輪陶器 壺	覆土内 片残存	口底高 — (4.3) (2.0)	白土		乳白	轆轤成形。現存器面はすべて施釉。外面に緑色の斑文があり、その中に僅か黄褐色釉あり。	日本製 八世紀
162-5 111	土師器 埴輪	伊 片残存	口底高 18.6 — (22.9)	赤褐色粒子 白・黒色副物粒子	酸化焰	橙 黒褐	口縁部は外反する。細作り。外面胴部は莖削り、口縁部は横撫で、内面胴部は莖撫で。	内面口縁部に 炭化物付着
162-6	須恵系 羽釜C	覆土内 破片	口底高 (22.6) (11.0)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	橙	口縁部は内傾する。細作り後轆轤成形。跡は貼り付け。	
162-7	瓦 女瓦	掘り方内 破片	厚 2.2	黒色粒子 白色鉱物粒子	#	淡黄灰	凸面不整格子印き 刻印文字「刀勢」(凸面)。	162-8・172- 16と同一。
162-8	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	赤褐色粒子 白色鉱物粒子	#	淡黄灰	横巻き造り。凸面不整格子印き。 刻印文字「瓦文字不明」(凸面)。	162-7・172- 16と同一。
162-9 111	鉄器 不明	覆土内	長編重 (13.0) 0.3 15.3				断面長方形で、一端が「L」字形に屈曲、他端を欠く。	
162-10 111	鉄器 釘	覆土内 先欠損	長編重 (7.0) 0.6 17.2				断面方形でゆるく屈曲する。 頭は折り曲げられた状態を呈する。	
162-11 111	鉄器 釘	覆土内 破片	長編重 (4.7) 0.7 9.3				断面方形で両端欠損。	
162-12 111	石器 磨礫み石	覆土内 完形	長編厚 12.4 5.9 4.3	輝石安山岩 (粗粒)			全体磨耗している。裏面に敲きによる剥離痕がある。	重 505.7

## G区第23号住居跡

調査番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
163-1 111	須恵器 環E II*	覆土内 瓦残存	口底高 (13.4) 6.0 5.1	白色粒子 黒色粒子	酸化焰	黄橙	口縁部は肥厚して外反する。体部はやや膨らみを持つ。轆轤整形(右回転)。	
163-2 111	須恵器 埴C II	覆土内 完形	口底高 12.2 6.2 4.2	白色粒子	中性焰	黒	轆轤整形(右回転)。付高台。 器内・外面を炭灰させている。	
163-3	須恵器 埴C I	覆土内 瓦残存	口底高 (12.9) — (4.5)	黒色粒子 黒色鉱物粒子	#	淡黄	口縁部はやや外反する。体部は膨らみを持つ。 轆轤整形(右回転)。高台欠損(付高台)。	
163-4	緑釉陶器 埴	カマド内 破片	口底高 — — —	— — —	美濃系	灰白	轆轤成形。	

## G区第24号住居跡

調査番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
164-1 111	須恵器 環E I	貯蔵穴内 ほぼ完形	口底高 14.9 6.9 3.9	白色粒子	中性焰	灰	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。	
164-2 111	須恵器 環D V	カマド内 瓦残存	口底高 13.6 6.7 3.8	白色粒子 黒色粒子	#	#	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。	
165-1	須恵器 埴	掘り方内 破片	口底高 — 6.0 (2.5)	黒色粒子 黒色鉱物粒子	#	黄橙	轆轤整形(右回転)。付高台。	
165-2	土師器 台付壺	覆土内 破片	口底高 — (8.8) (6.0)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	紐作り成形。胴部は寛削り、台部は横無で、 内面割部寛削で。	
165-3 111	土師器 台付壺	貯蔵穴内 ほぼ完形	口底高 13.8 9.1 17.7	黒・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面割部は寛削り、 口縁部は横無で、内面割部は寛削で。	
165-4	須恵器 壺	覆土内 破片	口底高 — — —	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	灰白	紐作り叩き整形。外面に平行叩き目あり。	
165-5	須恵器 壺	覆土内 破片	口底高 — — —	#	#	#	紐作り叩き整形。外面に平行叩き目あり。	
165-6	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子 赤褐色粒子	#	灰	一枚作り。凸面轆轤成形。寛幅き文字瓦、文字 不明(凹面)。	
165-7	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.1	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	黄橙	一枚作り。凸面斜格子叩き。	

## G区第25号住居跡

調査番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
167-1 111	黒色土器 埴	覆土内 ほぼ完形	口底高 11.5 5.5 3.7	白色鉱物粒子	還元焰	淡黄	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。 回転量調整。内面は炭灰している。	
167-2	須恵器 埴C II	覆土内 瓦残存	口底高 14.7 — 4.5	白色粒子	#	灰	口縁部は外反する。体部は膨らみを持つ。 轆轤整形(右回転)。高台欠損(付高台)。	

第1節 古墳時代～平安時代

167-3	須志器 埴C I	覆土内 ほぼ完形	口径高 — (4.6)	14.4 —	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。高台欠損(付高台)。	
167-4 111	須志器 埴C II	覆土内 ほぼ完形	口径高 15.0 7.3 5.6	—	白色粒子 白・黒色鉱物粒子	中性焰	灰 灰白	口縁部は外反する。体部は張りみを持つ。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
167-5 111	須志器 埴C I	覆土内 与残存	口径高 (13.9) 6.8 4.8	—	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
167-6	須志器 埴	覆土内 与残存	口径高 (19.2) — (5.4)	—	#	#	灰白	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。高台欠損(付高台)。	
167-7	灰輪陶器 段 III	覆土内 破片	口径高 15.8 — (1.6)	—	美濃系		#	口縁部は外反する。轆轤成形。 内面中に段を持つ。	
167-8 111	土師器 埴C I	掘り方内 破片	口径高 19.9 — (8.5)	—	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	にぶい 橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面割部は寛削り、 口縁部は横無で、内面割部は寛削り。	
167-9	土師器 小形 埴	覆土内 与残存	口径高 10.3 — (9.0)	—	赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	#	にぶい 赤	「コ」の字状口縁。紐作り、外面割部は寛削り、 口縁部は横無で、内面割部は寛削り。	
167-10	緑輪陶器 埴	覆土内 破片	口径高 — —	—			灰白	轆轤成形。	
167-11	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.1	—	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。 寛幅き文字(八田)(凸面)。	
167-12 111	鉄器 不明	覆土内 破片	長径重 (6.6) 0.4 23.2	—				扁平な板状で背部の形態は良く残存している。 鎌の可能性有り。	
167-13 111	鉄器 不明	覆土内 破片	長径重 (5.2) 0.3 7.7	—				#	167-12に 近似
167-14 111	鉄器 不明	覆土内 破片	長径重 (3.1) 1.1 2.1	—				#	#
167-15 111	鉄器 刀子	覆土内 破片	長径重 (2.9) 0.5 1.4	—				断面長方形で両端欠損。	
167-16 111	鉄器 刀子	覆土内 破片	長径重 (4.3) 0.95 5.2	—				断面台形状で両端欠損。	

G区第26号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
169-1 111	土師器 埴D I	覆土内 完形	口径高 11.5 8.0 3.2	黒色粒子	酸化焰	橙	口縁部は外傾する。体部・底部は削削り、口 縁部・器内面は横無で。	器内・外面 に 炭化物付着
169-2 112	土師器 埴D I	覆土内 ほぼ完形	口径高 11.7 — 3.3	白色粒子 白色鉱物粒子	#	#	口縁部は外傾する。体部・底部は削削り、口 縁部・器内面は横無で。	
169-3	須志器 埴D II'	覆土内 破片	口径高 (13.9) —	#	還元焰	灰白	口縁部は外反する。轆轤整形。	
169-4	須志器 埴B	覆土内 与残存	口径高 13.9 6.5 6.2	赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	灰白	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
169-5	黒色土器 埴	覆土内 破片	口径高 — 10.0 4.5	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	黒 橙	口縁部は欠損している。轆轤整形。底部は回 転削削り後付高台。内面みが調整後吸炭。	



## G区 (26・27号住居跡)

169-6	須恵器 壺	覆土内 破片	口 底 高	— — —	黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り後叩き整形。外面1単位3本の波状文 を3段にめぐらす。	
169-7	瓦 女瓦	覆土内	厚	1.6	白色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	灰白	凸面斜格子叩き。又轆轤痕あり。	
169-8	瓦 女瓦	覆土内	厚	1.8	白色粒子 白・黒色鉱物粒子	還元焰	黄灰	一枚作り。凸面斜格子叩き。	
170-1	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	1.6	白・黒褐色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	灰白	一枚作り。凹面布目の横滑し。凸面叩き。	
170-2 112	石 器 明	覆土内 完形	長 幅 厚	4.6 — 2.2	輝石安山岩 (粗粒)			やや円盤を呈し、全体磨耗している。	重 56.6
170-3 112	石 製品 砥石	覆土内	長 幅 厚	(6.1) (6.5) (3.5)	安山岩質輝石			砥石の破片。全体に黄い。表面と側面に使用 痕あり。	重 75.9

## G区第27号住居跡

調査番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考	
172-1 112	土 師 器 環C I	覆土内 ほぼ完形	口 底 高	13.4 — 3.4	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	ふい 黄橙	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口 縁部・器内面は横撫で。	
172-2 112	土 師 器 環C II	覆土内 片残存	口 底 高	13.4 — (3.3)	#	#	橙	口縁部は直立する。体部・底部は寛削り、口 縁部・器内面は横撫で。	
172-3	土 師 器 環C II	覆土内 片残存	口 底 高	(13.4) — (3.2)	#	#	#	口縁部は直立する。体部・底部は寛削り、口 縁部・器内面は横撫で。	
172-4 112	土 師 器 環C I	覆土内 片残存	口 底 高	13.1 — 3.1	#	#	#	口縁部はやや内湾する。体部・底部は寛削り、 口縁部・器内面は横撫で。	
172-5 112	土 師 器 環C II	覆土内 片残存	口 底 高	13.2 — 3.4	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	灰黄褐	口縁部はやや内湾する。体部・底部は寛削り、 口縁部・器内面は横撫で。	
172-6 112	土 師 器 環C II	覆土内 ほぼ完形	口 底 高	14.3 — 4.0	白色粒子 白色鉱物粒子	#	橙	口縁部は直立する。体部・底部は寛削り、口 縁部・器内面は横撫で。	
172-7 112	土 師 器 環C I	覆土内 ほぼ完形	口 底 高	13.1 — 3.3	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	#	口縁部はやや内湾する。体部・底部は寛削り、 口縁部・器内面は横撫で。	
172-8 112	土 師 器 環C II	覆土内 片残存	口 底 高	13.0 — 3.7	#	#	#	口縁部はほぼ直立する。体部・底部は寛削り、 口縁部・器内面は横撫で。	
172-9 112	土 師 器 環C I	覆土内 片残存	口 底 高	(13.5) — 3.9	白色粒子 黒色粒子	#	#	口縁部は外傾する。体部・底部は寛削り、口 縁部・器内面は横撫で。	
172-10 112	土 師 器 環C I	覆土内 破片	口 底 高	(15.7) — (3.5)	白色粒子 黒色鉱物粒子	#	#	口縁部はやや内湾する。体部は寛削り、口縁 部・器内面は横撫で。	
172-11 112	土 師 器 環	覆土内 片残存	口 底 高	(16.1) — (3.5)	黒色粒子 黒色鉱物粒子	#	#	口縁部は内湾する。体部は寛削り、口縁部・ 器内面は横撫で。	
172-12 112	須 恵 器 環D II	覆土内 ほぼ完形	口 底 高	12.7 8.5 3.4	#	#	#	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。 底部は回転寛削り。	
172-13 112	須 恵 器 環D I'	覆土内 片残存	口 底 高	(14.8) 8.0 3.2	白色粒子	還元焰	灰	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。 底部は回転寛削り。	

第1節 古墳時代～平安時代

172-14 112	須志器 埴 A	覆土内 片残存	□ 底高	11.4 7.4 4.4	白色粒子	還元焰	灰	口縁部は外傾する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
172-15 112	須志器 高台付皿	覆土内 片残存	□ 底高	(22.1) (15.9) 4.4	黒色粒子	#	#	口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。 底部は回転糸切り後。付高台。	
172-16	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	2.0	白色粒子 白・黒色鉱物粒子	中性焰	淡黄灰	横脊有り。凸面不整形子叩き。 刻印文字瓦「勢」(凸面)。	162-7・8と 同一個体

G区第29号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
175-1	土師器 坏	覆土内 片残存	□ 底高	(13.7) (4.9)	黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	橙	口縁部は内傾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で後内面に暗文を施す。	
175-2	土師器 坏	覆土内 片残存	□ 底高	11.3 (2.9)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	#	口縁部は外反する。体部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
175-3 112	須志器 坏E I	覆土内 ほぼ完形	□ 底高	12.5 5.5 3.8	白色粒子 黒色粒子	中性焰	灰白	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
175-4 112	須志器 埴 B	貯蔵穴内 片残存	□ 底高	(16.1) 8.4 5.6	黒色粒子	#	灰白	口縁部は外傾する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
176-1 113	須志器 埴	覆土内 片残存	□ 底高	(16.4) 8.6 5.5	白色粒子 黒色粒子	#	灰白	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
176-2	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚	2.3	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	黒 に近い 黄橙	一枚作り。凹面粘土板取り取り痕あり。 凸面斜格子叩き。	
176-3 113	瓦 宇瓦	覆土内 破片	幅 底高	(20.5) 3.1	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	還元焰	橙	甍は段頸。女瓦部は一枚作り。	厚 1.9
176-4 113	土製品 紡錘車	覆土内 完形	幅 厚重	5.9 1.1 42.8	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	オリー ブ灰	表面は傾斜方向に調整が施され、裏面中心は 一方方向。側縁付近は縁に向って調整。	孔 0.9 穿孔は丁寧
176-5 113	鉄器 不明	覆土内 破片	長 幅重	(4.7) 0.6 4.2				断面長方形で、一端欠損。	

G区第32号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
178-1 113	須志器 坏E II	覆土内 片残存	□ 底高	(12.4) (5.3) 3.5	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
178-2	須志器 坏E II	覆土内 片残存	□ 底高	(13.9) (7.6) (3.2)	白色粒子	中性焰	褐灰	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
178-3	須志器 坏D V	覆土内 破片	□ 底高	(13.1) (3.8)	白色粒子	中性焰	灰	口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。底部 は回転突起し後手持り調整。	器内・外 面に付着物有
178-4 113	須志器 埴C II	覆土内 片残存	□ 底高	(15.7) 7.9 6.2	白色粒子 白色鉱物粒子	#	#	口縁部は外反する。体部はやや収まりを持つ。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
178-5	灰物陶器 高台付皿	覆土内 破片	□ 底高	(12.0) (5.2) (2.6)	美濃系		褐灰	口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。付高 台。内面に重ね焼き痕がある。施釉手法は浸 漬。	

## G区(29・32・33・34号住居跡)

178-6	土師器 小形甕	覆土内 破片	口 底高 (11.0) (4.7)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰 赤褐色	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篋削り、 口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	
179-1	須惠系 羽釜 D	覆土内 破片	口 底高 (19.9) (6.0)	白色粒子	中性焰 灰褐色	口縁部はやや外傾する。紐作り後轆轤整形(右 回転)。甕は貼り付け。	
179-2	瓦 字瓦	覆土内 破片	幅 高反 (8.5) 4.5 —	白色粒子 白色鉱物粒子	# #	凹面粘土板割ぎ取り痕あり。 曲線型	女瓦? 厚 2.2
179-3	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色粒子	# #	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕あり。 凸面斜格子叩き。	
179-4	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色粒子 黒色粒子	# #	一枚作り。凹面布目の擦消し。 凸面斜格子叩き。	
179-5	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色粒子	# #	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕、布目の擦 消しあり。凸面斜格子叩き。	

## G区第33号住居跡

簿記番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
180-1	須惠器 埴	覆土内 底部残存	口 底高 — 10.4 (2.5)	白色粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰白	轆轤整形(右回転)。付高台。	
180-2	土師器 壺C1	覆土内 破片	口 底高 (20.9) (5.8)	#	中性焰	赤褐色	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篋削り、 口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	
180-3 113	鉄器 不明	覆土内 破片	長 厚重 6.5 0.3 29.2				板状で反りがみられる。	
180-4 113	鉄器 不明	覆土内 破片	長 厚重 8.8 0.2 54.1				#	180-3に近 似

## G区第34号住居跡

簿記番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
182-1	土師器 坏DII	覆土内 片残存	口 底高 (11.2) 6.5 2.6	白色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	赤褐色	口縁部は外傾する。体部・底部は篋削り、口 縁部・器内面は横撫で。	
182-2 113	須惠器 坏DV	掘り方内 片残存	口 底高 (12.5) 6.5 3.5	黒色粒子	還元焰	灰	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)	
182-3 113	須惠器 埴	カマド内 掘り方	口 底高 (15.2) 7.8 7.2	#	#	#	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	片残存
182-4	須惠器 高台付皿	覆土内 完形	口 底高 13.0 7.7 2.3	白色粒子	#	灰白 灰	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
182-5	須惠器 高台付皿	覆土内 片残存	口 底高 (13.9) 8.6 3.2	黒色粒子	中性焰	灰白	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)	
182-6	土師器 壺C1	覆土内 片残存	口 底高 (21.0) (12.1)	白色粒子 白・黒色鉱物粒子	酸化焰	明赤褐色	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、 口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	
182-7 113	灰胎陶器 長頸甕	覆土内 破片	口 底高 — (6.9) (9.9)	美濃系		灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。	

第1節 古墳時代～平安時代

182-8	瓦 女瓦	覆土内 写残存	厚	2.3	白色鉱物粒子	還元焰	黄灰	一枚作り。両面粘土板割き取り肌。 泥描き文字記号(田川凸面)。	
-------	---------	------------	---	-----	--------	-----	----	------------------------------------	--

G区第37号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
183-1 113	土師器 坏C I	カマド内 写残存	口 底 高 (14.2) — 4.1	白・黒色粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	橙	口縁部は直立する。体部・底部は置削り。口 縁部・器内面は横断で。	

G区第41号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
186-1	須志器 坏E II	掘り方内 写残存	口 底 高 (12.9) (5.0) 4.2	黒色粒子 白・黒色鉱物粒子	還元焰	にぶい 橙	口縁部は外反する。 轆轤整形。	
186-2	須志器 坏E I	覆土内 写残存	口 底 高 (11.8) (6.0) (3.1)	黒色粒子 白・黒色鉱物粒子	"	橙	口縁部は外反する。轆轤成形(右回転)。 外面に炭化物付着。	
186-3 113	灰釉陶器 埴	覆土内 写残存	口 底 高 12.6 6.6 3.8	美濃系		灰白	口縁部は外反する。轆轤成形(右回転)。底部 回転置起し後側で。付高台。旋斲手法は浸透。	内面に重ね 焼痕あり。
186-4 113	灰釉陶器 皿	覆土内 写残存	口 底 高 12.6 6.9 2.7	"	"	"	口縁部は外反する。轆轤成形(右回転)。付高 台。口縁部内・外面に釉が掛かる。旋斲手法 は浸透。	
186-5	須志系 羽釜B	ビッド内 破片	口 底 高 (20.3) — 7.3	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	灰黄	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。罫は貼り付け。	
186-6 113	鉄器 釘	覆土内 頭欠損	長 幅 重 (3.8) 0.6 7.1				断面長方形でアラシク状に屈曲する。 基部欠損。	

G区第42号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
187-1	須志系 羽釜C	覆土内 破片	口 底 高 (20.9) — (5.5)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	中性焰	にぶい 黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。罫は貼り付け。	

G区第43号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
189-1	須志器 坏E I	掘り方内 写残存	口 底 高 12.5 7.2 3.0	黒色粒子	還元焰	青黄灰	口縁部は外反する。轆轤整形。	
189-2 113	須志器 横瓶	覆土内 破片	長 幅 高 (18.6) (16.4) —	白・黒色粒子 黒色鉱物粒子	"	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き。 内面指擦で。)	
189-3 113	鉄器 刀子	覆土内	長 幅 重 (2.8) (0.75) 1.8				身基部及び基部欠損。	

## G区第44号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
190-1	土師器 坏E	覆土内 %残存	口 底高 (10.4) (3.2) (3.7)	黒色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	ぶい 黄橙	口縁部は外反する。体部の削りは磨滅の為不明瞭だが指摺窪痕はみられる。	
190-2 114	鉄器 不明	覆土内 破片	長 (3.6) 幅 0.4 重 9.7				断面長方形で、一端が「L」字形に屈曲、釘の可能性有り。	

## G区第46号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
192-1 114	土師器 坏F	覆土内 完形	口 底高 10.9 4.7 3.9	黒色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	ぶい 橙	口縁部は内湾する。 轆轤整形(右回転)。	
192-2 114	土師器 坏F	覆土内 %残存	口 底高 11.7 4.4 4.3	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	#	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。	
192-3 114	須恵器 碗D	覆土内 %残存	口 底高 (13.0) 7.4 5.9	白色粒子 黒色粒子	#	灰	口縁部は肥厚して外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
192-4	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.4	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	#	一枚作り。両面に粘土板割き取り痕あり。 凸面斜格子叩き。	
192-5	瓦 女瓦	掘り方内 破片	厚 2.4	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	#	凸面正格子叩き。	

## G区第47号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
195-1 114	土師器 坏C I	覆土内 %残存	口 底高 13.1 — 3.2	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
195-2 114	土師器 坏C II	覆土内 %残存	口 底高 (12.7) — 3.2	#	#	#	口縁部はやや内湾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
195-3 114	土師器 坏C II	掘り方内 %残存	口 底高 11.3 — 3.1	#	#	ぶい 橙	口縁部はほぼ直立する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
195-4	土師器 坏D I	掘り方内 %残存	口 底高 11.6 — 3.3	#	#	橙	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
195-5 114	土師器 坏	覆土内 %残存	口 底高 (12.9) — 3.7	#	#	#	口縁部はやや外傾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で後啖文を施す。	
195-6	土師器 坏	覆土内 %残存	口 底高 12.2 — (4.0)	#	#	#	口縁部は内湾する。体部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で啖文を施す。	
195-7	土師器 坏	覆土内 破片	口 底高 15.4 — (4.0)	赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	#	#	口縁部は外傾する。体部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で後啖文及び「井」の書き。	
195-8	須恵器 坏D V	覆土内 %残存	口 底高 12.4 6.4 3.7	白色粒子	中性焰	灰白	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	

第1節 古墳時代～平安時代

195-9 114	須志器 弁DIV	覆土内 与残存	□底高 12.5 7.7 4.5	赤褐色粒子	還元焰	灰	口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。	
196-1	須志器 埴	覆土内 破片	(15.2) — (4.4)	白色粒子 黒色粒子	中性焰	灰白	口縁部は外反する。轆轤整形。	
196-2	須志器 坏	掘り方内 与残存	□底高 — (8.4) (1.3)	黒色粒子 白色鉱物粒子	#	#	轆轤整形(右回転)。 外面底部に葉書き痕がある。	
196-3	須志器 蓋	掘り方内 破片	(15.0) — (2.2)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	#	口唇部は下方に折り返す。轆轤整形(右回転)。	横欠損
196-4	須志器 蓋	掘り方内 破片	(13.3) — (2.3)	白・黒色粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤整形 上半部は回転置形。横部は貼り付け。	横欠損
196-5	土師器 栗BⅢ	覆土内 破片	□底高 (20.2) —	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋用 り、口縁部は横敷で、内面胴部は篋敷で。	外面頸部に 輪痕あり
196-6 114	土師器 栗BⅢ	掘り方内 与残存	□底高 — 5.6 (26.5)	赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	#	#	紐作り成形。外面胴部は篋用り、内面胴部は 篋敷で。	
196-7	土師器 台付埴	覆土内 与残存	□底高 — (8.0) (4.7)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	明赤褐	紐作り成形。胴部は篋用り。台部横敷で。	
196-8	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	中性焰	灰	四面に布目の擦消し、凸面斜格子叩き。	
196-9 114	鉄器 不明	覆土内	長幅重 (9.1) 0.8 20.4				断面長方形で両端欠損。	
196-10 114	鉄器 釘	覆土内 頭欠損	長幅重 (7.8) 0.6 15.0				断面方形で基部欠損。	
196-11 114	石製品 砥石	覆土内 完形	長幅厚 6.4 2.8 2.2	斑紋岩 (砥沢)			糸巻状を呈す。粟小口の他は全面使用してい る。紐造しの為の穿孔あり。	重 59.5 手持砥石
196-12 114	石器 磨礪み石	覆土内 完形	長幅厚 11.5 6.7 3.7	石英閃緑岩			全体磨耗している。左側面に敷き痕あり。	重 431.5
196-13 114	石器 磨礪み石	覆土内 完形	長幅厚 10.6 5.7 3.6	砂岩			断面やや三角形で、中央部が狭くなっている。 全体磨耗又表面に凹が多いが自然の物か。	重 325.3
196-14 114	石器 磨礪み石	掘り方内 完形	長幅厚 15.5 4.6 3.7	閃緑岩			断面三角形の厚みのある石。全体磨耗してい る。下端部に敷きによる割痕あり。	重 323.8
197-1 114	石器 磨礪み石	掘り方内 完形	長幅厚 8.5 3.4 2.5	輝石安山岩 (粗粒)			棒状塊。小形で全体磨耗している。	重 122.0
197-2 114	石器 磨礪み石	覆土内 完形	長幅厚 11.1 6.6 3.1	輝石安山岩 (粗粒)			やや扁平な石。全体磨耗しているが、敷きによ る凹も多い。	重 385.3
197-3 114	石器 磨礪み石	覆土内 完形	長幅厚 13.4 6.3 3.9	#			不定形を呈する石。全体磨耗している。	重 426.0
197-4 114	石器 磨礪み石	掘り方内 完形	長幅厚 12.9 5.7 4.9	黒色頁岩			不定形を呈し、厚みのある石。 全体磨耗している。	重 520.2
197-5 115	石器 磨礪み石	掘り方内 完形	長幅厚 12.5 5.9 5.6	輝石安山岩 (粗粒)			断面やや円形で厚みのある石。全体磨耗してい る。使用時の打痕あり。	重 628.4
197-6 115	石器 敲石	覆土内 完形	長幅厚 10.7 6.6 4.9	#			断面は玉子状で全体磨耗している。下端部に 敷きによる割痕あり。一部炭化物付着。	重 445.7

## G区(48・49号住居跡)

197-7 114	石器 磨石	覆土内 完形	長幅厚 11.0 5.8 3.4	輝石安山岩 (粗粒)			やや扁平で、均整のとれた石。 全体磨耗している。	重 398.8
--------------	----------	-----------	---------------------------	---------------	--	--	-----------------------------	---------

## G区第48号住居跡

縄文番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
199-1	黒色土器 埴	覆土内 破片	□ 底高 (11.6) — (3.2)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	中性焰	浅黄橙	口縁部は外傾する。轆轤整形。 内面はみがきによる調整後、張込させている。	
199-2	灰釉陶器 埴	覆土内 片残存	□ 底高 (13.8) — 4.0	美濃系		灰白	口縁部は外反する。轆轤成形。	
199-3	白磁 碗	覆土内 破片	□ 底高 — —	磁質		乳白	碗の体部片。外面一部露体となる。	中国製 五代～北宋
200-1	須恵系 羽蓋B	覆土内 破片	□ 底高 (22.2) — (4.8)	赤褐色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	にぶい 橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形。 罫は貼り付け。	
200-2	須恵系 羽蓋B	覆土内 破片	□ 底高 (22.4) — (4.5)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形。罫は 貼り付け。	
200-3	須恵系 羽蓋B	掘り方内 破片	□ 底高 (22.2) — (6.3)	白色鉱物粒子	中性焰	灰白	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形。罫は 貼り付け。	
200-4	須恵系 羽蓋C	覆土内 破片	□ 底高 (21.0) — (13.8)	赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	#	灰濁	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形。罫は 貼り付け。	
200-5	須恵系 羽蓋C	覆土内 破片	□ 底高 (21.0) — (11.0)	#	#	灰黄	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形。罫は 貼り付け。口縁部内面に指痕圧痕あり。	
200-6	須恵系 羽蓋C	覆土内 破片	□ 底高 (16.7) — (8.2)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	灰	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形。罫は 貼り付け。	
200-7	瓦 瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子	還元焰	#	凹部粘土板割き取り痕あり。 凸面斜格子叩き。	
200-8 115	石器 磨石	覆土内 完形	長幅厚 11.1 9.1 4.0	輝石安山岩 (粗粒)			やや扁平で楕円形を呈す石、平面は磨耗して いる。側縁部に敲打痕あり。	重 593.2
200-9 115	石器 敲石	覆土内 完形	長幅厚 12.8 5.4 4.8	溶結凝灰岩			棒状で断面は円形。両端部に敲打痕あり。	重 459.9
200-10 115	石製品 砥石	覆土内 完形	長幅厚 5.6 5.5 3.4	安山岩質軽石			全面使用している。又、丸ノミ・棒状の刃調 整痕がみられる。	重 630

## G区第49号住居跡

縄文番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
202-1 115	土器 環D I	カマド内 片残存	□ 底高 (12.5) — (3.3)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外傾する。体部・底部は貫削り、口 縁部・器内面は横削で。	
202-2 115	土器 環	覆土内 完形	□ 底高 (13.5) — 4.4	#	#	#	口縁部は外反する。体部・底部は貫削り、口 縁部・器内面は横削で後、暗文を施してい る。	
202-3 115	須恵系 環E I	覆土内 片残存	□ 底高 13.3 7.4 3.5	黒色粒子	中性焰	灰白 黒濁	口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。	

第1節 古墳時代～平安時代

202-4 115	須恵器 埴 B	覆土内 片残存	口底高 14.6 (4.6)	白色粒子	中性焰	灰白	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。高台欠損(付高台)。	
202-5 115	須恵器 埴 C I	覆土内 片残存	口底高 (14.8) 7.8 5.9	白色粒子 赤褐色粒子	#	灰白 黒濁	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
203-1 115	土師 甕 Ⅲ	覆土内 片残存	口底高 17.3 8.1 4.1	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	橙	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。高台は高く付高台。	
203-2 115	土師 甕 Ⅲ	カマド内 面取り方	口底高 17.0 9.0 4.3	赤褐色粒子 白色鉱物粒子	#	明赤濁 暗赤伏	口縁部はやや外反する。轆轤整形(右回転)。 底部は回転指痕で、高台は高く付高台。	ほぼ完形
203-3	土師 器 Ⅲ C II	カマド内 片残存	口底高 (20.8) (14.2)	白・赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	#	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は寛削り、 口縁部は横撫で、内面胴部は磨撫で。	
203-4 116	土師 器 台付 壺	カマド内 片残存	口底高 — (17.5)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	橙 黒濁	紐作り成形。外面胴部は寛削り、頸部・台部 は横撫で。内面胴部は無で。	外面胴部に 炭化物付着
203-5	緑釉陶器 埴	覆土内 破片	口底高 — —					オリ ブ灰
203-6 115	鉄 器 鉄製金具?	覆土内	長幅重 (7.8) 0.6 15.0				断面丸形の鉄を方形に屈曲させ、中央部分で 内側に折り曲げ、先端を尖らせている。	
203-7	瓦 女 瓦	カマド内 片残存	厚 2.5	赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	灰黄	横骨稜有り、種巻造りか。凹面粘土板剥ぎ取り 痕あり。 凸面叩き後、磨消している。	
204-1 115	瓦 男 瓦	カマド内 片残存	厚 1.3	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	橙	半載作り。凸面は縦位の無で、 凹面粘土板剥ぎ取り痕、布の合せ目あり。	
204-2 115	瓦 男 瓦	カマド内 ほぼ完形	厚 1.5	赤褐色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	半載作り。全体に磨撫で調整後凸面斜格子叩 きが→所にある。凹面布合せ目痕がみられ る。	

G区第50号住居跡

棟号 調査番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 重量 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考
206-1	須恵器 埴 E I	貯蔵穴内 片残存	口底高 (13.1) (6.5) 3.7	黒色粒子	還元焰	灰白	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
206-2 116	須恵器 埴 C I	覆土内 片残存	口底高 (14.7) 6.6 5.5	#	#	#	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
206-3	須恵器 埴 B	覆土内 片残存	口底高 (15.3) (7.9) 5.0	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	浅黄橙	口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。付高 台。	
206-4	白 磁 碗	貯蔵穴内 破片	口底高 15.2 —	磁質 白磁胎		乳白	碗の口縁部片。縁部は肥厚し、玉縁的となる。	中国製 五代～北宋
206-5	土師 甕 Ⅲ C IV	貯蔵穴内 カマド内 面取り方	口底高 18.8 (13.4)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	還元焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は寛削り、 口縁部は横撫で、内面胴部は磨撫で。	三ヶ所より 出土し接合
206-6 116	土師 器 小形 壺	貯蔵穴内 片残存	口底高 11.7 7.0	黒色粒子 白色鉱物粒子	#	橙 黒濁	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は寛削り、 口縁部は横撫で、内面胴部は無で。	内面全体に 炭化物付着
206-7 116	土師 器 小形 壺 破片	覆土内 破片	口底高 (13.2) (6.3)	赤・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	#	橙	口縁部は外反し、口唇部でやや内湾する。外面 胴部は寛削り、口縁部横撫で、内面胴部無 で。	
206-8	須恵器 Ⅲ	カマド内 面取り方	口底高 (12.0) —	白色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	にぶい 黄橙	紐作り叩き整形。	底部残存



## G区(50・62・52号住居跡)

206-9 116	石製品 支脚	カマド内 一部残存	長 幅 厚 (9.4) (8.4) 6.9	凝灰質質砂岩			断面円形に近く先細り、火熱のため全体に粗くもろい。	重 505.3
--------------	-----------	--------------	--------------------------------------	--------	--	--	---------------------------	---------

## G区第62号住居跡

棟号番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
208-1 116	土器 埴	覆土内 ほぼ完形	口 底 高 14.1 — 6.9	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は内湾する。体部・底部は肥削り。口縁部は横撫で、器内面は型当て成形。	
208-2 116	須恵器 坪形皿	覆土内 完形	口 底 高 13.0 5.3 4.0	#	中性焰	灰	口縁部は外反する。縦縞整形(右回転)。	
208-3	須恵器 埴	覆土内 片残存	口 底 高 — 6.2 (3.7)	赤褐色粒子 白色鉱物粒子	#	オリ ブ灰	口縁部は欠損している。 縦縞整形(右回転)。付高台。	
208-4	灰釉陶器 埴	覆土内 片残存	口 底 高 — 9.3 (2.7)	黄濁系		灰白	口縁部は欠損している。 縦縞成形(右回転)。付高台。	
208-5	須恵器 破片	覆土内 破片	口 底 高 — —	黒・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青濁皮文)後縦縞可整形。	
208-6	須恵系 羽釜C	覆土内 破片	口 底 高 (21.9) — (13.0)	赤褐色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	#	口縁部は内傾する。紐作り後縦縞整形(右回転)。罫は貼り付け。	
208-7	土製品 羽口	覆土内 破片		赤褐色 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	先端部は還元している。	
208-8 116	土製品 羽口	覆土内 破片		赤褐色粒子 黒色粒子	#	#	先端部気孔の多い層が付着している。	
208-9 116	土製品 羽口	覆土内 破片		赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	#	#	先端部は還元している。	
208-10 116	鉄器 鉄弁	覆土内 ほぼ完形	長 幅 重 (7.1) 2.5 165.9				刃部と思われる部分は欠損しているが、曲刀である可能性がある。	
209-1 116	鉄器 刀子	覆土内	長 重 幅 (3.6) 0.4 3.8				身の両端欠損。	
209-2 116	鉄器 不明	覆土内	長 幅 重 (7.4) 0.5 15.6				断面方形で先端部欠損。基部は隠状に曲げられている。	
209-3 116	鉄器 釘	覆土内 破片	長 幅 重 (5.2) 0.5 9.3				断面方形で両端欠損。	
209-4 116	鉄器 不明	覆土内 破片	長 幅 重 (5.4) 0.4 3.1				断面円形で両端欠損。	
209-5 116	銅?	覆土内	径 厚 重 0.6 0.5 0.6				円形の瘤状。	

## G区第52号住居跡

棟号番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
210-1	土器 坪C1	掘り方内 破片	口 底 高 (13.9) — (3.3)	白色粒子 白・黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は内湾する。体部・底部は肥削り、口縁部・器内面は横撫で。	

第1節 古墳時代～平安時代

210-2	土師器 坏	振り方内 破片	口底高 (15.5) — (4.0)	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焙	に、よい 橙	口縁部は内湾する。体部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。
210-3	須恵器 坏D II'	振り方内 破片	口底高 (13.0) — (2.9)	白色粒子	還元焙	灰	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。底部は回転蹴し。
210-4	須恵器 坏	貯蔵穴内 破片	口底高 (15.0) — (3.4)	#	#	#	口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。
211-1	須恵器 坏C I	覆土内 片残存	口底高 (14.7) (6.6) 5.4	#	中性焙	#	口縁部は外反する。体部は脹らみを持つ。轆轤成形(右回転)。付高台。
211-2	土師器 小形壺	振り方内 片残存	口底高 (7.0) — (4.7)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焙	明褐	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内面胴部は寛撫で。
211-3	土師器 台付壺	覆土内 台部残存	口底高 — (8.7) (3.1)	白・黒色粒子 赤褐色粒子	#	橙	紐作り成形。古部は横撫で。
211-4	土師器 小形壺	覆土内 破片	口底高 (11.9) — (9.9)	白・黒色粒子 赤褐色粒子	#	#	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内面胴部は寛撫で。
211-5	瓦 男瓦	覆土内 片残存	厚 2.1	赤褐色粒子	中性焙	灰白	半蹴作り。凸面隅叩き後擦消し。 凹面粘土板割き取り痕あり。
211-6 116	鉄 釘	覆土内 先欠損	長幅重 (5.6) 0.5 19.8				断面方形で頭が扁平。

G区第56号住居跡

押図番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	量目 (cm)	胎土	焼色	色調	器形・技法等の特徴	備考
213-1 116	土師器 坏C II	覆土内 片残存	口底高 (11.8) — 3.9	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焙	橙	口縁部は外傾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
213-2	土師器 坏D I	覆土内 片残存	口底高 (13.1) — (3.2)	#	#	#	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
213-3	須恵器 坏D IV'	覆土内 破片	口底高 (13.0) (7.0) (2.9)	黒色粒子	還元焙	褐灰	口縁部は外傾する。外面自然軸 轆轤整形(右回転)。	
214-1	須恵器 坏D II	覆土内 破片	口底高 (11.8) (6.4) (3.7)	黒色粒子	#	灰	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
214-2	須恵器 坏D IV	覆土内 片残存	口底高 (12.8) (8.1) (3.1)	黒色粒子	中性焙	灰白	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。	
214-3	土師器 壺C I	貯蔵穴内 片残存	口底高 (21.5) — (12.0)	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焙	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内面胴部は寛撫で。	
214-4	土師器 壺	カマド内 片残存	口底高 — 3.4 (8.4)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	に、よい 赤褐	紐作り成形。外面胴部は寛削り、内面胴部は横撫で。外面に炭化物が付着する。	
214-5 116	土師器 壺C II	覆土内 片残存	口底高 20.2 (17.5)	黒色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	橙 黒褐	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内面胴部は寛撫で。	
214-6 116	石製品 支脚	カマド内	長幅厚 (21.4) 12.7 8.5	凝灰岩質砂岩			図、表面には設置の為と思われる調整痕がみられる。又上端部と裏面は火熱の為に割離。	重 188.2
214-7 116	石製品 紡錘車	振り方内 完形	上径 下径 2.6 3.3 1.6	流紋岩 (砥沢)			上面と側面は磨滅が進んでいる。又一部欠損している。底面は平滑、穿孔は丁寧である。	孔径 0.7 重 20.8

## G区(56・57・58号住居跡)

215-1 117	瓦 男瓦	覆土内 瓦残存	厚 1.5	白色粒子	中性焰	にぶい 燐	半截作り、凸面広縁部側に実物を有する。凹 面粘土板割ぎ取り痕あり。 凸面掘り跡後擦り跡。	
215-2	瓦 男瓦	カマド内 瓦残存	厚 1.8	白色粒子 白色鉱物粒子	#	にぶい 黄燐	半截作り。凹面粘土板割ぎ取り痕あり。	

## G区第57号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
217-1 117	土師器 環	覆土内 完形	口底高 11.2 — 3.5	白色粒子 白・黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部はほぼ直立する。体部・底部は寛削り、 口縁部・器内面は横撫で。	
217-2	土師器 皿BIV	覆土内 瓦残存	口底高 14.6 — 3.8	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	#	口縁部は外反する。体部・底部は寛削り、口 縁部・器内面は横撫で。	
217-3	土師器 皿	掘り方内 瓦残存	口底高 16.7 — 3.9	#	#	にぶい 橙	口縁部はやや外反する。体部・底部は寛削り、 口縁部・器内面は横撫で。	
217-4 117	須恵器 壺	覆土内 完形	口底高 14.8 — 2.0	白色粒子 黒色粒子	還元焰	褐灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤整形(右回転)。 上半部は回転轆轤削り。胴部は貼り付け。	口径 4.1
217-5 117	須恵器 壺	掘り方内 瓦残存	口底高 16.0 — 3.0	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	灰白 灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤整形(右回転)。 上半部は回転寛削り。胴部は貼り付け。	口径 4.6

## G区第58号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
219-1	土師器 環C I	覆土内 瓦残存	口底高 12.6 — (3.5)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	にぶい 橙	口縁部は外反する。体部・底部は寛削り、口 縁部・器内面は横撫で。	
219-2 117	須恵器 環C I	カマド内 瓦残存	口底高 (13.1) (6.9) 3.9	黒色鉱物粒子	#	灰白	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。 外面炭化物付着。	
219-3 117	須恵器 環DV	覆土内 瓦残存	口底高 (14.4) 8.3 3.8	黒色粒子	#	#	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
219-4	須恵器 壺C I	覆土内 完形	口底高 13.2 6.2 5.3	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	#	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
219-5 117	須恵器 壺C II	覆土内 完形	口底高 12.8 6.1 4.5	白色粒子	中性焰	にぶい 黄燐	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
219-6 117	土師器 有孔円盤	覆土内 破片	厚 0.6	白・黒色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	にぶい 橙	環の底部の破片に穿孔している。	環の転用
219-7 117	石器 萬編み石	覆土内 完形	長幅厚 9.9 4.4 2.8	溶結凝灰岩			断面玉子状の棒状部。全体磨耗している。	重 181.8
219-8 117	石器 磨石	カマド内 完形	長幅厚 10.8 5.6 2.6	石英閃緑岩			断面扁平の楕円形の石。全体磨耗しているが 平面磨石である。	重 229.0
219-9 117	石器 萬編み石	覆土内 完形	長幅厚 14.3 6.8 4.7	輝石安山岩 (粗粒)			厚みをもつ先削りの石。全体磨耗している。	重 296.0

## 第1節 古墳時代～平安時代

## G区第59号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
221-1 117	酒器 埴C I	覆土内 3/4残存	口底高 14.2 8.3 5.2	白色粒子 黒色鉱物粒子	中性焙	橙 黒褐	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
221-2	灰輪陶器 埴	覆土内 破片	口底高 (13.9) (5.5) (4.6)	美濃系		灰白	口縁部は外反する。体部はやや平を持つ。 轆轤成形(右回転)。底部は回転製で。	
221-3 117	緑釉陶器 皿	覆土内 破片	口底高 — —	—		—		
221-4 117	緑釉陶器 埴	覆土内 破片	口底高 — —	—		—		
221-5 117	酒器系 小形甕	カマド内 破片	口底高 (14.9) — (6.4)	白色粒子	酸化焙	にぶい 橙	紐作り後轆轤整形。	
221-6	酒器系 羽釜C	カマド内 破片	口底高 (20.1) — (10.1)	白色粒子 白色鉱物粒子	中性焙	にぶい 黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。脚は貼り付け。	
222-1	酒器系 羽釜C	カマド内 破片	口底高 (22.9) — (10.2)	白色粒子	酸化焙	にぶい 橙	口縁部はやや内傾する。紐作り後轆轤整形(右 回転)。脚は貼り付け。	
222-2	酒器系 羽釜A	カマド内 破片	口底高 (23.1) — (15.0)	#	中性焙	灰黄褐	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。脚は貼り付け。	
222-3	土師器 壺	カマド内 底部残存	口底高 — (7.6)	白色粒子 白色鉱物粒子	#	にぶい 橙	紐作り成形。外面割部・底部は寛削り、内面 は横撫で。	
222-4	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色粒子	還元焙	灰白	凸面斜格子叩き。	
222-5	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.5	赤褐色粒子 白色鉱物粒子	中性焙	褐灰	一枚作り。凹面粘土板割き取り痕あり。	
222-6 117	鉄器 不明	覆土内 破片	長幅重 (5.9) 0.4 9.8				断面方形で両端欠損。	
222-7 117	鉄器 鋸?	覆土内 一部残存	長幅重 (4.0) 2.2 9.3				調査時に一部欠損し、全体形はとらえられな いが鋸の可能性有り。	
222-8 117	鉄器 不明	覆土内 破片	長幅重 (5.5) 0.6 17.7				断面方形で両端欠損。	

## G区第60号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
225-1 118	土師器 坏C I	覆土内 1/4残存	口底高 13.0 — 3.6	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	中性焙	にぶい 橙 黒褐	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口 縁部・器内面は横撫で。	
225-2 118	土師器 坏C II	覆土内 1/4残存	口底高 12.2 — 4.0	#	酸化焙	橙 黒褐	口縁部は外傾する。体部・底部は寛削り、口 縁部・器内面は横撫で。	
225-3	土師器 坏C II	覆土内 1/4残存	口底高 (11.0) — (3.2)	黒色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	明褐	口縁部は外傾する。体部・底部は寛削り、口 縁部・器内面は横撫で。	

225-4 118	土師器 坏C II	覆土内 %残存	口 底高 14.1 — (3.8)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は内湾する。体部・底部は貫削り、口縁部・器内面は横無で。	
225-5 118	土師器 坏D I	覆土内 %残存	口 底高 (11.6) — 3.0	#	#	#	口縁部はほぼ直立する。体部・底部は貫削り、口縁部・器内面は横無で。	
225-6 118	土師器 坏D I	覆土内 %残存	口 底高 11.8 — (3.1)	#	#	#	口縁部は内湾さみ。体部・底部は貫削り、口縁部・器内面は横無で。	
225-7	土師器 坏D II	覆土内 %残存	口 底高 (13.0) — (3.1)	#	#	#	口縁部は外傾する。体部・底部は貫削り、口縁部・器内面は横無で。	
225-8	土師器 坏D II	覆土内 %残存	口 底高 (12.0) (8.0) — 2.9	黒色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	明赤褐	口縁部は外傾する。体部・底部は貫削り、口縁部・器内面は横無で。	
225-9 118	土師器 坏D II	覆土内 %残存	口 底高 (12.0) — (2.9)	白色粒子 黒色鉱物粒子	#	橙	口縁部はやや内湾する。体部は貫削り、口縁部・器内面は横無で。	
226-1 118	土師器 坏	掘り方内 %残存	口 底高 13.2 — 4.5	黒色鉱物粒子	#	#	口縁部は内湾する。体部・底部は貫削り、口縁部・器内面は横無で。	
226-2	須恵器 坏D II	覆土内 %残存	口 底高 (11.5) 6.0 — 3.1	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	口縁部は外傾する。横轆整形。底部は回転蹴起し。	
226-3 118	須恵器 坏DIV	覆土内 %残存	口 底高 13.4 7.5 — 3.6	#	中性焰	灰白	口縁部はやや外反する。横轆整形(右回転)。	
226-4 118	須恵器 坏DV	掘り方内 破片	口 底高 (12.8) 6.3 — (3.8)	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	口縁部は外傾する。横轆整形(右回転)。	
226-5 118	須恵器 坏DIV	覆土内 %残存	口 底高 (12.6) 7.0 — 4.2	白色粒子	中性焰	#	口縁部は外傾する。横轆整形(右回転)。	
226-6 118	須恵器 坏E I	覆土内 %残存	口 底高 12.6 5.7 — 3.8	#	#	#	口縁部は外反する。横轆整形(右回転)。	
226-7	須恵器 坏DV	覆土内 %残存	口 底高 (13.1) (7.0) — 3.7	白色粒子 黒色粒子	#	にぶい 黄橙	口縁部はやや外反する。横轆整形(右回転)。	
226-8 118	須恵器 坏C I	覆土内 %残存	口 底高 (13.0) 5.8 — 4.5	#	#	橙 灰白	口縁部は外反する。横轆整形(右回転)。付高台。	
226-9 118	須恵器 坏	覆土内 %残存	口 底高 15.7 9.0 — 6.2	黒色粒子	#	灰	口縁部はやや外反する。横轆整形(右回転)。付高台。	
226-10 118	須恵器 蓋	覆土内 ほぼ完形	口 底高 13.0 3.5 — 4.1	白色粒子	#	灰白	口唇部は下方に折り返す。横轆整形(右回転)。上半部は回転蹴削り。横部は貼り付け。	
226-11	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。両面に粘土板刺ぎ取り痕あり。凸面正格子印き。	
226-12 118	鉄器 刀子?	覆土内 破片					断面台形状で刀子の身の可能性が高い。	

## G区第61号住居跡

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
228-1 118	須恵器 坏C II	カマド内 %残存	口 底高 (13.2) (7.1) — 4.7	白色粒子 黒色粒子	中性焰	灰	口縁部は外反する。横轆整形(右回転)。付高台。	

第1節 古墳時代～平安時代

228-2 118	須志器 埴 B	カマド内 瓦残存	□底高 (14.6) 7.5 5.4	黒色粒子	中性相	灰白	口縁部はやや外反する。 継ぎ形(右回転)。付高台。		
228-3 118	須志器 埴 C I	覆土内 瓦残存	□底高 15.5 8.3 5.6	#	#	灰白 灰	口縁部はやや外反する。 継ぎ形(右回転)。付高台。		
228-4	須志器 埴	覆土内 瓦残存	□底高 (12.9) — (3.6)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	還元相	灰	口縁部はやや外反する。 継ぎ形(右回転)。底部は欠損。		
228-5	須志器 高台付皿	覆土内 破片	□底高 (13.0) (7.4) 2.9	白色粒子 黒色粒子	#	#	口縁部は外反する。 継ぎ形(右回転)。付高台。		
228-6 119	緑釉陶器 埴	覆土内 破片	□底高 (10.0) — (2.0)						
228-7 119	緑釉 灰壺	覆土内 破片	□底高 — — (4.2)						
228-8 119	緑釉陶器 埴	カマド内 破片	□底高 — — —						
228-9 119	土製品 土鉢	覆土内 完形	長 幅 孔 3.9 1.6 0.3	黒色粒子 黒色鉱物粒子	中性相	赤褐色	長軸方向に焼成以前に穿孔する。外面は平滑な面により仕上げられている。	重	5.7
228-10 119	土製品 土鉢	覆土内 完形	長 幅 孔 4.1 1.7 0.5	赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	#	赤黒 灰青褐色	棒に粘土を巻き付け、指により掘り締め成形後、指により仕上げている。	重	11.4
229-1	瓦 男瓦	覆土内 瓦残存	厚 1.4	赤褐色粒子 白色鉱物粒子	#	赤褐色 黄褐色	半截作り。		
229-2	瓦 男瓦	覆土内 瓦残存	厚 1.8	黒色粒子 白色鉱物粒子	還元相	灰白	半截作り。凸面端部は後磨削している。凹面に粘土板割ぎ取り痕、布の合せ目あり。		
229-3 119	瓦 男瓦	覆土内 完形	厚 2.3	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	灰白	半截作り。凹面に粘土板割ぎ取り痕あり。		
230-1	瓦 男瓦	覆土内 ほぼ完形	厚 2.1	黒色粒子 黒色鉱物粒子	中性相	灰白	半截作り。凸面には「ハゼ」が著しい。凹面に粘土板割ぎ取り痕あり。		
231-1 119	瓦 男瓦	覆土内 ほぼ完形	広 狭 長 — 14.9 39.0	白色鉱物粒子 赤褐色粒子	#	灰・橙	半截作り。凹面に粘土板割ぎ取り痕。凹面に直径2.5cmの窪みあり。	反 厚	— 1.5
231-2	瓦 男瓦	覆土内 ほぼ完形	広 狭 長 19.5 16.0 35.7	黒色粒子 赤褐色粒子	還元相	灰	半截作り。瓦幅文字瓦(子)(凸面)。	反 厚	8.0 2.4
232-1	瓦 女瓦	覆土内 瓦残存	厚 2.9	白色鉱物粒子	中性相	灰黄	一枚作り。凹面に粘土板割ぎ取り痕あり。		
232-2 119	石製品 磨石	覆土内 一部欠損	長 幅 厚 2.8 1.8 1.0	角閃石安山岩			割離面の他、全面使用している。工芸用指押しの磨石。	重	3.4
232-3 119	鉄器 刀子	覆土内	長 重 ね (9.0) 0.9 27.3				身の残存7.0cm、茎の残存2.8cmで両端欠損する。		
232-4 119	鉄器 刀子	覆土内	長 重 ね (2.5) 0.6 1.9				断面三角形で両端欠損。		
232-5 119	鉄器 釘	覆土内 破片	長 幅 重 (4.9) 0.6 6.5				断面長方形で、頭の一部と思われる部分若干残存。		
232-6 119	鉄器 釘	覆土内 破片	長 幅 重 5.7 0.5 17.0				断面方形で両端欠損。		

## G区第64号住居跡

調査番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	径目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
234-1 120	須恵器 坏E I	覆土内 片残存	口 径高 (13.6) 7.5 3.6	黒色粒子	還元焰	灰	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。	
234-2 120	須恵器 高台付皿	覆土内 ほぼ完形	口 径高 13.0 7.7 3.0	#	中性焰	#	口縁部は外傾する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
234-3 120	須恵器 高台付皿	覆土内 片残存	口 径高 (14.0) (6.9) 3.9	白色粒子 白色鉱物粒子	#	灰白	口縁部は外傾する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
235-1	須恵器 高台付皿	覆土内 片残存	口 径高 (16.0) (8.6) 2.7	白色粒子 黒色粒子	#	灰白	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
235-2	須恵器 高台付皿	覆土内 片残存	口 径高 (12.0) (7.1) 2.9	白色粒子 白色鉱物粒子	#	灰	口縁部は外傾する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
235-3	須恵器 甕	覆土内 破片	口 径高 — — —	白色粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰赤	紐作り後轆轤整形。 自然胎がみられる。	
235-4	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	#	灰	一枚作り。凹面に粘土板剥ぎ取り痕あり。	
235-5	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.4	黒色粒子 白色鉱物粒子	#	#	凹面粘土板剥ぎ取り痕。 隈描き文字瓦。文字不明(凸面)。	
235-6	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色粒子 白色鉱物粒子	#	#	一枚作り。隈描き文字瓦。文字不明(凸面)。	
235-7	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.9	赤褐色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	灰褐	半截作り。凸面には「ハゼ」が著しい。	
236-1	瓦 女瓦	覆土内 片残存	厚 2.7	白・黒色粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰	横巻き造りか。凹面布目の擦消し。	
236-2	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.7	赤褐色粒子 白色鉱物粒子	#	#	一枚作り。凹面に粘土板剥ぎ取り痕あり。凸 面に粘土板剥ぎ取り痕を擦消している。	
236-3	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色粒子 赤褐色粒子	中性焰	灰白	半截作り。	
237-1	瓦 男瓦	覆土内 片残存	広 狭長 10.0 — —	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	#	暗灰黄	半截作り。凹面に粘土板剥ぎ取り痕あり。	反厚 — 2.2
237-2	瓦 男瓦	覆土内 片残存	広 狭長 36.8 — —	黒色粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰	半截作り。凹面に粘土板剥ぎ取り痕。布の合 せ目が見られる。	反厚 — 2.0
237-3 120	石 凹石	覆土内 ほぼ完形	長 幅厚 12.0 4.2 4.2	輝石安山岩 (粗粒)			ほぼ槽円形を呈し、表面に敲打による凹みがある。側面は敲きによる割離。	重 631.1
237-4 119	石製品 砥石	覆土内 ほぼ完形	長 幅厚 4.6 4.0 1.3	流紋岩 紙沢			両小口の他全面使用している。手前小口に自然面あり。図左側面に刃調整痕がみられる。	重 54.5
237-5 120	石製品 砥石	覆土内 一部欠損	長 幅厚 (5.5) 4.4 1.3	#			糸巻状を呈す。奥小口は欠損。手前小口に自然面あり。小口の他は全面使用している。	重 59.0

第1節 古墳時代～平安時代

G区第65号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
239-1 120	土器 環C II	覆土内 ほぼ完形	口底高 12.1 — 3.4	白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
239-2 120	土器 環C II	覆土内 ほぼ完形	口底高 11.9 — 3.1	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	〃	〃	口縁部はやや内湾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
239-3	土器 環C I	カマド内 片残存	口底高 (12.8) — 2.7	〃	〃	〃	口縁部はやや外傾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
239-4	土器 環D I	覆土内 片残存	口底高 12.3 (9.7) 3.0	〃	〃	にぶい 橙	口縁部はやや外傾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
239-5	須恵器 環DIV	覆土内 完形	口底高 11.4 6.7 3.8	黒色粒子	還元焰	灰	口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。外面に自然釉が付着。	
239-6	須恵器 環D II	覆土内 片残存	口底高 (12.1) (7.5) 4.0	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	〃	青灰	口縁部は外反する。轆轤整形。底部は回転蹴起し。	
239-7	須恵器 環	カマド内 削り方	口底高 (15.0) — (3.0)	黒・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	灰黄	口縁部は外反する。轆轤整形。	破片
239-8	土器 環B III	覆土内 破片	口底高 (20.0) — (15.8)	黒色粒子 白・黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面割部は寛削り、口縁部は横撫で、内面割部は寛削り。	
239-9 120	須恵器 壺	覆土内 底部残存	口底高 — 5.0 5.5	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転蹴切り。内面に自然釉付着。	
239-10	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白・赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	灰白	半蹴作り。凹面布目の磨削し。	
239-11 120	石製品 支脚	カマド内 ほぼ完形	長 25.6 9.2 厚 6.8	凝灰岩質砂岩			全体整った面を持つ。断面方形状の先細り。上半部は火熱の為変色。	重1.418.8

G区第66号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
241-1 120	須恵器 環E I	覆土内	口底高 — —	白色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	灰白	口縁部はやや外反する。轆轤整形(右回転)。	
241-2 120	須恵器 皿	覆土内 片残存	口底高 (18.1) 7.0 3.5	白色粒子	還元焰	灰	口縁部はやや外反する。轆轤整形(右回転)。	
241-3	須恵器 環E I	覆土内 片残存	口底高 (13.9) 8.0 3.4	白色粒子 黒色粒子	中性焰	灰白	口縁部はやや内湾する。轆轤整形(右回転)。	
241-4 120	灰釉陶器 壺	覆土内 片残存	口底高 (14.4) 8.1 4.8	美濃系		灰黄	口縁部は外傾する。轆轤成形(右回転)。付高台。指輪手法は成形。	
242-1 120	須恵器 鉢	覆土内 破片	口底高 (17.8) — (8.7)	白・黒色粒子 赤褐色粒子	中性焰	灰白 灰	口縁部は内湾ぎみに立ち上がる。轆轤整形。器外面は「凍てハゼ」により荒れている。	
242-2	須恵器 壺	覆土内	口底高 (11.2) (11.4)	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰白 オリ — 黒	紐作り後轆轤整形。器内・外面に自然釉がみられる。	頸～体部残存。



## G区 (65・66・67・69・70号住居跡)

242-3	土師器 台付 甕	甕土内 片残存	口 径高 12.2 (14.5)	黒・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰 黒褐色	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は置削り、 口縁部は横溝で、内部胴部は荒削り。	外面に若干 炭化物付着	
242-4	瓦 女 瓦	甕土内 片残存	厚 1.9	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰 灰	一枚作り。凸面置削り。		
242-5	瓦 男 瓦	甕土内 片残存	厚 1.9	白色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	#	凹面粘土板割ぎ取り痕。筒型台上に黒刷「十」(凹 面)。	
242-6	瓦 女 瓦	甕土内 破片	厚 1.6	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	#	#	凹面布目の擦消し、凸面斜格子印き。	
242-7	瓦 女 瓦	甕土内 破片	厚 3.0	黒・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	#	#	瓦輪き文字瓦、文字不明(凸面)。	
243-1	瓦 女 瓦	甕土内 破片	厚 2.5	黒・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	#	#	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕あり。 凸面平行印き。	
243-2	鉄 器 120 紡 錘 車	甕土内 紡錘残存	径 厚重 4.3 0.3 19.1				中央に径5mm程度の軸穴を有する。	孔径 0.5
243-3	石 器 120 磨 礫 石	甕土内 完形	長軸 厚 16.3 7.8 5.1	石英質閃緑岩			断面三角形に近い不定形な石。全体磨耗して いる。端部に敲きによる凹みが見られる。	重 1,054.6

## G区第67号住居跡

縄文番号 四段番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考
245-1	須 恵 器 埴 埴	甕土内 底部残存	口 径高 — 5.7 (2.3)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	中性焰	灰	轆轤整形(右回転)。付高台。	
245-2	須 恵 器 埴 埴	カマド内 底部残存	口 径高 — (6.8) (1.6)	#	酸化焰	にぶい 橙	轆轤整形(右回転)。付高台。	

## G区第69号住居跡

縄文番号 四段番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考
247-1	須 恵 器 120 埴 埴 D	カマド内 ほぼ完形	口 径高 13.6 6.9 4.3	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	にぶい 褐	口縁部はやや外反する。轆轤整形(右回転)。 付高台。	
247-2	須 恵 系 羽 釜 C	カマド内 片残存	口 径高 (21.5) (15.4)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	酸化焰	にぶい 橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。跡は貼り付け。	
247-3	須 恵 系 羽 釜 C	カマド内 破片	口 径高 (21.2) (9.0)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	中性焰	にぶい 黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。跡は貼り付け。	

## G区第70号住居跡

縄文番号 四段番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考
249-1	土師器 環 C I	掘り方内 片残存	口 径高 12.6 — 3.2	白色粒子 白・黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外傾する。体部・底部は置削り、口 縁部・器内面は横溝で、内外面に炭化物若干 付着。	
249-2	土師器 環	甕土内 片残存	口 径高 (15.0) 9.8 4.4	白色粒子	#	にぶい 橙	口縁部はやや内湾する。体部・底部は置削り、 口縁部・器内面は横溝で。	

第1節 古墳時代～平安時代

249-3	土器 坏DII	覆土内 瓦残存	□ 底高 (14.0) (8.9) (3.0)	白色粒子	中性焰	に よ い 橙	口縁部は外傾する。体部・底部は寛削り。口縁部・器内面は横断で。
249-4 120	土器 皿	覆土内 瓦残存	14.4 — 3.5	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙。に よ い 橙	口縁部は外反する。体部・底部は寛削り。口縁部・器内面は横断で。
249-5	須恵器 坏DII'	掘り方内 瓦残存	□ 底高 (14.0) (9.0) 3.0	白色粒子	還元焰	灰	口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転置起し。
249-6	須恵器 坏DV'	掘り方内 破片	□ 底高 (14.4) (8.0) (3.3)	白色粒子 黒色粒子	#	灰白	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。
249-7	黒色土器 埴	掘り方内 破片	□ 底高 (15.5) — (3.8)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	中性焰	#	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。内面は収込させている。
250-1 121	須恵器 埴	掘り方内 瓦残存	□ 底高 (16.9) 10.4 6.7	黒色粒子	還元焰	灰	口縁部はやや内湾する。底部は回転置削り。轆轤成形(右回転)。付高台。外面に自然輪が有る。
250-2	須恵器 埴	掘り方内 瓦残存	— — 8.9 (4.5)	赤褐色粒子	中性焰	灰白	口縁部は欠損している。轆轤整形(右回転)。付高台。
250-3	土器 斐CIII	掘り方内 破片	□ 底高 (18.4) — (7.4)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	に よ い 橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面側部は削削り、口縁部は横断で、内面側部は横断で。
250-4	瓦 男瓦	破片	厚 2.7	白色鉱物粒子	中性焰	灰	半截作り。刻印瓦(円管状の刻印)(凹面)。

G区第71号住居跡

棟四番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
251-1 121	須恵器 坏EIII	覆土内 完形	□ 底高 12.5 6.4 4.0	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	灰 に よ い 橙	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
251-2 121	須恵器 坏EII	掘り方内 ほぼ完形	□ 底高 12.2 4.6 4.0	白色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	#	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
252-1	灰輪陶器 皿	覆土内 破片	□ 底高 (13.0) — (2.2)	美濃系		灰白	口縁部は外反する。轆轤成形(右回転)。施釉手法は浸漉。	
252-2	灰輪陶器 埴	掘り方内 破片	□ 底高 (15.0) — (4.1)	美濃系		に よ い 橙	口縁部はやや内湾する。轆轤成形(右回転)。	
252-3	灰輪陶器 皿	掘り方内 破片	□ 底高 — 6.9 (1.9)	美濃系		灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。底部は回転置削り。内面に重ね焼き痕が若干みられる。	底部瓦残存
252-4	緑輪陶器 皿	掘り方内 破片	□ 底高 (14.8) — (2.4)			#	口縁部は外傾する。轆轤成形。	
252-5	緑輪陶器 椀	覆土内 破片	□ 底高 (15.0) — (2.8)			#	口縁部は外傾する。体部中位は屈曲する。轆轤成形。	
252-6	緑輪陶器 段	掘り方内 破片	□ 底高 (17.0) — (1.6)			#	口縁部は外反する。体部中位は屈曲する。轆轤成形(右回転)。	
252-7	緑輪陶器 椀	掘り方内 破片	□ 底高 (20.9) — (4.8)			#	口縁部は外反する。体部中位は屈曲する。轆轤成形(右回転)。	
252-8	灰輪陶器 小形壺	掘り方内 胸部瓦残	□ 底高 — — (4.9)	美濃系		灰白	轆轤成形(右回転)。	

## G区 (71・72号住居跡)

252-9 121	須恵系 鉢	覆土内 与残存	□ 底高 (22.9) — (9.2)	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	にぶい 雫	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。	
252-10	須恵系 小形甕	覆土内 破片	□ 底高 (14.9) — (5.5)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	にぶい 黄橙	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。	
252-11	須恵系 小形甕	覆土内 破片	□ 底高 (11.0) — (4.4)	#	中性焰	褐灰	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
252-12	須恵系 小形甕	覆土内 破片	□ 底高 (12.0) — (5.3)	#	#	灰	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。	
252-13	須恵系 羽蓋C	掘り方内 破片	□ 底高 (20.9) — (8.1)	白色鉱物粒子	#	にぶい 橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。跡は貼り付け。	
252-14	須恵系 羽蓋A	掘り方内 破片	□ 底高 (20.0) — (9.7)	白色粒子 白色鉱物粒子	#	にぶい 黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。跡は貼り付け。	
252-15	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色粒子	#	褐灰	一枚作り。斜格子と刷印文字「人」(凸面)。	
253-1	須恵系 羽蓋B	覆土内 与残存	□ 底高 (20.8) — (20.3)	白色粒子 黒色粒子	#	にぶい 橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。跡は貼り付け。	
253-2 121	鉄器 刀子	覆土内	長 重 (5.3) ね 0.6 重 5.0				断面台形状で、両端欠損。	
253-3 121	鉄器 釘	覆土内 破片	長 重 (4.3) 0.5 3.1				断面円形で先端部残存。 「く」字に屈曲。	
253-4 121	般若 石	覆土内 ほぼ完形	長 重 19.7 5.7 3.5	黒色片岩			細長く断面三角形に近い棒状で、表面上位に集中して打痕あり又、裏面、側面にも打痕あり。	重 551.8

## G区第72号住居跡

調査番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
254-1	須恵系 埴D	掘り方内 与残存	□ 底高 (13.4) 5.6 4.8	赤褐色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	にぶい 雫	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
254-2 121	須恵系 埴CII	掘り方内 完形	□ 底高 13.4 5.8 4.4	白色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	にぶい 黄橙	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
254-3	須恵系 埴CI	覆土内 与残存	□ 底高 (13.0) 5.3 4.9	白色粒子 白色鉱物粒子	#	灰黄	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
254-4	須恵系 埴CI	覆土内 与残存	□ 底高 (13.2) 6.8 4.6	白色粒子 白色鉱物粒子	#	#	口縁部はやや外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
254-5	灰輪陶器 皿	掘り方内 底部残存	□ 底高 — 7.4 (1.9)	美濃系		灰白	口縁部は欠損している。轆轤成形。底部は回転調整後、付高台。施釉手法は浸掛。	
254-6	灰輪陶器 輪花皿	掘り方内 与残存	□ 底高 (14.9) (6.6) 5.1	#		灰	口縁部の輪花数は4輪と思われる。轆轤成形(右回転)。付高台。施釉手法は浸掛。	
254-7	灰輪陶器 皿	覆土内 破片	□ 底高 (14.4) — (3.5)	#		灰白	口唇部は外反とする。轆轤成形(右回転)。施釉手法は浸掛。	
255-1	須恵系 甕	掘り方内 破片	□ 底高 (46.0) — (9.9)	白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形。	

第1節 古墳時代～平安時代

255-2	須恵系 羽蓋 C	掘り方内 破片	口 径高 (23.0) — (13.4)	白色粒子	還元焰	灰	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。跡は貼り付け。	
255-3	須恵器 壺	掘り方内 破片	口 径高 — (12.7)	黒色粒子	#	#	紐作り後轆轤整形(右回転)。胴部下半は削り り。	
255-4	土製品 羽口	覆土内 破片		白色粒子	還元焰	浅黄橙	先端部は還元している。	
255-5 121	鉄器 釘	覆土内 先欠損	長 幅重 (6.0) 0.5 15.2				断面円形で、身は湾曲する。頭は扁平である。	

G区第73号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
257-1	須恵器 埴	カマド内 与残存	口 径高 (6.6) (3.2)	白色粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰白	口縁部は欠損している。轆轤整形(右回転)。付高台。	
257-2	須恵器 埴	覆土内 与残存	口 径高 — 6.4 (2.3)	白色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	にぶい 橙	轆轤整形(右回転)。付高台。	
257-3	須恵器 壺	覆土内 破片	口 径高 — (5.6)	白色粒子 黒色粒子	#	灰白 にぶい 橙	紐作り後轆轤整形(右回転)。	
257-4 121	鉄器 釘	覆土内 先欠損	長 幅重 (5.5) 0.5 7.3				断面方形で、両端欠損。	

G区第74号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
259-1 121	須恵器 坏E I	覆土内 与残存	口 径高 (13.5) (5.8) 3.5	赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	灰白 黒	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。器内・ 外面を敬灰させている。	
259-2	須恵器 高台付 破片	覆土内 破片	口 径高 (13.0) (8.6) 2.4	赤褐色粒子	#	灰白	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高 台。	
259-3 121	灰釉陶器 埴	覆土内 与残存	口 径高 (19.3) (9.4) (6.2)	美濃系		#	口唇部は外反する。轆轤成形(右回転)。底部 は回転製法で、施釉手法は浸掛。	
259-4	須恵器 壺	覆土内 破片	口 径高 — (15.8) (6.1)	白色粒子	還元焰	灰	紐作り後、外面底・胴下部は削り。内面は 横撫で。	
260-1	瓦 女瓦	覆土内 与残存	広 径長 58.5 —	白色粒子 白色鉱物粒子	#	#	一枚作り。	反 厚 8.0 2.3
260-2	瓦 女瓦	覆土内 与残存	厚 2.3	白色粒子	中性焰	にぶい 橙	一枚作り。凸面縦叩きを擦消している。	
260-3	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.2	#	#	オリー ブ灰	一枚作り。凸面斜格子叩き。	
260-4	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.4	#	還元焰	#	凸面斜格子叩き。	
260-5 121	土製品 羽口	覆土内 破片	幅 高孔 7.3 (9.3) 1.7	#		浅黄橙 灰白	両端部欠損している。穿孔は丁家である。	

## G区(73・74・77・78号住居跡)

260-6 121	鉄器 釘	覆土内 頭欠損	長 幅 重 (8.4) 0.6 16.3					断面円形で先端部屈曲。	
260-7 121	鉄器 不明	覆土内	長 幅 重 (7.0) 3.0 53.8					頭は瘤状で身は「S」字状に屈曲する。 足尻か。	

## G区第77号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
261-1 121	土師器 環E	覆土内 完形	口 底 高 10.6 6.4 3.2	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。体部・底部は蓋削り、口縁部・器内面は横撫で。	
261-2 121	土師器 環DII	覆土内 片残存	口 底 高 (12.7) (7.7) 3.0	黒色鉱物粒子	#	にぶい 橙	口縁部はやや内湾する。体部・底部は蓋削り、口縁部・器内面は横撫で。外面炭化物付着。	
261-3 121	須恵器 環EII	覆土内 片残存	口 底 高 (12.2) 5.5 3.4	白色粒子	還元焰	灰	口縁部はやや外反する。轆轤整形(右回転)。	
262-1 121	須恵器 環E I'	覆土内 片残存	口 底 高 (13.0) 7.6 2.8	黒色粒子 赤褐色粒子	中性焰	灰白	口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。	
262-2 122	黒色土器 環	覆土内 ほぼ完形	口 底 高 11.6 6.7 3.6	白・赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙 淡黄	口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。内面はみがきによる調整後炭化している。	
262-3	須恵器 環	覆土内 底部残存	口 底 高 — 4.7 (2.0)	白色粒子	中性焰	灰	口縁部は欠損している。轆轤整形(右回転)。	
262-4 122	須恵器 環B	覆土内 片残存	口 底 高 (15.5) 8.0 6.2	黒色粒子 赤褐色粒子	#	#	口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
262-5 122	黒色土器 高台付皿	覆土内 片残存	口 底 高 (13.6) 7.7 2.9	黒色鉱物粒子	#	黒	口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。付高台。器内・外面を炭化させている。	
262-6	灰釉陶器 高台付皿	覆土内 破片	口 底 高 (14.8) (7.1) 2.6	美濃系		灰白	口縁部は外傾する。轆轤成形(右回転)。付高台。施釉手法は浸掛。	
262-7 122	古銭	覆土内 完形					「富寿神宝」表面の粗れが激しい。	カマド内出土
262-8 122	土師器 壺CIII	カマド内 片残存	口 底 高 20.3 (3.9) 27.6	赤褐色 白・黒色鉱物粒子	酸化焰	橙 黒褐	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は蓋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は横撫で。	外面一部に炭化物付着
262-9	土師器 壺CIII	カマド内 破片	口 底 高 (21.0) (—) (6.8)	白色粒子 黒色鉱物粒子	#	暗褐 橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は蓋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は横撫で。	
262-10	土師器 壺	カマド内 片残存	口 底 高 — 4.6 (12.0)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	明赤褐	紐作り成形。外面胴部は横撫で。内面炭化物付着。	
262-11	須恵器 要	掘り方内 破片	口 底 高 — — —	赤褐色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	青灰 白灰	紐作り叩き整形。底部付近は蓋削り。内面胴部は蓋調整後撫で。	

## G区第78号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
264-1 122	土師器 環DII	床直 完形	口 底 高 12.2 8.0 3.4	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	にぶい 橙	口縁部は外反する。体部・底部は蓋削り、口縁部・器内面は横撫で。	

第1節 古墳時代～平安時代

264-2	須恵器 坏C I	カマド内 %残存	□ 底高	(13.5) 7.1 (3.5)	赤褐色粒子	中性焰	によい 焼	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
264-3 122	須恵器 坏	覆土内 %残存	□ 底高	(15.2) 7.2 5.6	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	口縁部はやや外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
264-4 122	黒色土器 坏	覆土内 %残存	□ 底高	(14.5) 7.4 6.2	白・赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	によい 焼	口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。付高台。内面みがき調整は磨減の為か不明瞭。	内面は吸灰している。
265-1	灰釉陶器 坏	掘り方内 %残存	□ 底高	(18.0) — (4.3)	美濃系		灰白	口縁部は外反する。轆轤成形(右回転)。施釉手法は浸掛。	
265-2	土師器 小形壺	覆土内 %残存	□ 底高	(12.0) — (7.5)	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	によい 焼	口縁部は外反する。紐作り。外面割部は貫削り、口縁部は横撫で、内面割部は貫撫で。	
265-3	須恵器 壺	覆土内 破片	□ 底高	— (13.2) (4.6)	白色粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰	轆轤整形(右回転)。付高台。底部は貫調整。	
265-4	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	2.4	黒色粒子	#	#	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕あり。	
265-5	瓦 男瓦	カマド内 破片	厚	2.2	白色粗粒子	#	#	半載作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面隅叩き後擦消し。凹面磨擦き文字瓦、文字不明。	

G区第79号住居跡

発掘番号 図号番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
267-1	土師器 坏A II	掘り方内 破片	□ 底高	(11.0) — (2.6)	白色粒子 黒色粒子	酸化焰	焼	口縁部はやや外反する。体部は貫削り、口縁部・器内面は横撫で。	
267-2	土師器 坏B I	掘り方内 %残存	□ 底高	(11.2) — (3.1)	#	#	によい 焼	口縁部は内湾する。体部・底部は貫削り、口縁部・器内面は横撫で。	
267-3	土師器 坏B III	掘り方内 %残存	□ 底高	(10.5) — (2.9)	黒色粒子 黒色鉱物粒子	#	焼	口縁部は内湾する。体部・底部は貫削り、口縁部・器内面は横撫で。	
267-4 122	須恵器 坏B	カマド内 %残存	□ 底高	10.0 — 3.3	黒色粒子	還元焰	灰	口縁部は内湾する。轆轤整形(右回転)。底部は貫削り。	
267-5 122	須恵器 坏B	覆土内 %残存	□ 底高	10.8 9.8 2.8	黒色粒子 黒色鉱物粒子	#	灰	口縁部はやや内湾する。轆轤整形(右回転)。底部は貫削り。	
267-6 122	須恵器 坏D V	覆土内 %残存	□ 底高	(13.0) (8.8) 3.2	白色粒子 黒色粒子	#	#	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
268-1 122	須恵器 坏D II	覆土内 %残存	□ 底高	(13.7) (7.8) 4.1	#	#	#	口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転貫削り。	
268-2 122	土師器 壺A III	カマド内 %残存	□ 底高	22.0 4.3 39.8	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	酸化焰	焼	口縁部は外反する。紐作り。外面割部は貫削り、口縁部は横撫で、内面割部は指撫で。	
268-3 122	土師器 壺A II	覆土内 破片	□ 底高	(22.4) — (12.2)	#	#	#	口縁部は外反する。紐作り。外面割部は貫削り、口縁部は横撫で、内面割部は貫撫で。	
268-4 122	土師器 壺A I	カマド内 %残存	□ 底高	22.4 (5.0) 35.7	#	#	#	口縁部は外反する。紐作り。外面割部は貫削り、口縁部は横撫で、内面割部は貫撫で。	
268-5	須恵器 壺	覆土内 破片	□ 底高	— —	白色粒子	還元焰	紫灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)後轆轤再整形。	

269-1	土器 器AⅢ	カマド内 1/4残存	□底高 (20.8) — (18.4)	赤褐色粒子	酸化焰	にぶい 褐色	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は寛削り、口縁部は横櫛で、内面胴部は寛削り。	
269-2 123	須恵器 甕	覆土内 1/4残存	□底高 — (17.5)	白色粒子	中性焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。胴部内面下半は寛調整。外面全体と内面上部に「縹でハゼ」あり。	
269-3	須恵器 甕	覆土内 破片	□底高 (49.2) (7.3)	#	#	にぶい 褐色	紐作り後轆轤整形。口縁部中位に襷をもつ。外面は櫛状工具による波状文が施される。	
269-4	緑釉陶器 椀	覆土内 破片	□底高 (15.1) (2.5)			オリブ 灰	口縁部は外反する。轆轤成形。	
269-5	瓦 女瓦	覆り方内 破片	厚 1.7	白色粒子	中性焰	灰	一枚作り。凹面布目の磨消し。凸面調印き。	
269-6 123	鉄器 釘	覆土内 破片	長 (5.5) 幅 0.4 重 5.3				断面方形で両端欠損。	
269-7 123	石器 石	カマド内	長 (7.2) 幅 4.6 厚 3.0	石英閃緑岩			全体に磨耗しているが、側面と下端部は砥ぎによる剥離。一部剥離面を磨石として利用か。	重 139.0

## G区第134号住居跡

探出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
270-1	須恵器 杯DIV	覆土内 ほぼ球形	□底高 12.6 8.2 4.1	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。	
270-2	須恵器 杯EⅡ	覆土内 1/4残存	□底高 12.4 5.0 4.2	黒色粒子 黒色鉱物粒子	#	#	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
270-3 123	黒色土器 壺	覆土内 1/4残存	□底高 14.6 7.6 5.5	白色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	褐色 黒	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。内面は呼吸している。	
271-1	須恵器 高台付皿	覆土内 1/4残存	□底高 12.0 — 2.3	白色粒子 黒色粒子	還元焰	褐色 灰	口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
271-2 123	灰釉陶器 高台付皿	覆土内 1/4残存	□底高 (13.0) (6.8) 2.4	美濃系		灰白 灰黄	口縁部は外傾する。轆轤成形(右回転)。付高台。施釉手法は浸漬。	
271-3 123	緑釉陶器 壺	覆土内 破片	□底高 (16.0) (3.0)			オリブ 灰	轆轤成形。体部に張りを持ちながら、口縁部に至る。	
271-4	須恵器 鉢	覆土内 破片	□底高 (28.9) — (8.9)	黒色粒子 赤褐色粒子	中性焰	にぶい 黄褐色	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形。	
271-5	須恵系 羽釜D	覆土内 破片	□底高 (18.0) — (7.3)	白・赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	灰	口縁部はやや内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。踵は貼り付け。	
271-6	須恵系 羽釜C	覆土内 破片	□底高 (18.9) — (10.0)	白色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	灰黄褐色	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。踵は貼り付け。	

## G区第80号住居跡

探出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
272-1	土器 杯	覆土内 破片	□底高 (13.0) (2.4)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	酸化焰	にぶい 褐色	口縁部は外傾する。体部は寛削り、口縁部・器内面は横櫛で。	

第1節 古墳時代～平安時代

272-2	須志器 埴	覆土内 破片	口 底高 (15.9) — (3.5)	白・黒色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	灰白	口縁部は外反する。轆轤整形。	
272-3	須志器 埴	覆土内 破片	口 底高 — 7.2 (1.3)	白色粒子 赤褐色粒子	#	#	轆轤整形。	
272-4	須志器 蓋	カマド内 掘り方	口 底高 (17.0) — (0.9)	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤整形(右回転)。口唇部は直に下に折れる。 柄は欠損。外面に自然釉が付着。	片残存

G区第81号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
273-1 123	土師器 埴C II	覆土内 完形	口 底高 12.7 — 3.1	白色粒子 白・黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部はやや内湾する。体部・底部は篋削り、 口縁部・器内面は横撫で。	

G区第85号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
275-1	土師器 埴D I	覆土内 ほぼ完形	口 底高 12.0 8.3 3.3	白色粒子 白・黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は内湾する。体部・底部は篋削り、口 縁部・器内面は横撫で。	
275-2	須志器 埴E I	覆土内 片残存	口 底高 (13.1) (7.4) (3.2)	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。	
275-3	土師器 小形埴	覆土内 破片	口 底高 (12.9) — (4.2)	白・赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	にぶい 赤褐	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篋削り、 口縁部は横撫で、内面胴部は篋削り。	
275-4	土師器 埴C II	覆土内 破片	口 底高 (16.0) — (4.7)	#	#	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篋削り、 口縁部は横撫で、内面胴部は篋削り。	
276-1	須志器 埴	掘り方内 破片	口 底高 — (16.0) (3.8)	黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形。 底部は篋調整。	
276-2	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.7	黒色粒子 赤褐色粒子	中性焰	灰白	半截作り。凹面粘土板割ざ取り痕あり。	

G区第89号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
279-1	土師器 埴D II	覆土内 片残存	口 底高 13.4 8.6 3.2	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	にぶい 橙	口縁部は外反する。体部・底部は篋削り、口 縁部・器内面は横撫で。	
279-2 123	須志器 埴E II	覆土内 ほぼ完形	口 底高 12.9 6.4 3.3	白色粒子	還元焰	褐灰 灰	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
279-3	須志器 埴E I	カマド内 片残存	口 底高 (13.7) 6.6 4.1	白色粒子 白・黒色鉱物粒子	中性焰	灰 灰黄	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。	
279-4 123	須志器 埴C II	カマド内 片残存	口 底高 (14.0) (7.3) 4.4	白色粒子	#	にぶい 黄橙	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
279-5	須志器 埴C I	覆土内 ほぼ完形	口 底高 14.7 7.0 4.3	#	#	灰白	口縁部は外傾する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	



## G区 (81・85・89・90・91号住居跡)

279-6	須恵器 埴CⅡ	カマド内 瓦残存	口 底高 (14.8) 7.5 5.3	白色粒子 黒色粒子	中性焰	灰	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。体部は腹らみを持つ。	
279-7	須恵器 埴CⅡ	カマド内 掘り方	口 底高 (15.5) 7.6 5.8	白色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	にぶい 黄橙	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
279-8 123	須恵器 高台付皿	掘り方内 瓦残存	口 底高 14.0 7.1 2.9	白・黒色粒子	#	灰 灰黄橙	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
279-9	黒色土器	覆土内 瓦残存	口 底高 16.5 (4.9)	白・赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙 黒	口縁部はやや外反する。轆轤整形(右回転)。内面はみがきによる調整後収束している。	
280-1	土師器 鉢	覆土内 破片	口 底高 16.9 (8.0)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	にぶい 橙	口縁部は横撫で。外面体部は腹張り。内面体部は横撫で。	
280-2 123	土師器 壺CⅢ	貯蔵穴内 破片	口 底高 18.6 9.6	#	#	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面割部は腹削り、口縁部は横撫で、内面割部は横撫で。	
280-3 123	瓦 女瓦	カマド内 ほぼ完形	広 狭長 28.0 21.3 40.5	#	中性焰	黄橙	縁巻き造り。凹面粘土板割ぎ取り痕あり。凸面隅叩きの擦消し。	反 厚 8.4 一
280-4	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 0.9	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目の擦消し。凸面正格子叩き。	
280-5 123	鉄器 不明	覆土内 破片	長 幅重 (8.9) 0.4 9.2				断面隅丸形。	
280-6	鉄器 刀子	覆土内	長 幅重 (6.3) 1.1 9.7				断面台形状で一端を欠損する。基部のみの残存と思われる。	
280-7	鉄器 刀子	覆土内	長 幅重 6.5 1.1 11.6				断面三角形を呈することから身と思われるが、両端を欠損している。	
280-8	鉄器 釘	覆土内 先欠損	長 幅重 (3.4) 0.4 5.9				断面扇形で先端を欠損。頭は扁平である。	
281-1	瓦 男瓦	カマド内 瓦残存	広 狭長 一 36.5	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	にぶい 赤褐	半截作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。腹巻き文字瓦「在」(凸面)。	反 厚 一 1.9

## G区第90号住居跡

調査番号 調査番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
282-1 123	須恵器 高台付皿	覆土内 瓦残存	口 底高 (13.5) 8.6 3.3	黒色粒子 赤褐色粒子	中性焰	灰	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
282-2	須恵器 埴	覆土内 破片	口 底高 一 (7.3) (2.9)	黒色粒子 黒色鉱物粒子	#	褐灰	口縁部は欠損している。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
282-3	瓦 男瓦	覆土内 瓦残存	厚 1.6	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	還元焰		凹面粘土板割ぎ取り痕あり。	

## G区第91号住居跡

調査番号 調査番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
283-1 123	土師器 坏DⅠ	覆土内 瓦残存	口 底高 11.4 6.1 3.0	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は内湾する。体部・底部は腹削り、口縁部・器内面は横撫で。	

## 第1節 古墳時代～平安時代

283-2 124	須恵器 坏DV	覆土内 1/4残存	口 径 高 (12.1) 6.5 3.9	黒色粒子	還元焰	灰	口縁部は外傾する。 轆轤整形(右回転)。	
283-3	土師器 甕CI	覆土内 破片	口 径 高 20.0 (5.5)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内面胴部は寛撫で。	
283-4 124	土製品 土 罎	覆土内 ほぼ完形	長軸 孔 5.5 2.5 0.5	白・黒色粒子 黒色鉱物粒子	#	暗赤褐	長軸方向に焼成前に穿孔する。 外面は手捏。	重 30.0
283-5 124	鉄 器 小 刀	覆土内	長 重 重 (8.9) 1.8 26.9				断面三角形であり身の一部と思われる。 研ぎ減りが著しい。	
283-6 124	鉄 器 刀 子	覆土内	長 重 重 (5.4) 0.8 6.2				断面三角形であり、身の一部と思われる。両 端欠損。	

## G区第92号住居跡

棟号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考
285-1 124	土師器 埴BI	覆土内 1/4残存	口 径 高 23.4 3.5 35.8	黒・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙 黒褐	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内面胴部は寛撫で。	
285-2 124	土師器 埴	覆土内 1/4残存	口 径 高 (16.5) — (12.0)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	黒褐	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内面胴部は寛撫で。	

## G区第95号住居跡

棟号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考
287-1 124	須恵器 坏E I	貯蔵穴内 1/4残存	口 径 高 12.5 6.4 3.9	白色粒子	中性焰	灰白	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
287-2	須恵器 坏E I'	貯蔵穴内 1/4残存	口 径 高 (13.8) (7.1) 3.2	#	#	#	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
287-3	須恵器 埴C II	貯蔵穴内 1/4残存	口 径 高 (16.0) (8.2) (5.7)	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	口縁部は外反する。体部は握りをもつ。 轆轤整形(右回転)。付高台。	器内・外面 に自然釉。
287-4	須恵器 埴B	貯蔵穴内 1/4残存	口 径 高 (15.0) (8.0) (5.7)	白色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	灰白	体部に握りを持ちながら、口唇部に至る。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
287-5	須恵器 高台付皿	覆土内 1/4残存	口 径 高 (12.7) — (2.6)	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
287-6	灰釉陶器 埴	掘り方内 1/4残存	口 径 高 — (8.2) (4.6)	美濃系		灰白 浅黄	轆轤成形。底部は回転削り。付高台。	
288-1	瓦 女 瓦	貯蔵穴内 1/4残存	厚 2.6	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	中性焰		一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り。履掃き文字瓦、文字不明(凸面)。	
288-2	瓦 女 瓦	貯蔵穴内 破片	厚 3.1	白・黒色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り。履掃き文字瓦「十」(凸面)。	

## G区第98号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
289-1	須恵器 壺	覆土内 破片	□ 底高 11.6 — 3.6	白・赤褐色粒子	中性焰	浅黄橙	口縁部は外反する。轆轤整形。	
289-2	土師器 甕D	覆土内 破片	□ 底高 (21.0) — (6.4)	#	酸化焰	にぶい 橙	口縁部は外反する。拵作り。 口縁部は横撫で。	

## G区第100号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
291-1 124	土師器 坏CII	掘り方内 ほぼ完形	□ 底高 12.2 — 3.5	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	にぶい 橙	口縁部はやや内湾する。体部・底部は寛削り、 口縁部・器内面は横撫で。	
291-2 124	土師器 坏CII	掘り方内 欠残存	□ 底高 12.3 9.5 — 3.4	白色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	灰黄	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口 縁部・器内面は横撫で。	
291-3	土師器 坏CII	覆土内 欠残存	□ 底高 (12.9) — 3.6	黒色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	にぶい 褐	口縁部は外傾する。体部・底部は寛削り、口 縁部・器内面は横撫で。	
291-4	土師器 坏DII	覆土内 欠残存	□ 底高 12.0 — (2.7)	白色粒子 黒色鉱物粒子	#	橙	口縁部は外傾する。体部・底部は寛削り、口 縁部・器内面は横撫で。	
291-5	土師器 坏DII	覆土内 欠残存	□ 底高 12.0 (2.9)	#	#	#	口縁部はやや内湾する。体部・底部は寛削り、 口縁部・器内面は横撫で。	
291-6	土師器 坏DII	覆土内 欠残存	□ 底高 12.0 — (3.6)	#	#	#	口縁部は外反する。体部は寛削り、口縁部・ 器内面は横撫で。	
291-7 124	須恵器 坏DI	掘り方内 欠残存	□ 底高 (12.4) (7.5) — 3.5	白色粒子	還元焰	灰	口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。 底部は回転脱脂した後、寛調整。	
291-8 124	須恵器 坏DIV	覆土内 欠残存	□ 底高 12.5 8.1 — 3.4	白色粒子 黒色粒子	中性焰	#	口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。	
291-9 124	須恵器 坏DIV	覆土内 欠残存	□ 底高 (11.7) (7.5) — 4.0	白色粒子 赤褐色粒子	#	灰白	口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。	
291-10	須恵器 坏DIV	覆土内 欠残存	□ 底高 (13.0) — (3.4)	白色粒子 黒色粒子	還元焰	褐灰	口縁部はやや外反する。轆轤整形。	
291-11	須恵器 坏DIV	覆土内 欠残存	□ 底高 13.0 — (3.5)	#	#	#	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
291-12 124	須恵器 坏DIV	覆土内 欠残存	□ 底高 (13.1) (8.1) — 3.2	黒色粒子	中性焰	灰	口縁部はやや外反する。轆轤整形(右回転)。	
291-13	須恵器 坏IV	覆土内 欠残存	□ 底高 (13.1) (7.5) — 3.1	#	#	#	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
291-14	須恵器 壺	覆土内 欠残存	□ 底高 (17.0) 8.9 — 7.0	黒色粒子 赤褐色粒子	#	灰白	口縁部は外傾する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
291-15	須恵器 高台付皿	覆土内 欠残存	□ 底高 15.0 8.5 — 2.9	白色粒子 黒色粒子	#	#	口縁部はやや外反する。 轆轤整形。付高台。	

第1節 古墳時代～平安時代

291-16 124	須恵器 蓋	覆土内 片残存	□ 口径 高	(12.0) — (2.3)	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤整形(右回転)。 上半部は回転流削り。胴部は貼り付け。	胴は欠損
291-17 124	須恵器 蓋	覆土内 片残存	□ 口径 高	(16.7) — (3.8)	#	中性焰	灰白	口唇部は下方に折り返す。轆轤整形(右回転)。 上半部は回転流削り。胴部は貼り付け。	胴は欠損
291-18 124	緑釉陶器 埴	カマド内 破片	□ 口径 底高	(14.0) — (2.8)			にぶい 黄緑	口縁部は外反する。轆轤整形。	
291-19	土師器 埴	覆土内 片残存	□ 口径 底高	13.0 — (6.9)	白・赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	明赤褐	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は貫削り、口縁部は横削で、内面胴部は貫削で。	
291-20 124	土師器 罌	覆土内 罌部残存	□ 口径 底高	17.9 — (14.2)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	赤褐 黒褐	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は貫削り、口縁部は横削で、内面胴部は貫削で。	
292-1	須恵器 罌	カマド内	□ 口径 底高	29.5 — (15.4)	黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形。(外面平行叩き。内面両具は清海文) 後加で調整。	口～胴部残存。
292-2 124	須恵器 罌	覆土内 罌部残存	□ 口径 底高	— 14.4 (18.8)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	暗灰	紐作り後轆轤整形。外面胴部下半は貫削り。外面底部は貫削整。輪積痕あり。	
292-3 125	石製品 砥石	カマド内 長幅 厚	長幅 厚	(3.2) (3.5) (1.3)	流紋岩 砥沢?			表面に砥部あり。又、文様状とその中に小さな山状の稜あり。砥石を二次利用して、文様状砥石とは別機能の為の溝を刻む。	重 13.8

G区第101号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
293-1 125	須恵器 埴C I	覆土内 片残存	□ 口径 底高	14.6 7.4 5.1	白色粒子	中性焰	灰	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
293-2 125	須恵器 埴C II	覆土内 片残存	□ 口径 底高	14.4 6.7 4.7	#	#	浅黄 黒	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
293-3 125	須恵器 高台付罌	覆土内 完形	□ 口径 底高	12.8 5.9 3.0	白色粒子 黒色粒子	#	灰白 灰	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
293-4 125	灰釉陶器 壺	覆土内 罌部残存	□ 口径 底高	— — (7.4)	赤褐色系		灰白	轆轤整形。	
293-5 125	鉄器 刀子	覆土内	長 重 重	(9.5) 0.9 11.7				断面三角形であり、身の一部と思われる。両端欠損。	

G区第102号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
295-1 125	須恵器 坏E II	掘り方内 完形	□ 口径 底高	13.1 7.0 3.4	黒色粒子	還元焰	灰	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
295-2	須恵器 坏DIV	カマド内 掘り方	□ 口径 底高	13.5 7.5 (3.3)	#	#	灰白	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	片残存
295-3 125	須恵器 坏D II	覆土内 片残存	□ 口径 底高	(12.6) (8.0) 4.2	白色粒子	中性焰	灰	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。 底部は回転蹴起し。	

## G区第103号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
297-1	須恵器 埴	カマド内 張り方	口 底高 (17.4) (4.5)	白色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	淡黄	口縁部は外反する。体部は張りみを持つ。 轆轤整形。	破片
297-2 125	土師器 埴	カマド内 破片	口 底高 (12.2) (6.5)	白色粒子 黒色粒子	酸化焰	橙 黒褐	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内面胴部は寛撫で。	
297-3 125	須恵器 紡錘車	覆土内 完形	径 孔 6.8 0.9	白・黒色粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰	杯の底部を転用。	
297-4 125	石器 黒編み石	覆土内 完形	長 幅厚 15.6 7.6 4.6	輝石安山岩 (粗粒)			断面三子状。一部取きによる凹があるが全体に磨耗が進み磨石としても利用?	重 777.9

## G区第105号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
300-1 125	須恵器 埴EⅢ	カマド内 完形	口 底高 12.0 5.5 3.4	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。	
300-2 125	須恵器 埴EⅡ	覆土内 完形	口 底高 13.1 5.5 4.2	白・黒色粒子 赤褐色粒子	中性焰	淡黄 橙	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
300-3 125	須恵器 埴D	掘り方内 完形	口 底高 13.1 7.2 4.4	白色粒子	#	にぶい 黄橙 灰	口縁部は外傾する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
300-4	土師器 裏CⅣ	覆土内 破片	口 底高 20.5 (8.3)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	酸化焰	明赤褐	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内面胴部は寛撫で。	
300-5 125	石製品 砥石	覆土内	長 幅厚 (5.2) (3.9) 1.9	流紋岩 砥沢			両小口を欠損。小口の他は全部使用している。右側面と裏面に方調整痕がみられる。	重 62.0

## G区第109号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
301-1 125	須恵器 埴DIV	覆土内 完形	口 底高 11.9 6.4 3.9	白色鉱物粒子	中性焰	にぶい 黄黒	口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。 器内・外面を吸灰させている。	
301-2 126	土師器 裏CⅠ	掘り方内 破片	口 底高 14.3 7.2	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	酸化焰	橙 黒褐	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内面胴部は寛撫で。	

## G区第111号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
302-1	土師器 埴DⅡ	覆土内 破片	口 底高 (12.3) (8.5) 2.3	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。体部・底部は寛削り、口縁部、器内面は横撫で。	
302-2 126	須恵器 埴DIV	覆土内 破片	口 底高 (13.6) (6.9) (3.3)	白色鉱物粒子	中性焰	暗黄 灰黄	口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。	

第1節 古墳時代～平安時代

302-3	須恵器 環D V	覆土内 破片	□ 底高 (14.0) (8.0) 3.9	黒色粒子	中性焰	灰白	□縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。	
302-4	須恵器 環E I	覆土内 破片	□ 底高 (12.0) (7.0) 3.4	#	#	褐灰	□縁部は外反する。体部はやや張りをもつ。 轆轤整形(右回転)。	
302-5	黒色土器 埴	覆土内 片残存	— (8.0) (3.2)	黒色粒子 赤褐色粒子	#	灰白 黒	□縁部は欠損している。轆轤整形(右回転)。 底部は回転置起し。内面のみ調整後成灰。	
302-6 126	須恵器 埴C I	覆土内 ほぼ完形	□ 底高 15.4 6.8 4.8	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	灰白 灰	□縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
302-7 126	須恵器 埴C I	覆土内 片残存	□ 底高 16.0 7.7 5.6	白色粒子 黒色粒子	#	灰白 橙	□縁部は外傾する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
302-8	須恵器 高台付埴	覆土内 片残存	□ 底高 (13.2) (7.4) 2.9	白色粒子	還元焰	灰	□縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。器内・外面に自然釉あり。	
302-9	須恵器 高台付埴	覆土内 片残存	□ 底高 (15.0) (7.7) 2.7	白色粒子 黒色粒子	#	褐灰	□縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
302-10	須恵器 埴	覆土内 破片	□ 底高 — (6.0) (3.1)	#	酸化焰	黄灰	□縁部は欠損する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	

G区第113号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
303-1 126	須恵器 環E III	覆土内 片残存	□ 底高 (12.1) 5.0 4.3	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	□縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
303-2	灰陶器 埴	覆土内 破片	□ 底高 (16.0) — (4.2)	美濃系		#	□縁部は外反する。轆轤成形(右回転)。体部下半部は寛削り。施釉手法は浸掛。	
303-3 126	土器 埴C I	覆土内 片残存	□ 底高 (20.0) — (14.3)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	□縁部は外反する。紐作り。外面側部は寛削り、□縁部は横溝で、内面側部は寛削り。	

G区第114号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
304-1	須恵器 埴C I	覆土内 ほぼ完形	□ 底高 12.3 6.1 4.9	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰白 灰	□縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
304-2	須恵器 埴C II	覆土内 片残存	□ 底高 (12.8) 7.9 4.1	#	中性焰	灰白	□縁部は外反する。体部はやや張りを持つ。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
304-3	須恵器 埴	覆土内 破片	□ 底高 (31.8) — (7.7)	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	□縁部は直立する。紐作り後轆轤整形(右回転)。脚は貼り付け。	
305-1 126	須恵器 埴C I	覆土内 完形	□ 底高 11.8 6.0 4.6	黒色鉱物粒子	中性焰	灰白	□縁部は外傾する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
305-2 126	須恵器 埴C II	カマド内 ほぼ完形	□ 底高 14.7 7.3 6.2	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	橙	□縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
305-3	須恵器 埴	貯蔵穴内 片残存	□ 底高 (12.1) — 3.6	#	#	灰	□縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。 底部は欠損している。	

## G区(113・114・117・118号住居跡)

305-4 126	緑釉陶器 焼	覆土内 破片	口底高 — (2.4)			灰	轆轤成形。体部は脹らみを持つ。	
--------------	-----------	-----------	-------------------	--	--	---	-----------------	--

## G区第117号住居跡

調査番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
308-1	須恵系 坏E II	覆土内 互残存	口底高 12.0 5.7 3.8	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	にじい 橙	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
308-2	須恵系 坏C II	覆土内 互残存	口底高 (13.6) 7.0 5.4	黒色鉱物粒子	中性焰	淡黄 淡黄	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
308-3	須恵系 坏	覆土内 互残存	口底高 — (6.2)	白色粒子 白-黒色鉱物粒子	#	灰黄	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
308-4	灰釉陶器 坏	覆土内 互残存	口底高 (16.5) (5.1)	美濃系		灰	口縁部はやや内湾する。轆轤成形(右回転)。 付高台。底部は回転削り。指輪手法は浸掛。	高台部欠損
308-5	須恵系 小形壺	覆土内 破片	口底高 (18.3) (7.1)	白色粒子 赤褐色粒子	酸化焰	橙	紐作り後轆轤整形。口縁部は外反する。 外面胴部は貫削り。	
308-6	須恵系 小形壺	覆土内 破片	口底高 (20.0) (7.8)	白色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	淡橙 淡黄橙	紐作り後轆轤整形(左回転)。	
309-1	瓦 男瓦	覆土内 互残存	厚 1.7	白色粒子	酸化焰		半截作り。凹面に粘土板剥ぎ取り痕あり。 凸面平行叩き。	
309-2 126	石製品 埴	覆土内 破片	口底高 — —	輝石安山岩 (粗粒)			器内面は嵩熱により表面が融変して、スラグ の付着がみられる。	
309-3 126	石器 磨石	覆土内 完形	長軸厚 11.8 11.1 4.0	輝石安山岩			円盤状を呈し、全体磨耗している。側縁部に 敲打痕あり。	重 764.8
309-4 126	石器 磨石	覆土内 互残存	長軸厚 (7.0) 5.5 4.2	#			ほぼ中央部付近から欠損。全体に磨耗してい るが、先端に敲打痕あり。	重 220.2
309-5 126	石器 不明	覆土内 破片	長軸厚 (14.9) (13.3) (7.4)	輝石安山岩 (粗粒)			旧形状は方形かと思われる調整痕が2面あ る。	重 929.8
309-6 126	石器 磨石	覆土内 完形	長軸厚 10.1 9.8 3.4	輝石安山岩			円盤状を呈し、全面磨耗しているが、平面は 磨耗が顕著。又側縁部に打痕がみられる。	重 510.3

## G区第118号住居跡

調査番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
310-1	土師器 坏	覆土内 互残存	口底高 — (3.4)	黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部はやや内湾する。体部は削り、口縁 部・器内面は横削り。	
310-2 126	石器 磨石	覆土内 完形	長軸厚 13.4 5.8 3.7	砂岩			断面方形を呈し、全面磨耗している。側面に 潤を有している。磨石としても利用か。	重 463.4

## 第1節 古墳時代～平安時代

## G区第119号住居跡

棟居番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
312-1	須恵器 埴	貯蔵穴内 カマド内 掘り方	口 底 高 — 8.1 (4.1)	白色粒子	中性焰	灰白	口縁部は欠損している。轆轤整形(右回転)。 貯蔵穴・甕・甕掘り方より出土し、接合。	
312-2	土器 小形甕	覆土内 瓦残存	口 底 高 (10.4) — (5.4)	黒色鉱物粒子	還元焰	明赤褐	「コ」の字状口縁。紐作り、外面割部は貫削り、口縁部は横撫で、内面割部は荒撫で。	
312-3	土器 小形甕	貯蔵穴内 破片	口 底 高 (12.5) — (4.2)	#	#	にぶい 赤褐	「コ」の字状口縁。紐作り、外面割部は貫削り、口縁部は横撫で、内面割部は荒撫で。	

## G区第120号住居跡

棟居番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
314-1	須恵器 坏DIV	カマド内 瓦残存	口 底 高 14.0 7.8 4.0	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	灰白	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。	
314-2	須恵器 埴	掘り方内 瓦残存	口 底 高 (13.6) — (4.4)	黒色鉱物粒子	#	灰白 灰	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。 底部は欠損している。	
314-3	土器 甕CIV	掘り方内 破片	口 底 高 (18.1) (13.0)	白色粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	橙	口縁部は外反する。紐作り、外面割部は貫削り、口縁部は横撫で、内面割部は荒撫で。	
314-4	土器 甕CIII	覆土内 破片	口 底 高 18.5 — 10.1	白・赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	#	#	「コ」の字状口縁。紐作り、外面割部は貫削り、口縁部は横撫で、内面割部は荒撫で。	
315-1	土器 甕	カマド内 掘り方	口 底 高 — 5.0 15.6	白色粒子 白色鉱物粒子	#	にぶい 赤褐	紐作り成形。外面割部は貫削り。 内面割部は荒撫で。	底部残存
315-2	瓦 男瓦	カマド内 瓦残存	厚 2.2	白色粒子 白・黒色鉱物粒子	中性焰	にぶい 黄橙	半截作り。凹面に粘土板割ぎ取り痕あり。凸面荒撫で。	
315-3	瓦 女瓦	カマド内 瓦残存	厚 1.9	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰黄	鎌巻き造り。凹面に粘土板割ぎ取り痕あり。	
315-4	瓦 女瓦	カマド内 瓦残存	厚 1.7	白色粒子 白・黒色鉱物粒子	中性焰	にぶい 橙	一枚作り。凸面に粘土板割ぎ取り痕あり。 凸面平行印きを擲り消している。	
315-5 126	石製品 砥石	覆土内 石ほぼ完整	長 幅 厚 5.4 4.9 1.5	流紋岩 (砥石)			全面使用している。小口の一部に火熱を受けている。又、表面に刃調整痕がある。	重 51.8 手持砥石
315-6 126	鉄 不明	覆土内 破片	長 幅 重 (6.4) 6.5 223				断面円形で湾曲している。 両端欠損。	

## G区第122号住居跡

棟居番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
316-1	須恵器 台付甕	覆土内 台部残存	口 底 高 — 11.2 2.9	白色粒子	還元焰	灰	紐作り叩き整形。台部中央に折り返しの大きな横を有す。	



## G区第124・127号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
318-1	須恵器 埴C II	覆土内 瓦残存	□ 底高 (14.0) — (5.3) 4.8	赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	灰	口縁部は外反する。体部はやや張りみを持つ。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
318-2	土師器 小形甕	覆土内 破片	□ 底高 (12.1) — (5.2)	白色粒子 白・黒色鉱物粒子	酸化焰	にじい 橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は直筒 り、口縁部は横断で、内面胴部は寛楕で、	内面一部に 炭化物付着
318-3	須恵器 長頸壺	覆土内 破片	□ 底高 5.0 — (4.8)	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	轆轤整形。口唇部は外反する。肩部近くは外 方に屈曲し、折り曲がる。	
318-4	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.1	#	#	暗灰黄	一枚作り。凹面布目の擦消し。 凸面斜格子叩き。	
318-5	須恵器 罎	覆土内 底部残存	□ 底高 — (5.2) (2.0)	白色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	灰色	轆轤整形(右回転)。付高台。	

## G区第125号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
319-1	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。両面に粘土板制ぎ取り痕あり。 凸面正格子叩き。	

## G区第131号址

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
322-1	須恵器 埴	覆土内 破片	□ 底高 (14.3) — (4.5)	白色粒子 白・黒色鉱物粒子	中性焰	灰	口縁部は外反する。轆轤整形。	
322-2	黒色土器 埴	覆土内 破片	□ 底高 (12.5) (3.5)	#	酸化焰	橙	口縁部は外傾する。轆轤整形。 内面はみがきによる調整後、吸戻している。	

## G区第133号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
324-1	須恵器 坏DIV	覆土内 破片	□ 底高 (11.2) (6.0) (3.2)	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰白	口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。	
324-2	須恵器 坏	覆土内 瓦残存	□ 底高 (12.0) (6.7) 3.6	白色粒子 黒色粒子	#	灰	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。	
324-3	須恵器 埴	カマド内 瓦残存	□ 底高 11.9 — (4.0)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	にじい 黄橙	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。底部は欠損する。	
324-4	須恵器 蓋	カマド内 破片	□ 底高 (16.8) — (2.7)	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤整形。天井部は欠損している。	
324-5	須恵器 壺	覆土内 破片	□ 底高 — —	#	#	#	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面陶具 は背向波文)後轆轤再整形。	

## 第1節 古墳時代～平安時代

## G区第135号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
326-1 126	須恵器 坏DⅣ'	覆土内 片残存	口底高 (12.4) (7.8) 3.5	白色粒子	還元焰	灰	口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。	
326-2 126	須恵器 坏EⅠ	覆土内 完形	口底高 12.1 5.6 3.9	白色粒子 黒色粒子	#	#	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
326-3	須恵器 埴CⅡ	カマド内 片残存	口底高 (13.6) (7.2) 5.3	#	中性焰	灰白	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
326-4	土師器 埴CⅣ	覆土内 片残存	口底高 (19.8) — 17.4	白・赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面刷部は置削り、口縁部は横割で、内面刷部は置削り。	
326-5	瓦 瓦	覆土内 片残存	厚 2.3	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。両面に粘土剥ぎ取り痕あり。凹面布目の擦消し。	

## G区第136号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
328-1	須恵器 坏DⅤ'	覆土内 片残存	口底高 (13.9) (9.3) (3.0)	黒色粒子	還元焰	褐灰	口縁部は外反する。轆轤整形。	
328-2 127	須恵器 埴CⅠ	覆土内 ほぼ完形	口底高 12.2 (5.7) 4.8	白色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	灰	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
328-3	須恵器 埴CⅠ	覆土内 片残存	口底高 (13.0) (6.3) 4.9	白色粒子	#	橙 黒	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。内面に炭化物付着。	
329-1	須恵器 埴CⅠ	覆土内 片残存	口底高 (13.9) — (4.3)	白色粒子 黒色粒子	#	灰白 灰黄	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。高台欠損(付高台)。	
329-2	須恵器 埴	覆土内 底部残存	口底高 — (7.2) (2.6)	白・黒色粒子	還元焰	灰白	口縁部は欠損する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
329-3 127	土師質 埴E	覆土内 片残存	口底高 (13.5) 8.1 6.0	白色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	灰	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。高台は高く、付高台である。	
329-4	須恵器 埴	覆土内 底部残存	口底高 — (8.5) (5.0)	白・黒色粒子 黒色鉱物粒子	#	黄灰	轆轤整形(右回転)。付高台。	
329-5	須恵器 埴	覆土内 底部残存	口底高 (14.9) (3.0)	白色粒子 黒色粒子	還元焰	明褐色	紐作り叩き整形。高台は付高台。	
329-6 127	須恵器 埴	覆土内 破片	口底高 — — 9.0	白・黒色粒子 赤褐色粒子	#	褐灰	紐作り叩き整形。外面は平行叩き。内面にスラグ状に硬化した付着物あり。	
329-7	須恵器 埴	覆土内 把手残存	口底高 — —	白色粒子 白色鉱物粒子	#	灰白	粘土継の貼付。	
329-8 127	灰釉陶器 高台付皿	覆土内 片残存	口底高 (15.1) 7.6 3.4	美濃系		にぶい 黄	口縁部は外反する。轆轤成形(右回転)。付高台。蓋輪手法は浸透。	
329-9 127	緑釉陶器 埴	覆土内 破片	口底高 — —			オリ ブ灰	轆轤成形。	

329-10 127	須恵器鉢	覆土内破片	口底高 (28.8) — (5.0)			中性焰	灰白	口縁部は外反する。 紐作り後轆轤整形。	
329-11	灰釉陶器燈	覆土内破片	口底高 — (15.8)	美濃系			灰	紐作り後、轆轤整形。	
329-12	須恵系土差	覆土内破片	口底高 (20.8) — (7.0)	白・黒色粒子 黒色鉱物粒子	還元焰		にぶい 褐	紐作り後轆轤整形。	
330-1	須恵系羽蓋B	覆土内破片	口底高 (19.3) — (9.0)	白色粒子 白・黒色鉱物粒子	中性焰		灰黄褐	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。踵は貼り付け。	
330-2	須恵系羽蓋B	覆土内破片	口底高 (20.5) —	白・赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	#	#	#	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。踵は貼り付け。	
330-3	須恵系羽蓋B	カマド内破片	口底高 (19.4) — (11.8)	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	#	#	にぶい 黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。踵は貼り付け。	
330-4	須恵系羽蓋C	覆土内破片	口底高 (20.5) — (7.7)	白色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	#	灰白	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。踵は貼り付け。	
330-5	須恵系羽蓋	覆土内破片	口底高 — —	白・赤褐色粒子	#	#	にぶい 黄橙	紐作り後轆轤整形。外面側部は置削り。 内面は横撫で。	
330-6	瓦女瓦	覆土内破片	厚 1.7	白・黒色粒子 赤褐色粒子	還元焰		灰白 黄褐	一枚作りか。凹面は粘土板割ぎ取り痕あり。 凸面斜格子印き。	
330-7	瓦男瓦	覆土内破片	厚 2.4	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	中性焰		灰	半截作り。凹面に粘土板割ぎ取り痕あり。	
330-8 127	石製品砥石	覆土内	長軸厚 (6.6) 5.6 3.4	輝石安山岩 (粗粒)				糸巻状を呈す。微小口を欠損している。 小口の他は全面使用している。持砥石	重 120.6
330-9 127	鉄器不明	覆土内	長軸重 (9.5) 2.5 85.8					断面長方形で一端が三角形状を呈する。種不明。	
330-10 127	鉄器刀子	覆土内	長軸重 (6.5) 1.0 12.5					断面三角形で基部欠損。	
330-11 127	鉄器刀子	覆土内	長軸重 16.9 1.1 32.2					身長8.8cm、茎長8.1cmでほぼ方形である。	
331-1 127	石器黄銅み石	覆土内完形	長軸厚 20.7 4.9	輝石安山岩 (粗粒)				細長の三角形状の石。全体磨耗している。	重 810.4
331-2 127	石器磨石	覆土内完形	長軸厚 11.6 9.0 4.4	輝石安山岩 (粗粒)				やや楕円形を呈する。全体磨耗している。又、取きによる割離あり。取石の利用か？	重 718.5

## G区第138号住居跡

簿内番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
332-1	土器器鉢	カマド内破片	口底高 (16.9) — (7.1)	白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は内傾する。体部は磨滅の為不明瞭。 口縁部は横撫で。	
333-1 127	須恵器坏DII	覆土内ほぼ完形	口底高 12.6 7.8 3.6	#	中性焰	灰白	口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。 底面は回転発起し。	
333-2	須恵器坏DIV	覆土内完形	口底高 12.4 7.2 3.7	白色粒子 黒色粒子	#	#	口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。	

第1節 古墳時代～平安時代

333-3	須恵器 坏DIV	覆土内 与残存	□ 底高 (12.30) 6.8 4.0	黒色粒子	中性焰	灰白	口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。	
333-4	須恵器 坏DIV	覆土内 与残存	□ 底高 (10.7) 5.6 3.4	〃	〃	灰	口縁部は外傾する。轆轤整形。	
333-5 127	須恵器 坏DII	覆土内 与残存	□ 底高 (12.1) (7.0) 3.8	白色粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	〃	口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。 底部は回転脱起し。	
333-6	須恵器 埴	覆土内 与残存	□ 底高 11.9 (3.9)	白色粒子 黒色粒子	〃	〃	口縁部は外傾する。轆轤整形。 底部は欠損している。	
333-7	須恵器 蓋	カマド内 与残存	□ 底高 (15.9) 4.6 4.0	黒色粒子	中性焰	灰白	口唇部は下方に折り返す。轆轤整形(右回転)。 上半部は回転脱起し。底部は貼り付け。	
333-8	須恵器 蓋	覆土内 与残存	□ 底高 (15.0) — 2.6	黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	〃	口唇部は下方に折り返す。轆轤整形(右回転)。 上半部は回転脱起し。底部は貼り付け。	天井部は欠損している

G区第139号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
335-1	須恵器 坏E I	覆土内 与残存	□ 底高 14.0 6.4 3.4	黒色粒子	中性焰	灰白	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。	
335-2	須恵器 坏DIV	覆土内 与残存	□ 底高 (12.5) 6.6 4.3	〃	〃	〃	口縁部は外反する。体部はやや張りみを持つ。 轆轤整形(右回転)。	
335-3	須恵器 坏E I	覆土内 ほぼ完形	□ 底高 12.1 5.4 4.2	黒色粒子 白・黒色鉱物粒子	〃	〃	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
335-4 127	須恵器 埴C I	覆土内 ほぼ完形	□ 底高 15.1 7.8 5.7	白色粒子 黒色粒子	〃	〃	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
335-5	須恵器 埴	覆土内 破片	□ 底高 (15.9) — (5.7)	〃	〃	紫灰	轆轤整形。体部に張りみを持ちながら口唇部 に至る。	蓋の可能性 有り。
335-6	須恵系 羽釜C	覆土内 破片	□ 底高 (20.0) — (4.9)	黒色粒子	〃	にぶい 黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。鈎は貼り付け。	

G区第140号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
337-1	須恵器 坏E I	カマド内 与残存	□ 底高 (13.5) (6.2) 3.9	白色粒子 黒色粒子	中性焰	黄灰	口縁部は外反する。体部はやや張りみを持つ。 轆轤整形(右回転)。	
337-2	須恵器 埴C II	覆土内 与残存	□ 底高 15.0 (5.0)	黒色粒子	〃	灰	口縁部は外反する。体部はやや張りみを持つ。 轆轤整形(右回転)。高台欠損(付高台)。	
337-3	須恵器 埴B'	覆土内 与残存	□ 底高 (14.7) 6.7 3.3	黒色鉱物粒子	〃	灰白	口縁部は外傾する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
338-1 127	須恵器 埴	カマド内 与残存	□ 底高 17.8 8.9 6.0	黒色粒子	〃	灰	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
338-2	土師器 甕C IV	覆土内 破片	□ 底高 (21.6) — (9.2)	白・赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	にぶい 赤褐	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は寛削 り、口縁部は横撫で、内面胴部は寛撫で。	

338-3 127	土 器 甕C II	貯蔵穴内 %残存	口 底高	19.9 — (26.4)	黒・赤褐色粒子 白色紅物粒子	酸化焰	橙 黒褐	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は黒削り、口縁部は横縞で、内面胴部は縦縞で。	
--------------	--------------	-------------	---------	---------------------	-------------------	-----	---------	---	--

## G区第141号住居跡

調査番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考	
340-1 127	須 恵 器 坏	覆土内 %残存	口 底高	(13.2) 6.0 3.3	白色粒子 黒色紅物粒子	中性焰	灰	口縁部は外反する。横縞整形(右回転)。	
340-2 127	須 恵 器 坏E II	覆土内 完形	口 底高	12.6 5.5 4.2	白色粒子 白色紅物粒子	#	灰黄褐 黒	口縁部はやや外反する。 横縞整形(右回転)。	
340-3	須 恵 器 坏E I	覆土内 %残存	口 底高	13.8 6.3 3.6	白色粒子 黒色粒子	#	灰白	口縁部はやや外傾する。 横縞整形(右回転)。	
340-4	須 恵 器 坏E I	覆土内 %残存	口 底高	(12.0) — (4.4)	黒色紅物粒子	#	#	口縁部は外反する。 横縞整形(右回転)。高台欠損(付高台)。	
340-5 128	須 恵 器 壺	覆土内 %残存	口 底高	13.6 5.6 5.2	黒色粒子	#	#	口縁部は外反する。外面体部脱削り。 横縞整形(右回転)。付高台。	
340-6	灰輪陶器 埴C I	覆土内 %残存	口 底高	(14.3) — (2.9)	美濃系		灰	口縁部は外反する。体部は脹らみを持つ。 横縞成形(右回転)。旋軸手法は没損。	
341-1 128	灰輪陶器 埴	覆土内 %残存	口 底高	(13.0) (6.6) 4.4	#	#	#	口唇部は外反する。体部は脹らみを持つ。 横縞成形(右回転)。付高台。	
341-2	灰輪陶器 長頸壺	カマド内 破片	口 底高	(11.0) — (2.5)	讃岐系		灰白	口縁部は外方に屈曲した後、折り曲げる。横 縞成形。旋軸手法は没損。	
341-3	須 恵 系 羽 蓋 B	覆土内 破片	口 底高	(21.9) — (8.1)	白色粒子 黒色紅物粒子	中性焰	橙	口縁部は内傾する。紐作り後横縞整形(右回 転)。脚は貼り付け。	
341-4	須 恵 系 羽 蓋 B	覆土内 破片	口 底高	(20.0) — (10.1)	白・黒色粒子 赤褐色粒子	#	明赤褐	口縁部は内傾する。紐作り後横縞整形(右回 転)。脚は貼り付け。	
341-5 128	須 恵 器 高台付鉢	覆土内 %残存	口 底高	— (18.0) (10.4)	白・黒色粒子 黒色紅物粒子	#	灰白	紐作り後横縞整形。	
341-6	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	1.7	黒色粒子 黒色紅物粒子	還元焰	灰	一枚作り。	
341-7	瓦 女瓦	覆土内 %残存	厚	2.0	白・赤褐色粒子 黒色紅物粒子	中性焰	にぶい 赤褐	一枚作り。凹面に粘土板割ぎ取り痕あり。	
341-8 128	鉄 器 不 明	覆土内	長 幅 重	(3.4) 0.5 5.2				断面円形で直角方向に何らかのものが装着さ れた痕跡を見せる。紡錘車の軸か?	

## G区第142号住居跡

調査番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考	
342-1	瓦 男瓦	覆土内 %残存	厚	2.2	黒色粒子 赤褐色粒子	中性焰	灰白	半截作り。両面粘土板割ぎ取り痕。 梵字文字瓦(×記号か(凹部))。	
342-2	瓦 女瓦	覆土内 %残存	厚	2.4	黒・赤褐色粒子 黒色紅物粒子	#	黒褐	一枚作り。凸面平行印き後横削し。	

## 第1節 古墳時代～平安時代

## G区第144号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
344-1	須恵器 坏E1	覆土内 与残存	□ 底高 (12.1) 5.4 4.1	白・黒色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	灰白	口縁部は外反する。轆轤成形(右回転)。	
344-2 128	灰釉陶器 高台付皿	覆土内 与残存	□ 底高 (13.1) 7.3 2.8	美濃系		灰	口縁部は外反する。轆轤成形(右回転)。付高台。底部は回転指無で。旋軸手法は浸損。	
344-3 128	灰釉陶器 高台付皿	覆土内 ほぼ完形	□ 底高 12.5 6.7 2.9	#		#	体部から脈ろを持ち口唇部に至る。轆轤成形(右回転)。付高台。	
344-4	灰釉陶器 壺	覆土内 底部残存	□ 底高 — 8.2 2.6	#		灰白	口縁部は欠損する。轆轤成形(右回転)。付高台。	
344-5	灰釉陶器 壺	覆土内 破片	□ 底高 — (18.0) (6.7)	#		#	紐作り後轆轤成形。	

## H区第10号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
348-1 128	土師器 坏A	覆土内 ほぼ完形	□ 底高 11.4 — 3.8	赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙 黒濁	口縁部は肥厚して内湾する。体部・底部は篋削り。口縁部・器内面は横撫で。	
348-2 128	土師器 坏AⅡ	覆土内 与残存	□ 底高 13.3 — 4.0	#	#	橙	口縁部は直立する。体部・底部は篋削り。口縁部・器内面は横撫で。	
348-3 128	土師器 坏AⅡ	覆土内 完形	□ 底高 12.6 — 4.6	#	#	橙 黒濁	口縁部は直立する。体部・底部は篋削り。口縁部・器内面は横撫で。	
348-4 128	土師器 坏AⅡ	覆土内 破片	□ 底高 (12.8) — (3.2)	黒色鉱物粒子	#	橙 黄橙	口縁部は直立する。体部は篋削り。口縁部・器内面は横撫で。	
348-5	土師器 坏AⅡ	覆り方内 与残存	□ 底高 — (3.4)	黒・赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	#	暗灰黄	口縁部は欠損する。体部・底部は篋削り。口縁部・器内面は横撫で。	
348-6 128	土師器 坏AⅠ	覆土内 与残存	□ 底高 (12.5) — 4.4	黒色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	橙 浅黄	口縁部は外傾する。体部・底部は篋削り。口縁部・器内面は横撫で。	
348-7 128	土師器 鉢	覆土内 完形	□ 底高 12.2 — 8.2	黒・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	#	浅黄橙 黒	口縁部は外反する。紐作り。外面割部は篋削り。口縁部は横撫で。内面割部は篋削り。	
348-8	土師器 小形壺	覆土内 破片	□ 底高 (10.0) — (3.5)	黒色粒子 赤褐色粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面割部は篋削り。口縁部は横撫で。内面割部は篋削り。	306-2と同じ体か。
348-9	土師器 壺	覆土内 底部残存	□ 底高 — (8.5)	白・黒色粒子 白・黒色鉱物粒子	中性焰	淡黄 オリブ 黒	紐作り成形。外面割部は磨削の為不明瞭。	
348-10 128	土師器 壺AⅡ	覆土内 ほぼ完形	□ 底高 20.9 — 4.9 35.0	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	黄 暗灰黄	口縁部は外反する。紐作り。外面割部は篋削り。口縁部は横撫で。内面割部は篋削り。	外面一部に炭化物付着
348-11 128	土師器 壺	覆土内 底部残存	□ 底高 — (7.5)	白・赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	にぶい 黄橙	紐作り成形。外面割部・底部は篋削り。底部に棒状工具で、突き刺したような穴が6ヶ所。	
348-12 129	須恵器 壺	覆土内 破片	□ 底高 — (8.3)	白・黒色粒子 赤褐色粒子	中性焰	白灰	紐作り後轆轤成形。外面張き目あり。	

## G区(144号住居跡) H区(10・13・14・15号住居跡)

348-13	須恵器 壺	覆土内 破片	口 底 高	— — —	白・黒色粒子 赤褐色粒子	還元焰 灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面兎具は青銅紋)後磨削内整形。	
349-1 128	石器 砥石	覆土内 完形	長 幅 厚	14.6 7.4 4.8	輝石安山岩 (粗粒)		敲きによる割傷が多く不定形。	重 691.6
349-2 128	石器 鹿角石	覆土内 完形	長 幅 厚	14.0 6.1 4.2	〃		断面三角形を呈す不定形な石。全体磨耗している。両端部に打痕あり。	重 514.9

## H区第13号住居跡

調査番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
351-1	須恵器 坏E I	覆土内 破片	口 底 高	(12.0) — (3.5)	白色粒子 黒色粒子	還元焰	オリーブ灰白	轆轤整形。口縁部はやや外傾する。 内面自然輪がみられる。	
351-2 129	灰輪陶器 高台付皿	覆土内 残存	口 底 高	13.9 8.5 2.7	美濃系		灰白 オリーブ灰	口縁部は外傾する。轆轤成形(右回転)。付高台。撫軸手法は浸漬。	
351-3	須恵系 羽釜B	覆土内 破片	口 底 高	(19.9) — (8.7)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。罫は貼り付け。	

## H区第14号住居跡

調査番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考		
353-1 129	土師器 坏A	覆土内 ほぼ完形	口 底 高	12.8 — 4.2	赤褐色粒子	酸化焰	橙 灰褐	口縁部は内傾する。体部・底部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。体部と口縁部の境に接あり。		
353-2 129	土師器 坏A I	ピット内 ほぼ完形	口 底 高	12.4 — 4.6	〃	〃	橙	口縁部は外反する。体部・底部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。体部と口縁部の境に接あり。		
353-3 129	土師器 坏A II	覆土内 ほぼ完形	口 底 高	15.1 — 4.1	黒色粒子	〃	〃	橙 黒褐	口縁部は外傾する。体部・底部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。体部と口縁部の境に接あり。	内面に炭化物若干付着
353-4 129	土師器 坏A II	覆土内 ほぼ完形	口 底 高	14.5 — 5.1	赤褐色粒子	〃	〃	橙	口縁部は外反する。体部・底部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	
353-5 129	土師器 甕	覆土内 片残存	口 底 高	22.3 (10.0) 31.0	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	〃	〃	〃	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で。内面胴部は指撫で。	直径0.8cmの穿孔2ヶ所。
353-6 129	石器 磨盤石	覆土内 ほぼ完形	長 幅 厚	(13.7) 7.4 4.7	石英閃緑岩				断面三角形を呈する。全体磨耗している。側面に打痕あり。又、上端部は敲きによる割傷。	重 888.8
353-7 129	石器 磨盤石	覆土内 完形	長 幅 厚	14.7 6.8 4.1	輝石安山岩 (粗粒)				やや扁平で、全体に磨耗している。右側面に敲打痕あり。	重 592.4
353-8 129	石器 磨盤石	覆土内 完形	長 幅 厚	13.4 6.2 4.0	石英斑岩				全体磨耗しているが、深い割傷が多い。敲き石としても使用と思われる。	重 509.0

## H区第15号住居跡

調査番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
356-1 129	土師器 坏C I	覆土内 破片	口 底 高	(13.0) — (3.3)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部はやや内傾する。体部・底部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。又、指撫王痕あり。	
356-2	土師器 壺	覆土内 破片	口 底 高	(11.4) — (6.5)	黒色粒子 赤褐色粒子	〃	〃	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で。内面胴部は篋撫で。	348-8と同一個体か。

第1節 古墳時代～平安時代

356-3	土師器 壺AIV	カマド内 破片	口底高 — (19.8) — (12.0)	白・赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は寛削り、口縁部は横無で、内面胴部は寛無で。	
356-4	土師器 壺	カマド内 破片	口底高 — (5.3) — (12.5)	白・黒色粒子 黒色鉱物粒子	#	#	紐作り成形。外面胴部は寛削り。内面胴部は寛無で。	
356-5	土師器 壺	覆土内 破片	口底高 (22.0) — (6.8)	#	#	#	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は寛削り、口縁部は横無で、内面胴部は寛無で。	

H区第16号住居跡

検出番号 四角番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
357-1 130	土師器 坏AII	覆土内 完形	口底高 10.5 — 3.5	赤褐色粒子 黒色粒子	酸化焰	橙	口縁部は外傾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横無で。	
357-2 130	土師器 坏BII	覆土内 ほぼ完形	口底高 10.6 — 3.3	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	#	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横無で。	
357-3 130	土師器 坏BIII	カマド内 ほぼ完形	口底高 11.3 — 3.5	#	#	#	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横無で。	
357-4 130	土師器 坏BII	覆土内 片残存	口底高 (11.5) — 3.4	#	#	#	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横無で。	
358-1	土師器 坏BII	覆土内 ほぼ完形	口底高 12.9 — 3.9	#	#	#	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横無で。	
358-2	土師器 壺	覆土内 片残存	口底高 (19.0) — 7.6	赤褐色粒子	#	#	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横無で。	
358-3	土師器 壺	覆土内 片残存	口底高 (17.0) — 6.1	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	#	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横無で。	
358-4 130	須恵器 坏C	覆土内 ほぼ完形	口底高 9.1 — 4.1 — 4.5	白色粒子	還元焰	灰	口縁部はやや内湾する。轆轤整形(右回転)。底部は回転寛削り後、寛調整。	
358-5	須恵器 付付鉢	覆土内 全部残存	口底高 (19.0) — (4.1)	白色粒子 黒色粒子	#	#	紐作り後轆轤整形。底部端部に一条の沈線を通らす。	
358-6	須恵器 付付鉢	覆土内 全部残存	口底高 (18.0) — (6.6)	#	中性焰	灰白	紐作り後轆轤整形。底部端部に1条の沈線を通らす。	
358-7 130	須恵器 高坏	覆土内 ほぼ完形	口底高 12.9 — 12.3 — 13.0	黒色鉱物粒子	還元焰	#	轆轤整形。胴、裾部は広く開き、端部はふいばをなして下方に折り曲げる。	器内・外面に炭化物付着。
358-8 130	土師器 壺	覆土内 破片	口底高 (18.2) — (6.6)	黒・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は寛削り、口縁部は横無で、内面胴部は寛無で。	
358-9	須恵器 壺	覆土内 破片	口底高 (24.0) — (5.6)	黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰 オリーブ 黒	紐作り後轆轤整形。内面胴上部に寛削り又は灰。	
358-10 130	土師器 壺	覆土内 ほぼ完形	口底高 16.4 — 4.0 — 17.4	赤褐色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	紐作り成形。外面胴部は寛削り、口縁部は横無で、内面胴部は寛無で。	
359-1 129	須恵器 壺	覆土内 破片	口底高 — —	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)後轆轤再整形。	



## H区 (16・17・18・19号住居跡)

359-2	須恵器 壺	覆土内 破片	口底高 — —	— —	白色粒子 黒色粒子	中性焰	暗灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は 青海波文) 後継継再整形。	
359-3 129	須恵器 埴	覆土内 口縁欠損	口底高 — (19.8)	— —	黒色粒子	還元焰	灰オリーブ 灰	口縁部は成形時に胴中央部に接合。胴部は極 き目整形を施す。底部は丸底を呈す。	胴～胴部にか けて自然焼。
359-4 130	石 碁	覆土内 完形	長幅厚 13.1 7.3 3.7	— —	輝石安山岩 (粗粒)			全体磨耗しているが、側縁部に敲きによる割 離あり。	重 593.1

## H区第17号住居跡

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
360-1 130	須恵器 坏E II	覆土内 片残存	口底高 (14.0) (6.2) 4.1	白色粒子	還元焰	暗緑灰	口縁部は外反する。継継整形(右回転)。	
360-2 130	須恵器 高台付皿	覆土内 片残存	口底高 14.1 7.3 2.6	〃	中性焰	灰白 暗灰黄	口縁部は広く外傾する。 継継整形(右回転)。付高台。	
360-3	土師器 壺C II	カマド内 片残存	口底高 (19.0) — (22.5)	白・赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り。外面胴部は篋削 り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	
361-1	瓦 男瓦	カマド内 掘り方	厚 2.3	白・黒色粒子 赤褐色粒子	中性焰	にぶい 黄橙	横骨痕が認められる。凸面叩き後擦消して いる。 瓦描き文字瓦、文字不明(凸面)。	破片

## H区第18号住居跡

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
363-1 130	土師器 坏B III	カマド内 片残存	口底高 (14.1) — (3.5)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は内湾する。体部は篋削り、口縁部・ 器内面は横撫で。	
363-2	土師器 坏B IV	覆土内 片残存	口底高 13.1 — 3.9	〃	〃	〃	口縁部は内湾する。体部・底部は篋削り、口 縁部・器内面は横撫で。	
363-3 130	土師器 壺	覆土内 破片	口底高 (15.1) — (11.7)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	〃	〃	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削 り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	
363-4	土師器 壺	覆土内 破片	口底高 — (6.0) —	白・赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	〃	にぶい 橙	紐作り成形。外面底部・胴部は篋削り。内面 胴部は篋撫で。底部は平底。	
363-5 130	須恵器 壺	覆土内 破片	口底高 (23.4) (7.6)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰 褐灰	紐作り。叩き整形(外面成形長棒叩き・内面 宛具は青海波文)。	
363-6 130	石製品 碁	覆土内 小口欠損	長幅厚 (13.7) 5.5 3.7	流紋岩 (砥沢?)			平面糸巻状。奥小口に自然面がみられる。左 側面・右側面にノミの調整痕あり。	重 392.2 手持碁石

## H区第19号住居跡

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
365-1	須恵器 坏E II	覆土内 片残存	口底高 (13.9) (7.5) 3.4	黒色粒子	中性焰	灰黄 灰	口縁部は外反する。継継整形(右回転)。	
365-2	須恵器 埴	覆土内 片残存	口底高 (16.0) 7.4 6.8	白色粒子	〃	〃	口縁部は外反する。継継整形(右回転)。底部 は篋調整。付高台。	

第1節 古墳時代～平安時代

365-3	須恵器 蓋	覆土内 瓦残存	□ 口高 底高 (17.9) 3.2 3.5	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	口縁部は下方に折り返す。轆轤整形(右回転)。上半部は回転削り。胴部は貼り付け。	
365-4	土師器 壺	覆土内 破片	□ 口高 底高 (4.4) (8.7)	白・黒色粒子	中性焰	黄褐色	紐作り成形。外面底部・胴部は削り。内面胴部は削り調整。	
365-5 130	灰輪陶器 双耳壺	覆土内 破片	□ 口高 底高 — —	美濃系		暗オリーブ灰	紐作り後轆轤整形。把手部は貼付した後に穿孔し、その後削り調整を行っている。	把手部
365-6 130	瓦 字瓦	覆土内 破片		白・黒色粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰		

H区第20号住居跡

棟四番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	目度(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
367-1	須恵器 碗C II	カマド内 瓦残存	□ 口高 底高 11.6 6.6 4.7	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	浅黄緑 灰	口縁部は外反する。体部の一部に轆轤直? 轆轤整形(右回転)。付高台。	
367-2	須恵器 碗	貯蔵穴内 瓦残存	□ 口高 底高 (15.8) (4.4)	#	#	浅黄 オリーブ 黄	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
367-3	須恵器 碗	覆土内 破片	□ 口高 底高 (6.4) (3.1)	白・黒色粒子 黒色鉱物粒子	#	浅黄 灰	口縁部は欠損する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
367-4 131	須恵器 高台付皿	覆土内 完形	□ 口高 底高 12.4 7.1 2.7	黒色粒子	#	灰 灰黄	口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
367-5	土師器 壺	覆土内 破片	□ 口高 底高 (3.9) (15.3)	白・黒色粒子 赤褐色粒子	酸化焰	にぶい 黄褐色	紐作り成形。外面底部・胴部削り。内面胴部は削り調整。	
367-6 131	須恵器 壺	覆土内 破片	□ 口高 底高 (15.0) (15.0)	白色粒子 黒色粒子	還元焰	暗灰	紐作り後、轆轤整形。	
367-7 131	鉄器 不明	覆土内	長 軸長 幅 (7.1) 0.5 19.4				断面方形で先端部欠損。基部は環状に曲げられている。	209-2に近似
367-8 131	鉄器 不明	覆土内	長 軸長 幅 6.2 2.0 20.1				6.2×2.0cm、厚2mmの長方形の板に2本の断面方形の棒状のものが装着。	

H区第21号住居跡

棟四番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	目度(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
368-1	須恵器 杯E II	覆土内 瓦残存	□ 口高 底高 (12.0) (5.5) 3.7	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	にぶい 黄褐色	口縁部は外反する。轆轤整形。内部に炭化物付着。	
368-2	須恵器 碗	カマド内 破片	□ 口高 底高 (12.9) (4.2)	白・黒色粒子 黒色鉱物粒子	#	灰	口縁部は外傾する。轆轤整形。	
368-3	須恵器 蓋	覆土内 瓦残存	□ 口高 底高 (19.9) — (3.1)	#	#	にぶい 黄褐色	口縁部は下方に折り返す。轆轤整形(右回転)。上半部は回転削り。胴部は欠損する。	

## H区第22号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
369-1 131	須恵器 坏EⅢ	覆土内 破片	口 底 高 (12.2) (5.9) 3.5	赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	橙 浅黄橙	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
369-2	須恵器 坏EⅠ	掘り方内 片残存	口 底 高 (12.4) (6.0) 3.6	白色粒子 黒色粒子	"	白灰 淡黄	口縁部は外反する。体部はやや中根を持つ。轆轤整形(右回転)。	
369-3 131	須恵器 坏DIV	掘り方内 破片	口 底 高 (12.9) (7.9) 3.2	黒色鉱物粒子	"	灰白 灰	口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。	
369-4	須恵器 坏EⅢ	覆土内 片残存	口 底 高 (13.0) (6.4) 3.9	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部はやや外反する。轆轤整形(右回転)。	
369-5 131	須恵器 坏EⅢ	覆土内 ほぼ完形	口 底 高 12.2 5.7 3.3	白色粒子	中性焰	黒褐	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。 器内・外面を収炭させている。	
369-6	須恵器 坏EⅢ	掘り方内 片残存	口 底 高 (12.4) (6.0) (3.5)	"	"	褐灰	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
369-7	須恵器 埴CⅠ	覆土内 片残存	口 底 高 (13.4) (6.9) 4.5	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	"	灰	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
369-8	須恵器 埴CⅠ	掘り方内 片残存	口 底 高 12.6 6.2 4.9	白色粒子 白色鉱物粒子	"	灰 暗灰黄	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。底部は磨で調整。器内・外面を収炭させている。	
370-1	須恵器 埴CⅡ	覆土内 ほぼ完形	口 底 高 12.4 6.2 4.4	白色粒子 黒色粒子	"	浅黄橙 暗灰	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
370-2 131	須恵器 埴CⅡ	覆土内 ほぼ完形	口 底 高 13.0 6.1 4.4	白色粒子	"	灰白	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
370-3	須恵器 埴CⅡ	覆土内 ほぼ完形	口 底 高 13.1 6.1 5.2	"	"	赤灰 にぶい 橙	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
370-4 131	須恵器 埴CⅡ	掘り方内 片残存	口 底 高 13.7 6.6 5.0	白色粒子 赤褐色粒子	"	にぶい 橙	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
370-5	須恵器 埴CⅡ	覆土内 ほぼ完形	口 底 高 12.8 6.2 5.3	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	"	浅黄橙 灰	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。底部は轆轤を用いて調整している。	
370-6	黒色土器 埴	覆土内 片残存	口 底 高 (4.2) — (4.2)	赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	黒 橙	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。内面はみがきによる調整後、収炭している。	高台部欠損
370-7	須恵器 壺	覆土内 片残存	口 底 高 — (10.5) (19.8)	黒色粒子 赤褐色粒子	"	黒褐 橙	紐作り後轆轤整形。外面器部付近は厚肉。内面胴部は無で。	
370-8	須恵系 羽釜C	覆土内 破片	口 底 高 (16.4) — (7.4)	白・黒色粒子 赤褐色粒子	中性焰	にぶい 黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。踵は貼り付け。	
370-9 131	須恵系 羽釜B	覆土内 破片	口 底 高 19.2 — (26.6)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	"	黄橙 黒褐	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。踵は貼り付け。	
371-1	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	黒色粒子 黒色鉱物粒子	"	灰白	一枚作り。凹面粘土板割が取り痕あり。凸面斜格子叩き。	
371-2	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	黒色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凹面に粘土板割が取り痕あり。又布目の磨消し。凸面米格子叩き。	

第1節 古墳時代～平安時代

371-3 131	鉄器 不明	掘り方内 破片	長幅 重 (5.3) 0.7 13.4				断面長方形で両端欠損。	
--------------	----------	------------	---------------------------------	--	--	--	-------------	--

H区第23号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
373-1	須恵器 环E I	カマド内 瓦残存	口 底 高 (12.1) (6.6) 3.2	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	口縁部は外反する。轆轤整形。	
373-2	須恵器 环E I	覆土内 瓦残存	口 底 高 (12.5) (7.1) 3.3	〃	〃	灰白	口縁部は外反する。轆轤整形。	
373-3	土師器 壺C II	覆土内 破片	口 底 高 (17.9) (7.4)	赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内面胴部は寛撫で。	
373-4	土師器 壺	掘り方内 破片	口 底 高 — (3.0) (10.8)	白色粒子 黒色粒子	〃	黒褐色	紐作り成形。外面底部・胴部は寛削り。内面胴部は寛撫で。	

H区第24号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
374-1	土師器 环A I	覆土内 破片	口 底 高 (11.3) — (3.1)	白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外傾する。体部は寛削り。口縁部・器内面は横撫で。	
374-2	土師器 环E	覆土内 完形	口 底 高 12.0 6.0 3.8	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	〃	〃	口縁部はやや内傾する。外面胴部は粗い寛削り。内面口縁部は指調整後、撫で。体部は寛調整。	(手取)
374-3	須恵器 环D V	覆土内 瓦残存	口 底 高 (12.7) (6.5) 4.2	白・黒色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	淡黄 黄	口縁部は外傾する。轆轤整形。内面に炭化物付着。	

H区第26号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
377-1 131	土師器 环A II	覆土内 瓦残存	口 底 高 (11.0) — (4.5)	白色粒子 黒色粒子	酸化焰	橙	口縁部は外傾する。体部は寛削り。口縁部・器内面は横撫で。	
377-2 131	土師器 环B IV	覆土内 瓦残存	口 底 高 12.2 — 3.4	白色粒子	中性焰	〃	口縁部はやや外反する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
377-3 131	土師器 环B IV	覆土内 瓦残存	口 底 高 11.8 — 3.3	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	〃	口縁部はやや内湾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
377-4 131	土師器 环B I	覆土内 完形	口 底 高 14.0 — 4.5	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	〃	〃	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
377-5	土師器 环B II	覆土内 瓦残存	口 底 高 10.8 — 3.4	白色粒子 黒色鉱物粒子	〃	〃	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
377-6 131	土師器 环B IV	覆土内 完形	口 底 高 11.5 — 3.7	白色粒子 黒色粒子	〃	〃	口縁部はやや内傾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
377-7 131	土師器 环B IV	覆土内 完形	口 底 高 11.0 — 3.6	〃	〃	〃	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	

## H区(23・24・26・27号住居跡)

377-8	土 師 器 環BIV	覆土内 瓦残存	口 底高 — (4.1)	11.99 — (4.1)	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
377-9	土 師 器 環	覆土内 瓦残存	口 底高 — (3.5)	(12.2) — (3.5)	黒色粒子 黒色鉱物粒子	#	#	口縁部はやや内傾する。体部・底部とも磨滅の為、不明瞭。口縁部・器内面は横撫で。	
377-10	土 師 器 環	覆土内 破片	口 底高 — (5.9)	(19.9) — (5.9)	白色粒子 黒色鉱物粒子	#	#	口縁部はやや外反する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
377-11 131	須 恵 器 環 A	覆土内 ほぼ完形	口 底高 — 3.2	10.2 — 3.2	白色粒子	還元焰	灰白	轆轤整形(右回転)。底部回転痕削り。口唇部内側にかえりがあり内傾している。	
377-12	土 師 器 葉	覆土内 破片	口 底高 — (6.0)	(17.1) — (6.0)	白色粒子 黒色粒子	中性焰	灰黄 黒	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内面胴部は磨滅で。	
377-13	土 師 器 葉AII	覆土内 破片	口 底高 — (3.5)	(19.0) — (3.5)	黒色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	にぶい 黄橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内面胴部は磨滅で。	
377-14	土 師 器 葉A I	覆土内 破片	口 底高 — 8.3	(22.4) — 8.3	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	浅黄橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内面胴部は磨滅で。	
378-1	土 師 器 葉AIII	覆土内 瓦残存	口 底高 — (18.4)	18.2 — (18.4)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	黄 黒褐	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内面胴部は磨滅で。	
378-2 132	石 器 黒編み石	覆土内 完形	長 幅厚 — 4.2	14.1 7.0 4.2	石英閃緑岩			断面三角形を呈し、先細りの石。全体磨耗しているが特に一面顕著。磨石としての利用か。	重 626.3
378-3 132	石 器 黒編み石	覆土内 完形	長 幅厚 — 6.6	15.5 7.9 6.6	溶結凝灰岩			厚みのある大きな石。全体磨耗している。端部に敲打痕あり。	重 1116.5
378-4 132	石 器 黒編み石	覆土内 完形	長 幅厚 — 4.9	10.9 8.0 4.9	輝石安山岩			全体磨耗している。側面に面を有する。端部に敲打痕あり。	重 667.9
378-5 132	石 器 黒編み石	覆土内 完形	長 幅厚 — 4.5	11.5 7.5 4.5	#			断面五子状。表面に敲打痕あり。	重 560.4
378-6 132	石 器 黒編み石	覆土内 完形	長 幅厚 — 2.6	11.5 6.5 2.6	#			扁平な石。全体磨耗している。一部敲きによる割傷あり。	重 373.1
378-7 132	石 器 黒編み石	覆土内 完形	長 幅厚 — 4.5	13.0 6.2 4.5	#			全体磨耗している。不定形な石。敲きによる割傷あり。	重 512.6

## H区第27号住居跡

縄文番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考	
379-1	須 恵 器 埴 C I	覆土内 瓦残存	口 底高 — 4.4	12.1 6.0 4.4	白色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	橙 灰白	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
379-2	須 恵 器 埴 C I	貯蔵穴内 瓦残存	口 底高 — 4.9	(12.5) 6.6 4.9	#	#	灰白	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
379-3	須 恵 器 埴 C II	カマド内 瓦残存	口 底高 — 4.8	(12.2) (5.9) 4.8	#	#	浅黄 黒褐	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
379-4	須 恵 器 埴 C I	覆土内 瓦残存	口 底高 — 4.9	(13.0) (6.5) 4.9	白色粒子 黒色粒子	#	浅黄 灰	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
379-5 132	須 恵 器 埴 C II	覆土内 ほぼ完形	口 底高 — 4.8	13.5 6.4 4.8	#	#	灰黄	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。	

第1節 古墳時代～平安時代

379-6 132	須恵器 埴CⅡ	貯藏6内 完形	口底高 — 12.9 5.9 5.1	白色粒子 黒色粒子	中性焰	橙 黒褐色	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。器内・外面灰化物付着。	
379-7	須恵器 埴CⅠ	カマド内 5%残存	口底高 13.5 7.2 5.0	#	#	橙 褐色	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
379-8	須恵器 埴CⅠ	覆土内 ほぼ完形	口底高 13.2 7.2 5.0	黒色鉱物粒子	#	にぶい 橙 浅黄	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
379-9	須恵器 埴CⅡ	カマド内 5%残存	口底高 15.1 — (4.3)	白色粒子 黒色鉱物粒子	#	明黄褐色 黒褐色	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
380-1 132	土師質 埴E	カマド内 ほぼ完形	口底高 14.7 7.8 6.6	白色粒子 黒色粒子	#	橙	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。底部は削で調整。	
380-2 132	灰釉陶器 三足段皿	掘り方内 破片	口底高 (11.0) — 2.3	美濃系		灰	轆轤成形。足部は貼付。	
380-3	土師器 埴CⅣ	カマド内 破片	口底高 (20.3) — (7.1)	白色粒子 赤褐色粒子	中性焰	にぶい 赤褐色	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は彫削り、口縁部は横削で、内面胴部は掘削で。	
380-4 132	鉄器 刀子	覆土内	長さ (11.6) 9.6 15.2				断面三角形で基部欠損。	
380-5	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	灰	一枚作り。凸面粘土板取りぎ取り痕あり。彫削き文字瓦 文字不明(凸面)。	
380-6	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.3	黒色粒子 赤褐色粒子	#	にぶい 橙 黄灰	一枚作り。凹面粘土板取りぎ取り痕あり。	

H区第28号住居跡

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
381-1	灰釉陶器 埴	覆土内 5%残存	口底高 (13.2) (6.5) 4.2	美濃系		灰	口縁部は外傾する。轆轤成形(右回転)。付高台。	
381-2	須恵系 羽釜C	覆土内 破片	口底高 (22.2) — (9.5)	白・黒色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	灰黄褐色	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。胴は貼り付け。外面胴上部掘削り。	

H区第29号住居跡

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
383-1	須恵器 埴EⅠ	覆土内 5%残存	口底高 (12.4) (6.8) 3.7	白・黒色粒子 赤褐色粒子	中性焰	暗灰黄	口縁部は外反する。轆轤整形。	
383-2	須恵器 埴	覆土内 破片	口底高 — (7.6) (4.0)	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	口縁部は欠損する。轆轤整形。	
383-3 132	須恵器 黄	カマド内 5%残存	口底高 19.7 — (3.9)	白色粒子 赤褐色粒子	中性焰	浅黄 黄灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤整形(右回転)。上半部は回転削削り。胴部は貼り付け。	欠損欠
383-4 132	鉄器 不明	覆土内	長さ 12.8 9.8 248.2				片側脚部が欠損。最大幅が刃部であるとすれば鋸・鍔の類か?	厚 0.4

## H区第32号住居跡

探出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
385-1 132	須恵器 坏DV	覆土内 ㊄残存	□ 底高 13.0 7.8 3.4	赤褐色粒子	中性焰	灰	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
385-2 132	須恵器 坏DV	覆土内 ㊄残存	□ 底高 13.7 6.5 3.9	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	#	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
385-3	須恵器 坏DIV	覆土内 ㊄残存	□ 底高 (12.4) (7.5) 3.8	黒色粒子	#	灰 灰白	口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。	
385-4	須恵器 坏C1	覆土内 ㊄残存	□ 底高 (14.0) (6.6) 5.4	黒色粒子 赤褐色粒子	#	にぶい 黄橙	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
385-5 132	須恵器 坏	覆土内 破片	□ 底高 — (6.8) (2.3)	白色粒子 黒色粒子	#	#	口縁部は欠損する。轆轤整形(右回転)。付高台。内面底部に異物付着。	
385-6	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白・黒色粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰	凹面に粘土板割ぎ取り痕あり。 凸面に砂が多量に付着。	
385-7 132	鉄器 不明	覆土内	長 幅 重 (3.5) 0.4 3.7				断面方形で基部欠損。	
385-8 133	石製品 臼玉	覆土内 ほぼ完形	幅 長さ 重 1.2 0.5 1.1	滑石			上・下面に研ぎ痕あり。穿孔は丁寧。	孔 0.2

## H区第33号址

探出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
387-1 133	土師器 坏BIII	覆土内 ㊄残存	□ 底高 10.1 — 2.8	白色粒子 黒色粒子	酸化焰	橙	口縁部は内湾する。体部・底部は鋭削り、口縁部・器内面は横撫で。	
387-2	土師器 坏BIV	覆土内 ㊄残存	□ 底高 (11.7) — 3.5	黒色鉱物粒子	#	#	口縁部は内湾する。体部・底部は鋭削り、口縁部・器内面は横撫で。	
387-3	土師器 坏BIII	覆土内 ㊄残存	□ 底高 12.4 — (2.7)	白色粒子 黒色鉱物粒子	#	#	口縁部は内湾する。体部は鋭削り、口縁部・器内面は横撫で。	
387-4 133	土師器 坏BII	覆土内 ㊄残存	□ 底高 (12.8) — (4.2)	黒色鉱物粒子	#	#	口縁部は内湾する。体部・底部は鋭削り、口縁部・器内面は横撫で。	
387-5 133	土師器 坏	覆土内 ㊄残存	□ 底高 12.1 — 2.8	#	#	#	口縁部は内湾する。体部・底部は鋭削り、口縁部・器内面は横撫で。	
387-6 133	土師器 坏	ビット内 ほぼ完形	□ 底高 12.7 8.1 4.0	白色粒子 黒色粒子	中性焰	にぶい 黄橙	口縁部は外反する。体部・底部は鋭削り、口縁部・器内面は横撫で後増文を施す。	
387-7	土師器 坏	覆土内 ㊄残存	□ 底高 (14.2) — (3.8)	黒色粒子 赤褐色粒子	#	にぶい 橙	口縁部は外傾する。外面体部磨滅の為不明瞭。口縁部・器内面は横撫で後増文を施す。	
387-8	土師器 坏	覆土内 ㊄残存	□ 底高 (13.6) — (3.3)	白・黒色粒子 赤褐色粒子	酸化焰	橙	口縁部は外傾する。体部は鋭削り、口縁部・器内面は横撫で後増文を施す。	
387-9	土師器 皿	覆土内 ㊄残存	□ 底高 (16.8) — (3.6)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	にぶい 橙	口縁部は外反する。体部・底部は鋭削り、口縁部・器内面は横撫で。	

第1節 古墳時代～平安時代

387-10 133	土師器 壺	甕土内 %残存	口 底高 (18.8) 4.8	白色粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	橙	口縁部は内湾する。体部・底部は筒形、口縁部・甕内面は横溝で。	
387-11	土師器 壺	甕土内 %残存	口 底高 (18.8) (3.9)	#	#	#	口縁部は内湾する。体部・底部は筒形、口縁部・甕内面は横溝で。	
387-12	須恵器 坏DII	甕土内 %残存	口 底高 (12.4) 7.2 3.6	白色粒子 黒色粒子	還元焰	オリーブ 黒	口縁部は外傾する。縦溝整形(右回転)。底部は回転突起し。	
387-13 133	須恵器 坏DIV	甕土内 %残存	口 底高 12.8 7.6 3.6	白色粒子 黒色鉱物粒子	#	灰	口縁部は外傾する。縦溝整形(右回転)。	
387-14 133	須恵器 坏DIV	甕土内 %残存	口 底高 12.6 7.6 4.0	黒色粒子	中性焰	灰白	口縁部は外反する。縦溝整形(右回転)。	
387-15 133	須恵器 坏DIV	甕土内 %残存	口 底高 (15.2) 6.7 3.9	白色粒子 黒色粒子	#	#	口縁部は外反する。縦溝整形(右回転)。	
387-16	須恵器 坏DII	甕土内 %残存	口 底高 (11.9) 6.8 3.9	黒色粒子	#	#	口縁部は外傾する。縦溝整形(右回転)。底部回転突起し。	
387-17	須恵器 坏DII	甕土内 %残存	口 底高 (12.9) 6.9 4.0	#	#	灰 灰白	口縁部は外反する。縦溝整形(右回転)。底部回転突起し。	
387-18	須恵器 坏DI	張り方内 ビット	口 底高 (13.5) 7.9 4.2	黒色粒子 赤褐色粒子	中性焰	灰白 灰	口縁部は外傾する。縦溝整形(右回転)。底部回転突起し。	%残存
387-19	須恵器 坏DIV	甕土内 %残存	口 底高 (12.8) 5.8 4.5	白色粒子 赤褐色粒子	#	橙 灰白	口縁部は外反する。縦溝整形(右回転)。	
387-20	須恵器 坏DIV	甕土内 %残存	口 底高 (13.1) (7.6) (3.5)	黒色粒子	還元焰	灰	口縁部は外反する。縦溝整形(右回転)。	
388-1	須恵器 坏DIV	甕土内 %残存	口 底高 12.3 7.0 4.2	#	中性焰	灰白	口縁部は外傾する。縦溝整形(右回転)。	
388-2 133	須恵器 坏DIV	ビット内 %残存	口 底高 12.5 (7.5) 3.8	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	口縁部は外傾する。縦溝整形。	
388-3 133	須恵器 坏DI	甕土内 %残存	口 底高 13.0 7.4 4.3	#	#	灰白	口縁部は外傾する。縦溝整形(右回転)。	
388-4 133	須恵器 坏EI	野島穴内 %残存	口 底高 12.7 5.7 3.8	#	中性焰	#	口縁部は外反する。縦溝整形(左回転)。	
388-5 133	須恵器 坏EI	甕土内 %残存	口 底高 13.8 8.0 3.1	黒色粒子	還元焰	明オリ ープ灰	口縁部は外反する。縦溝整形(右回転)。	
388-6	須恵器 壺	甕土内 %残存	口 底高 — (4.8)	黒色粒子 黒色鉱物粒子	#	灰	紐作り後縦溝整形。付高台。	
388-7	須恵器 高坏	甕土内 %残存	口 底高 — —	黒色粒子 白色鉱物粒子	#	#	縦溝整形。胴部を鋭角な工具で上下に長方形に切って、通しを作っている。	
388-8 133	須恵器 蓋	甕土内 %残存	口 底高 9.6 1.5 3.3	白色粒子	#	灰 暗緑灰	口唇部は下方に折り返す。縦溝整形(右回転)。上半部は回転突起形。胴部は貼り付け。	宝珠積み。
388-9 133	須恵器 蓋	甕土内 %残存	口 底高 10.9 1.3 3.1	白色粒子 黒色粒子	#	灰白	口唇部は下方に折り返す。縦溝整形(右回転)。上半部は回転突起形。胴部は貼り付け。	宝珠積み。
388-10	須恵器 蓋	甕土内 %残存	口 底高 13.3 3.9 2.9	#	#	#	口唇部は下方に折り返す。縦溝整形(右回転)。上半部は回転突起形。胴部は貼り付け。	



388-11 133	須志 器 蓋	覆土内 与残存	口 径高 (17.6) 3.2 4.0	白色粒子	中性焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤整形(右回転)。上半部は回転置削り。胴部は貼り付け。	
388-12 133	須志 器 蓋	覆土内 与残存	口 径高 13.9 4.1 3.1	黒色粒子	還元焰	#	口唇部は下方に折り返す。轆轤整形(右回転)。上半部は回転置削り。胴部は貼り付け。	
388-13	須志 器 蓋	覆土内 与残存	口 径高 (14.6) (3.3)	白色粒子	#	灰白	口唇部は下方に折り返す。轆轤整形(右回転)。上半部は回転置削り。胴部は欠損する。	
388-14	須志 器 蓋	覆土内 与残存	口 径高 (14.0) (2.5)	白色粒子 黒色粒子	#	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤整形(右回転)。上半部は回転置削り。胴部は欠損する。	
388-15	須志 器 蓋	覆土内 破片	口 径高 (26.5) (2.5)	白色粒子	#	#	轆轤整形。上半部は置削り。	
388-16	土師 器 壺	覆土内 破片	口 径高 (15.8) (3.7)	黒色粒子 赤褐色粒子	中性焰	にぶい 赤褐	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は置削り、口縁部は横削で、内面胴部は置削で。	
388-17	土師 器 壺	覆土内 破片	口 径高 (16.8) (6.0)	白・赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	#	にぶい 橙	「コ」の字状口縁。紐作り。外面胴部は置削り、口縁部は横削で、内面胴部は置削で。	
388-18	土師 器 斐B I	覆土内 破片	口 径高 (18.9) (6.1)	#	酸化焰	#	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は置削り、口縁部は横削で、内面胴部は置削で。	
388-19	土師 器 斐B II	覆土内 破片	口 径高 (18.9) (6.5)	#	#	#	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は置削り、口縁部は横削で、内面胴部は置削で。	
389-1 134	須志 器 壺	覆土内 ほぼ完形	口 径高 22.4 47.8	白・黒色粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は背面波文)後轆轤再整形。	
389-2	須志 器 把手	覆土内 破片	口 径高 — —	白色粒子 赤褐色粒子	中性焰	暗灰	紐作り。自然釉がみられる。	
389-3 134	須志 器 瓶	覆土内 破片	口 径高 — 5.4 (3.9)	白色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形。	
389-4	須志 器 短頸壺	覆土内 破片	口 径高 (8.0) (4.4)	白色粒子 黒色粒子	#	暗灰	紐作り後轆轤整形。口縁部は大きく外反し、口唇部は1本の沈線を巡らす。	外面自然釉 がみられる
389-5	須志 器 小形壺	覆土内 破片	口 径高 — (6.0)	黒色粒子	#	灰白	轆轤整形。	
389-6 134	須志 器 横壺	覆土内 破片	口 径高 — (6.2)	黒色粒子 赤褐色粒子	中性焰	灰	紐作り後轆轤整形。胴部は成形時に胴中央部に接合。胴部は掻き目整形を行なっている。	
389-7	須志 器 長頸壺	覆土内 破片	口 径高 — (5.9)	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形。外面自然釉がみられる。	
389-8	須志 器 壺	覆土内 破片	口 径高 (42.2) —	白・黒色粒子 赤褐色粒子	中性焰	#	紐作り後轆轤整形。胴部より大きく外反して口縁に至る。口唇部は折り返す。	
389-9	須志 器 長頸壺	覆土内 破片	口 径高 — (8.2)	黒色粒子	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形。	
389-10	須志 器 壺	覆土内 破片	口 径高 — (11.8) (7.7)	#	#	灰黄褐	紐作り後轆轤整形。胴部下下部置削り。底部は平底で、回転置削り。	
389-11	須志 器 壺	覆土内 破片	口 径高 (9.9) (8.7)	白色粒子 黒色粒子	#	灰	紐作り後轆轤整形。底部は平底で置調整。胴部下は置削り。自然釉がみられる。	
390-1	瓦 宇瓦	覆土内 破片	残高厚 (7.0) (3.6) 1.5	白・黒色粒子 赤褐色粒子	中性焰	#	瓦当文様は段描きによる菊歯状文。頸は段割。女瓦部は、一枚作り。凸面平行叩き。	

第1節 古墳時代～平安時代

390-2	瓦 宇瓦	覆土内 破片	残幅 高厚 (4.5) 2.4	黒色粒子	還元焰 灰	右扇行唐草め、一枚作り。	
390-3	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.3	#	中性焰 灰白	河面に粘土板割き取り痕あり。 凸面側格子印き。	
390-4 134	土製品 羽口	覆土内 破片		黒色粒子 赤褐色粒子	#	浅黄橙	面にスラグ状に凝化した物が付着している。
390-5	土製品 羽口	覆土内 破片		白色粒子 黒色粒子	#	暗灰 明赤褐	還元した状態がみられる。
390-6 134	石製品 臼	覆土内 完形	長幅厚 1.3 1.3 0.8	磨石		上・下面に研ぎ痕あり。全体割れが多い。穿孔は丁家。	重 2.2 孔 0.3
390-7 134	石器 敲石	覆土内 片残存	長幅厚 (7.3) 6.0 4.1	輝石安山岩 (粗粒)		断面玉子状。ほぼ中央付近から欠損。端部と側面に敲きによる割れあり。	重 225.6
390-8 134	石器 磨石	覆土内 片残存	長幅厚 (9.5) 6.5 5.2	黄質安山岩		断面円形に近く厚みのある石。ほぼ中央付近から欠損。全体磨耗しているが特に表面顕著。	重 485.8
390-9 134	石器 磨石	覆土内 片残存	長幅厚 (9.6) (7.5) 3.8	輝石安山岩 (粗粒)		やや扁平で、ほぼ中央から欠損している。全体に磨耗しているが特に表面顕著。	
390-10 134	石器 磨石	覆土内 完形	長幅厚 12.2 6.2 3.4	#		やや扁平。全体磨耗しているが、表面中央部分特に顕著。又側面に敲きによる凹あり。	重 448.9
390-11 134	石器 磨石	覆土内 完形	長幅厚 (10.0) (5.0) (4.8)	珪質頁岩		自然面は磨耗、先端部に敲打痕あり。又敲きによる割れと思われる部分を砥石として利用。	重 232.7
390-12 134	石器 磨石	覆土内 完形	長幅厚 17.3 8.3 4.0	輝石安山岩 (粗粒)		やや扁平で細長い石。全体磨耗している。一部敲きによる割れあり。	重 805.2
390-13 134	石器 磨石	覆土内 完形	長幅厚 13.2 7.0 3.0	#		割れの為扁平。表面全体磨耗特に中央部は顕著で磨石として利用と思われる。表面割れ。	重 463.1

H区第78号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
391-1 135	土器 環E	覆土内 ほぼ完形	口底高 13.3 — 4.3	黒色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	外面底部は未整形で、面台状の高まりが認められる。又全体にネジッた痕跡が認められる。	器内・外面 炭化物付着
391-2	須恵器 環DII	覆土内 片残存	口底高 12.5 7.5 3.9	赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰白	口縁部はやや外反する。轆轤整形(右回転)。底部は回転足起し。	
391-3 135	石器 敲石	覆土内 一部欠損	長幅厚 (13.4) 5.5 4.6	珪質頁岩			全体に磨耗。側面に面を有し磨石として利用か。両環部に敲打痕あり。節理面割れ。	重 499.3
391-4 135	石器 敲石	覆土内 完形	長幅厚 10.8 6.0 4.0	砂岩			やや扁平な小型の石。全体磨耗しているが、下部面に敲打痕あり。	重 343.2

H区第34号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
392-1	須恵器 甕	覆土内 破片	口底高 (13.8) (12.2)	白色粒子 赤褐色粒子	中性焰	灰白	紐作り後轆轤整形。底部は回転足削り。高台は付高台。	

392-2 135	石器 鹿角石	覆土内 完形	長軸厚 13.4 6.5 3.3	輝石安山岩 (粗粒)			やや扁平な石。全体磨耗している。側面の一部に敲打痕あり。	重 430.0
392-3 135	石器 鹿角石	覆土内 完形	長軸厚 13.3 7.8 3.6	#	#	#	やや扁平な均一のとれた石。全体磨耗している。	重 554.5

## H区第37号住居跡

縄文番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
393-1 135	土師器 坏D I	覆土内 片残存	口 底高 (12.2) — 3.2	黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
393-2	土師器 坏C II	覆土内 片残存	口 底高 (13.1) — (3.1)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	#	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	

## H区第40号住居跡

縄文番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
394-1	須恵器 台付甕	覆土内 破片	口 底高 — (17.9) (4.1)	黒色粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形。底部端部に1条の沈線を返らす。	

## H区第48号住居跡

縄文番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
395-1	灰釉陶器 埴	覆土内 破片	口 底高 (15.9) — (4.1)	美濃系		灰白	轆轤成形。体部に張りを持ちながら、口唇部は外反する。	
395-2	須恵器 埴	覆土内 破片	口 底高 — (8.1) (1.9)	白色粒子	還元焰	灰	轆轤整形(右回転)。付高台。	
395-3	土師器 壺CIV	覆土内 破片	口 底高 (17.9) — (6.0)	黒・赤褐色粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で。内面胴部は横撫で。	
395-4 135	石器 鹿角石	覆土内 完形	長軸厚 14.2 7.0 4.8	溶結凝灰岩			やや長めの三角形の石。全体磨耗している。一部敲きによる凹有り。	重 692.0

## H区第52号住居跡

縄文番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
396-1	土師器 坏A II	掘り方内 片残存	口 底高 (12.2) — (3.2)	白色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	黒褐	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
396-2	土師器 坏A II	覆土内 破片	口 底高 (14.3) — (3.5)	#	#	#	口縁部は外湾する。口縁部・器内面は横撫で。口縁部中位と体部立ち上がりに横を持つ。	

第1節 古墳時代～平安時代

H区第55号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
397-1 135	須恵器 坏E I'	覆土内 ほぼ完形	口 底 高 13.5 7.5 3.9	赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	浅黄緑 灰	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。器内 外面に同形の炭化物付着。	
397-2 135	須恵器 埴C I	覆土内 ほぼ完形	口 底 高 12.2 6.6 4.4	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	灰白 灰	口縁部はやや外反する。轆轤整形(右回転)。 付高台。内面口縁部に炭化物付着。	
397-3	須恵器 埴C I	覆土内 片残存	口 底 高 13.5 6.8 4.6	白色粒子 黒色粒子	#	灰 灰白	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高 台。	
397-4 135	須恵器 埴C II	覆土内 片残存	口 底 高 12.9 6.0 4.9	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	#	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高 台。底部に篋書きあり。	
397-5 135	須恵器 埴C II	覆土内 ほぼ完形	口 底 高 12.9 6.9 4.7	黒色鉱物粒子	#	#	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高 台。底部は轆轤を用い調整。	
398-1 135	須恵器 埴C II	覆土内 ほぼ完形	口 底 高 13.1 6.3 4.6	白色粒子	#	黒 灰	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高 台。器内・外面を炭炭させている。	
398-2 135	須恵器 埴C II	覆土内 完形	口 底 高 13.0 6.4 4.7	赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	#	暗褐 黒	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高 台。器内・外面を炭炭させている。	
398-3	須恵器 埴C II	覆土内 ほぼ完形	口 底 高 14.4 — (4.7)	白色粒子 黒色粒子	#	灰 灰白	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。高台欠損(付高台)。	
398-4	須恵系 羽釜B	掘り方内 破片	(29.4) — (7.2)	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	#	にぶい 黄緑	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。踵は貼り付け。	
398-5 135	須恵系 羽釜B	カマド内 掘り方	(22.8) — (18.0)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	にぶい 黄褐	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。踵は貼り付け。	片残存

H区第56号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
399-1 135	須恵器 坏E I	覆土内 完形	口 底 高 12.3 6.9 3.4	黒色粒子 赤褐色粒子	中性焰	灰 灰白	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。 器内・外面に炭化物付着。	
399-2 135	須恵器 坏E II	覆土内 ほぼ完形	口 底 高 13.2 6.0 3.8	黒色鉱物粒子	#	にぶい 黄 灰白	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
399-3 135	須恵器 埴C I	覆土内 片残存	(13.4) — 5.7 4.6	#	#	にぶい 黄緑 灰	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高 台。体部は膨らみを持つ。	
399-4	須恵器 埴	貯蔵穴内 カマド内 掘り方	(13.1) — (4.9)	赤褐色粒子	#	灰黄 黄緑	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。 底部は欠損。三ヶ所より出土し、接合した。	片残存
400-1 135	須恵器 埴C II	貯蔵穴内 カマド内	(13.7) — 5.7 5.3	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	橙 橙灰	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高 台。貯蔵穴・甕より出土し、接合した。	片残存
400-2 135	須恵器 埴C II	覆土内 片残存	口 底 高 14.9 6.7 5.5	#	#	灰白 にぶい 橙	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高 台。	
400-3	須恵器 埴C II	貯蔵穴内 片残存	(14.7) — (5.6)	赤褐色粒子	#	灰白 浅黄	口縁部は外反する。 轆轤整形(右回転)。高台欠損(付高台)。	

## H区 (55・56・58・59号住居跡)

400-4	灰胎陶器 塊	覆土内 破片	口 底 高	— 8.7 (2.4)	美濃系		灰白	口縁部は欠損する。轆轤成形。底部は回転旋削あり。付高台。内面底部に重ね焼き痕あり。	施釉手法は刷毛塗。
400-5	須恵器 壺	覆土内 底部残存	口 底 高	— 12.4 (3.3)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	淡黄	轆轤整形(右回転)。付高台。	
400-6	土師器 小形壺	覆土内 破片	口 底 高	(10.1) — (7.0)	白・黒色粒子 赤褐色粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内面胴部は寛撫で。	
400-7	土師器 壺CⅢ	カマド内 %残存	口 底 高	(18.9) 4.8 26.0	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	明赤褐 暗赤褐	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内面胴部は寛撫で。	
400-8	鉄器 紡錘車	覆土内 %残存	径 厚 重	4.6 0.3 15.7				中央穴径0.5cmで軸に付着した跡が残存。	
400-9	鉄器 不明	覆土内 破片	長 幅 重	(13.1) 0.4 14.8				断面方形で両端欠損。	
400-10	鉄器 不明	覆土内 破片	長 幅 重	(5.2) 0.4 11.5				断面方形で基部欠損。	
400-11	鉄器 不明	覆土内 破片	長 幅 重	(3.5) 0.6 5.2				断面円形で両端欠損。	
401-1	瓦 男瓦	カマド内 %残存	厚 長	2.7 39.0	白・黒色粒子 赤褐色粒子	中性焰	淡黄	平截作り。凹面に粘土板剥ぎ取り痕あり。凸面は寛削り調整。	

## H区第58号住居跡

探査番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
403-1 136	土師器 坪CⅠ	覆土内 %残存	口 底 高	11.3 — 3.0	黒色粒子	酸化焰	橙	口縁部は外傾さみ。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	

## H区第59号住居跡

探査番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
405-1	須恵器 坏DV'	覆土内 ほぼ完整	口 底 高	14.2 8.1 3.5	黒色鉱物粒子	中性焰	灰白 灰	口縁部は若干歪み外反さみ。 轆轤整形(右回転)。	
405-2	須恵器 壺	覆土内 破片	口 底 高	— — (2.1)	白色粒子 赤褐色粒子	#	黒	口縁部は欠損する。器内・外面を炭灰させている。轆轤整形(右回転)。高台欠損(付高台)。	
405-3	土師器 壺CⅡ	覆土内 破片	口 底 高	(20.6) — (7.1)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内面胴部は寛撫で。	
405-4	土師器 壺CⅡ	覆土内 %残存	口 底 高	19.8 — (20.0)	#	#	橙 黒褐	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内面胴部は寛撫で。	
405-5	土師器 壺CⅡ	覆土内 %残存	口 底 高	19.8 — (21.8)	#	#	#	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内面胴部は寛撫で。	
406-1	瓦 男瓦	覆土内 %残存	広 狭 長	(17.5) (13.0) 37.0	白色粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰	平截作り。凸面に粘土板剥ぎ取り痕あり。凸面平行叩き。	反(8.5) 厚(2.0)
406-2	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	2.2	白・黒色粒子 赤褐色粒子	中性焰	橙	一枚作り。凹面に粘土板剥ぎ取り痕あり。	

第1節 古墳時代～平安時代

407-1 136	瓦 玉男 付瓦	覆土内 完形	広狭長 18.0 16.2 38.5	白色粒子 赤褐色粒子	酸化焙	にぶい 黄 黄	半截作り。凹面に粘土板剥ぎ取り痕あり。 凸面鑄印後擦消している。	玉 反厚 12.5 7.7 1.7
407-2	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.0	#	中性焙	灰黄	一枚作り。凹面に粘土板剥ぎ取り痕あり。	
408-1	瓦 女 瓦	覆土内 瓦残存	広狭長 — 25.0 —	白・黒色粒子 赤褐色粒子	#	にぶい 黄	一枚作り。凹面に粘土板剥ぎ取り痕あり。 凸面平行印あり。	反厚 — 2.0
409-1	瓦 女 瓦	覆土内 瓦残存	広狭長 — 21.6 42.7	白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焙	にぶい 黄橙	一枚作り。凹面に粘土板剥ぎ取り痕あり。 凸面平行印あり。裏面文字記号(凸面)。	反厚 — 2.4

H区第60号住居跡

簿記番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
410-1	自然遺物 二枚貝?	覆土内 破片					淡水産・海水産の判別は不詳。	
410-2	須志器 要	覆土内 破片	口底高 — —	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焙	灰 橙	紐作り甲ぎ型。自然軸あり。	
410-3	須志系 羽釜D'	覆土内 破片	口底高 (23.0) — (8.8)	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	酸化焙	橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。脚は貼り付け。外面刷上部より磨削り。	

H区第70号住居跡

簿記番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
412-1	須志器 碗C II	覆土内 瓦残存	口底高 (12.7) (6.0) 4.5	白色粒子 黒色粒子	中性焙	灰 灰白	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
412-2 136	須志器 碗C I	覆土内 瓦残存	口底高 12.8 6.5 4.5	赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	#	灰 浅黄	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。器内・外面の一部に炭化物付着。	
412-3 136	須志系 羽釜C	覆土内 破片	口底高 (23.0) — (9.1)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	灰白 橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。脚は貼り付け。外面刷上部より磨削り。	

H区第74号住居跡

簿記番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
414-1	土師器 坏A II	カマド内 瓦残存	口底高 (11.5) — (4.0)	白色粒子 赤褐色粒子	酸化焙	にぶい 黄橙	口縁部は内傾する。体部・底部は磨削り、口縁部・器内面は横撫で。器内・外面炭化物付着。	
414-2 136	土師器 坏A II	カマド内 瓦残存	口底高 12.4 — (4.0)	赤褐色粒子	中性焙	橙 黒	口縁部はやや内傾する。体部は磨削り、口縁部・器内面は横撫で。器内・外面に炭化物付着。	
414-3 136	土師器 坏A II	覆土内 破片	口底高 (12.6) — (4.4)	#	酸化焙	灰黄褐 橙	口縁部は外反する。体部・底部は磨削り、口縁部・器内面は横撫で。	

## H区第75号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
415-1	土器 環D I	掘り方内 反残存	□底高 (12.0) — (3.1)	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は内湾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
415-2 136	須恵器 環D V	覆土内 反残存	□底高 (11.3) 6.9 3.0	黒色粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰 灰黄褐	口縁部は外反する。横撫整形(右回転)。	
415-3	須恵器 環E I	覆土内 反残存	□底高 (12.0) (6.0) 3.4	黒色粒子	中性焰	にぶい 橙	口縁部は外反する。横撫整形(右回転)。	
415-4	須恵器 塊	掘り方内 破片	□底高 (15.0) — (5.0)	#	#	灰黄	口縁部は外反する。横撫整形。	
415-5 136	鉄器 不明	覆土内 破片	長幅重 (3.7) 0.4 3.3				断面方形で先端部残存。	
415-6	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。凹面布目の擦消し。 凸面鑄印き。	
415-7	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.3	黒色粒子 赤褐色粒子	#	灰白	一枚作り。凹面に粘土板刺ぎ取り痕あり。 凸面鑄印き。	

## H区第79号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
418-1 136	土器 環A II	覆土内 ほぼ完形	□底高 12.4 — 3.9	赤褐色粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。体部と口縁部の境に横あり。	
418-2	土器 壺	覆土内 破片	□底高 — 5.7 (10.5)	#	#	明赤褐 黒	紐作り成形。外面胴部・底部は寛削り。内面指撫で。炭化物が付着している。	
418-3	土器 壺	覆土内 破片	□底高 (21.6) — (6.8)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内面胴部は指撫で。	
419-1 136	土器 壺A II	覆土内 ほぼ完形	□底高 21.5 — 39.5	#	#	#	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内面胴部は指撫で。	

## H区第80号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
420-1	土器 環A II	覆土内 破片	□底高 (12.0) — (2.8)	白・赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	黒褐	口縁部はやや外反する。体部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
420-2	土器 環A II	覆土内 破片	□底高 (14.1) — (2.7)	白・黒色粒子 赤褐色粒子	#	#	口縁部はやや外反する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。体部と口縁部の境に横あり。	
420-3	土器 環A II	覆土内 破片	□底高 (10.0) — (2.8)	赤褐色粒子	#	にぶい 黄橙	口縁部は外反する。体部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
420-4 137	須恵器 横瓶	覆土内 破片	長幅高 — — (25.5)	白・黒色粒子 赤褐色粒子	#	灰	紐作り叩き整形。	

第1節 古墳時代～平安時代

420-5 136	石 器 高麗み石	覆土内 完形	長 幅 厚	10.8 6.2 4.8	輝石安山岩 (粗粒)			霏玉状の小さな石。全体磨耗している。一部 取打痕がみられる。	重 513.8
--------------	-------------	-----------	-------------	--------------------	---------------	--	--	-----------------------------------	---------

H区第81号住居跡

縄文番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考	
422-1	土 師 器 坏A I	覆土内 ㄨ残存	□ 底高	13.4 — 4.8	白色粒子 赤褐色粒子	中性焰	浅黄橙	口縁部は外傾する。体部・底部は貫削り、口 縁部・器内面は横撫で。体部と口縁部の境に横 紋あり。	
422-2	土 師 器 坏A II	覆土内 ㄨ残存	□ 底高	— (3.9)	白・赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口唇部は欠損する。体部・底部は貫削り、口 縁部・器内面は横撫で。体部と口縁部の境に 横紋あり。	
422-3	土 師 器 坏A II	覆土内 ㄨ残存	□ 底高	(15.0) — (3.5)	白・黒色粒子 赤褐色粒子	#	#	口縁部は直立する。体部・底部は貫削り、口 縁部・器内面は横撫で。	
422-4	土 師 器 坏A I	覆土内 ㄨ残存	□ 底高	(15.0) — (4.5)	白・黒色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	にぶい 黄橙	口縁部は外傾する。体部・底部は貫削り、口 縁部・器内面は横撫で。	
422-5	須 恵 器 蓋	覆土内 破片	□ 底高	(15.2) — (2.5)	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤整形。上部に横を有する。	摘欠損
422-6 137	須 恵 器 蓋	覆土内 破片	□ 底高	(10.2) — (6.9)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	灰 オリーブ 灰	口縁部はやや内傾する。轆轤整形。 外面自然輪がみられる。	
422-7 137	土 師 器 小形壺	覆土内 破片	□ 底高	(13.0) — (6.4)	白色粒子 赤褐色粒子	酸化焰	にぶい 黄橙	口縁部は外反する。縞作り。外面胴部は貫削 り、口縁部は横撫で、内面胴部は横撫で。	内面胴部に 赤色塗彩あ り。
422-8	土 師 器 小形壺	覆土内 破片	□ 底高	(12.0) — (3.3)	白・黒色粒子 赤褐色粒子	#	にぶい 橙	縞作り成形。口縁部内外面横撫で。	
422-9	土 師 器 壺	覆土内 破片	□ 底高	(18.0) — (6.3)	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	#	橙	口縁部は外反する。縞作り。外面胴部は貫削 り、口縁部は横撫で、内面胴部は横撫で。	
422-10	土 師 器 壺A II	覆土内 破片	□ 底高	(19.0) — (5.2)	白・赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	#	口縁部は外反する。縞作り。外面胴部は貫削 り、口縁部は横撫で、内面胴部は横撫で。	
422-11	土 師 器 壺A III	覆土内 破片	□ 底高	(22.0) — (15.4)	白・赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	#	明焼	口縁部は外反する。縞作り。外面胴部は貫削 り、口縁部は横撫で、内面胴部は横撫で。	
422-12	土 師 器 鉢	覆土内 破片	□ 底高	(24.0) — (5.3)	白色粒子 黒色粒子	中性焰	にぶい 黄橙	口縁部は外反する。縞作り。外面胴部は貫削 り、口縁部・内面胴部は横撫で。	
422-13 137	石 器 磨 石	覆土内	長 幅 厚	(9.1) 5.6 4.2	輝石安山岩 (粗粒)			断面方形に近く、全体磨耗が顕著。	重 325.3
422-14 137	石 器 高麗み石	覆土内 完形	長 幅 厚	13.6 6.4 4.9	溶結凝灰岩			断面三角形に近い厚みのある石。全体に打痕 がみられる。	重 554.5

H区第82号住居跡

縄文番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考	
423-1	土 師 器 坏A I	覆土内 ㄨ残存	□ 底高	(11.5) — (4.5)	赤褐色粒子	酸化焰	橙	口縁部は外傾する。体部・底部は貫削り、口 縁部・器内面は横撫で。体部と口縁部の境に横 紋あり。	
423-2	土 師 器 坏A II	覆土内 ㄨ残存	□ 底高	(11.9) — (3.3)	白・黒色粒子 赤褐色粒子	#	にぶい 橙	口縁部は直立する。体部・底部は貫削り、口 縁部・器内面は横撫で。	



423-3	土師器 環A1	覆土内 破片	口底高 (13.0) - (3.5)	赤褐色粒子	酸化焰	橙	口縁部は外傾する。体部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
423-4	土師器 小形壺	覆土内 破片	口底高 (7.8) - (6.0)	白色粒子 赤褐色粒子	#	にぶい 橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内面胴部は横撫で。	
423-5	須恵器 高環	覆土内 破片	口底高 — (5.5)	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤整形。胴部は短く外反し、4ヶ所の遺しを有すると思われる。	
424-1	土師器 高環	覆土内 破片	口底高 (20.5) - (4.2)	白・黒色粒子 赤褐色粒子	酸化焰	にぶい 褐	口縁部は外傾する。口縁部内外面横撫で。体部下半は寛調整後撫で。	
424-2	土師器 鉢	覆土内 破片	口底高 (24.0) - (7.3)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内面胴部は撫で。	
424-3	土師器 高AIII	覆土内 破片	口底高 (21.0) - (5.7)	白色粒子 赤褐色粒子	#	#	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内面胴部は撫で。	
424-4	石製品 円盤	覆土内 破片	長幅厚 (3.0) (2.3) (0.5)	滑石			石製模造品なし、同類の破片と考えられる。裏面には加工痕の擦痕が数条認められる。	重 6.0
424-5	石製品 砥石?	覆土内 完形	長幅厚 14.1 6.3 3.2	輝石安山岩			全体磨耗しているが、表面と右側面は磨耗が進み又、磨損もみられ砥石の利用とも考えられる。	重 459.3

## H区第85号住居跡

調査番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
425-1	土師器 環	覆土内 破片	口底高 (12.1) - —	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	にぶい 赤褐	口縁部は内湾する。体部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	

## H区第86号住居跡

調査番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
426-1	土師器 環A1	覆土内 ほぼ完形	口底高 13.4 4.1	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙 黒褐	口縁部はほぼ直立する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
426-2	土師器 壺A1	覆土内 破片	口底高 (23.8) - (10.0)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内面胴部は横撫で。	

## H区第91号住居跡

調査番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
428-1	土師器 環C1	覆土内 破片	口底高 (11.0) - (2.6)	白・黒色粒子	酸化焰	橙	口縁部は内湾する。体部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。内面に炭化物付着。	
428-2	須恵器 環DIV	覆土内 片残存	口底高 (13.0) 8.2 3.0	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
429-1	須恵器 皿	覆土内 底部残存	口底高 — 7.7 (2.5)	#	#	灰白	口縁部は欠損する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
429-2	須恵器 台付鉢	覆土内 破片	口底高 — (11.0) (3.1)	#	#	褐灰	紐作り後轆轤整形。	

第1節 古墳時代～平安時代

429-3	土器 壺	甕土内 破片	口 底高 (18.0) — (4.4)	白・黒色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	に よ い 雫	「コ」の字状口縁。紐作り、口縁部内外面横撫で。	
-------	---------	-----------	---------------------------------	------------------	-----	------------------	-------------------------	--

H区第93号住居跡

採出番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考
431-1 137	土 器 坏AⅡ	甕土内 瓦残存	口 底高 (11.8) — 3.4	白・赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	に よ い 黄橙	口縁部は外反する。体部・底部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	
431-2 137	土 器 坏BⅠ	甕土内 完形	口 底高 11.5 — 3.0	白色粒子	#	橙	口縁部は内傾する。体部・底部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	
431-3 137	土 器 坏BⅠ	貯蔵穴内 完形	口 底高 12.7 — 4.5	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	#	口縁部は内傾して口唇部で外反する。体部・底部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	
431-4 137	土 器 坏BⅠ	甕土内 瓦残存	口 底高 (12.5) — 4.2	#	#	#	口縁部は直立する。体部・底部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	
431-5 137	土 器 坏BⅠ	甕土内 完形	口 底高 11.8 — 3.5	#	#	#	口縁部は内湾する。体部・底部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	
431-6 137	土 器 坏BⅠ	貯蔵穴内 完形	口 底高 10.7 — 3.5	#	#	#	口縁部は内湾する。体部・底部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	
431-7 137	土 器 坏BⅠ	甕土内 ほぼ完形	口 底高 10.5 — 3.4	#	#	#	口縁部は内湾する。体部・底部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	
431-8	土 器 坏BⅣ	貯蔵穴内 完形	口 底高 11.2 — 3.4	#	#	#	口縁部はほぼ直立する。体部・底部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	
431-9 137	土 器 坏BⅠ	貯蔵穴内 完形	口 底高 10.8 — 2.8	#	#	#	口縁部は内湾する。体部・底部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	
431-10 138	土 器 坏BⅢ	貯蔵穴内 完形	口 底高 10.3 — 3.2	#	#	#	口縁部は内湾する。体部・底部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	
431-11 138	土 器 坏BⅣ	甕土内 完形	口 底高 10.9 — 3.0	#	#	#	口縁部は内湾する。体部・底部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	
431-12 138	土 器 坏BⅣ	貯蔵穴内 完形	口 底高 11.1 — 3.3	#	#	#	口縁部は内湾する。体部・底部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	
431-13 138	土 器 坏BⅣ	甕土内 完形	口 底高 11.4 — 3.5	黒色鉱物粒子	#	#	口縁部は直立する。体部・底部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	
431-14 138	土 器 坏BⅢ	甕土内 完形	口 底高 10.1 — 3.6	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	#	口縁部は内湾する。体部・底部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	
431-15 138	土 器 坏BⅡ	甕土内 ほぼ完形	口 底高 10.8 — 3.6	白色粒子 黒色鉱物粒子	#	#	口縁部は内湾する。体部・底部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	
431-16 138	土 器 坏BⅢ	甕土内 瓦残存	口 底高 (10.7) — 3.0	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	#	口縁部は内湾する。体部・底部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	
431-17 138	土 器 坏BⅢ	貯蔵穴内 完形	口 底高 11.9 — 4.5	#	#	#	口縁部は内湾する。体部・底部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	

## H区(93・94・95号住居跡)

431-18 138	土師器 高 環	覆土内 完形	□ 底 15.7 高 10.2 10.6	白色粒子	酸化焰	橙 黒褐	環部は丸味を持ち口縁端部で内湾する。外 面は削り後、磨き調整が施される。内面は撫 で整形後、全面に磨きが施され、縦輪状の 文が4段みられる。脚部は暖かに外反し、 裾削り部との境は不明瞭、内面は横撫で。	
431-19 138	須恵器 高 環	覆土内 %残存	□ 底 10.2 高 9.6 9.9	白色粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰	縦輪整形(右回転)。環部口縁は外面に凹面を 持ち、裾部はやや尖りぎみで僅かに突出す る。裾部は柱状を呈し裾部になだらかに移行 する。脚部内面に輪横み痕が残る。環部外面 と脚部内面に自然釉がみられる。	
431-20	土師器 壺	覆土内 破片	□ 底高 — (5.5)	白・黒色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	い ぶい 橙	紐作り成形。外面底部・胴部は貫削り。内面 胴部は貫削で。	
432-1 138	土師器 壺AIII	覆土内 破片	□ 底高 (19.3) — (6.9)	黒・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	#	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は貫削 り、口縁部は横撫で、内面胴部は貫削で。	
432-2	土師器 壺	覆土内 破片	□ 底高 (19.4) — (12.4)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	#	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は貫削 り、口縁部は横撫で、内面胴部は貫削で。	
432-3 138	土師器 小形壺	覆土内 完形	□ 底高 14.6 — 13.9	#	#	橙 黒	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は貫削 り、口縁部は横撫で、内面胴部は貫削で。	内面黒色
432-4 138	土師器 甕	掘り方内 完形	□ 底高 19.3 — 12.8	#	#	橙 黒褐	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は貫削 り、口縁部は横撫で、内面胴部は貫削で。	

## H区第94号住居跡

掘出番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考
434-1 138	土師器 環B I	覆土内 完形	□ 底高 11.3 — 3.9	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は内傾する。体部・底部は貫削り、口 縁部・器内面は横撫で指押え。	
434-2 138	土師器 環B I	覆土内 完形	□ 底高 11.2 — 3.9	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	#	#	口縁部は内湾する。体部・底部は貫削り、口 縁部・器内面は横撫で。	
434-3 138	土師器 環B II	覆土内 完形	□ 底高 10.7 — 3.6	白色粒子 黒色鉱物粒子	#	#	口縁部は内湾する。体部・底部は貫削り、口 縁部・器内面は横撫で。	
434-4	土師器 壺A I	覆土内 %残存	□ 底高 22.9 — (18.0)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	橙 黒褐	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は貫削 り、口縁部は横撫で、内面胴部は貫削で。	
434-5 138	土師器 壺AIV	覆土内 底部欠損	□ 底高 20.9 — (35.0)	赤褐色粒子 白色鉱物粒子	#	橙 黒	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は貫削 り、口縁部は横撫で、内面胴部は貫削で。	
434-6	須恵器 壺	覆土内 破片	□ 底高 — (11.0)	白色粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面丸具は 青歯波文)後縦輪再整形。	
435-1	須恵器 壺	覆土内 破片	□ 底高 — (28.7)	白色粒子 黒色粒子	#	#	紐作り。叩き整形(外面格子叩き・内面丸具は 青歯波文)後縦輪再整形。	

## H区第95号住居跡

掘出番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考
437-1 139	土師器 環A II	覆土内 %残存	□ 底高 13.6 — 4.7	白・赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙 褐灰	口縁部は内湾する。体部・底部は貫削り、口 縁部・器内面は横撫で。体部と口縁部境に横 あり。	

## 第1節 古墳時代～平安時代

437-2 139	土器 壺A II	覆土内 %残存	□ 底高 (23.0)	19.4 — (23.0)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	酸化焰	橙 黒褐	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は貫削り、口縁部は横撫で、内面胴部は裏撫で。	外面一部に 灰化物付着
437-3	土器 壺A II	覆土内 %残存	□ 底高 (19.6)	— (20.2)	白・赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	#	にぶい 橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は貫削り、口縁部は横撫で、内面胴部は裏撫で。	
437-4 139	石 磨 磨石	覆土内 完形	長 幅厚	14.7 9.6 3.7	安寶安山岩			全体磨耗している。端部に僅か敲打痕あり。	重 532.6

## H区第110号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
440-1	須恵器 壺	覆土内 破片	□ 底高 — —	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	紐作り。即ち整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)後継継再整形。	

## H区第111号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
441-1 139	須恵器 杯E III	覆土内 %残存	□ 底高 13.0 6.0 3.5	白・赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	橙 黒褐	口縁部は外反する。継継整形(右回転)。内面の一部に灰化物付着。	
442-1	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	黒色粒子 赤褐色粒子	#	灰	一枚作り。凹面に粘土板剥ぎ取り痕あり。又、布目の磨削し。凸面平行叩き。	
442-2	瓦 女瓦	覆土内 %残存	厚 2.6	赤褐色粒子	酸化焰	にぶい 赤褐	一枚作り。凹面に粘土板剥ぎ取り痕あり。	
442-3 139	鉄 不明	覆土内	長 幅重 (17.8) 0.6 33.8				断面方形で上端欠損。	

## H区第113号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
443-1 139	土器 杯E	覆土内 %残存	□ 底高 12.2 — 3.5	赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	明赤褐 黒褐	口縁部は外反する。体部・底部は貫削り、口縁部・器内面は横撫で。	
443-2 139	土器 壺C IV	覆土内 破片	□ 底高 20.9 (11.8)	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	赤褐	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は貫削り、口縁部は横撫で、内面胴部は裏撫で。	

## H区第114号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
444-1 139	土器 壺	覆土内 破片	□ 底高 — (5.0) (2.0)	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	灰白 灰	紐作り成形。外面胴部は貫削り。内面一部反している。	
444-2 139	石 不明	覆土内 完形	長 幅厚 4.5 4.1 3.1	輝石安山岩 (粗粒)			球形状の石。全体に磨耗している。一部打痕あり。	重 78.1

## H区第150号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
446-1 139	土師器 坏F'	カマド内 %残存	□底高 10.0 5.5 2.8	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部はやや内湾する。轆轤整形(右回転)。	
446-2 139	土師器 坏F'	カマド内 %残存	□底高 9.8 5.4 3.0	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	中性焰	淡黄	口縁部は外反する。体部は脹らみを持つ。轆轤整形(右回転)。	
446-3 139	土師器 坏F'	覆土内 完形	□底高 9.1 5.2 3.0	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
446-4 139	黒色土師 埴	カマド内 %残存	□底高 13.2 — (4.5)	白色粒子 黒色鉱物粒子	#	#	口縁部は外反する。内面みが調整後吸戻している。轆轤整形(右回転)。高台欠損(付高台)。	
446-5 139	鉄器 不明	カマド内	長軸重 (3.1) 0.5 3.6				断面長方形で、先端部のみ残存。	

## H区第151号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
448-1 139	土師器 坏E	カマド内 完形	□底高 12.2 5.2 3.9	黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	口縁部は外反する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
448-2 139	土師器 坏E	カマド内 %残存	□底高 (12.0) (6.2) 3.8	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	橙 明赤褐	口縁部は内湾する。体部下部に指節圧痕がみられる。口縁部・器内面は横撫で。	
448-3 139	須恵器 坏E III	カマド内 %残存	□底高 12.7 6.2 3.8	#	中性焰	橙 褐灰	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。内面に炭化物付着。	
448-4 139	須恵器 坏E II	カマド内 完形	□底高 12.7 6.3 3.5	白色粒子	還元焰	灰	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
448-5	須恵器 埴C I	カマド内 %残存	□底高 (13.3) 7.1 5.4	白色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	灰白	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
448-6 139	須恵器 埴C II	カマド内 完形	□底高 14.5 6.3 5.4	白色粒子 黒色粒子	#	#	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
449-1 139	須恵器 埴B	覆土内 %残存	□底高 (13.1) 6.3 5.1	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	灰白 褐灰	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
449-2 140	須恵器 埴	カマド内 %残存	□底高 — (9.2) (17.5)	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形。外面底部調整。胴下部寛削り。	

## H区第152号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
451-1 140	土師器 坏A I	覆土内 %残存	□底高 12.5 — 4	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外傾する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	
451-2	土師器 坏A II	覆土内 %残存	□底高 (14.0) — (3.6)	白色粒子 赤褐色粒子	#	#	口縁部は外反する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。	

第1節 古墳時代～平安時代

451-3	土師器 環A II	覆土内 破片	□ 底高 (12.8) (2.9)	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰 にぶい 黄橙	口縁部は外傾する。体部磨減の不明瞭。 口縁部・器内面は横撫で。		
451-4	土師器 環A	覆土内 破片	□ 底高 (13.0) (3.2)	白・黒色粒子 赤褐色粒子	#	口縁部は内湾する。体部は差削り、口縁部・ 器内面は横撫で。	体部と口縁 部の境に横 あり。	
451-5	須恵器 蓋	覆土内 破片	— 口 底高 (2.1)	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	横縁整形。上部に稜を有す。口頸部・横部は 欠損している。	
451-6	土師器 甕	覆土内 破片	□ 底高 (5.5) (2.0)	白・黒色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	黒 橙	紐作り成形。外面底部・胴下部差削り。 内面胴下部磨撫で。	
451-7 140	土師器 壺A III	カマド内 瓦残存	□ 底高 18.9 (18.1)	白・黒色粒子 赤褐色粒子	#	明褐	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は差削 り、口縁部は横撫で、内面胴部は磨撫で。	
451-8 140	石 器 高瀬み石	覆土内 瓦残存	長 幅厚 (7.4) 7.0 3.3	石炭閃緑岩			ほぼ中央部から欠損。やや扁平で全体に磨削 している。側面に僅か打痕あり。	重 279.7
451-9 140	石 器 高瀬み石	覆土内 完形	長 幅厚 13.0 5.3 4.7	#			断面方形に近く均整のとれた石。全体磨削が 顕著で磨石として利用とも考えられる。	重 621.0

H区第153号住居跡

棟号 掘削番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考
453-1 140	須恵器 環D II	覆土内 瓦残存	□ 底高 12.7 7.8 3.5	白色粒子 黒色粒子	中性焰	灰 灰白	口縁部は外反する。横縁整形(右回転)。底部 は回転突起し。内面底部に差書きがある。	
453-2	土師器 壺C I	覆土内 破片	□ 底高 (21.0) (8.1)	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は差削 り、口縁部は横撫で、内面胴部は磨撫で。	
453-3	土師器 壺C I	覆土内 破片	□ 底高 (21.8) (7.2)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	#	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は差削 り、口縁部は横撫で、内面胴部は磨撫で。	
453-4	土師器 壺C I	覆土内 破片	□ 底高 (21.0) (9.1)	白・赤褐色粒子	#	#	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は差削 り、口縁部は横撫で、内面胴部は磨撫で。	
453-5	土師器 甕	覆土内 破片	□ 底高 — (3.3)	白色粒子 赤褐色粒子	#	明赤褐	紐作り成形。外面差削り。内面撫で。	
453-6	須恵器 甕	覆土内 破片	□ 底高 — —	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	褐灰	紐作り。叩き整形(外面格子叩き・内面瓦具は 青銅文文)	

H区第155号住居跡

棟号 掘削番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考
454-1	須恵器 埴	覆土内 破片	□ 底高 (7.0) (2.8)	白色粒子	還元焰	灰	横縁整形(右回転)。高台欠損(付高台)。	

H区第1号掘立柱建物跡

棟号 掘削番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考
455-1	土師器 環C II	柱穴覆土内 破片	□ 底高 (13.0) (3.1)	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	明赤褐	口縁部は外傾する。口縁部・内面体部は横撫 で。底部は欠損する。	

H区 (153・155号住居跡、1・3号据立柱建物跡) G区 (2号埋設土器、7号土墳墓) F区 (3号土坑)

455-2 140	須恵器 坏E I	柱穴覆土内 瓦残存	口 径高 (12.7) (6.3) (3.5)	白色粒子	中性焰 灰	口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。	
455-3	須恵器 坏E I	柱穴覆土内 瓦残存	口 径高 (13.4) — 2.9	白色粒子 黒色粒子	還元焰 褐灰	口縁部は外傾する。轆轤整形。底部寛調整。	

H区第3号据立柱建物跡

簿記番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考
457-1 140	須恵器 蓋	柱穴覆土内 瓦残存	口 径高 (14.0) (4.0) (3.0)	白色粒子 黒色粒子	還元焰 灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤整形(右回転)。上半部は回転削り。胴部は貼り付け。	

G区第2号埋設土器

簿記番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考
459-1 140	須恵器 埴C II	瓦残存	口 径高 14.4 6.3 4.9	白色粒子	中性焰 黒褐	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。器内・外面を収炭させている。	
459-2 140	土器 壺	瓦残存	口 径高 12.2 7.7 13.2	黒・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰 橙 黒褐	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は寛削り、口縁部は横溝で、内面胴部は寛溝で。	

G区第7号土墳墓

簿記番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考
460-1 140	須恵器 坏E II	炭化物中 完形	口 径高 12.1 6.2 3.7	白色粒子 白・黒色鉱物粒子	還元焰 灰白 黒	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
460-2 140	須恵器 坏E III	炭化物中 ほぼ完形	口 径高 12.0 6.5 3.8	黒色粒子	中性焰 灰	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
460-3 140	灰釉陶器 埴	炭化物中 完形	口 径高 15.7 7.9 5.4	美濃系	#	口縁部は外反する。体部は張りみを持つ。轆轤成形(右回転)。付高台。底部回転削り。	
460-4 140	灰釉陶器 蓋	炭化物中 ほぼ完形	口 径高 6.2 6.8 10.8	#	オリブ 灰	轆轤成形。底部は回転削り。	

F区第3号土坑

簿記番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考
461-1	黒色土器 埴	覆土内 破片	口 径高 (16.6) — (4.2)	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰 灰 に 近い 橙	口縁部は外反する。轆轤整形。内面はみがきによる調整後収炭させている。	
461-2	須恵器 坏	覆土内 破片	口 径高 — (8.2) —	黒色粒子 赤褐色粒子	還元焰 灰白 灰	口縁部は欠損する。轆轤整形。	
461-3	須恵器 坏	覆土内 破片	口 径高 — (6.6) (1.7)	白・赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰 褐灰 に近い	口縁部は欠損する。轆轤整形。	
461-4	須恵器 長直壺	覆土内 破片	口 径高 — (7.5)	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰 灰	紐作り後轆轤整形。	

## 第1節 古墳時代～平安時代

## F区第4号土坑

探函番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
461-5	須恵器 壺	覆土内 破片	□ 底高 — (7.1) (3.2)	白色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	灰白	口縁部は欠損する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
461-6	須恵器 把	覆土内 破片		黒色粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰	粘土紐の貼付。指による調整。	

## F区第21号土坑

探函番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
462-1 140	土師器 高 環	覆土内 環部残存	□ 底高 16.0 — (8.5)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	酸化焰	にぶい 橙	口縁部は外傾する。紐作り。外面は荒調整。 口縁部横撫で。内面荒調整後暗文を施す。	脚部欠損
462-2 140	土師器 高 環	覆土内 環部残存	□ 底高 18.2 — (6.0)	白・赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	淡黄	口縁部は外傾する。紐作り。口縁部横撫で。 内外面荒調整。磨減の為不明瞭。	脚部欠損
462-3 140	土師器 高 環	覆土内 環部欠残 存	□ 底高 19.4 — (5.6)	#	#	黄灰	口縁部は外傾し、口唇部でやや内湾する。紐 作り。口縁部横撫で。外側不定方向荒調整。 不明瞭。	内面ハゼが 多い。
463-1 141	土師器 高 環	覆土内 環部残存	□ 底高 19.3 — (5.9)	#	#	橙 明赤褐	口縁部は外傾し、口唇部で内湾する。紐作り。 口縁部横撫で。体部荒調整。	脚部欠損
463-2 141	土師器 高 環	覆土内 環部欠残 存	□ 底高 18.2 — (7.1)	#	#	淡黄	口縁部は外反する。紐作り。口縁部横撫で。 外面荒調整。磨減の為不明瞭。	
463-3 141	土師器 高 環	覆土内 環部残存	□ 底高 19.6 — (6.5)	白色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	にぶい 黄橙	口縁部は外傾し、口唇部でやや内湾する。紐 作り。口縁部横撫で。外面体部荒調整か、不 明瞭。	
463-4 141	土師器 高 環	覆土内 環部欠残 存	□ 底高 18.6 — (6.9)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	橙	口縁部は外傾する。紐作り。口縁部横撫で。 体部荒調整。磨減の為不明瞭。	
463-5 141	土師器 高 環	覆土内 環部欠残 存	□ 底高 19.2 — (8.3)	白・赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	明赤褐	口縁部は外傾する。外面横方向無で。内面横・ 斜方向無で。体部下位で接合している。	
463-6 141	土師器 高 環	覆土内 環部欠残 存	□ 底高 25.4 — (8.9)	#	#	橙 にぶい 橙	口縁部は外反する。紐作り。口縁部横撫で。 内面に暗文あり。環部との接合はぎざ円柱形。	体部下位で 接合している。

## F区第22号土坑

探函番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
464-1 141	須恵器 環EII	覆土内 完形	□ 底高 14.1 7.0 4.0	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
464-2 141	須恵器 環EIII	覆土内 欠残存	□ 底高 (13.9) 6.6 4.1	白色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	淡黄	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。 底部は指撫で。	
464-3 141	須恵器 環EII	覆土内 欠残存	□ 底高 (13.3) 8.8 4.4	白色粒子	還元焰	灰	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。 外面に裏書あり。	
464-4 141	須恵器 環E I	覆土内 欠残存	□ 底高 13.5 7.0 3.5	白色粒子 黒色粒子	中性焰	#	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	



## F区(4・21・22・25・113・116・120号土坑)

464-5 141	須恵器 坏E II	覆土内 与残存	口底高 12.5 5.8 4.2	白色粒子 黒色粒子	中性焰	黄橙	口縁部は強く外反する。轆轤整形(右回転)。	
464-6	須恵器 坏E I	覆土内 与残存	口底高 (14.2) (7.6) 3.3	白色粒子	還元焰	灰	口縁部はやや外反する。轆轤整形(右回転)。	
464-7 141	須恵器 坏C I	覆土内 ほぼ完形	口底高 14.3 6.0 5.1	白色粒子 黒色粒子	中性焰	#	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
464-8 141	須恵器 坏C I	覆土内 与残存	口底高 16.1 6.0 5.4	白色粒子	#	#	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
464-9 141	須恵器 坏C I	覆土内 ほぼ完形	口底高 15.0 7.2 5.7	#	#	灰白	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
464-10	灰釉陶器 坏	覆土内 破片	口底高 — (6.3) (2.1)	美濃系	#	#	口縁部は欠損している。 轆轤成形(右回転)。付高台。底部は損傷で。	
464-11	灰釉陶器 長直表	覆土内 破片	口底高 (12.9) — (9.4)	#	#	オリーブ 灰	轆轤成形(右回転)。施釉手法は浸掛。	

## F区第25号土坑

簿記番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
465-1 141	須恵器 坏E I	覆土内 与残存	口底高 (13.9) 6.9 3.9	黒色粒子	中性焰	黄灰	口縁部はやや外反する。 轆轤整形(右回転)。	
465-2 142	須恵器 坏B	覆土内 与残存	口底高 (13.9) 7.0 4.6	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
465-3 142	須恵器 坏C I	覆土内 与残存	口底高 (13.9) 6.6 5.2	#	中性焰	浅黄 灰	口縁部は外反する。体部はやや脹らみを持つ。 轆轤整形(右回転)。付高台。	
465-4	灰釉陶器 坏	覆土内 破片	口底高 (15.9) — (3.6)	美濃系	灰	灰	口縁部は外反する。轆轤成形。 施釉手法は浸掛。	

## F区第113号土坑

簿記番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
466-1 142	須恵器 坏D V'	覆土内 ほぼ完形	口底高 13.2 7.4 3.3	白色粒子	還元焰	灰	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	

## F区第116・120号土坑

簿記番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
466-2	土器 坏	覆土内 破片	口底高 (11.4) — (2.7)	白・赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は内湾する。全面磨滅の為不明瞭。	
466-3	須恵器 坏	覆土内 破片	口底高 (13.9) (3.0)	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	口縁部は外反する。轆轤整形。底部は欠損している。	
466-4	須恵器 坏	覆土内 破片	口底高 — (5.8) (3.1)	黒色粒子	#	灰白	口縁部は欠損する。轆轤整形。	

第1節 古墳時代～平安時代

466-5	須恵器 埴	覆土内 破片	口底高 — 5.8 —	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	中性焰	淡黄 灰	口縁部は欠損する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
466-6	須恵器 埴	覆土内 破片	口底高 — (7.5) —	黒色粒子 白色鉱物粒子	#	灰白 灰	轆轤整形(右回転)。高台欠損(付高台)。高台付け部に明瞭な糸切り痕を残している。	
466-7	灰釉陶器 埴	覆土内 破片	口底高 (11.8) — (3.0)	美濃系		灰白	口縁部は外反する。轆轤成形。施釉手法は浸掛。	

F区第117号土坑

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
466-8	須恵器 埴	覆土内 破片	口底高 (13.4) —	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	口縁部は外反する。轆轤整形。底部は欠損。	
466-9	須恵器 埴	覆土内 破片	口底高 (8.0) (3.0)	白色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	#	口縁部は欠損する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
466-10	須恵器 埴	覆土内 破片	口底高 — 5.5 —	白色粒子 黒色鉱物粒子	#	淡黄	轆轤整形(右回転)。付高台。	

F区第118・121号土坑

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
466-11 142	鉄器 釘	覆土内 先欠損	長 5.0 0.6 重 7.9				断面長方形で先端部欠損。頭は基部端を「L」字形に屈曲。	
467-1 142	瓦 宇瓦	覆土内 破片	幅高反 (11.5) (5.1) —	白色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	淡黄	右斜行唐草文。女瓦部は一枚作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕あり。凸面蔑相り。	厚 2.5
467-2	須恵器 埴	覆土内 破片	口底高 (9.7) (3.9)	白色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	灰白 灰	口縁部は欠損する。轆轤整形(右回転)。高台欠損(付高台)。	

F区第122号土坑

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
467-3 142	古銭	覆土内 完形	径 2.0				「長年大室」	
467-4	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凹面に粘土板刺ぎ取り痕あり。	

F区第123号土坑

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
468-1	須恵器 埴	覆土内 破片	口底高 — 7.5 —	白・黒色粒子 赤褐色粒子	中性焰	淡黄	口縁部は欠損する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
468-2	灰釉陶器 埴	覆土内 破片	口底高 — 7.8 —	美濃系	還元焰	灰白	口縁部は欠損する。轆轤成形(右回転)。付高台。施釉手法は浸掛。	

## F区第523号土坑

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
468-3	須恵器 坏E III	覆土内 破片	□ 底高 (11.9) (6.3) (3.5)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。轆轤整形。	
468-4	須恵器 坏	覆土内 破片	□ 底高 (6.4) (2.6)	白色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	黒	口縁部は欠損する。 轆轤整形(右回転)。高台欠損(付高台)。	

## G区第1号土坑

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
468-5	須恵系 羽釜C	覆土内 破片	□ 底高 (28.5) — (16.2)	白・赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	にぶい 橙 黒褐	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形。 鈷は貼り付け。	

## G区第30号土坑

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
469-1 142	須恵器 坏E I	覆土内 %残存	□ 底高 12.7 — 9.2 3.8	赤褐色粒子	還元焰	灰白	口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。	

## G区第49号土坑

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
469-2 142	土師器 坏C I	覆土内 %残存	□ 底高 12.4 — 3.1	白・黒色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	褐灰	口縁部は外傾する。体部・底部は甍削り、口 縁部・器内面は横撫で。	
469-3	土師器 坏C I	覆土内 %残存	□ 底高 13.0 — (2.5)	〃	〃	にぶい 橙 灰黄褐	口縁部は外傾する。体部は甍削り、口縁部・ 器内面は横撫で。	
469-4 142	土師器 坏C I	覆土内 %残存	□ 底高 (12.6) — (2.4)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	〃	にぶい 橙	口縁部は内傾する。体部は甍削り、口縁部・ 器内面は横撫で。	

## G区第52号土坑

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
470-1	土師器 小形甕	覆土内 破片	□ 底高 (11.0) — (3.2)	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	にぶい 橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は甍削 り、口縁部は横撫で、内面胴部は甍撫で。	

## G区第108号土坑

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
472-1 142	須恵器 坏E I	覆土内 %残存	□ 底高 12.3 — 5.9 4.1	白色粒子 黒色粒子	中性焰	灰白	口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。	

第1節 古墳時代～平安時代

472-2 142	須恵器 埴C I	覆土内 写残存	□ 底高	12.8 6.8 4.7	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	灰黄	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
472-3 142	須恵器 埴C II	覆土内 写残存	□ 底高	13.3 6.2 5.3	白色粒子 黒色粒子	"	黄橙 灰	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
472-4	灰釉陶器 壺	覆土内 底部残存	□ 底高	— 5.7 (1.3)	美濃系		灰黄	轆轤成形(右回転)。	

G区第109号土坑

棟号番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
472-5	須恵器 坏	覆土内 底部残存	□ 底高	— 7.0 —	白色粒子	還元焰	灰白 灰	回転糸切り後、無調整。	

G区第111号土坑

棟号番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
472-6	須恵器 坏D II'	覆土内 破片	□ 底高	(11.8) 7.6 2.9	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	口縁部は外傾する。轆轤整形。 底部回転笠起し。	

G区第112・113号土坑

棟号番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
473-1	土師器 坏C I	覆土内 破片	□ 底高	(13.4) — 3.0	白・黒色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は内湾する。体部は寛なり、口縁部・ 器内面は横撫で。	
473-2	土師器 坏C II	覆土内 破片	□ 底高	(13.6) (9.0) 3.8	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	"	"	口縁部は外傾する。体部・底部は寛なり、口 縁部・器内面は横撫で。	
473-3	須恵器 坏DIV?	覆土内 写残存	□ 底高	(11.0) (5.8) 3.6	黒色粒子	還元焰	灰	口縁部は外傾する。轆轤整形。底部回転笠削り。	
473-4	須恵器 坏E I	覆土内 写残存	□ 底高	(13.7) (7.2) 3.7	"	"	褐灰	口縁部は外反する。轆轤整形。	
473-5	須恵器 坏E I	覆土内 ほぼ完形	□ 底高	13.6 6.6 4.2	白・黒色粒子 赤褐色粒子	酸化焰	に近い 橙	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
473-6	須恵器 壺	覆土内 破片	□ 底高	(25.2) — (6.2)	"	"	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面当具は 青海波文)後轆轤再整形。	

G区第122号土坑

棟号番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
474-1	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	2.6	白色粒子 赤褐色粒子	中性焰	橙 灰褐	縁巻き造り。	

## G区第136号土坑

探函番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
474-2 142	土師器 坏DII	覆土内 1/2残存	口 底 高 11.8 5.3 2.8	白色臍物粒子 黒色臍物粒子	酸化期	橙	口縁部はやや内湾する。体部・底部は窪削り、 口縁部・器内面は横撫で。	

## G区第156号土坑

探函番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
475-1	緑釉陶器 埴	覆土内 破片	口 底 高 (12.0) — (2.0)			オリーブ 灰	口縁部は外傾する。轆轤成形。	

## G区第169号土坑

探函番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
476-1	須恵器 埴	覆土内 1/2残存	口 底 高 — (7.4) (3.8)	白色粒子 赤褐色粒子	中性焰	灰 に近い	口縁部は欠損する。 轆轤整形(右回転)。高台欠損(付高台)。	
476-2	須恵器 埴	覆土内 1/2残存	口 底 高 — (6.2) (1.9)	白・黒色粒子 赤褐色粒子	#	灰黄橙	口縁部は欠損する。轆轤整形(右回転)。付高 台。	

## G区第178号土坑

探函番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
476-3	鉄器 不明	覆土内 破片	長 幅 重 (8.0) 0.4 7.7				断面方形で基部欠損。	
476-4 142	鉄器 不明	覆土内 破片	長 幅 重 13.6 9.0 273.7				板状のものを断面半円状に曲げている。種不 明。	厚 0.2
476-5 142	鉄器 不明	覆土内 破片	長 幅 重 11.8 8.0 235.1				板状のものの一端を折り返し、他端も袋状に 屈曲させている。	厚 0.2 476-5に 近似

## H区第3号土坑

探函番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
477-1	須恵器 埴	覆土内 破片	口 底 高 (13.2) (3.5)	白色粒子 白色臍物粒子	中性焰	灰黄 灰	口縁部は外反する。轆轤整形。底部は欠損す る。	
477-2	須恵器 埴	覆土内 破片	口 底 高 — (7.4) (1.7)	白色粒子 黒色粒子	#	灰白	轆轤整形(右回転)。付高台。	

## 第1節 古墳時代～平安時代

## H区第32号土坑

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
478-1	土器 坏D I	覆土内 破片	□底高 (12.0) — (3.9)	白・黒色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。体部・底部は寛削り、口縁部・器内面は横撫で。内外面に炭化物付着。	
478-2	土器 坏D II	覆土内 破片	□底高 (12.0) — (3.2)	白色粒子 黒色鉱物粒子	#	にぶい 橙	口縁部は外反する。口縁部・器内面は横撫で。内外面に炭化物付着。	
478-3 142	須恵器 坏E I	覆土内 瓦残存	□底高 (13.0) (6.3) — 3.7	白色粒子 白・黒色鉱物粒子	中性焰	灰白 黒	口縁部は外反する。継ぎ整形(右回転)。器内・外面を炭化させている。	
478-4	須恵器 坏E I	覆土内 瓦残存	□底高 11.6 — 6.2 — 3.7	白色粒子	#	にぶい 黄橙	口縁部は外傾する。継ぎ整形。	
478-5	須恵器 坏E I	覆土内 破片	□底高 (15.0) — (3.5)	白・赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	#	にぶい 橙	口縁部は外反する。継ぎ整形。	
478-6	須恵器 坏E II	覆土内 瓦残存	□底高 (14.0) — 6.8 (4.7)	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	口縁部は外反する。継ぎ整形(右回転)。	
478-7	須恵器 坏C II	覆土内 瓦残存	□底高 (15.3) — (5.2)	白色粒子 赤褐色粒子	中性焰	灰	口縁部は外反する。 継ぎ整形(右回転)。高台欠損(付高台)。	
478-8	須恵器 坏	覆土内 瓦残存	□底高 (19.2) — (6.6)	白色鉱物粒子	#	にぶい 黄橙	口縁部は外反する。 継ぎ整形(右回転)。高台欠損(付高台)。	
478-9	須恵器 高台付皿	覆土内 瓦残存	□底高 (13.8) — 6.2 — 2.5	白色粒子	#	灰	口縁部は外反する。 継ぎ整形(右回転)。付高台。	
478-10	土器 壺C III	覆土内 破片	□底高 (18.0) — (6.3)	白・黒色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	にぶい 橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外側胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内側胴部は炭撫で。	
478-11	須恵器 壺	覆土内 破片	□底高 — (8.5)	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は背割波文)後継ぎ再整形。	
478-12 143	瓦 字瓦	覆土内 破片	幅高反 (20.3) — 3.5 — —	白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	明焼灰	右端行唐草文。女瓦部は一枚作り。華は段頸。四面に粘土板剥ぎ取り痕あり。	厚 1.5
478-13	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。四面に粘土板剥ぎ取り痕あり。凸面縄印き。	

## H区第33号土坑

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
479-1	土器 坏	覆土内 破片	□底高 (13.0) — (3.0)	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	にぶい 橙	口縁部は内傾する。口縁部・器内面は横撫で。底部は欠損する。	
479-2	須恵器 坏DV	覆土内 瓦残存	□底高 13.0 (7.2) — 4.4	白色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	淡黄 黄灰	口縁部は外傾する。継ぎ整形。器内・外面に炭化物付着。	
479-3	須恵器 坏	覆土内 破片	□底高 (13.0) — (2.7)	白・赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	#	灰白	口縁部は外反する。継ぎ整形。	

## H区第121号土坑

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
480-1	須恵器 埴	覆土内 片残存	口 底 高 — (7.4) (4.5)	白色粒子 白・黒色鉱物粒子	中性焼	灰白	口縁部は欠損する。 轆轤整形(右回転)。付高台。	

## H区第162号土坑

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
480-2	土師器 環	覆土内 破片	口 底 高 (11.1) — (2.6)	白・黒色粒子 白・黒色鉱物粒子	酸化焼	橙	口縁部は外反する。体部は寛削り。口縁部・ 器内面は横撫で。底部は欠損している。	

## H区第163号土坑

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
480-3	土師器 環	覆土内 破片	口 底 高 (10.2) — (2.1)	白・黒色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焼	橙	口縁部は直立する。口縁部・器内面は横撫で。	
480-4	須恵器 壺	覆土内 破片	口 底 高 — —	白色粒子 黒色粒子	還元焼	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面当具 は青布波文)。	

## F区第1号井戸跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
482-1 143	土師器 環E	覆土内 片残存	口 底 高 (11.0) — 3.9	赤褐色粒子 白・黄色鉱物粒子	酸化焼	橙	口縁部は外傾する。体部・底部は寛削り、口 縁部・器内面は横撫で。	
482-2 143	土師器 環E	覆土内 片残存	口 底 高 (11.7) (5.2) 4.2	白色粒子 黒色鉱物粒子	#	にぶい 橙	口縁部は外傾する。体部は指押え。口縁部・ 器内面は横撫で。	
482-3 143	須恵器 環EIII	覆土内 片残存	口 底 高 11.3 5.6 3.6	白色粒子 白・黒色鉱物粒子	中性焼	灰黄褐	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
482-4 143	須恵器 環EII	覆土内 片残存	口 底 高 (12.6) 5.3 4.1	白色粒子 黒色粒子	還元焼	灰	口縁部は外反する。体部はやや脹らみを持つ。 轆轤整形(右回転)。外面に墨書がみられる。	
482-5 143	須恵器 環EI	覆土内 ほぼ完形	口 底 高 12.2 6.1 3.8	黒色粒子	中性焼	灰白	体部やや脹らみ、口縁部は外反する。轆轤整 形(右回転)。	
482-6 143	須恵器 埴CII	覆土内 ほぼ完形	口 底 高 13.2 6.4 4.8	白色粒子 黒色粒子	還元焼	#	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高 台。	
482-7 143	須恵器 埴CII	覆土内 片残存	口 底 高 13.0 6.8 4.3	白色粒子 黒色粒子	中性焼	にぶい 黄橙	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高 台。	
482-8 143	須恵器 埴CII	覆土内 完形	口 底 高 13.2 7.2 4.8	白色粒子 白・黒色鉱物粒子	還元焼	灰白	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高 台。歪みあり。	
482-9 143	須恵器 埴CII	覆土内 片残存	口 底 高 13.7 7.0 4.9	白色粒子 黒色粒子	中性焼	灰 にぶい 橙	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高 台。	

第1節 古墳時代～平安時代

482-10143	須恵器 埴C I	甌土内 片残存	口 径高 (14.2) 6.3 5.0	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	灰白	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。内面底部に墨書あり。	
482-11143	須恵器 埴C I	甌土内 ほぼ完形	口 径高 12.4 7.0 5.0	白・赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	#	にぶい 黄橙	口縁部は内湾し、口唇部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
482-12	須恵器 埴	甌土内 片残存	口 径高 — (8.2) (5.5)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	灰白	口縁部は欠損する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
482-13143	灰釉陶器 埴	甌土内 片残存	口 径高 (14.8) 8.1 4.6	美濃系		灰白	口縁部は外反する。轆轤成形(右回転)。付高台。施釉手法は浸掛。	
482-14143	白 磁 碗	甌土内 破片	口 径高 (13.9) — (1.8)	淡灰色(磁質) 白磁釉		白色	口縁部片。見込に一条の梅花の刻みあり。	中国製 五代～北宋
482-15144	須恵器 壺	甌土内 胴部残存	口 径高 — 6.0 (9.3)	白色鉱物粒子	還元焰	黒菊 オリ ブ黒	口縁部は欠損する。轆轤整形(右回転)。付高台。外面胴部中位から下は蔑削り。	小型
482-16143	須恵器 平 瓶	甌土内 口縁部欠損	口 径高 — 9.8 (9.4)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	灰	轆轤整形(右回転)。天井部は粘土円盤を接合後、口縁部を付設し轆轤整形している。	
483-1144	瓦 字 瓦	甌土内 破片	幅 高反 (13.5) (3.6) —	白色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	黄灰	左斜行草文。女瓦部は一枚作り。凹面に粘土板割き取り痕あり。	厚 1.7
483-2144	瓦 白 瓦	甌土内 破片	幅 高反 (10.5) (3.5) —	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	#	重朝文。女瓦部は種巻き造り。布目の擦消し。	厚 2.0
483-3144	瓦 繪 瓦	甌土内 破片	径 厚 (5.0) 3.9	白色粒子 白色鉱物粒子	#	灰	単弁5葉蓮華文。布目の擦消し。	
483-4144	瓦 繪 瓦	甌土内 破片	径 厚 (10.0) —	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+4。	
484-1144	瓦 繪 瓦	甌土内 破片	径 狭長 17.2 — —	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+4。背面は撫で調整。	厚 2.2
485-1144	瓦 繪 瓦	甌土内 破片	径 狭長 16.2 — —	白色粒子 白色鉱物粒子	#	#	単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+4。背面は撫で調整。	厚 1.1
486-1144	瓦 繪 瓦	甌土内 破片	径 狭長 (16.0) — —	白色粒子 白色鉱物粒子	#	灰白	単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+4。凸面罫印き後、擦消している。背面は撫で調整。	厚 1.6
487-1	瓦 女 瓦	甌土内 破片	厚 2.4	白色粒子	#	灰	一枚作り。凹面に粘土板割き取り痕あり。寛描き文字瓦、文字不明(凹面)。	
487-2	瓦 女 瓦	甌土内 破片	厚 2.0	白色粒子 黒色粒子	#	灰白	一枚作り。凹面に粘土板割き取り痕あり。寛描き文字瓦「乙」(凸面)。	
487-3	瓦 女 瓦	甌土内 破片	厚 1.3	白色粒子 赤褐色粒子	#	褐灰	一枚作り。布目の擦消し。凸面粘土板割き取り痕あり。凸面正格子叩き。	寛描き文字
487-4	瓦 女 瓦	甌土内 破片	厚 2.5	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	#	灰黄	種巻き造り。凹面に粘土板割き取り痕あり。寛描き文字瓦「十」(凹面)。	
487-5	瓦 女 瓦	甌土内 破片	厚 2.2	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	オリ ブ灰	一枚作り。凹面に粘土板割き取り痕あり。寛描き文字瓦「㊦」(凹面)。	
488-1	瓦 女 瓦	甌土内 破片	厚 1.7	白色粒子 白色鉱物粒子	#	灰	寛描き文字瓦、文字不明(凸面)。	
488-2	瓦 女 瓦	甌土内 破片	厚 1.5	白・黒色粒子 赤褐色粒子	#	明紫灰	寛描き文字瓦、文字不明(凸面)。	



## F区(1号井戸跡)

488-3	瓦 女	瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	凹面に粘土板剥ぎ取り痕あり。一部布目の擦消。凸面正格子叩き。	
488-4	瓦 女	瓦	覆土内 破片	厚 2.5	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	灰白	一枚作り。凹面に粘土板剥ぎ取り痕あり。凸面正格子叩き。	
488-5	瓦 女	瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰黄褐	一枚作り。凹面に粘土板剥ぎ取り痕あり。一部布目の擦消し。凸面正格子叩き。	刻印文字瓦「佐」(凸面)
489-1	瓦 女	瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白・黒色粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。両面に粘土板剥ぎ取り痕あり。凸面斜格子叩き。	
489-2	瓦 女	瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	にぶい 褐	一枚作り。両面に粘土板剥ぎ取り痕あり。布目の擦消し。凸面斜格子叩き。	
489-3	瓦 女	瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色粒子 白色鉱物粒子	#	浅黄	一枚作り。凸面正格子叩き。刻印文字瓦「重」(凸面)。(左文字)	
489-4	瓦 女	瓦	覆土内 破片	厚 2.8	白色粒子 赤褐色粒子	#	灰黄褐	一枚作り。凸面に粘土板剥ぎ取り痕あり。凹面布目の擦消し。凸面斜格子叩き。	
489-5	瓦 女	瓦	覆土内 破片	厚 2.8	白色粒子 赤褐色粒子	中性焰	灰 灰黄褐	一枚作り。凹面に粘土板剥ぎ取り痕あり。凹面布目の擦消し。凸面正格子叩き。	
489-6	瓦 女	瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面に粘土板剥ぎ取り痕あり。布目の擦消し。凸面斜格子叩き。	
489-7	瓦 女	瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	#	黄灰褐	凹面に布目の擦消し。凸面斜格子叩き。	
490-1	瓦 女	瓦	覆土内 破片	厚 1.6	#	#	黄灰	一枚作り。両面に粘土板剥ぎ取り痕あり。凸面斜格子叩き。凹面布目の擦消し。	
490-2	瓦 女	瓦	覆土内 破片	厚 1.3	#	#	#	一枚作り。両面に粘土板剥ぎ取り痕あり。凸面斜格子叩き。凹面布目の擦消し。	
490-3	瓦 女	瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面平行叩き。	
490-4	瓦 女	瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色粒子	#	にぶい 褐	凹面に粘土板剥ぎ取り痕あり。凸面平行叩き。	
490-5	瓦 女	瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色粒子 赤褐色粒子	#	暗灰	凸面平行叩き。	
490-6	瓦 女	瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色粒子 赤褐色粒子	#	灰	一枚作り。凹面に粘土板剥ぎ取り痕あり。	
491-1	瓦 女	瓦	覆土内 破片	厚 2.3	#	#	#	一枚作り。凹面に粘土板剥ぎ取り痕あり。布目の擦消し。凸面叩き。	
491-2	瓦 男	瓦	覆土内 破片	厚 3.1	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	#	#	半載作り。凹面に粘土板剥ぎ取り痕あり。	
491-3	瓦 女	瓦	覆土内 破片	厚 2.6	白色粒子	#	暗灰	一枚作り。凹面に粘土板剥ぎ取り痕あり。	
492-1	瓦 女	瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白・黒色粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。布目の擦消し。凸面叩き。	
492-2	瓦 女	瓦	覆土内 破片	厚 2.2	#	還元焰	灰	一枚作り。両面に粘土板剥ぎ取り痕あり。凹面布目の擦消し。凸面叩き。	

第1節 古墳時代～平安時代

492-3	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 3.1	白・黒色粒子 赤褐色粒子	酸化焰	にぶい 黄橙	横巻き造り。凹面に粘土板剥ぎ取り痕あり。 凸面叩き。	
492-4	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白・黒色粒子 赤褐色粒子	#	灰白	一枚作り。凹面に粘土板剥ぎ取り痕あり。 凸面叩き。狹・側端部に布の圧痕あり。	
493-1	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面に粘土板剥ぎ取り痕あり。	
493-2	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白・黒色粒子 赤褐色粒子	#	#	横巻き造り。凹面に粘土板剥ぎ取り痕あり。 凸面叩き後、擦消している。	
493-3	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色粒子 黒色粒子	#	浅黄	凹面に粘土板剥ぎ取り痕あり。寛調整による 布目擦消し。	
493-4	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	#	灰	一枚作り。凹面一部布目の擦消し。凸面叩 き後、擦消している。	
494-1	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.1	#	#	#	一枚作り。凹面に粘土板剥ぎ取り痕あり。 凸面叩き後、擦消し。	
494-2	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.5	白色粒子 白色鉱物粒子	#	#	横巻き造り。凹面に粘土板剥ぎ取り痕あり。 凸面叩き後、擦消し。	
494-3	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白・赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	酸化焰	明赤褐	一枚作り。	
494-4	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	半載作り。凹面に粘土板剥ぎ取り痕あり。 凸面寛調整で調整。	
495-1	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色粒子	#	#	一枚作り。凹面一部布目の擦消し。	
495-2	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	にぶい 黄橙	半載作り。凹面に粘土板剥ぎ取り痕あり。 凸面叩き後、擦消し。	
495-3	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白・黒色粒子 白・黄色鉱物粒子	#	褐灰 にぶい 橙	半載作り。凹面に粘土板剥ぎ取り痕あり。凸 面寛調整による調整。	
495-4	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.4	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面平行叩き後、擦消し。	

G区第4号井戸跡

邦国番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
497-1 145	須恵器 坏E III	覆土内 1/2残存	□ 底高 (11.7) 6.0 3.4	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	橙	口縁部は外反する。縦壺形(右回転)。	
497-2 145	須恵器 坏E II	覆土内 ほぼ完形	□ 底高 (12.7) 5.6 4.0	白色粒子	#	灰	口縁部は外反する。縦壺形(右回転)。	
497-3 145	須恵器 坏C I	覆土内 1/2残存	□ 底高 (11.5) 6.7 5.4	白色粒子 黒色粒子	#	灰 橙	口縁部は外傾する。縦壺形(右回転)。付高 台。	
497-4 145	須恵器 坏C I	覆土内 1/2残存	□ 底高 (13.0) 6.0 4.9	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	#	にぶい 黄橙	口縁部は外反する。縦壺形(右回転)。付高 台。器内・外面に灰化物付着。	

## G区(4号井戸跡)

497-5 145	須恵器 埴C II	覆土内 ほぼ完形	口 底高 (13.1) 6.4 4.6	白色粒子 黒色粒子	中性焰	灰白	口縁部は外反する。体部は張りみを持つ。 轆轤整形(右回転)。付高台。		
497-6 145	須恵器 埴C II	覆土内 1/2残存	口 底高 (14.2) (6.7) 5.6	黒色粒子	#	#	口縁部は外反する。体部は張りみを持つ。 轆轤整形(右回転)。付高台。		
497-7 145	須恵器 埴	覆土内 破片	口 底高 (6.3) (4.0)	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	にぶい 薄灰	口縁部は欠損する。轆轤整形(右回転)。付高台。		
497-8	灰釉陶器 埴	覆土内 1/2残存	口 底高 (17.3) (7.6) 3.5	美濃系		灰白	口縁部は外反する。轆轤成形(右回転)。付高台。施釉手法は刷毛塗。内面底部に黒書あり。		
497-9	灰釉陶器 埴	覆土内 破片	口 底高 (15.9) (8.6) (5.0)	美濃系		灰	口縁部は外反する。轆轤成形(右回転)。付高台。施釉手法は刷毛塗。外面口縁部に炭化物付着。		
497-10	灰釉陶器 埴	覆土内 破片	口 底高 (8.8) (1.9)	美濃系		灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。 底部は回転痕有り。		
497-11	須恵器 高 坏	覆土内 脚部残存	口 底高 (8.3)	白色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形。内面に絞り痕あり。		
497-12	灰釉陶器 長頸壺	覆土内 破片	口 底高 8.0	美濃系		灰白	紐作り後轆轤整形。施釉手法は浸掛。		
497-13 145	緑釉陶器 埴	覆土内 破片	口 底高 — —	— —		オリブ 灰	轆轤成形。		
497-14	須恵系 羽蓋C	覆土内 破片	口 底高 (19.8) — (7.5)	白色粒子 黒色粒子	中性焰	灰	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。背は貼り付け。		
498-1 145	須恵器 壺	覆土内 1/2残存	口 底高 (16.0) (28.6)	白色粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	#	紐作り。叩き整形(外面格子叩き、内面宛具は青海波文)後轆轤再整形。		
498-2 145	瓦 字瓦	覆土内 破片	幅 高さ 反 (15.0) (4.8)	白色粒子	中性焰	灰白	左扁行唐草文。女瓦部は一枚作り。凹面布目の擦消し。凸面叩き後、擦消している。凸面一部赤色顔料塗彩。	厚 2.9	
498-3 145	瓦 鉦瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色粒子 黒色粒子	酸化焰	にぶい 黄橙	凹面布目の擦消し。		
498-4 145	鉄器 刀子	覆土内	長 幅重 (10.1) 0.8 20.0				断面三角形を呈し、身の一部と思われる。切先欠損。		
499-1	瓦 字瓦	覆土内 破片	幅 高さ 反 (10.8) (4.0)	白色粒子 赤褐色粒子	中性焰	薄灰	右扁行唐草文か。女瓦部は一枚作り。凹面に粘土板剥ぎ取り痕あり。	厚 1.6	
499-2	瓦 字瓦	覆土内 破片	幅 高さ 反 (10.7) (3.1)	白色粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰	瓦当意匠不明。凹面に粘土板剥ぎ取り痕あり。粘土板合せ目あり。	厚 2.7	
499-3	瓦 甍瓦	覆土内 破片	厚 —	白色粒子 白色鉱物粒子	#	#	瓦当面に木型木目痕あり。 単弁4葉蓮花文。		
499-4	瓦 玉男 付瓦	覆土内 破片	厚 3.1	白色粒子 黒色粒子	#	#			
499-5 146	瓦 玉男 付瓦	覆土内 1/2残存	広 長さ — 14.5	白色粒子 赤褐色粒子	中性焰	灰黄褐 にぶい 橙	半截作り。凹面に粘土板剥ぎ取り痕、赤目の擦消しあり。凸面叩き後、擦消し。	玉 反厚 11.5 — 1.8	
499-6	瓦 玉男 付瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	還元焰		凹面に粘土板剥ぎ取り痕あり。		
500-1	瓦 玉男 付瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色粒子	#	#	半截作り。凹面に粘土板剥ぎ取り痕あり。凸面叩き後、擦消し。		

第1節 古墳時代～平安時代

500-2	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色粒子 赤褐色粒子	中性焰	淺黄橙 褐灰	半截作り。凹面に粘土板割ぎ取り痕あり。凸面鑄り。	
500-3	瓦 男 瓦	覆土内 瓦残存	広狭長 (16.0) —	白・黒色粒子 赤褐色粒子	〃	灰白	半截作り。凸面平行叩き。凹面一部布目の擦消し。	反厚 (7.0) 1.3
501-1	瓦 男 瓦	覆土内 破片	広狭長 (12.0) —	白色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面無で整形。	厚 1.9
501-2 146	瓦 男 瓦	覆土内 瓦残存	広狭長 — 14.3 —	白・黒色粒子 白・黒色炭物粒子	酸化焰	橙	粘土紐作り。	厚 1.7
501-3	瓦 男 瓦	覆土内 瓦残存	厚 2.0	白・赤褐色粒子 白色炭物粒子	中性焰	灰 灰白	半截作り。凸面鑄り後、擦消ししている。凹面布合せ目痕あり。	
502-1	瓦 男 瓦	覆土内 破片	広狭長 — 15.5 —	白色粒子 赤褐色粒子	〃	褐灰	半截作り。両面に粘土板割ぎ取り痕あり。	厚 2.2
502-2 146	瓦 男 瓦	覆土内 瓦残存	広狭長 — 12.5 —	白色粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰	半截作り。凹面に粘土板割ぎ取り痕あり。	厚 1.4
502-3	瓦 男 瓦	覆土内 瓦残存	厚 1.7	白色粒子 黒色粒子	〃	〃	半截作り。凸面調整。凹面一部布目の擦消し。	
503-1	瓦 女 瓦	覆土内 瓦残存	厚 2.5	白色粒子	〃	灰白	一枚作り。 甃描き文字瓦「井」(凸面)。	
503-2	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色粒子 赤褐色粒子	〃	〃	一枚作り。 甃描き文字瓦「上」(凸面)。	
503-3	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.5	白色粒子 黒色粒子	〃	灰	一枚作り。凹面一部布目の擦消し。 刻印「雷」。甃描き文字瓦「鬼」(凸面)。	
504-1	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 3.0	白色粒子 赤褐色粒子	〃	暗灰黄	一枚作り。 甃描き文字瓦。文字不明(凸面)。一部残存。	
504-2	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色粒子	中性焰	にふい 黄橙	凹面に粘土板割ぎ取り痕あり。凸面裏文叩き。 甃描き文字瓦「勢？」(凹面)。	
504-3	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.2	〃	還元焰	暗灰	甃描き文字瓦。文字不明(凸面)。一部残存。	
504-4	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.2	〃	〃	灰黄	一枚作り。凸面無で調整。 甃描き文字瓦。文字不明(凸面)。一部残存。	
504-5	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色粒子 赤褐色粒子	〃	灰白	半截作り。凹面布目の擦消し。 甃描き文字瓦。文字不明(凹面)。一部残存。	
504-6 146	瓦 男 瓦	覆土内 瓦残存	厚 1.8	白色粒子 黒色粒子	中性焰	〃	半截作り。凹面に粘土板割ぎ取り痕。 甃描き文字瓦「十」(凹面)。	
505-1	瓦 女 瓦	覆土内 瓦残存	厚 2.8	白色粒子 赤褐色粒子	〃	〃	一枚作り。凹面に粘土板割ぎ取り痕あり。 甃描き文字瓦「子」(凸面)。	
505-2	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色粒子	還元焰	暗灰	半截作り。甃描き文字瓦。文字不明(凸面)。	
505-3	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 2.1	〃	〃	黒	半截作り。凸面鑄り。 甃描き文字瓦「又」(凹面)。一部残存。	
505-4	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.9	〃	〃	灰	半截作り。凹面に粘土板割ぎ取り痕あり。 甃描き文字瓦「千」(凸面)。	

## G区(4号井戸跡)

506-1	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色粒子 黒色粒子	中性焰	灰白	精香き造り。凹面に粘土板割ぎ取り痕あり。 凸面隅叩き後、擦消し。	異造き文字瓦 「一」 (凸面)。
506-2	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子	還元焰	灰	凹面に粘土板割ぎ取り痕あり、凸面隅叩き後、 擦消し。刻印「雷」・鹿嶋き文字瓦「右」(凸 面)。	
506-3	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色粒子 赤褐色粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凹面布目の擦消し。 刻印文字瓦「佐」(凸面)。	
507-1	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面一部布目の擦消し。凸面平行 叩き、擦消し。刻印「雷」・鹿嶋き文字瓦「上」 (凸面)。	
507-2	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白・黒色粒子 赤褐色粒子	中性焰	にぶい 暗灰黄	半焼作り。凹面に粘土板割ぎ取り痕あり。凸 面異造。刻印文字瓦「佐」(凸面)。	
507-3	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.5	白色粒子	#	灰	半焼作り。凹面一部布目の擦消し。 刻印「雷」・鹿嶋き文字瓦「王」(凹面)。	
508-1	瓦 女瓦	覆土内 瓦残存	広 狭長 24.5 — 2	白色粒子 赤褐色粒子	酸化焰	暗灰黄	一枚造り。両面に粘土板割ぎ取り痕あり。 一部布目の擦消し。凸面斜格子叩き。	反 6.7 厚 2.0
508-2	瓦 女瓦	覆土内 瓦残存	厚 1.5	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	橙 黒	一枚作り。凸面に粘土板割ぎ取り痕あり。 凸面不整格子叩き。	
508-3	瓦 女瓦	覆土内 瓦残存	厚 2.0	#	#	褐灰	一枚作り。両面に粘土板割ぎ取り痕あり。 凸面正格子叩き。	
509-1	瓦 女瓦	覆土内 瓦残存	厚 1.7	白色粒子	還元焰	灰白	両面に粘土板割ぎ取り痕あり。凹面布目の擦 消し。凸面斜格子叩き。	刻印文字瓦 「佐」(凸面)。
509-2	瓦 女瓦	覆土内 瓦残存	厚 2.1	白色粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面に粘土板割ぎ取り痕あり。 凸面斜格子叩き。刻印文字瓦「佐」(凸面)。	
509-3	瓦 女瓦	覆土内 瓦残存	厚 1.3	白色粒子 黒色粒子	#	#	一枚作り。両面に粘土板割ぎ取り痕あり。 凸面斜格子叩き。	
510-1	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	白灰 明黄褐	一枚作り。凹面に粘土板割ぎ取り痕あり。 凸面不整格子叩き。	
510-2	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色粒子 黒色粒子	還元焰	にぶい 黄	一枚作り。両面に粘土板割ぎ取り痕あり。 布目の擦消し。凸面正格子叩き。	
510-3	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色粒子	酸化焰	にぶい 黄橙	凹面に粘土板割ぎ取り痕あり。凸面正格子叩 き。凸面擦削り調整。	
511-1	瓦 女瓦	覆土内 瓦残存	厚 2.2	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面に粘土板割ぎ取り痕、鹿調整 による布目の擦消し。凸面正格子叩き。	
511-2	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	#	明赤褐 黒	一枚作り。凹面に粘土板割ぎ取り痕、一部布 目擦消し。凸面斜格子叩き。	
511-3	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色粒子 黒色粒子	#	黄灰	凸面に粘土板割ぎ取り痕あり。 凹面布目の擦消し。凸面正格子叩き。	
511-4	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	にぶい 黄橙	一枚作り。凹面に粘土板割ぎ取り痕、布目の 擦消し。凸面正格子叩き。	
512-1	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色粒子 黒色粒子	還元焰	暗褐 黒褐	一枚作り。両面に粘土板割ぎ取り痕あり。凹 面布目の擦消し。凸面正格子・刻印文字「雷」。	凸面に布目 痕僅かにあ り。
512-2	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.2	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	#	灰	一枚作り。凸面に粘土板割ぎ取り痕、布目の 擦消しあり。凸面斜格子叩き。	

第1節 古墳時代～平安時代

512-3	瓦 女	瓦 破片	覆土内	厚 1.8	白色粒子	中性焰	黄灰	一枚作り。凹面に粘土板刺き取り痕。凹面布目の擦消し。凸面正格子・刻印文字瓦「佐上」。	
512-4	瓦 女	瓦 破片	覆土内	厚 1.5	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	にぶい 赤褐	一枚作り。凸面に粘土板刺き取り痕あり。凸面斜格子叩き。	
512-5	瓦 女	瓦 破片	覆土内	厚 2.8	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	#	灰	一枚作り。凸面斜格子叩き。	
512-6	瓦 女	瓦 破片	覆土内	厚 2.1	白色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。凸面に粘土板刺き取り痕あり。凹面布目の擦消し。凸面斜格子叩き。	
512-7	瓦 女	瓦 破片	覆土内	厚 2.1	白・黒色粒子 赤褐色粒子	#	浅黄	一枚作り。凸面不整格子叩きか。	
512-8	瓦 女	瓦 破片	覆土内	厚 2.2	白色粒子 赤褐色粒子	酸化焰	暗赤褐	凹面一部布目の擦消し。凸面不整格子叩き。	
513-1	瓦 女	瓦 破片	覆土内	厚 2.1	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	黒褐	一枚作り。凹面に粘土板刺き取り痕あり。布目の擦消し。凸面斜格子叩き。	
513-2	瓦 女	瓦 破片	覆土内	厚 1.4	#	還元焰	灰	凹面布目の擦消し。凸面斜格子叩き。	
513-3	瓦 女	瓦 破片	覆土内	厚 1.8	白・赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	暗赤褐	一枚作り。凸面斜格子叩き。刻印文字瓦「勢」(凸面)。	
513-4	瓦 女	瓦 破片	覆土内	厚 2.4	白色粒子 赤褐色粒子	中性焰	灰 黒褐	凸面斜格子叩き。	
513-5	瓦 女	瓦 破片	覆土内	厚 1.3	白色粒子 赤褐色粒子	#	暗赤褐	一枚作り。凹面に粘土板刺き取り痕あり。凸面正格子叩き。	
513-6	瓦 女	瓦 破片	覆土内	厚 1.7	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	#	にぶい 黄橙	模骨痕あり。凹面に粘土板刺き取り痕あり。凸面斜格子叩き。叩き具の板目痕。	
513-7	瓦 女	瓦 破片	覆土内	厚 1.6	#	#	#	凸面に粘土板刺き取り痕あり。凹面布目の擦消し。凸面平行叩き・斜格子叩き。	
514-1	瓦 女	瓦 片残存	覆土内	厚 2.2	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	#	灰白	縛巻き造り。凹面に粘土板刺き取り痕あり。凸面叩き後、擦消し。凸面に布目あり。	
514-2	瓦 女	瓦 片残存	覆土内	厚 2.2	白色粒子 赤褐色粒子	還元焰	暗灰	縛巻き造り。凹面に縄叩きがみられる。一部布目の擦消し。凸面縄叩き。	
514-3	瓦 女	瓦 破片	覆土内	厚 2.3	白色粒子 黒色粒子	中性焰	褐灰	凹面に粘土板刺き取り痕あり。布目の擦消し。凸面縄叩き後擦消し。	
514-4	瓦 男	瓦 片残存	覆土内	広 14.5 長 一	白色粒子	還元焰	灰	凹面一部布目の擦消し。凸面平行叩き。	厚 1.5
515-1	瓦 男	瓦 破片	覆土内	厚 1.3	白色粒子 黒色粒子	#	黒褐	一枚作り。凹面布合せ目痕あり。	
515-2	瓦 男	瓦 片残存	覆土内	厚 1.5	白色粒子 赤褐色粒子	酸化焰	橙	模骨痕か。凸面に布目がみられる。	
515-3	瓦 男	瓦 破片	覆土内	厚 1.5	白色粒子 黒色粒子	還元焰	暗灰	粘土編作りか。	
516-1	瓦 男	瓦 片残存	覆土内	厚 1.5	#	#	灰	凹面に粘土板刺き取り痕あり。凸面に覆削り整形。	

## G区(6号井戸跡)

516-2	瓦 女瓦	覆土内 瓦残存	厚	2.3	白色粒子 赤褐色粒子	中性焰	灰白	桶巻き造り。凹面に粘土板剥ぎ取り痕あり。 凸面鑄印き後擦消し、布目もみられる。	
516-3	瓦 女瓦	覆土内 瓦残存	厚	3.1	白色粒子 白色鉱物粒子	#	灰	桶巻き造り。両面に粘土板剥ぎ取り痕あり。 凹面布目の擦消し。凸面鑄印き後擦消し。	
517-1	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	1.6	白色粒子 赤褐色粒子	#	灰白	桶巻き造り。	
517-2	瓦 女瓦	覆土内 瓦残存	広狭長	— 22.0 —	#	還元焰	黒	桶巻き造り。凹面に粘土板剥ぎ取り痕あり。	厚 1.5
517-3	瓦 字瓦	覆土内 瓦残存	幅高反	(10.0) (2.2) —	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	灰白	一枚作り。凸面に粘土板剥ぎ取り痕あり。 凹面荒削り調整。	厚 1.7
518-1 145	瓦 女瓦	覆土内 瓦残存	広狭長	31.0 — —	白色粒子	#	灰	粘土組作り。凹面は荒削りで調整。 凸面鑄印き後、擦消し。	反 9.5 厚 2.0
519-1	瓦 男瓦	覆土内 瓦残存	厚	1.8	#	還元焰	暗灰	半截作り。凸面鑄印き後、荒削り調整。 焼け垂れ付着。	
519-2	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚	1.9	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	#	灰	半截作り。粘土組作り。凹面布目の擦消し。 凹面に赤色顔料塗彩。	

## G区第6号井戸跡

弾丸番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	径目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
522-1 146	坏F'	覆土内 瓦残存	口 径高 8.6 5.2 1.9	白色粒子 黒色粒子	還元焰	浅黄	口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。	
522-2 146	坏F'	覆土内 瓦残存	口 (9.5)	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。 底部は荒調整。	
522-3 146	須恵器 坏	覆土内 瓦残存	口 径高 (10.3) 6.7 4.2	赤褐色粒子 白・黒色鉱物粒子	#	にぶい 橙	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高 台。外面に炭化物付着。	
522-4	須恵器 坏E II	覆土内 瓦残存	口 径高 12.6 7.0 3.2	白色粒子 黒色粒子	中性焰	暗灰	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。	
522-5	須恵器 坏E II	覆土内 瓦残存	口 径高 (13.9) (5.8) 3.3	白色粒子 黒色鉱物粒子	#	灰白 灰	口縁部は外反する。轆轤整形。	
522-6	須恵器 坏E'	覆土内 破片	口 径高 (11.9) (5.8) 2.7	黒色粒子	還元焰	明褐色	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。 自然胎がみられる。	
522-7	須恵器 坏D V	覆土内 瓦残存	口 径高 (13.1) (8.5) 2.9	#	#	灰	口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。	
522-8	須恵器 坏	覆土内 破片	口 径高 (13.0) — 3.0	白・赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	にぶい 黄橙	口縁部は外傾する。轆轤整形。	底部は欠損。
522-9 146	須恵器 坏C II	覆土内 瓦残存	口 径高 14.7 (6.4) 4.9	白色粒子 白色鉱物粒子	#	灰	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高 台。	
522-10 146	灰輪陶器 高台付皿	覆土内 瓦残存	口 径高 13.4 7.0 3.0	美濃系		灰	口縁部は内湾する。轆轤成形(右回転)。付高 台。底部は回転窯で。	
522-11	灰輪陶器 坏	覆土内 破片	口 径高 — (7.5) (2.3)	#	#	#	口縁部は欠損する。轆轤成形(右回転)。付高 台。指輪手法は浸漬。	

第1節 古墳時代～平安時代

S23-1	灰釉陶器 埴	覆土内 破片	□ 底高 (8.2) (1.4)	美濃系		浅黄	轆轤成形(右回転)。付高台。器内・外面に炭化物付着。破損後と思われる。	
S23-2	灰釉陶器 埴	覆土内 片残存	□ 底高 (16.2) (5.4)	#		灰	口縁部は外傾する。轆轤成形(右回転)。外面下部は寛調整。施軸手法は没損。	器部は欠損。
S23-3	灰釉陶器 埴	覆土内 破片	□ 底高 (15.0) (8.4) 4.3	#		灰白	口縁部は外反する。体部に脹らみを持つ。轆轤成形(右回転)。付高台。	
S23-4 146	緑釉陶器 埴	覆土内 破片	□ 底高 (17.0) (4.1)			オリブ 灰	口縁部は外反する。轆轤成形。	
S23-5 146	灰釉陶器 浄 瓶	覆土内 破片	□ 底高 — (6.2)			灰白	轆轤成形。	
S23-6	須恵器 壺	覆土内 破片	□ 底高 — (8.4) (8.8)	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	灰 濁灰	紐作り後轆轤整形。胴下部歪削り。	台部欠損。
S23-7	須恵器 壺	覆土内 破片	□ 底高 13.0 (4.8)	白色粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰	紐作り後叩き整形。内外面調整。自然釉のみみられる。	
S23-8 147	須恵器 転用 硯	覆土内 破片	□ 底高 — —	白色粒子 黒色粒子	#	黄灰	紐作り後叩き整形。内面砥としての使用痕あり。	
S23-9	須恵系 羽釜 C	覆土内 破片	□ 底高 (19.0) (6.7)	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	中性焰 にふい 橙		口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。脚は貼り付け。	
S23-10	須恵系 羽釜 D	覆土内 破片	□ 底高 (21.0) (4.8)	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	#	灰 赤黒	口縁部は直立する。紐作り後轆轤整形(右回転)。脚は貼り付け。	
S23-11	須恵系 羽釜 C	覆土内 破片	□ 底高 (18.8) (4.5)	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	中性焰 にふい 橙		口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。脚は貼り付け。	
S23-12	須恵系 羽釜 C	覆土内 破片	□ 底高 (19.9) (6.4)	白色粒子 赤褐色粒子	#	灰黄	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。脚は貼り付け。	
S24-1 147	石器 磨石	覆土内 破片	長 幅厚 (5.8) (7.9) (2.0)	青緑石英片岩			例縁は丸味を持ち、扁平。全体磨耗している。	重 116.7
S24-2 147	石器 磨石	覆土内 ほぼ定形	長 幅厚 9.1 8.2 1.6	輝石安山岩 (細粒)			円盤状を呈す。平面は磨耗している。周縁部は敲きによる剥離あり。	重 156.7
S24-3 147	石器 不明	覆土内 破片	長 幅厚 (8.5) (7.8) 6.0	石英閃緑岩			断面円形に近く、残存面丸味おび、全体磨耗している。熱を受けて一部分変色。	重 696.3
S24-4 147	石器 不明	覆土内 破片	長 幅厚 (13.8) (8.6) 3.7	青緑石英片岩			表・両側面磨耗している。裏面は剥落している。右側面に敲打痕あり。	重 729.3
S24-5 147	瓦 鬼瓦	覆土内 破片	厚 4.0	白・黒色粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰白	隅割瓦の切り込みの一部が残存する。	
S24-6 147	瓦 宇瓦	覆土内 破片	幅 高反 (11.5) (4.5) —	白・黒色粒子 赤褐色粒子	酸化焰	濁灰	右肩行唐草文。女瓦部は一枚作り。	厚 2.5
S24-7 147	瓦 宇瓦	覆土内 破片	幅 高反 (11.5) (4.7) —	白色粒子 赤褐色粒子	#	にふい 赤濁	右肩行唐草文。女瓦部は一枚作り。布目の磨消し。	厚 —
S25-1 147	瓦 宇瓦	覆土内 片残存	幅 高反 (22.5) (6.8) —	白・黒色粒子 赤褐色粒子	#	濁灰	均整唐草文。女瓦部は一枚作り。	厚 2.5
S25-2 147	瓦 宇瓦	覆土内 破片	幅 高反 (16.5) (3.5) —	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	#	橙	左肩行唐草文。女瓦部は一枚作り。凹面に粘土板剥き取り痕あり。凸面平行叩き後、磨消し。	厚 2.0



## G区(6号井戸跡)

525-3	瓦 宇瓦	覆土内 破片	幅高反 (15.0) (3.5) —	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	赭灰	文様不詳。女瓦部は一枚作り。凸面寛削り。	厚	3.5
526-1	瓦 宇瓦	覆土内 破片	幅高反 (9.0) — —	白・赤褐色粒 子	中性焰	#	左扇行唐草文。女瓦部は一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。	厚	(2.7)
526-2	瓦 宇瓦	覆土内 破片	幅高反 (11.5) (4.8) —	#	酸化焰	赤灰	右扇行唐草文。女瓦部は一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。	厚	1.9
526-3	瓦 宇瓦	覆土内 破片	幅高反 (9.0) (3.5) —	#	還元焰	暗灰	垂郭文か。凸面寛削り。	厚	3.1
526-4	瓦 宇瓦	覆土内 破片	幅高反 (10.5) (6.0) —	白色粒子	中性焰	赭灰	均整唐草文か。凹面粘土板割ぎ取り痕。	厚	2.5
526-5	瓦 宇瓦	覆土内 破片	幅高反 (8.0) (2.5) —	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	#	灰赤	均整唐草文。女瓦部は一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。	厚	1.9
526-6	瓦 宇瓦	覆土内 破片	幅高反 (10.5) — —	白・黒・赤褐 色粒子	還元焰	暗灰	瓦当文様は不詳。女瓦部は一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。	厚	3.0
526-7 148	瓦 鏡瓦	覆土内 破片	径 — —	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	#	灰	一本造りか。単弁5葉蓮華文。凹面粘土板割ぎ取り痕。刻印文字瓦「勢作」(凸面)。	厚	2.1
527-1	瓦 鏡瓦	覆土内 破片	径 — —	白・黒・赤 褐色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	黄灰	単弁5葉蓮華文。1本造りか。布目の擦消し。	厚	4.5
527-2	瓦 鏡瓦	覆土内 破片	径 — —	白・黒色粒子	還元焰	黒褐	単弁5葉蓮華文。1本造り。中房は1+4。	厚	—
527-3 148	瓦 鏡瓦	覆土内 破片	径 — —	白・赤褐色粒 子	#	暗青灰	単弁5葉蓮華文。一本造り。中房の字葉は1+4。凸面寛削り。	厚	1.9
527-4	瓦 女瓦	覆土内 片残存	広狭長 28.0 — —	#	中性焰	灰	一枚作り。凹面布目の擦消し。凸面鑄印き後擦消し。	反厚	6.8 2.5
528-1 148	瓦 瓦	覆土内 ほぼ完整	広狭長 (30.0) (22.2) 38.2	白色粒子	#	#	一枚作り。凸面撫で仕上げ。凹面布目の擦消し。	反厚	— 2.0
529-1 148	瓦 玉男	覆土内 片残存	広狭長 — 15.4 —	黒・赤褐色粒 子	#	灰白	半截作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面鑄印き。	玉反厚	11.0 — 2.0
529-2	瓦 玉男	覆土内 片残存	広狭長 — 17.0 —	#	#	灰	半截作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面鑄印き後擦消し。	玉反厚	14.0 — 1.5
530-1	瓦 玉男	覆土内 片残存	広狭長 — 17.0 —	#	還元焰	#	半截作り。凸面鑄印き後擦消し。	玉反厚	(14.0) — 2.5
530-2 148	瓦 玉男	覆土内 片残存	広狭長 19.2 — —	白色粒子	#	#	半截作り。凸面鑄印き後擦消し。	玉反厚	— 8.7 1.8
531-1	瓦 玉男	覆土内 片残存	広狭長 — (16.8) —	#	#	#	半截作り。凸面鑄印き後擦消し。	玉反厚	(13.7) — 2.2
531-2	瓦 玉男	覆土内 片残存	広狭長 — — —	白・黒色粒子	#	#	半截作り。凸面鑄印き後擦消し。	玉反厚	— — 2.0
531-3	瓦 男瓦	覆土内 片残存	厚 2.7	白色粒子	中性焰	#	半截作り。凸面鑄印き後擦消し。		
532-1 148	瓦 男瓦	覆土内 片残存	広狭長 (23.5) — —	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	#	#	半截作り。	反厚	9.0 1.7

第1節 古墳時代～平安時代

532-2	瓦 男 瓦	覆土内 瓦残存	厚 2.0	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	灰	半截作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。	
533-1	瓦 男 瓦	覆土内 瓦残存	広狭長 — 14.0 —	#	酸化焰	橙	半截作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面焼叩き後擦消し。	反厚 2.8
533-2 148	瓦 男 瓦	覆土内 瓦残存	広狭長 — 15.0 —	白・黒色粒子	中性焰	淡黄 灰白	半截作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。	反厚 1.8
534-1	瓦 女 瓦	覆土内 瓦残存	厚 2.0	#	#	灰白	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面焼叩き、甍描き文字瓦、文字不明（凹面）。	
534-2	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.5	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。甍描き文字瓦「十」（凸面）。	
534-3	瓦 女 瓦	覆土内 瓦残存	厚 2.5	白・黒色粒子	#	#	一枚作り。凸面平行叩き後擦消し。甍描き文字瓦「鳳」（凹面）。	
535-1	瓦 女 瓦	覆土内 瓦残存	厚 2.0	白・赤褐色粒子	中性焰	#	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面焼叩き、甍描き文字瓦「八」（凹面）。	側面にすじがある。
535-2	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色粒子	還元焰	#	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。甍描き文字瓦「十」（凸面）。	
535-3	瓦 女 瓦	覆土内 瓦残存	厚 2.4	#	#	青灰	一枚作り。 甍描き文字瓦「里万」（凸面）。	
536-1	瓦 男 瓦	覆土内 瓦残存	広狭長 — 12.3 —	白・黒色粒子	#	灰	半截作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面焼叩き、甍描き文字瓦「成」（凹面）。	反厚 3.0
536-2	瓦 男 瓦	覆土内 瓦残存	厚 2.5	#	#	#	半截作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面平行叩き、甍描き文字瓦「口」。	
536-3	瓦 男 瓦	覆土内 瓦残存	厚 2.6	#	中性焰	黄灰	半截作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。甍描き文字瓦「十」（凸面）。	
537-1	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.4	#	#	灰白	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面焼叩き後擦消し。甍描き文字瓦、文字不明（凸面）。	
537-2	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白・赤褐色粒子	酸化焰	淡橙	甍描き文字瓦、文字不明（凸面）。	
537-3	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。甍描き文字瓦、文字不明（凹面）。	
537-4	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白・黒色粒子	#	灰	甍描き文字瓦、文字不明（凹面）。	
537-5	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 3.0	#	中性焰	#	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。甍描き文字瓦、文字不明（凹面）。	
537-6	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白・赤褐色粒子	還元焰	#	一枚作り。 甍描き文字瓦、文字不明（凸面）。	
537-7	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	#	#	一枚作り。 甍描き文字瓦、文字不明（凹面）。	
537-8	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白・赤褐色粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。甍描き文字瓦、文字不明（凸面）。	
538-1	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。 甍描き文字瓦「一」か（凸面）。	

## G区(6号并戸建)

538-2	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.8	白・黒・赤褐色 色粒子	還元焰	灰	一枚作り。両面粘土板割ぎ取り痕。 瓦揃き文字瓦「八」か(凸面)。一部残存。
538-3	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	黒色粒子 赤褐色粒子	中性焰	灰白	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。 瓦揃き文字瓦「大」か(凹面)。凸面縄印き。
538-4	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白・赤褐色粒 子	還元焰	暗青灰	一枚作り。 瓦揃き文字瓦「子成」(凸面)。
538-5	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.9	白色粒子	中性焰	灰	凹面粘土板割ぎ取り痕。 瓦揃き文字瓦「三」(凸面)。
538-6	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白・赤褐色粒 子	還元焰	※	一枚作り。凸面平行印き。 瓦揃き文字瓦、文字不明(凹面)。
538-7	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.7	※	※	※	一枚作り。 瓦揃き文字瓦「伴」(凸面)。
538-8	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	※	青灰	一枚作り。 瓦揃き文字瓦、文字不明(凸面)。
538-9	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.7	白・赤褐色粒 子	酸化焰	にふい 黄橙	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。 瓦揃き文字瓦「赤井」か(凸面)。
538-10	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白・黒色粒子	中性焰	灰白	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。 瓦揃き文字瓦、文字不明(凹面)。
539-1	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.8	※	還元焰	青灰	半截作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。 瓦揃き文字瓦、文字不明(凹面)。
539-2	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白・黒色粒子	還元焰	灰	半截作り。瓦揃き文字瓦、文字不明(凹面)。 凸面縄印き。
539-3	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.4	白・赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	※	半截作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。 刻印「富」。瓦揃き文字瓦「大」(凹面)。
539-4	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白・黒・赤褐 色粒子	還元焰	青黒	半截作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。 瓦揃き文字瓦「中山」か(凸面)。
539-5	瓦 女瓦	覆土内 瓦残存	厚 2.0	白色粒子 白・黒色鉱物粒子	※	青灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面正格 子。刻印文字瓦「雀」(凸面)。
539-6	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白・赤褐色粒 子	還元焰	緑灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面正格 子。刻印文字瓦「雀」(凸面)。
539-7	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白・赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	※	灰	半截作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。 瓦揃き文字瓦、文字不明(凹面)。
540-1	瓦 女瓦	覆土内 瓦残存	厚 2.5	白・赤褐色粒 子	酸化焰	にふい 赤褐	一枚作り。両面粘土板割ぎ取り痕。凸面斜格 子印き。
540-2	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.2	※	還元焰	灰	一枚作り。両面粘土板割ぎ取り痕。凹面布目 の権消し。凸面正格子印き。
540-3	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	※	酸化焰	淡橙	凹面粘土板割ぎ取り痕。凹面布目の権消し。 凸面米格子印き。
540-4	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白・赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	にふい 橙	凸面正格子印き。
540-5	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 3.1	白・赤褐色粒 子	※	灰	一枚作り。両面粘土板割ぎ取り痕。凹面布目 の権消し。凸面斜格子印き。

第1節 古墳時代～平安時代

540-6	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.1	白・黒色粒子	中性焰	灰	一枚作り。両面粘土板剥ぎ取り痕。凹面布目の擦消し。凸面斜格子叩き。
541-1	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白・赤褐色粒子	#	#	一枚作り。両面粘土板剥ぎ取り痕。凹面布目擦消し。凸面斜格子叩き。
541-2	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	#	#	#	凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面不整格子叩き。
541-3	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色粒子 白色鉱物粒子	#	#	一枚作り。凸面不整格子叩き。
541-4	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	淡橙	一枚作り。両面粘土板剥ぎ取り痕。凸面斜格子叩き。
541-5	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	#	還元焰	暗灰	一枚作り。両面粘土板剥ぎ取り痕。凸面斜格子叩き。
541-6	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白・赤褐色粒子	中性焰	灰	一枚作り。両面粘土板剥ぎ取り痕。凸面斜格子叩き。
541-7	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	#	酸化焰	にぶい 褐	一枚作り。両面粘土板剥ぎ取り痕。凸面斜格子叩き。
541-8	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色粒子	還元焰	黄灰	一枚作り。両面粘土板剥ぎ取り痕。凸面斜格子叩き。
542-1	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	#	暗青灰	一枚作り。両面粘土板剥ぎ取り痕。凸面斜格子叩き。叩き具の板目痕。
542-2	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.3	白・赤褐色粒子	#	灰暗	一枚作り。凸面斜格子叩き。
542-3	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	#	酸化焰	浅黄橙	凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面正格子叩き。
542-4	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	#	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面正格子叩き。叩き具の板目痕。
542-5	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.1	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	#	黒褐	両面粘土板剥ぎ取り痕。凹面布目の擦消し。凸面正格子叩き。
542-6	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	青灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面正格子叩き。刷印文字瓦「審」。
542-7	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色粒子	中性焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面正格子叩き。叩き具の板目痕。
542-8	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白・赤褐色粒子	酸化焰	淡橙	一枚作り。両面粘土板剥ぎ取り痕。凸面米格子叩き。
543-1	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.5	白・黒色粒子	中性焰	黄灰	一枚作り。両面粘土板剥ぎ取り痕。凸面斜格子叩き。
543-2	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白・赤褐色粒子	中性焰	褐灰	一枚作り。両面粘土板剥ぎ取り痕。凸面斜格子叩き。
543-3	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.5	#	#	#	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面不整格子叩き。
543-4	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	#	#	明褐灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凹面布目の擦消し。凸面正格子叩き。叩き具の板目痕。

543-5	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白・黒色粒子	還元焰	暗青灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面斜格子叩き。	
543-6	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白・黒・赤褐色粒子	中性焰	灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面斜格子叩き。	
543-7	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色粒子 白色鉱物粒子	#	暗赤灰	凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面正格子叩き。	
543-8	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白・赤褐色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目の擦消し。凸面斜格子叩き。叩き具の板目痕。	
543-9	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.7	#	#	#	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面斜格子叩き。	
544-1	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.5	白・黒色粒子	中性焰	明褐	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面蹴削り。不整格子叩き。	
544-2	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白・赤褐色粒子	#	にぶい 橙・灰	一枚作り。凹面布目の擦消し。凸面斜格子叩き。叩き具の板目痕。	
544-3	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	#	灰	一枚作り。凹面布目の一部擦消し。凸面正格子叩き。	
544-4	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白・赤褐色粒子	#	#	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凹面布目の一部擦消し。凸面正格子叩き。	
544-5	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.1	#	#	#	一枚作り。凹面布目の擦消し。凸面正格子叩き。叩き具の板目痕。	
544-6	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白色粒子	還元焰	#	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凹面布目の擦消し。凸面正格子叩き。叩き具の板目痕。	
544-7	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色粒子 白色鉱物粒子	#	暗灰	一枚作り。凸面粘土板割ぎ取り痕。凸面斜格子叩き。	
544-8	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白・黒色粒子	#	青灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凹面布目の擦消し。凸面正格子叩き。	
544-9	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.9	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	暗赤褐	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面斜格子叩き。	
545-1	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白・黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凹面布目の一部擦消し。凸面正格子叩き。	
545-2	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	にぶい 褐	一枚作り。凹面布目の擦消し。凸面斜格子叩き。	
545-3	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.6	白・赤褐色粒子	中性焰	黄灰	一枚作り。凸面粘土板割ぎ取り痕。凹面布目の擦消し。凸面斜格子叩き。	
545-4	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	褐灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面正格子。刻印文字瓦「壺」(凸面)。	
545-5	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	#	酸化焰	明赤茶	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面正格子叩き。	
545-6	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面粘土板割ぎ取り痕。凹面布目の擦消し。凸面斜格子叩き。	
545-7	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.9	白・赤褐色粒子	中性焰	灰・に ぶい橙	一枚作り。凹面布目の擦消し。凸面不整格子叩き。	

## 第1節 古墳時代～平安時代

545-8	瓦 女	瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白・黒色粒子	中性畑	黄灰	一枚作り。両面粘土板割ぎ取り痕。凸面斜格子 子印き。
545-9	瓦 女	瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	#	黄灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凹面布目 の擦消し。凸面斜格子子印き。
546-1	瓦 女	瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	還元畑	灰	一枚作り。両面粘土板割ぎ取り痕。凹面布目 の擦消し。凸面斜格子子印き。
546-2	瓦 女	瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白・赤褐色粒 子	#	#	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面斜格 子印き。寛撫き文字瓦「十」。
546-3	瓦 女	瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白・赤褐色粒 子	還元畑	灰	一枚作り。両面粘土板割ぎ取り痕。凹面布目 の擦消し。凸面斜格子子印き。
546-4	瓦 女	瓦	覆土内 破片	厚 1.4	#	中性畑	浅黄	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凹面布目 の擦消し。凸面斜格子子印き、叩き具の板目痕。
546-5	瓦 女	瓦	覆土内 破片	厚 2.1	#	#	灰	一枚作り。両面粘土板割ぎ取り痕。凹面布目 の一部擦消し。凸面正格子印き。
546-6	瓦 女	瓦	覆土内 破片	厚 1.9	#	酸化畑	淡橙 灰	一枚作り。両面粘土板割ぎ取り痕。凸面正格 子印き。
546-7	瓦 女	瓦	覆土内 破片	厚 2.2	#	中性畑	黄灰	一枚作り。両面粘土板割ぎ取り痕。凹面布目 の擦消し。凸面斜格子子印き、叩き具の板目痕。
546-8	瓦 女	瓦	覆土内 破片	厚 1.8	#	還元畑	暗オ ーブ 灰	一枚作り。両面粘土板割ぎ取り痕。凸面斜格 子印き。
547-1	瓦 女	瓦	覆土内 破片	厚 1.7	#	中性畑	灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面斜格 子印き。
547-2	瓦 女	瓦	覆土内 破片	厚 2.1	#	還元畑	#	凹面粘土板割ぎ取り痕。凹面布目の擦消し。 凸面斜格子印き。
547-3	瓦 女	瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色粒子	#	#	一枚作り。両面粘土板割ぎ取り痕。凹面布目 の擦消し。凸面正格子印き。
547-4	瓦 女	瓦	覆土内 破片	厚 2.5	白・赤褐色粒 子	#	暗灰	両面粘土板割ぎ取り痕。凸面斜格子印き。
547-5	瓦 女	瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白・黒色粒子	酸化畑	浅黄橙	横巻き造りか。凹面粘土板割ぎ取り痕。凹面 布目の一部擦消し。凸面平行印き、斜格子印 き。
547-6	瓦 女	瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	中性畑	灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面正格 子印き。
547-7	瓦 女	瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色粒子	#	灰白	一枚作り。両面粘土板割ぎ取り痕。凹面布目 の擦消し。凸面正格子印き。
547-8	瓦 女	瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	#	褐灰	横巻き造りか。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面 斜格子印き。
547-9	瓦 女	瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白・赤褐色粒 子	#	灰	一枚作り。両面粘土板割ぎ取り痕。凹面布目 の擦消し。凸面斜格子印き。
547-10	瓦 女	瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	還元畑	暗灰	凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面平行印き、斜格 子印き。
548-1	瓦 女	瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白・赤褐色粒 子	中性畑	灰白	一枚作り。両面粘土板割ぎ取り痕。凹面布目 の擦消し。凸面斜格子印き。

## G区(6号井戸跡)

548-2	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白・赤褐色粒 子	酸化培 性	橙	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。布目の擦 消し。凸面斜格子印き。	
548-3	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	還元培 性	淡橙	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面平行 印き。斜格子印き。	
548-4	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.7	〃	酸化培 性	橙	凹面粘土板割ぎ取り痕。凹面布目の擦消し。 凸面斜格子印き。	
548-5	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白・赤褐色粒 子	中性培 性	黄灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面平行 印き。正格子印き。	
548-6	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	〃	〃	灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凹面布目 の擦消し。凸面正格子印き。	
548-7 148	瓦 宇瓦	覆土内 反残存	幅 高 反 (16.0 4.1 —)	〃	〃	〃	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面縄印 き。赤色顔料使用。裏面に3本の距幅きの加 飾。	厚 1.7
549-1	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	〃	還元培 性	〃	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面縄印 き。	
549-2	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	〃	〃	〃	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面縄印 き。	
549-3	瓦 玉 付瓦	覆土内 破片	厚 2.2	〃	中性培 性	〃	半截作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面縄印 き。	
549-4	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	〃	還元培 性	〃	一枚作り。凸面縄印き。	
549-5	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.6	白・赤褐色粒 子	還元培 性	灰	凹面粘土板割ぎ取り痕。凹面布目の擦消し。	
549-6	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.5	〃	〃	暗青灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面正格 子印き。	
549-7	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.5	〃	〃	暗褐 灰白	一枚作り。凸面平行印き。	
549-8	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白・黒色粒子	〃	暗青灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面平行 印き。	
550-1	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.7	〃	〃	〃	一枚作り。凸面平行印き。	
550-2	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.3	〃	中性培 性	黄橙 灰	半截作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面平行 印き。	
550-3	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.4	〃	〃	灰白 橙	半截作り。凸面粘土板割ぎ取り痕。凸面平行 印き。	
550-4	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白・赤褐色粒 子	〃	褐灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凹面布目 の擦消し。凸面正格子印き。	
550-5	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.1	〃	還元培 性	灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面平行 印き。	
550-6	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	〃	酸化培 性	橙	凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面平行印き。	
550-7	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色粒子	還元培 性	青灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凹面布目 。凸面縄印き。	

第1節 古墳時代～平安時代

550-8	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白・黒・赤褐色 色粒子	中性焰	灰	轆巻き造り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面織 叩き。	
550-9	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白・赤褐色粒 子	#	灰黄	轆巻痕有り。凸面織叩き後擦消し。	
550-10	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.1	#	酸化焰	黄 橙	轆巻痕あり。凹面粘土板割ぎ取り痕。	
551-1	瓦 女瓦	覆土内 %残存	広狭長 29.0 — —	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	灰黄	轆巻き造り。凸面織叩き後擦消し。	反 8.6 厚 1.6
552-1	瓦 宇瓦か	覆土内 破片	厚 1.4	白・赤褐色粒 子	#	灰	紐作り。凹面布目の擦消し、轆巻き造り。 広端面に荒織きの模様を施す。	
552-2	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.5	#	#	#	一枚作り。凹面布目の擦消し。凸面平行叩き。	
552-3	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白・黒色粒子	#	#	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凹面布目 の擦消し。凸面平行叩き。	
552-4	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白・赤褐色粒 子	還元焰	#	一枚作り。凸面粘土板割ぎ取り痕。凹面布目 の擦消し。	
552-5	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白・黒・赤褐 色粒子	中性焰	#	轆巻き造り。凹面布目の擦消し。	
553-1	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.4	白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	黄 橙	半載作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。	
553-2	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白・黒・赤褐 色粒子	中性焰	灰	半載作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面織 叩き。	
553-3	瓦 男瓦	覆土内 破片	広狭長 (21.5) — —	白・黒色粒子	還元焰	明青灰	半載作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。	反 (7.5) 厚 2.3
553-4	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.7	白色粒子	中性焰	灰赤	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。	

F区第10号溝

発掘番号 図面番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
565-1 149	須恵器 F DV	覆土内 ほぼ完形	口 底 11.0 高 5.4 3.5	白色粒子	還元焰	灰	口縁部は外反する。轆巻成形(右回転)。	
565-2 149	須恵器 端C I	覆土内 ほぼ完形	口 底 14.5 高 6.4 5.2	白・黒色粒子	中性焰	灰白	口縁部は外反する。轆巻成形(右回転)。付高 台。	
565-3 149	須恵器 端C I	覆土内 %残存	口 底 14.3 高 6.7 5.5	#	#	#	口縁部は外反する。轆巻成形(右回転)。付高 台。	
565-4 149	鉢軸内陶 段皿	覆土内 %残存	口 (19.2) 底 (8.4) 高 3.2			オリ ブ灰	口縁部は外反する。轆巻成形(右回転)。高台 は付高台。底部は強で調整。内面中央に段を 持ち、口唇部にかけて細い轆巻きにより文様 を施す。皿全体に緑釉が施される。	内面に陰刻 文様あり。
565-5	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白・赤褐色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	灰黄	半載作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凹面布目 の擦消し。荒織き文字瓦、文字不明(凸面)。	



## F区(10・12・17号溝)

565-6	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.5	白・赤褐色粒子 白色賦物粒子	中性焙	灰黄	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。 磨縮き文字瓦「田」(凸面)。	
565-7	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.6	白・赤褐色粒 子	#	#	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。 凸面正格子叩き。	
565-8	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白・黒色賦物 粒子	#	明褐灰	凹面粘土板割ぎ取り痕。凹面布目の磨消し。 凸面斜格子叩き。	
566-1 149	鉄 刀	器 子	覆土内	長 幅 重 (8.9) 0.6 (12.1)				葦4.4cm、身4.5cm残存。
566-2 149	鉄 刀	器 子	覆土内	長 幅 重 (8.3) 0.8 (11.6)				基部欠損。
566-3 149	鉄 刀	器 子	覆土内	長 幅 重 (5.0) 0.9 (4.4)				柄の木質が若干残存している。
566-4 149	鉄 釘	器	覆土内	長 幅 重 (6.5) 0.6 12.7				断面方形で、基部から先端部にチーバーを有 している。
566-5 149	鉄 釘?	器	覆土内	長 幅 重 (7.0) 0.5 (14.7)				断面方形で、基部・先端部共に変形。
566-6 149	鉄 釘?	器	覆土内	長 幅 重 (5.5) 0.6 (9.7)				断面長方形で、「L」字形に変形。
566-7 149	鉄 釘	器	覆土内	長 幅 重 (7.5) 0.8 (10.5)				断面楕円形。 基部欠損。
566-8 149	鉄 釘	器	覆土内	長 幅 重 (4.8) 0.5 (5.3)				断面方形で先端部が尖っている。

## F区第12号溝

検出番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考
566-9 149	鉄 釘	覆土内	長 幅 重 (5.2) 0.6 (9.4)				断面方形で基部が「L」字形。	
566-10 149	鉄 釘	覆土内	長 幅 重 (3.7) 0.6 (8.3)				断面方形。	
566-11 149	鉄 釘	覆土内	長 幅 重 (5.0) 0.5 (6.8)				断面方形。	先端部。

## F区第17号溝

検出番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考
566-12 149	金剛製 鉄金具	底面 兜形					4葉の花弁状を呈し、中央に方形の切り込み を施している。	

第1節 古墳時代～平安時代

F区第18号溝

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
566-13	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.3	赤褐色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	黒灰	一枚作り。簡拙き文字瓦「田八」(凸面)。	
566-14	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.3	赤褐色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	黒	凹面粘土板割ぎ取り痕。 簡拙き文字瓦か。文字不明(凸面)。	
566-15	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白・黒色鉱物 粒子	中性焰	灰白	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。	

G区第10号溝

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
576-1 149	須恵器 坏E III	覆土内 5/6残存	口 底高 (13.2) 6.6 2.7	白・黒色粒子	中性焰	灰	口縁部は外反する。轆轤整形。	
576-2	須恵器 坏E II	覆土内 5/6残存	口 底高 (13.3) (5.0) (3.4)	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰黄 暗灰	口縁部は外反する。轆轤整形。	
576-3	土師器 斐C IV	覆土内 破片	口 底高 (19.0) (5.0)	白・赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り。外面割部は剝削り、口縁部は横溝で、内面割部は隠溝で。	
576-4 149	鉄器 小刀	覆土内	長 幅重 (29.5) 2.8 (185.0)				基5.5cm、身24.0cmでほぼ全体形が推定できる。	重ね 0.85×2.7

G区第25号溝

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
576-5	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.4	白・黒色粒子	中性焰	黄灰	凸面正格子叩き。	

G区第26号溝

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
576-6 149	須恵器 坏E I	覆土内 ほぼ完形	口 底高 13.0 6.2 3.9	白色粒子 黒色粒子	中性焰	よび 黄橙	口縁部は外傾する。轆轤整形(右回転)。	
576-7 149	須恵器 坏E I	覆土内 5/6残存	口 底高 (12.8) 6.8 4.0	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	#	灰 橙	口縁部はやや外反する。轆轤整形(右回転)。	
576-8	須恵器 坏E II	覆土内 5/6残存	口 底高 (12.9) (5.2) 4.1	白色粒子 赤褐色粒子	#	灰白 淡橙	口縁部は外反する。轆轤整形。	
577-1 149	須恵器 坏C II	覆土内 ほぼ完形	口 底高 14.7 6.4 4.8	白・黒色粒子 赤褐色粒子	#	よび 黄・黒	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。	
577-2 149	須恵器 坏C II	覆土内 5/6残存	口 底高 (14.4) 6.8 5.4	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	#	灰白	口縁部は外反する。轆轤整形(右回転)。付高台。	

577-3	須恵器 埴C I	覆土内 片残存	□底高 (13.6) 7.6 5.7	黒色粒子 赤褐色粒子	中性焰	灰黄	口縁部は外反する。横縫整形(右回転)、付高台。	
577-4	須恵器 埴C I	覆土内 片残存	□底高 (15.8) (8.7) (5.2)	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	口縁部は外反する。横縫整形(右回転)、付高台。	
577-5	須恵器 埴C II	覆土内 片残存	□底高 13.8 (4.2)	白・黒色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	灰白 褐灰	口縁部は外反する。横縫整形(右回転)、高台欠損(付高台)。	
577-6	須恵器 埴C II	覆土内 片残存	□底高 (13.9) (4.1)	白色粒子 黒色粒子	#	にぶい 褐	口縁部は外反する。横縫整形。	
577-7	須恵器 埴	覆土内 破片	□底高 (7.0) (3.5)	白・赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰白	横縫整形(右回転)、付高台。	
577-8	須恵器 埴	覆土内 破片	□底高 — 6.8 (2.5)	白色粒子 白色鉱物粒子	#	#	横縫整形。	
577-9	灰輪陶器 埴	覆土内 破片	□底高 (14.9) (4.6)	黄褐色	#	#	体部に張りをもりながら、口縁部は外反する。横縫成形。	
577-10 149	灰輪陶器 高台付皿	覆土内 ほぼ完形	□底高 14.0 7.4 2.7	#		灰	口縁部は外反する。横縫成形(右回転)、付高台。底部は撫で調整。施釉手法は浸掛り。	
577-11 149	須恵器 短頸壺	覆土内 片残存	□底高 (7.6) (7.0) 4.7	白色粒子 赤褐色粒子	還元焰	赤灰	横縫整形。底部削り出し高台。	
577-12	須恵器 高 埴	覆土内 脚部残存	□底高 — (8.4)	白・黒色粒子 赤褐色粒子	#	灰	紐作り後横縫整形。外面は発削り。	
577-13 150	緑輪陶器 埴	覆土内 破片	□底高 — —			灰白	横縫成形。	
578-1	瓦 宇 瓦	覆土内 破片	幅高反 (6.2) (4.8) —	白色粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰		厚 2.6
578-2	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色粒子 黒色粒子	中性焰	黄灰	一枚作り。刻印文字瓦「多」(凸面)。	
578-3	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.5	#	#	灰白	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面斜格子。	
578-4	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白・黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凹面布目の擦削し。凸面斜格子叩き。	
578-5 150	鉄 器 不 明	覆土内	長編重 (5.9) 0.8 (7.5)				断面方形部分と、不整形の部分があり不明。	
578-6 150	石 器 石 鏡	覆土内 完形	長編厚 11.4 5.4 3.6				両端及び側面に敲打痕。	重 370.2
578-7 150	石 器 不 明	覆土内 片残存	長編厚 (7.2) 5.7 1.2				楕円形の板状で使用痕は明瞭でない。	重 85.7

## G区第37号溝

発掘番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm)	胎 土	焼 色	色 調	器形・技法等の特徴	備 考
578-8 150	須恵器 壺	覆土内 口縁部欠損	□底高 — 10.2 16.1	白・黒色鉱物 粒子	還元焰	灰	紐作り後、横縫整形。胴下部裏削り。	

第1節 古墳時代～平安時代

578-9	灰釉陶器 塊	覆土内 破片	口底高 — (7.0) (1.8)	美濃系		灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	
578-10	須恵器 壺	覆土内 破片	口底高 — (15.0) (1.3)	白・黒・赤褐色 粘土	還元焰	暗灰	紐作り。叩き整形。外面平行叩き。	

G区第38号溝

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
579-1	須恵器 壺	覆土内 破片	口底高 — (2.8)	白・赤褐色粘土 黒色鉱物粒子	中性焰	灰黄	轆轤整形(右回転)。高台欠損(付高台)。	
579-2	灰釉陶器 塊	覆土内 %残存	口底高 (18.4) (9.5) 5.6	美濃系		灰	轆轤成形(右回転)。付高台。体部下・底部は回転置削り。	
579-3 150	土師器 台付壺	覆土内 %残存	口底高 9.8 (12.8)	赤褐色粘土 白・黒色鉱物粒子	酸化焰	赤褐	「コ」の字状口縁。紐作り。外面胴部は寛削り、口縁部は横削りで、内面胴部は寛削り。	
579-4	瓦 瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白・赤褐色粘土 白色鉱物粒子	#	にぶい 褐	一枚作り。甕桶き文字瓦「中山」?(凸面)。	
579-5 150	鉄器 不明	覆土内	長幅重 (9.2) 0.6 (26.9)				断面方形で基部を欠損。	
579-6 150	鉄器 不明	覆土内	長幅重 (5.6) 0.7 (15.1)				断面長方形で基部付近で「L」字形に屈曲。	

G区第41号溝

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
579-7 150	須恵器 壺	覆土内 %残存	口底高 (9.8) 6.5 5.3	白・黒色粘土	還元焰	灰	口縁部は外傾する。轆轤整形。付高台。内外面に自然釉が見られる。	
579-8	須恵器 壺	覆土内 破片	口底高 (22.2) (5.5)	#	#	黒褐	紐作り後轆轤整形。口縁部は外反し。口唇部は下方に折り返す。	

遺構外出土遺物

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量目(cm) 量目(kg)	石材	器形・技法等の特徴	備考	
581-1	基壇 化粧石	F-54号 址 完 形	長幅 34.4 34.5	厚 8.7 重 8.9		埴状。盤と思われる工具で、成形後、粗く削って面を整形。	熱を受けた痕跡及び炭化物付着。
582-1	#	F-2井 5面残存	長幅 — 12.8	厚 10.9 重 2.4		角柱状。盤?で、成形後、粗く削って面を整形。	熱を受けた痕跡及び炭化物付着。
582-2	#	F-2井 4面残存	長幅 — —	厚 12.9 重 2.0		角柱状。盤?で、成形後、粗く削って面を整形。	熱を受けた痕跡あり。
582-3	#	F-2井 5面残存	長幅 18.5 —	厚 11.7 重 2.9		角柱状。盤?で、成形後、粗く削って面を整形。	
583-1	#	F-2井 5面残存	長幅 — 13.8	厚 12.1 重 2.4		角柱状。盤?で、成形後、粗く削って面を整形。	熱を受けた痕跡あり。

## G区 (38・41号溝)、遺構外出土遺物、遺構内・外出土遺物

583-2	基質 化粧石	F-2井 4面残存	長 — 幅 —	厚 11.8 重 2.4		角柱状。髹?で、成形後、粗く削って面を整形。	熱を受けた痕跡あり。
583-3	#	F-2井 2面残存	長 — 幅 —	厚 — 重 2.2		角柱状。髹?で、成形後、粗く削って面を整形。	熱を受けた痕跡あり。
583-4	#	F-2井 2面残存	長 — 幅 —	厚 — 重 1.7		角柱状。髹?で、成形後、粗く削って面を整形。	熱を受けた痕跡あり。
584-1	#	F-2井 5面残存	長 — 幅 13.5	厚 10.4 重 2.6		角柱状。髹?で、成形後、粗く削って面を整形。	
584-2	#	F-2井 2面残存	長 — 幅 —	厚 — 重 2.5		角柱状。髹?で、成形後、粗く削って面を整形。	熱を受けた痕跡及び炭化物付着。
584-3	#	F-2井 2面残存	長 — 幅 —	厚 — 重 4.3		角柱状。髹?で、成形後、粗く削って面を整形。	
584-4	#	G-11井 4面残存	長 — 幅 19.8	厚 19.5 重 11.4		角柱状。髹?で、成形後、粗く削って面を整形。	熱を受けた痕跡及び炭化物付着。
585-1 150	#	F-2井 5面残存	長 — 幅 25.8	厚 13.0 重 6.6		角柱状。髹?で、成形後、粗く削って面を整形。	熱を受けた痕跡及び炭化物付着。
585-2	#	F-2井 5面残存	長 29.2 幅 8.5	厚 — 重 3.6		塊状。髹?で、成形後、粗く削って面を整形。	熱を受けた痕跡及び炭化物付着。
586-1	#	F-2井 4面残存	長 — 幅 16.8	厚 11.1 重 3.4		角柱状。髹?で、成形後、粗く削って面を整形。	
586-2 150	#	F-2井 5面残存	長 — 幅 17.7	厚 13.5 重 6.7		角柱状。髹?で、成形後、粗く削って面を整形。	
587-1 150	#	G-12井 6面残存	長 43.5 幅 31.5	厚 18.5 重 23.1		角柱状。髹?で、成形後、粗く削って面を整形。	熱を受けた痕跡あり。
588-1	#	G-12井 5面残存	長 — 幅 21.0	厚 17.6 重 7.3		角柱状。髹?で、成形後、粗く削って面を整形。	熱を受けた痕跡あり。
589-1	#	G-12井 5面残存	長 — 幅 16.3	厚 8.4 重 1.8		角柱状。髹?で、成形後、粗く削って面を整形。	熱を受けた痕跡あり。
589-2	#	G-12井 3面残存	長 — 幅 —	厚 — 重 4.1		角柱状。髹?で、成形後、粗く削って面を整形。	熱を受けた痕跡及び炭化物付着。

## 遺構内・外出土遺物

調査番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
590-1 150	瓦 宇瓦	F-1井 破片	幅 (22.0) 5.4 —	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰黒	均整薄草文。女瓦部は横巻き造り。凹部に粘土板割き取り痕あり。縦書き文字瓦「卍」の記号か? (凹面)。	厚 2.4
590-2	瓦 女瓦	G-22号住 G-27号柱	厚 2.2	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	淡黄灰	横巻き造り。凹面に粘土板割き取り痕あり。凸面不整格子叩き。刻印文字「瓦」勢 (凸面)。	
590-3	瓦 宇瓦	G-34溝 破片	厚 1.4	白色粒子 赤褐色粒子	還元焰	淡青灰	右肩唐草文。女瓦部は一枚作り。	瓦当面にわずかに残存。
591-1 150	瓦 鬼瓦	G-6井 破片	厚 2.1	黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰		

第1節 古墳時代～平安時代

591-2	瓦 女瓦	G-4井	厚 2.5	白色粒子 白色鉱物粒子	還元相	灰黄褐	縹巻き造り。凹面に粘土板割ぎ取り痕あり。 凸面不平整格子印き。刻印文字瓦「直万」あり。	凸面に叩き 具、板目痕 あり。
-------	---------	------	-------	----------------	-----	-----	--	-----------------------

文字瓦

□は文字不明を示す。

測図番号	内容・種別		部位	出土位置	備考	図版番号
	窺描き	押印				
592-1	(直方) 半家□		男瓦凸面 右部	F区表土	凸面は褐色。凹面は橙色。布目はやや粗い。 文字は狭端部に近い。初出文字。	156
592-2	(武方) □子籠		女瓦凸面 左部	F区3号溝 (中世遺構)	灰色。凹面に粘土板割ぎ取り痕が目立ち、凸面 は粘土板割ぎ取り痕を擦消す。上位欠失。	156
592-3	(子、女カ) □長立		男瓦凸面 中央部カ	F区56号住	灰色。粘土板合せ目が顕著。上位文字欠失。既 出例に「武子長立」がある。	156
592-4	(中山カ)		男瓦凸面 右部	G区6号井戸	青黑色。自然釉が附着。左上一部欠失。	156
592-5	(中山カ)		女瓦凸面 右部	G区38号溝	にぶい褐色。書体は№4に類似する。	156
592-6	□井		女瓦凸面 右部	G区4号井戸	一枚作り。粘土板合せ目が認められる。凹面に 粘土板割ぎ取り痕。上位文字の上部欠失。	156
592-7	勢□		女瓦凹面 左上部	G区4号井戸	にぶい黄褐色。凹面に粘土板割ぎ取り痕が目立 つ。凸面は素文工具による叩き？	156
592-8	(家カ) □成		女瓦凹面 左部中央	F区44号住	一枚作り。オリブ黒色。凹面に粘土板割ぎ取 り痕を認める。「家成」の既出例は多い。	156
592-9	成		男瓦凹面 上部軸上	G区6号井戸	半截作り。灰色。凸面の一部に縄叩き痕。布目 は粗い。既出例多い。	156
592-10	成		女瓦凸面 左部上	F区29号住	一枚作り。ほぼ完形。灰黄色。凸面は粘土板割 ぎ取り痕擦消し。既出例多い。	156
592-11	成 カ(左文字)		女瓦凸面	F区27号住	一枚作り。灰色。左文字の既出例あり。	156
592-12	(子成) □□		女瓦凸面	G区6号井戸	暗灰色。上部欠失。下部の一部を欠失。既出例 あり。	156
592-13	黄 素		女瓦凹面	F区1号井戸	褐色。凸面に正格子叩きあり。凸面に粘土板 割ぎ取り痕を僅かに認める。	157
592-14	(田カ) 八□		女瓦凸面	G区25号住	灰色。凹面に粘土板割ぎ取り痕がみられる。「八 田」「八田小石籠」などの既出例がある。	157
592-15	田八		女瓦凸面 左部	F区18号溝	一枚作り。黒灰色。	157
592-16	田籠		女瓦凸面 右上部	G区16号住	一枚作り。灰色。凸面は平行叩きの擦消し。凹 面は粘土板割ぎ取り痕が残る。	157
592-17	田		女瓦凹面 左上部	G区34号住	一枚作り。黄灰色。凹面は粘土板割ぎ取り痕が 目立ち、凸面は粘土板割ぎ取り痕の擦消し。	157

図版番号	内容・種別		部位	出土位置	備考	図版番号
	荒描き	押印				
592-18	田 □		女瓦凸面 左部中央	F区10号溝	一枚作り。赤・灰黄色。凹面に粘土板刺ぎ取り痕が目立つ。既出例多い。	157
592-19	㊦		女瓦凹面 下部中央	F区1号井戸	一枚作り。灰オリーブ色。凹面に粘土板刺ぎ取り痕が目立つ。既出例多い。	157
592-20	㊦		字瓦 女瓦凹面	F区1号井戸	横書き造り。凹面は粘土板刺ぎ取り痕顯著。文字は、左下部御端に近い。	157
592-21	(㊦カ) □		女瓦凸面	F区9号溝 (中世遺構)	一枚作り。灰黄色。押印番号592-25の「大」の荒描き文字を伴う。	157
592-22	(大カ) □		女瓦凹面 右部	G区6号井戸	灰色凹面に粘土板刺ぎ取り痕をみる。凸面はやや粗い縄叩き。下部欠失。既出例多い。	157
592-23	大		女瓦凹面 中央部	G区6号井戸	一枚作り。灰白色。凹面の粘土板刺ぎ取り痕顯著。凸面は全面縦方向の縄叩き。狭部は縦・横二方向の縄叩きが交差する。	157
592-24	大		女瓦凹面	F区1号溝 (中世遺構)	灰色。凹面に粘土板刺ぎ取り痕が僅かに認められる。	157
592-25	大		女瓦凸面	F区9号溝 (中世遺構)	押印番号592-21と同一瓦。㊦と伴う。	157
592-26	大		女瓦凹面 中央部	F区23号住	一枚作り。灰黄色。凹面に粘土板刺ぎ取り痕がある。凸面の縄叩きは592-23同手法。	158
592-27	大		女瓦凹面 左下部	F区1号溝 (中世遺構)	にぶい黄褐色。凸面に縄叩き痕。胎土中に黒燧石混入。	158
592-28	子		女瓦凸面	F区35号住	にぶい褐色。既出例多い。	158
592-29	子		男瓦凸面	G区61号住	一枚作り。完形。凸面は置物で。	158
592-30	子		女瓦凸面 左部中央	G区4号井戸	一枚作り。灰白色。凹面に粘土板刺ぎ取り痕を認める。	158
592-31	(王カ) □		女瓦凸面 左下部	F区43号址	一枚作り。黄灰色。凹面に粘土板刺ぎ取り痕が目立つ。	158
593-1	(重万カ) 重万		女瓦凸面 左部中央	G区6号井戸	一枚作り。灰青色。凸面は刷毛状の撫で。	158
593-2	乙		女瓦凸面	F区1号井戸	一枚作り。灰白色。凹面の一部に粘土板刺ぎ取り痕が残る。既出例多い。	158
593-3	川口		女瓦凸面	F区表土	灰色。下位の文字は欠失。既出文字の書体に似る。「川山」の既出例。	158
593-4	井		女瓦凸面 左上部	G区4号井戸	一枚作り。灰白色。上部僅かに欠失。既出例に「吉井」がある。	158
593-5	南		女瓦凸面 下部中央	H区59号住	一枚作り。にぶい黄褐色。凹面に粘土板刺ぎ取り痕を認める。凸面は顯著な平行叩き。	158
593-6	(人カ) □		女瓦凸面 右上部	F区75号住	一枚作り。褐灰色。凹面はやや細かい布目。凸面は粘土板刺ぎ取り痕を擦消す。	159

第1節 古墳時代～平安時代

棟号番号	内容・種別		部 位	出土位置	備 考	図版番号
	筧 描 き	押 印				
593-7	上		女瓦凸面	G区4号井戸	一枚作り。灰白色。乾燥後の復繕さ。既出例多い。594-27と同一瓦。	159
593-8	(山カ) □		女瓦凸面 左部	F区表土	一枚作り。灰色。凹面に粘土板剥ぎ取り痕。	159
593-9	佐		男瓦凸面 狭端左部	G区89号住	半截作り。にぶい赤褐色。凹面に粘土板剥ぎ取り痕。布目一部擦消し。	159
593-10	(伴カ) 伴		女瓦凸面 左部	G区6号井戸	一枚作り。灰色。下部僅かに欠失。既出例に、「伴乙(伴乙)。八伴(八伴)」がある。	159
593-11	土		女瓦凸面	F区62号住	一枚作り。灰黄褐色。凹面粘土板剥ぎ取り痕。	159
593-12	(不明カ) □□		女瓦凸面 右部	G区4号井戸	一枚作り。暗灰色。布目は乱れる。上位の文字は欠失。	159
593-13	(又カ) □		男瓦凹面 左部	G区4号井戸	半截作り。黒色。凸面は寛削り。右部は欠失。	159
593-14	□		男瓦凸面 中央部	G区4号井戸	半截作り。暗灰色。文字の描き込みは浅い。右部の一部欠失。下部は不明。	159
593-15	□		女瓦凸面 中央部	F区10号溝	一枚作り。灰黄色。布目は擦消し部分が多い。右部欠失。	159
593-16	□□		女瓦凹面	G区6号井戸	一枚作り。灰色。上位文字の上部欠失。下位文字の下位欠失。	159
593-17	□		女瓦凸面	G区66号住	灰色。上部欠失。右下部欠失。左部の一部剥離。	159
593-18	□		女瓦凸面	H区27号住	一枚作り。灰色。布目はやや粗い。凸面に粘土板剥ぎ取り痕を認める。上部欠失。	160
593-19	(長カ) 平		女瓦凸面 左下部	G区4号井戸	一枚作り。灰黄色。下部欠失。	160
593-20	(武足カ) □共		女瓦凸面	G区4号井戸	淡褐色。上位文字の上部欠失。下位右部欠失。既出例「武足」あり。	160
593-21	□□		玉縁付 男瓦凸面 右上部	G区6号井戸	半截作り。灰色。凸面は磯叩きの擦消し。布目には縫い合せ目痕がある。玉縁接合部の布目は乱れる。	160
593-22	□		女瓦凹面 上部中央	G区6号井戸	一枚作り。灰色。布目は粗く乱れる。凸面の平行叩きは寛状工具で擦消し。上部欠失。	160
593-23	□		女瓦凸面 左上部	F区12号住	一枚作り。灰色。凹面に粘土板剥ぎ取り痕。上部欠失。	160
593-24	□		男瓦凹面	G区4号井戸	灰白色。布目一部擦消し。右部と下部欠失。	160
593-25	□		男瓦凹面 中央右部	G区6号井戸	半截作り。暗灰色。凸面寛削り。自然釉が融着する。下部欠失。	160
593-26	(石カ) 及		女瓦凸面	G区64号住	一枚作り。灰色。凸面に粘土板剥ぎ取り痕。	160



図番番号	内容・種別		部位	出土位置	備考	図番番号
	荒描き	押印				
593-27	(左か) 弁		女瓦凹面	G区6号井戸	一枚作り。灰白色。凹面に粘土板割ぎ取り痕。凸面割離。下部欠失。	160
593-28	□		女瓦凸面	G区表土	にぶい赤褐色。上部欠失。	160
593-29	□		男瓦凸面 左部	G区6号井戸	半截作り。青灰色。上部欠失。左部欠失。	160
593-30	□		女瓦凸面	F区64号住	灰色。上部欠失。	161
593-31	□		男瓦凹面 上部中央	G区6号井戸	半截作り。灰色。布目は粗く乱れる。左部欠失。	161
593-32	□		女瓦凸面 左上部	G区64号住	一枚作り。灰色。布目の一部擦消し。右部欠失。	161
593-33	□		女瓦凸面	G区表土	褐色。布目は細かい。上部欠失。左部欠失。	161
593-34	□		女瓦凸面	F区1号溝 (中世遺構)	淡黄色。上部欠失。右部欠失。左下部欠失。	161
593-35	□		女瓦凸面 左部	F区1号井戸	灰色。布目は細かい。下部欠失。	161
593-36	□		女瓦凹面 右上部	F区1号井戸	一枚作り。灰色。凹面に粘土板割ぎ取り痕が目立つ。上部欠失。	161
593-37	□		女瓦凸面	G区6号井戸	褐色。凹面に粘土板割ぎ取り痕。下部欠失。	161
593-38	□		女瓦凸面 上部中央	F区114号土坑	一枚作り。灰色。凹面に粘土板割ぎ取り痕が顕著。右部欠失。	161
593-39	□		女瓦凹面 下部中央	G区6号井戸	一枚作り。灰色。凹面に粘土板割ぎ取り痕。凸面は縦方向の縄印きを施し、狭端部は横方向の縄印き。側部割ぎ取り痕。右部欠失。	161
593-40	□		女瓦凸面	F区18号溝	黒色。凹面に粘土板割ぎ取り痕。左部欠失。	161
593-41	□		男瓦凹面	G区78号住	灰色。凹面に粘土板割ぎ取り痕。凸面は縄印きを擦消し。上部欠失。左部欠失。	161
593-42	□		女瓦凸面 中央部	F区26号住	一枚作り。灰白色。左部欠失。	162
593-43	□		女瓦凹面	F区43号址	青灰色。右部欠失。左部の一部欠失。	162
593-44	□		女瓦凸面 上部中央	G区95号住	一枚作り。にぶい褐色。凹面に粘土板割ぎ取り痕。上部欠失。	162
593-45	□		女瓦凸面	F区43号址	灰白色。上部欠失。左部の一部欠失。	162
593-46	□		女瓦凸面 左上部	F区表土	一枚作り。灰色。凹面に粘土板割ぎ取り痕が目立つ。右部欠失。	162
593-47	□		女瓦凸面 右部	F区1号溝 (中世遺構)	一枚作り。灰色。左部欠失。	162
593-48	□		女瓦凸面	G区4号井戸	暗灰色。布目はやや粗い。上部欠失。	162

第1節 古墳時代～平安時代

図版番号	内容・種別		部位	出土位置	備考	図版番号
	藍描き	押印				
594-1	□		女瓦凹面	G区6号井戸	一枚作り。灰色。凹面は平行印き。上部欠失。左部欠失。	162
594-2	□		女瓦凹面 左部	F区表土	一枚作り。灰白色。凹面に粘土板割ぎ取り痕。上部欠失。	162
594-3	□		女瓦凸面 下部中央	G区6号井戸	一枚作り。灰白色。凹面は粘土板割ぎ取り痕が目立つ。凸面は縄印き擦消し。上部欠失。	162
594-4	(線描き)		女瓦凸面	F区1号井戸	明紫灰色。上部欠失。下部欠失。	162
594-5	□		女瓦凸面 下部中央	G区6号井戸	一枚作り。凹面には顕著な粘土板割ぎ取り痕。凸面は平行印きの擦消し。	162
594-6	□		女瓦凸面 上部中央	F区9号住	一枚作り。一部暗灰色の強じる灰色。不明瞭。	163
594-7	□		男瓦凹面 右部	G区6号井戸	灰色。凸面は全面縄印きで一部を擦消す。上部欠失。左部欠失。	163
594-8	□		女瓦凸面	G区95号住	一枚作り。褐色。594-25「+」の文字瓦と同一瓦。右部欠失。下部欠失。	163
594-9	□		女瓦凸面	F区3号溝 (中世遺構)	灰色。上部欠失。左部欠失。	163
594-10	□		女瓦凸面	F区1号溝 (中世遺構)	一枚作り。暗灰黄色。凹面は粘土板割ぎ取り痕が目立つ。上部欠失。左部欠失。	163
594-11	□		女瓦凸面 中輪部?	F区24号址	一枚作り。浅黄褐色。凹面に粘土板割ぎ取り痕。上部欠失。下部欠失。594-16と同一。	163
594-12	□		女瓦凹面 上部	F区表土	一枚作り。布目は不明瞭。凸面は剝離部分が多い。	163
594-13	□		女瓦凸面	F区7号溝	灰白色。上部欠失。	163
594-14	□		女瓦凹面	G区6号井戸	一枚作り。凹面は顕著な粘土板割ぎ取り痕。上部欠失。右部欠失。	163
594-15	□		女瓦凹面	G区24号住	灰色。布目擦消し。上部欠失。右部欠失。	163
594-16	□		女瓦凸面 中輪部?	F区24号址	一枚作り。浅黄褐色。凹面に粘土板割ぎ取り痕。文字?。594-11と同一瓦。	163
594-17	□		女瓦凸面 右上部	H区17号住	縹色き塗り。ふいふ黄褐色。凸面は縄印きの擦消し。	163
594-18	千		女瓦凸面	F区43号址	灰色。右上部を僅かに欠失する。「千」の文字は既出例多い。	164
594-19	千		男瓦凸面 右下部	G区4号井戸	半截作り。灰色。凹面に粘土板割ぎ取り痕。上部僅かに欠失。	164
594-20	十		男瓦凸面	G区6号井戸	半截作り。黄灰色。凹面に粘土板割ぎ取り痕。布目は細かい。凸面は荒撫で。既出例多い。	164

編年番号	内容・種別		部位	出土位置	備考	図版番号
	範囲	押印				
594-21	(+カ) □		女瓦凸面 左下部	F区2号溝 (中世遺構)	一枚作り。にぶい黄褐色。凸面は粘土板刺ぎ取り痕擦消し。上部と左部が僅かに欠失。	164
594-22	(+カ) □		女瓦凸面 下部	G区6号井戸	一枚作り。灰色。凹面に粘土板刺ぎ取り痕が目立つ。上部僅かに欠失。	164
594-23	+ □		女瓦凹面 下部中央	F区1号井戸	種巻き造り。灰黄色。凹面に粘土板刺ぎ取り痕。左部欠失。	164
594-24	(+カ) □		女瓦凸面	G区6号井戸	灰色。斜格子印きあり。上部と左部が僅かに欠失。	164
594-25	十		女瓦凸面	G区95号住	一枚作り。灰色。594-8と同一瓦。	163
594-26	十		女瓦凸面 下部中央	G区6号井戸	一枚作り。灰色。凹面に粘土板刺ぎ取り痕。凸面は粘土板刺ぎ取り痕擦消し。	164
594-27	八		女瓦凸面	G区4号井戸	一枚作り。灰白色。乾燥後の種巻き。既出例多い。	164
594-28	三		女瓦凹面 右上部	F区32号住	一枚作り。黒褐色とにぶい黄褐色。布目擦消し。凹面に粘土板刺ぎ取り痕。凸面は縄印き。	164
594-29	三		女瓦凸面	G区6号井戸	一枚作り。灰色。凹面に粘土板刺ぎ取り痕。既出例多い。	164
594-30	二		女瓦凸面	G区6号井戸	一枚作り。灰色。凸面平行印きの擦消し。文字の直下で遺物が欠失。二或は三カ。	164
594-31	二		女瓦凹面 右上部	F区5号住	一枚作り。黒褐色。布目擦消し。凸面に粘土板刺ぎ取り痕。凸面縄印き。既出例多い。	165
594-32	□		女瓦凸面 下部	F区1号住	種巻き造り。灰色。凹面に顕著な粘土板刺ぎ取り痕。凸面縄印き。左部欠失。	165
594-33	□		女瓦凹面	F区1号溝 (中世遺構)	洗黄色。布目擦消し。凸面に正格子印き。	165
594-34	一		女瓦凸面 右部	G区6号井戸	一枚作り。灰色。既出例多い。	165
594-35	一		女瓦凸面 下部中央	G区4号井戸	種巻き造り。灰白色。凹面に粘土板刺ぎ取り痕が目立つ。凸面は縄印きで、一部を擦消す。	165
594-36	十(記号カ)		男瓦凹面 下部中央	G区4号井戸	半載作り。灰白色。布の縫い合せ目あり。凹面に粘土板刺ぎ取り痕。凸面は蔑削り。	165
594-37	×(記号カ)		女瓦凹面 右上部	G区124号住	一枚作り。灰白色。凹面は顕著な粘土板刺ぎ取り痕。凸面は粘土板刺ぎ取り痕を擦消す。描法は、鋭利な工具により細く、やや深い。既出例多い。	165
594-38	×(記号カ)		女瓦凹面	G区6号井戸	灰色。上部欠失。	165
594-39	□		女瓦凹面 左部	F区11号住	一枚作り。灰色。凹面に粘土板刺ぎ取り痕。	165
594-40	□(記号カ)		男瓦凹面 左上部	G区6号井戸	半載作り。灰色。凹面は顕著な粘土板刺ぎ取り痕。凸面は平行印き擦消し。	165

第1節 古墳時代～平安時代

第四番号	内容・種別		部位	出土位置	備考	図版番号
	描写	押印				
594-41	乙(記号?)		女瓦凸面 右部	G区6号井戸	一枚作り。青灰色。	165
594-42	半	画(陰刻)	女瓦凸面 左部	G区19号住	一枚作り。にぶい黄褐色。凹面に顕著な粘土板割ぎ取り痕。	166
594-43	鬼	(画か) □(陰刻)	女瓦凸面 左部	G区4号井戸	一枚作り。灰色。凸面に粘土板割ぎ取り痕を擦消す。刻印殆ど欠失。組合せ既出例あり。	166
594-44	大	画(陰刻)	男瓦凹面 右上部	G区6号井戸	横書き造り。灰色。凹面に粘土板割ぎ取り痕。組合せ既出例あり。	166
594-45	王	画(陰刻)	男瓦凹面 下部中央	G区4号井戸	半截作り。灰色。横書き文字の右上部は欠失。組合せ既出例あり。	166
594-46	右	画(陰刻)	女瓦凹面 下部中央	G区4号井戸	一枚作り。灰色。凹面に粘土板割ぎ取り痕。凸面は縄押し擦消し。組合せ既出例あり。	166
594-47	コ	画(陰刻)	女瓦凸面 右上部	G区4号井戸	一枚作り。灰色。凸面は平行印きを擦消す。組合せ既出例あり。	166
594-48		(勢作か) □□(陰刻・左文字)	龍瓦 男瓦部 凸面中央	G区6号井戸	半截作り。灰色。布目は細かい。凹面に粘土板割ぎ取り痕が目立つ。互当背面に布目。勢は左字、作は正字?。既出例あり。	166
594-49	(?) 美(陽刻)		女瓦凸面 左上部	F区田番	一枚作り。灰色。凹面に粘土板割ぎ取り痕が目立つ。凸面は粘土板割ぎ取り痕擦消し。	166
594-50	(画か) 辻(陽刻)		女瓦凸面 中央部か	G区4号井戸	一枚作り。褐色。布目は擦消し。下部欠失。	166
594-51	(画か) □(陽刻)		男瓦凸面 中央部	G区4号井戸	半截作り。にぶい褐色を帯びる暗灰黄色。凹面に粘土板割ぎ取り痕。	166
594-52	(画か) □(陰刻)		女瓦凹面 左部	F区21号住	一枚作り。灰白色。布目はやや粗い。二重の輪郭線を持つ。	166
594-53	⊕ 大		女瓦凸面	F区9号溝 (中世遺構)	592-21・592-25。	157
594-54	上八		女瓦凸面	G区4号井戸	593-7・594-27	159・164
594-55	□ □		女瓦凸面 中軸寄	F区24号址	594-11・594-16	163
594-56	+ □		女瓦凸面	G区95号住	594-8・594-25	163
595-1	(画) 辻(陽刻)		女瓦凸面 中央部	F区11号住	一枚作り。褐色。布目擦消し。押印を中心にして、その四方に斜格子印きあり。既出例多い。	167
595-2	(画か) 器(陽刻)		女瓦凸面 左部中央	G区4号井戸	一枚作り。灰色。凹面に粘土板割ぎ取り痕。下部中軸に斜格子印き。	167
595-3	(画か) 辻(陽刻)		女瓦凸面 中央部	G区4号井戸	一枚作り。灰白色。布目擦消し。凸面に粘土板割ぎ取り痕。押印を中心にして、その三方(右上部は欠失)に斜格子印き。596-1同型。書体は594-51図に類似。	167

神田番号	内容・種別		部位	出土位置	備考	図版番号
	瓦描き	押印				
595-4		(画カ) 沃 (漏刻)	女瓦凸面 中央部	G区4号井戸	一枚作り。黄灰色。凹面に粘土板割ぎ取り痕が目立つ。布目一部擦消し。凸面は粘土板割ぎ取り痕擦消し。3ヶ所に正格子印きあり。	167
595-5		勢 (漏刻)		G区4号井戸	一枚作り。暗褐色。凸面は素文印きと、斜格子印き(4ヶ所)。文字は、595-6と同范。既出例多い。	167
595-6		勢 (漏刻) (不整格子付)	女瓦凸面 右下部	F区40号住	一枚作り。灰色。布目は細かい。不整格子を伴う。格子印きは数ヶ所?。595-5と同范。	167
595-7		(画万カ) □□	女瓦凸面 中央部	G区4号井戸	種巻き造り。区黄褐色。凹面に粘土板割ぎ取り痕が目立つ。凸面は粘土板割ぎ取り痕を僅かに残す擦消し。不整格子印き。既出例あり。	167
595-8		(佐の左文字) □? (漏刻) (正格子付)	女瓦凸面 中央部	F区1号井戸	一枚作り。区黄褐色。凹面に粘土板割ぎ取り痕、布目一部擦消し。凸面は粘土板割ぎ取り痕擦消し。正格子を伴う。既出例あり。	167
595-9		(畫の左文字カ) □ (漏刻・正格子付)	女瓦凸面	G区6号井戸	一枚作り。暗褐色。凹・凸面に粘土板割ぎ取り痕・布目擦消し。2ヶ所以上打刻。不鮮明。	167
595-10		(畫の左文字カ) □ (漏刻・正格子付)	女瓦凸面	G区6号井戸	一枚作り。青灰色。凹面に粘土板割ぎ取り痕が目立つ。3ヶ所以上に打刻。下部は不鮮明。595-9と同范。他3点出土。既出例多い。	168
595-11		(畫の左文字カ) □ (漏刻・正格子付)	女瓦凸面	G区6号井戸	一枚作り。緑灰色。左上部欠失。2ヶ所以上に打刻。595-9・10の異范。	168
595-12		人 (漏刻) (斜格子付カ)	女瓦凸面	G区71号住	一枚作り。褐色。斜格子印きは2ヶ所認められるが、文字に伴うか否かは不明。既出例は文字に伴う。	168
595-13		多 (漏刻)	女瓦凸面	G区26号溝	一枚作り。黄灰色。下部欠失。既出例あり。	168
595-14		+ (漏刻)	男瓦凸面 上部中央 やや左位	G区66号住	半截作り。灰色。漏刻内面に布目が見える。円筒台型模様の漏刻。	168
595-15		○ (漏刻)	男瓦凸面 上部中央 やや左位	G区61号住	半截作り。灰褐色。凹面に粘土板割ぎ取り痕が目立つ。凸面は粘土板割ぎ取り痕を僅かに認める。凸面溝印き擦消し。	168
595-16		● (漏刻・竹管文)	男瓦凸面 左部寄	G区70号住	半截作り。灰色。既出例多い。	168
595-17		⊕ (漏刻)	女瓦凸面 右部中央	F区28号土坑	一枚作り。橙・黄灰色。凹面は粘土板割ぎ取り痕が目立つ。凸面平行印き擦消し。既出例。	168

第1節 古墳時代～平安時代

種 別	瓦種 向き	女 瓦		男 瓦		玉縁付男瓦		宇 瓦		鍔 瓦		計	備 考
		凹面	凸面	凹面	凸面	凸 面	凹 面	女瓦部凹面	男瓦部凸面				
竪書き文字と印き	格 子	2	1									3	
	平 行	2	4		1							7	
	縄	6	1		3	1						11	
	素 文	17	64	8	5							94	(不明を含む)
竪書き文字と横巻縄痕	縄		2	1								3	
	素 文	1						1				2	
2ヶ所に竪書き文字	素 文		(4)									(4)	
竪の押印と竪書き文字	平 行		1									1	
	縄	1										1	
	素 文		2		1							3	
	横巻縄痕	素 文				1						1	
佐の押印	格 子		4									4	
	素 文		1	1								2	
佐佐の押印	格子付		1									1	
勢の押印	格 子		1									1	他1点
	格子付		1									1	
勢口の押印	素 文									1		1	他1点
その他の押印	直万	格 子		1								1	
	垂	格子付		3								3	他2点
	人	格子付		1								1	
	多	素 文		1								1	
	十	素 文				1						1	
	○	縄				1						1	
	●	素 文				1						1	
	⊕	平 行		1								1	
	表不明	素 文		1								1	
	□(方カ)	素 文	1									1	
			30	(4) 91	10	14	1	1	1			(4) 148	

## 格子・叩き・技法・その他集成

註 叩きはすべて凸面に施される。

押図番号	種別	瓦種	備考	図版番号	押図番号	種別	瓦種	備考	図版番号
596-1	米格子	女瓦	一枚作り。布目擦消し。	168	597-2	斜格子	男瓦	布目。	171
596-2	米格子	女瓦	布目一部擦消し。	168	597-3	斜格子	女瓦	一枚作り。布目。	171
596-3	正格子	女瓦	布目。	168	597-4	斜格子	女瓦	布目。	171
596-4	正格子	女瓦	一枚作り。布目。	168	597-5	斜格子	女瓦	一枚作り。布目。 凸面縦線あり。	171
596-5	正格子	女瓦	一枚作り。 布目一部擦消し。	169	597-6	斜格子	女瓦	布目。	171
596-6	正格子	女瓦	一枚作り。 布目。596-4と同范。	169	597-7	斜格子	女瓦	一枚作り。布目擦消し。	171
596-7	正格子	女瓦	一枚作り。布目一部擦消し。	169	597-8	斜格子	女瓦	一枚作り。布目。	171
596-8	正格子	女瓦	一枚作り。布目擦消し。	169	597-9	斜格子	女瓦	一枚作り。布目。	171
596-9	正格子	女瓦	一枚作り。布目擦消し。	169	597-10	斜格子	男瓦	凸面部に一ヶ所。 凹面布合せ痕。	171
596-10	正格子	女瓦	一枚作り。布目擦消し。	169	597-11	斜格子	女瓦	一枚作り。布目擦消し。 597-12と同范。	171
596-11	正格子	女瓦	一枚作り。布目擦消し。	169	597-12	斜格子	女瓦	布目擦消し。	171
596-12	正格子	女瓦	一枚作り。布目擦消し。	169	597-13	斜格子	女瓦	一枚作り。布目。	171
596-13	正格子	女瓦	一枚作り。布目擦消し。	169	597-14	斜格子	女瓦	一枚作り。布目擦消し。	172
596-14	正格子	女瓦	一枚作り。布目一部擦消し。	169	597-15	斜格子	女瓦	一枚作り。布目。	172
596-15	正格子	男瓦	一枚作り。布目。	169	597-16	斜格子	女瓦	一枚作り。布目。	172
596-16	正格子	女瓦	一枚作り。布目一部擦消し。	169	597-17	斜格子	女瓦	一枚作り。布目擦消し。	172
596-17	正格子	女瓦	一枚作り。布目一部擦消し。 596-7と同范。	170	597-18	斜格子	女瓦	一枚作り。布目。	172
596-18	斜格子	女瓦	一枚作り。布目擦消し。	170	597-19	不整格子	女瓦	一枚作り。布目。 凸面荒削り。	172
596-19	正格子	女瓦	一枚作り。布目擦消し。	170	597-20	不整格子	女瓦	一枚作り。布目。	172
596-20	斜格子	女瓦	一枚作り。布目擦消し。	170	597-21	不整格子	女瓦	布目。	172
596-21	斜格子	女瓦	一枚作り。布目擦消し。	170	598-1	平行	女瓦	布目一部擦消し？。	172
596-22	斜格子	女瓦	一枚作り。布目擦消し。	170	598-2	平行	女瓦	布目一部擦消し？。	172
596-23	斜格子	女瓦	一枚作り。布目擦消し。	170	598-3	平行	女瓦	布目。	172
596-24	斜格子	女瓦	一枚作り。布目擦消し。	170	598-4	平行	女瓦	布目。	172
596-25	斜格子	女瓦	一枚作り。布目一部擦消し。	170	598-5	平行	男瓦	粘土組作り。布目一部擦消し。	173
596-26	斜格子	女瓦	横巻き造り。 布目一部擦消し。	170	598-6	平行	女瓦	一枚作り。布目。 荒掃き文字瓦「南」(凸面)。	173
596-27	斜格子	女瓦	一枚作り。布目擦消し。 荒掃き文字瓦「十」(凸面)。	170	598-7	縄	女瓦	一枚作り。布目擦消し。	173
597-1	斜格子	女瓦	一枚作り。布目。	170	598-8	縄	女瓦	一枚作り。布目。	173

第1節 古墳時代～平安時代

標記番号	種別	瓦種	備考	図版番号
596-9	縄	字瓦	一枚作り。布目。 赤色顔料使用。	173
596-10	縄	女瓦	一枚作り。布目。	173
598-11	縄	女瓦	縷巻き造り。布目一部擦消し。	173
598-12	縄	女瓦	一枚作り。布目。 窪抜き文字瓦(大)(凹面)。	173
598-13	縄	玉縁付 男瓦	布目擦消し。	173
598-14	縄	女瓦	一枚作り。布目擦消し。	173
598-15	縄	女瓦	一枚作り。布目。	173
598-16	縄	女瓦 (凹面)	一枚作り。 葦葎目痕？。	173
598-17	縷巻き縷 帳 縄	女瓦 (凹面)	凸面縄叩き。 布目一部擦消し。	174
598-18	縄	女瓦 (凹面)	一枚作り。布目。 凸面縄叩きの擦消し。 布目の歪み。	174
598-19	縄	女瓦	一枚作り。布目擦消し。 縄目は粗い。	174
599-1	縷巻き縷 帳土板割 ぎ取り痕	女瓦 (凹面)	縷巻き造り。 凸面縄叩きの擦消し。	174
599-2	布の合せ 目	男瓦 (凹面)	凸面は無で。	174
599-3	篋 撫 で	女瓦 (凸面)	一枚作り。布目。 凸面は篋撫で調整。	174
599-4	指 撫 で	男瓦 (凸面)	篋撫で後の指撫で。 凹面は布目。	174
599-5	紐 作 り	男瓦 (凹面)	凸面に割離が目立つ。	174
599-6	回転篋撫 で	男瓦 (凸面)	凸面縄叩き後、回転篋撫で、 手撫で調整。凹面布目。	174
599-7	塵砂付着	女瓦	凹面に塵砂付着。	174
599-8	縷巻き縷 帳砂付着	女瓦 (凹面)	縷巻き造り。凸面縄叩き。 窪抜き文字残欠。	174
599-9	紐 縷 帳	字瓦 (凹面)	紐作り成形。 凹面は無で整形。	174
599-10	狭・側端 部布正板	女瓦 (凹面)	一枚作り。 凸面縄叩き。	174

標記番号	種別	瓦種	備考	図版番号
599-11	凸面に布 の圧痕	女瓦 (凸面)	縷巻き造り。凹面に縷巻き 縷帳と布目。 凸面縄叩きの擦消し。	174
599-12	凍 ハゼ	男瓦	一枚作り。布目。 凸面は著しい凍ハゼ。	174



## 第2節 鎌倉時代以降 遺構一覧表

## D区8溝一覧表

遺構名称	断面形状	走向方向	規模(単位:m)				備 考
			長	幅	平均深度	最大深度	
D区第8号溝状遺構	箱型状	南-61度-東	(66.6)	不 明	0.92	1.50	F1溝が途中で垂直に合流。 南側は規農道下の為不明。

## D区土坑一覧表

遺構名称	位置	平面形状	主軸方位	規模(単位:m)			備 考
				長	幅	深 度	
D区第245号土坑	48-D-37	長方形	北-90度-東	(2.21)	1.03	0.23	昭和35年以降。
D区第246号土坑	45-D-42	長方形	北-39度-東	1.10	0.60	0.18	近世。
D区第247号土坑	46-D-44	長方形	北-52度-西	1.15	0.60	0.21	#。
D区第248号土坑	49-D-39	長方形	北-35度-西	1.20	0.60	0.43	#。
D区第249号土坑	49-D-40	長方形	北-36度-東	1.09	0.68	0.22	#。
D区第250号土坑	49-D-41	長方形	北-34度-東	1.12	0.78	0.21	#。
D区第251号土坑	49-D-41	長方形	北-32度-東	1.18	(0.60)	0.17	#。253・254号土坑を切る。
D区第252号土坑	50-D-41	長方形	北-31度-東	1.70	0.79	0.37	#。252号土坑を切る。
D区第253号土坑	50-D-41	長方形	北-28度-東	1.99	1.22	0.25	#。252・253号土坑に切られる。
D区第254号土坑	50-D-44	方形	北-33度-東	0.80	0.75	0.31	近世。
D区第255号土坑	48-D-46	不整形	北-40度-西	(1.60)	0.87	0.19	#。
D区第256号土坑	40-D-38	長方形	北-83度-東	2.94	0.93	0.06	#。
D区第257号土坑	39-D-38	長方形	北-35度-東	2.96	0.88	0.23	#。258・259号土坑に切られる。
D区第258号土坑	39-D-38	長方形	北-50度-西	(1.20)	1.30	0.21	#。259号土坑に切られる。
D区第259号土坑	39-D-38	長方形	北-58度-西	1.86	0.83	0.44	#。258・257号土坑を切る。
D区第260号土坑	50-D-61	方形	北-17度-東	1.20	0.95	0.33	#。
D区第261号土坑	38-D-41	長方形	北-22度-東	1.07	0.65	0.12	#。
D区第262号土坑	38-D-39	楕円形	北-20度-東	1.24	0.80	0.14	#。
D区第263号土坑	38-D-57	長方形	北-85度-西	1.75	0.71	0.12	近代。F1溝断面で検出。
D区第264号土坑	36-D-55	長方形	北-53度-西	1.82	0.63	0.77	#。F1溝断面で検出。
D区第265号土坑	31-D-48	長方形	北-57度-西	1.48	1.10	0.10	#。#。
D区第266号土坑	48-D-41	不整形	北-58度-西	1.53	0.75	0.26	#。
D区第267号土坑	42-D-66	楕円長方形	北-57度-西	2.62	0.55	0.64	中世(室町時代か)。

## F区溝状遺構

遺構名称	断面形状	走向方向	規模(単位:m)				備 考
			長	幅	平均深度	最大深度	
F区第1号溝状遺構	箱型状	南-2度-西 南-23度-西	149.90	4.40~6.80	0.44	0.70	当溝は、南北で各々直線的であるが、中間では緩やかな弧を描く。
F区第2号溝状遺構	箱型状	南-62度-東 南-41度-東	93.20	2.32~4.80	0.40	0.85	当溝の北側は緩やかな弧を描く。 1溝に切られ、6溝と共存。
F区第3号溝状遺構	箱型状	南-75度-東	59.20	2.40~4.96	0.50	0.70	19溝を切る。
F区第6号溝状遺構	箱型状	南-70度-西 南-33度-西	64.00	4.24~6.40	0.40	0.60	東西方向と南西方向に向う間は、緩やかに弧を描く。
F区第8号溝状遺構	箱型状	南-22度-西	26.40	0.40~2.00	0.60	0.70	6溝を切る。3溝に切られる。
F区第9号溝状遺構	箱型状	南-19度-西	14.40	1.20~3.84	0.25	0.30	2溝を切る。
F区第19号溝状遺構	「U」字状	南-81度-東	51.00	1.12~1.60	0.32	0.50	3溝に切られる。8溝と共存。
F区第22号溝状遺構	「U」字状	南-40度-西	7.29	0.65~1.24	0.34	0.39	2溝に切られる。

## 第2節 鎌倉時代以降

F区土坑一覽表

遺構名称	位置	平面形状	主軸方位	規模(単位:m)			備考
				長	幅	深度	
F区第6号土坑	49-F-54	長方形	北-25度-西	1.60	0.97	0.05	近世。
F区第10号土坑	50-F-57	隅丸長方形	北-1度-西	2.07	0.73	0.17	中世。
F区第14号土坑	50-F-54	長方形	北-79度-西	2.88	1.12	0.56	近世。
F区第15号土坑	22-F-68	隅丸長方形	北-69度-西	(2.30)	(0.65)	0.16	近世。
F区第16号土坑	23-F-68	隅丸長方形	北-69度-西	1.98	1.55	0.66	中世。15号土坑を切る。
F区第18号土坑	27-F-70						近代。
F区第19号土坑	25-F-69	隅丸長方形	北-9度-東	0.92	(0.69)	0.24	近代。
F区第20号土坑	24-F-69	隅丸長方形	北-13度-東	1.50	1.13	0.40	土師質土器皿・香炉等出土。本文537頁
F区第23号土坑	47-F-65	円形	北-40度-西	1.53	1.45	0.44	中世。
F区第24号土坑	47-F-64	円形	0度	0.71	0.70	0.27	中世。
F区第83号土坑	7-F-53	長方形	0度	1.26	0.62	0.19	近世。
F区第90号土坑	30-F-64	長方形	北-13度-東	2.21	1.03	0.42	#。102号土坑と重複。
F区第92号土坑	13-F-64	隅丸長方形	北-62度-東	(1.54)	(1.16)	0.16	中世。
F区第93号土坑	13-F-64	円形	北-64度-西	1.24	1.19	0.20	#。92号土坑を切る。
F区第97号土坑	21-F-65	長方形	北-76度-西	(1.95)	1.13	0.63	中世。
F区第101号土坑	28-F-65	楕円形	北-47度-東	0.89	0.63	0.38	近世。
F区第102号土坑	30-F-63	長方形	北-82度-西	1.05	0.57	0.41	#。
F区第103号土坑	29-F-64	長方形	北-74度-西	2.03	0.90	0.30	#。
F区第104号土坑	17-F-62	楕円形	北-53度-西	1.21	0.80	0.30	中世。
F区第105号土坑	16-F-62	長方形	北-76度-西	1.67	1.25	0.35	#。
F区第106号土坑	16-F-63	長方形	北-70度-西	1.25	1.05	0.29	#。
F区第107号土坑	14-F-62	不整形	北-16度-東	1.15	0.75	0.30	#。
F区第110号土坑	17-F-63	楕円形	北-77度-西	0.59	0.45	—	#。
F区第114号土坑	45-F-62	円形	0度	0.79	0.75	0.24	#。
F区第115号土坑	44-F-61	円形	北-61度-東	0.90	0.83	0.30	#。
F区第125号土坑	49-F-52	長方形	北-79度-西	2.98	1.23	0.40	近世。
F区第126号土坑	45-F-63	隅丸長方形	北-10度-東	2.11	0.60	0.06	中世。
F区第171号土坑	27-F-64	長方形	北-11度-東	0.85	0.57	0.37	中世。
F区第172号土坑	27-F-64	長方形	北-78度-西	1.44	1.08	0.43	中世。
F区第210号土坑	21-F-64	円形	北-60度-東	1.02	(0.65)	0.25	近代。F 6溝・51趾を切る。
F区第252号土坑	29-F-56	長方形	北-14度-東	(1.06)	0.62	0.16	#。
F区第275号土坑	19-F-58	長方形	北-71度-西	4.55	0.80	0.75	中世。F 2号掘立を切る。
F区第296号土坑	16-F-60	隅丸長方形	北-64度-西	1.51	1.05	0.10	中世。
F区第326号土坑	17-F-63	不整形	北-40度-東	1.30	1.00	0.04	近代。
F区第327号土坑	17-F-64	長方形	北-15度-東	1.55	1.15	0.24	#。
F区第329号土坑	17-F-61	長方形	北-1度-西	0.89	0.32	0.27	#。
F区第340号土坑	14-F-64	不整形	北-60度-西	1.26	0.66	0.20	近世。
F区第342号土坑	15-F-62	不整形	北-80度-西	3.25	1.98	0.20	中世～近世。
F区第351号土坑	14-F-61	楕円形	北-6度-東	1.11	0.55	0.10	近世。
F区第360号土坑	13-F-63	不整形	北-7度-東	2.45	1.23	0.12	#。
F区第423号土坑	14-F-57	長方形	北-9度-東	1.39	0.87	0.45	#。
F区第424号土坑	13-F-57	長方形	北-79度-西	3.07	1.38	0.60	#。
F区第432号土坑	13-F-65	隅丸長方形	北-15度-東	2.12	1.00	0.12	中世。
F区第443号土坑	5-F-59	長方形	北-73度-西	3.35	0.74	0.35	中世～近世。F53趾を切る。
F区第469号土坑	18-F-53	長方形	北-2度-西	1.55	1.00	0.28	近代。F 2溝を切る。

G区溝状遺構一覧表

遺構名称	断面形状	走行方向	規 模 (単位:m)				備 考
			長	幅	平均深度	最大深度	
G区第1号溝状遺構	箱型状	南-10度-西	(26.40)	0.56~0.72	0.33	0.43	耕作に伴うカマ掘。近世~近代。
G区第2号溝状遺構	葉研堀	南-85度-東	(44.80)	0.34~0.98	0.46	0.58	中道南第1号館跡の外郭溝。
		南-11度-西	54.96	0.32~2.60	0.47	0.89	
		南-81度-東	21.60	0.80~1.20	0.64	0.79	
G区第3号溝状遺構	〃	南-11度-西	37.44	0.24~0.56	0.18	0.30	〃
G区第5号溝状遺構	箱型状	南-3度-西	27.52	0.56~0.80	0.30	0.42	耕作に伴うカマ掘。近世~近代。
G区第7号溝状遺構	〃	南-8度-西	23.80	0.60~0.88	0.30	0.49	〃
G区第8号溝状遺構	〃	南-8度-西	30.80	0.64~1.08	0.41	0.54	〃
G区第9号溝状遺構	〃	南-7度-西	26.40	0.68~1.00	0.48	0.57	〃
G区第11号溝状遺構	〃	南-8度-西	26.80	0.64~1.04	0.36	0.45	〃
G区第12号溝状遺構	〃	南-7度-西	11.80	0.68~1.04	0.27	0.36	〃
G区第13号溝状遺構	〃	南-7度-西	22.80	0.16~1.08	0.11	0.15	〃
G区第14号溝状遺構	〃	南-7度-西	11.44	0.20~0.40	0.08	0.17	〃
G区第15号溝状遺構	〃	南-5度-西	(13.36)	0.56~0.80	0.30	0.48	〃
G区第17号溝状遺構	〃	南-85度-東	(41.28)	0.40~1.16	0.36	0.47	〃
G区第18号溝状遺構	〃	南-9度-西	8.64	0.64~0.72	0.33	0.36	〃
G区第19号溝状遺構	〃	南-6度-西	9.52	0.64~0.96	0.31	0.42	〃
G区第20号溝状遺構	「U」字状	南-75度-東	(58.80)	2.88~5.20	0.39	0.55	14世紀後半代に存在する。
G区第21号溝状遺構	箱型状	南-6度-西	24.64	0.80~1.52	0.29	0.45	耕作に伴うカマ掘。近世~近代。
G区第22号溝状遺構	「U」字状	北-82度-東	4.80	0.24~0.40	0.07	0.24	不詳。
G区第23号溝状遺構	箱型状	南-7度-西	23.68	0.56~0.88	0.33	0.36	耕作に伴うカマ掘。近世~近代。
G区第24号溝状遺構	〃	南-7度-西	23.20	0.56~0.80	0.31	0.36	〃
G区第27号溝状遺構	〃	南-87度-東	( 3.52)	0.48~1.20	0.14	0.21	14世紀後半以前。
G区第28号溝状遺構	〃	南-87度-東	( 7.28)	0.72~1.04	0.14	0.21	〃
G区第29号溝状遺構	〃	南-88度-東	( 2.40)	0.56~0.64	0.19	0.24	〃
G区第30号溝状遺構	〃	北-72度-東	( 3.44)	0.28~0.64	0.12	0.17	〃
G区第31号溝状遺構	〃	北-87度-西	( 5.20)	0.84~1.40	0.32	0.35	98・99・111号土坑は、延長線上にある。中道南第1号館跡以前の方形区画を形成する。14世紀後半。
		0度	13.20	0.80~1.20	0.26	0.36	
		北-87度-西	(37.80)	— — —	— — —	— — —	
G区第32号溝状遺構	〃	南-52度-西	( 3.52)	0.64~0.96	0.20	0.29	14世紀後半以前。
G区第33号溝状遺構	〃	南-40度-東	( 2.40)	0.14~0.21	0.09	0.13	〃
G区第34号溝状遺構	葉研堀	南-78度-東	(24.80)	1.36~4.60	0.60	0.83	南端部は東南方向に緩やかな弧を描く。中道南第1号館跡の内郭溝。
		南-15度-西	32.00	0.80~3.20	0.61	0.69	
		11.20	0.40~0.64	0.20	0.28		
G区第35号溝状遺構	箱型状	南-74度-東	2.44	0.60~0.96	0.08	0.08	14世紀後半以前。
G区第36号溝状遺構	〃	北-87度-東	4.00	0.66~1.66	0.13	0.17	〃
G区第42号溝状遺構	葉研堀	南-86度-東	(19.20)	0.36~0.72	0.19	0.28	中道南第1号館跡の外郭溝。

G区土坑一覧表

遺構名称	位置	平面形状	主軸方位	規 模 (単位:m)			備 考
				長	幅	深度	
G区第2号土坑	48-G-52	長方形	東-9度-北	2.15	1.06	0.06	近世。

## 第2節 鎌倉時代以降

G区第3号土坑	48-G-51	長方形	北-4度-東	3.37	0.94	0.40	〃
G区第6号土坑	34-G-74	不整形	北-17度-西	1.90	1.80	0.25	中世。
G区第7号土坑	34-G-73	長方形	北-5度-東	1.70	0.80	0.22	〃
G区第8号土坑	33-G-73	長方形	北-6度-東	2.52	0.96	0.17	〃
G区第10号土坑	19-G-70	円形	——	0.95	0.93	0.15	〃
G区第13号土坑	13-G-72	長方形	北-2度-西	2.89	0.97	0.11	〃。14世紀?
G区第14・15号土坑	13-G-71	長方形	北-84度-西	1.85	0.78	0.13	〃。15世紀?
G区第16・17号土坑	13-G-69	不整形	北-83度-西	1.87	0.68	0.15	〃
G区第18号土坑	12-G-70	長方形	北-80度-西	2.57	0.59	0.15	〃
G区第20号土坑	10-G-70	長方形	北-4度-東	2.45	0.90	0.30	〃。14世紀?
G区第21号土坑	7-G-72	長方形	北-5度-西	3.40	0.86	0.15	〃
G区第22号土坑	6-G-70	長方形	北-1度-西	4.85	0.63	0.05	〃
G区第23号土坑	2-G-69	長方形	北-85度-西	1.85	(0.30)	0.13	G号24土坑と重複, 近世。
G区第24号土坑	2-G-69	長方形	北-85度-西	2.52	0.87	0.10	G号23土坑と重複, 〃
G区第25号土坑	15-G-71	楕円形	北-83度-西	1.44	1.03	0.20	中世。
G区第27号土坑	13-G-48	長方形	北-10度-東	5.60	0.98	0.45	近世~近代。
G区第29号土坑	18-G-48	長方形	北-6度-東	3.73	1.05	0.30	〃
G区第31A号土坑	27-G-49	長方形	0度	1.55	1.00	0.11	〃
G区第31B号土坑	23-G-54	長方形	北-90度-西	2.46	0.85	0.10	〃
G区第32号土坑	27-G-48	長方形	北-10度-東	1.75	0.88	0.10	〃
G区第33号土坑	27-G-46	長方形	北-80度-西	2.37	1.10	0.39	〃
G区第34号土坑	29-G-47	長方形	0度	1.70	0.80	0.25	〃
G区第35号土坑	28-G-52	長方形	北-80度-西	1.97	0.55	0.10	〃
G区第37号土坑	27-G-59	長方形	北-10度-東	2.90	1.10	0.30	〃
G区第38号土坑	29-G-57	長方形	北-8度-東	1.78	0.96	0.10	〃
G区第41号土坑	31-G-58	長方形	北-7度-東	2.34	1.00	0.05	〃
G区第42号土坑	33-G-59	長方形	0度	(1.74)	0.93	0.30	〃
G区第43号土坑	34-G-59	長方形	0度	(2.78)	1.25	0.30	〃
G区第44号土坑	34-G-47	長方形	北-4度-東	2.48	1.10	0.15	〃
G区第45号土坑	35-G-46	長方形	北-2度-東	2.15	1.11	0.15	〃
G区第46号土坑	41-G-49	長方形	北-82度-西	3.05	1.05	0.21	〃
G区第47号土坑	41-G-47	長方形	北-80度-西	3.01	0.78	0.28	〃
G区第54号土坑	2-G-45	隅丸長方形	北-82度-西	3.78	1.70	0.29	中世。
G区第56号土坑	11-G-51	楕円形	北-4度-東	1.54	0.95	0.30	〃
G区第57号土坑	12-G-51	隅丸方形	0度	2.00	1.20	0.08	〃
G区第58号土坑	10-G-51	隅丸方形	北-2度-東	1.72	0.66	0.07	〃
G区第59号土坑	5-G-43	円形	——	1.45	1.15	0.05	〃
G区第60号土坑	20-G-44	隅丸長方形	北-8度-東	1.57	0.77	0.20	〃
G区第63号土坑	12-G-60	長方形	北-5度-東	(2.00)	(0.35)	0.40	近世。
G区第64号土坑	14-G-59	長方形	北-2度-東	(1.15)	0.45	0.22	〃
G区第65号土坑	8-G-59	不整形	北-5度-東	0.48	0.40	0.04	板碑出土。中世。
G区第66号土坑	14-G-60	長方形	0度	(1.70)	0.95	0.40	近世。
G区第67号土坑	11-G-52	不整形	北-90度-西	3.05	2.78	0.15	中世。
G区第68号土坑	10-G-52	不整形	北-13度-東	2.27	2.05	0.30	中世。
G区第69号土坑	9-G-47	長方形	北-77度-西	1.60	0.78	0.15	〃
G区第71号土坑	6-G-47	不整形	北-85度-西	4.15	2.10	0.38	中世。
G区第73号土坑	1-G-48	円形	0度	1.73	1.70	0.40	〃

## G区土坑

G区第76号土坑	22-G-46	円形	北-15度-東	0.77	0.65	0.60	不詳。
G区第77号土坑	21-G-48	長方形	北-6度-東	1.87	0.90	0.35	近世~近代。
G区第78号土坑	42-G-58	不整形	北-81度-西	2.18	1.63	0.25	近代。
G区第80号土坑	10-G-50	円形	北-84度-東	1.31	1.19	0.43	中世。
G区第84号土坑	3-G-53	不整形	北-43度-東	3.23	2.47	0.40	#。
G区第87号土坑	8-G-58	長方形	北-9度-東	1.73	0.86	0.65	近世。
G区第88号土坑	8-G-59	方形	北-18度-西	0.99	0.84	0.10	中世。
G区第95号土坑	12-G-68	隅丸長方形	北-82度-西	1.38	0.90	0.10	#。
G区第98号土坑	39-G-55	隅丸長方形	北-83度-西	3.15	0.95	0.10	G31溝の延長上。方形区画か?中世。
G区第99号土坑	39-G-60	長方形	東-5度-北	(3.75)	1.15	0.07	#。
G区第100号土坑	42-G-50	長方形	西-13度-南	(0.95)	1.08	0.10	近世。
G区第101号土坑	43-G-50	長方形	北-90度-西	2.78	1.02	0.05	中世。
G区第102号土坑	2-G-55	楕円形	北-5度-西	0.90	0.82	0.42	近代。
G区第103号土坑	48-G-69	長方形	0度	(0.90)	0.79	0.37	中世。
G区第104号土坑	50-G-67	円形	北-66度-東	1.10	0.99	0.33	#。
G区第105号土坑	1-G-55	隅丸方形	北-2度-東	1.04	0.67	0.31	近世。
G区第106号土坑	13-G-53		0度				近代。
G区第110号土坑	39-G-58	長方形	北-84度-西	2.10	0.70	0.12	中世。
G区第111号土坑	39-G-58	不整形	北-74度-東	3.25	0.90	0.31	G31溝の延長上。方形区画か?中世。
G区第117号土坑	30-G-73	不整形	0度	2.59	2.40	0.17	中世。14世紀。
G区第118号土坑	39-G-72	不整形円形	——	2.00	1.74	0.18	中世。
G区第119号土坑	42-G-72	長方形	北-18度-東	2.30	1.02	0.15	近世。
G区第129号土坑	37-G-69	楕円形	北-75度-西	1.15	0.88	0.10	中世。
G区第132号土坑	44-G-69	不整形	北-90度-西	2.63	1.00	0.18	#。
G区第133号土坑	44-G-74	隅丸長方形	北-78度-西	2.58	0.91	0.21	#。
G区第134号土坑	45-G-76	長方形	北-5度-西	(1.35)	(0.53)	0.17	#。
G区第135号土坑	45-G-76	隅丸長方形	北-2度-西	(2.29)	(0.71)	0.21	#。
G区第137号土坑	30-G-69	不整形	北-5度-東	2.30	1.09	0.28	#。
G区第138号土坑	31-G-69	長方形	北-80度-東	2.65	0.76	0.10	#。
G区第139号土坑	31-G-68	円形	——	0.70	0.70	0.10	#。
G区第141号土坑	41-G-67	不整形	北-39度-東	0.64	0.46	0.14	近世。
G区第142号土坑	33-G-72	隅丸長方形	北-31度-西	0.82	0.54	0.14	#。
G区第144号土坑	26-G-71	隅丸長方形	北-8度-西	1.34	0.67	0.22	中世。
G区第147号土坑	26-G-70	円形	——	0.82	0.79	0.13	#。
G区第151号土坑	26-G-69	長方形	0度	2.10	1.10	0.17	#。
G区第152号土坑	26-G-68	円形	北-90度-西	0.80	0.60	0.15	#。
G区第155号土坑	44-G-65	隅丸長方形	北-20度-東	1.25	0.93	0.16	近代。
G区第158号土坑	46-G-45	長方形	北-3度-西	2.05	0.90	0.08	中世。
G区第160号土坑	6-G-61	楕円形	北-82度-東	(0.80)	0.62	0.14	#。
G区第163号土坑	2-G-53	不整形	北-6度-西	1.74	1.57	0.43	#。
G区第164号土坑	1-G-65	不整形	北-88度-西	1.34	0.90	0.10	近世。
G区第167号土坑	47-G-66	不整形	0度	2.52	2.03	0.14	中世。
G区第170号土坑	47-G-62	楕円形	西-4度-北	1.35	0.75	0.28	#。
G区第171号土坑	47-G-61	長方形	0度	0.92	0.50	0.07	#。
G区第174号土坑	10-G-62	円形	北-39度-西	1.50	1.35	0.14	近世。
G区第175号土坑	11-G-63	長方形	北-5度-東	1.54	0.91	0.13	中世。

第2節 鎌倉時代以降

G区第176号土坑	10-G-64	楕丸長方形	北-29度-西	1.36	0.74	0.24	近世。
G区第177号土坑	9-G-64	楕円形	北-84度-東	0.65	0.49	0.37	中世。
G区第182号土坑	44-G-63	不整形	北-74度-東	1.25	1.02	0.20	#。
G区第183号土坑	44-G-62	不整形	北-4度-東	2.70	2.00	0.29	#。
G区第184号土坑	6-G-61	円形	北-7度-西	0.90	0.82	0.18	#。
G区第185号土坑	6-G-63	楕円形	北-84度-東	0.74	0.61	0.18	#。
G区第186号土坑	48-G-66	楕円形	北-67度-西	0.90	0.84	0.40	#。
G区第208号土坑	49-G-64	楕円形	北-13度-東	0.84	0.78	0.37	#。
G区第210号土坑	48-G-63	楕円形	北-6度-東	1.10	0.80	0.24	#。
G区第238号土坑	47-G-63	楕円形	北-46度-西	1.00	0.89	0.35	#。
G区第250号土坑	45-G-65	楕円形	北-79度-西	0.94	0.62	0.29	#。
G区第263号土坑	46-G-65	楕円形	北-70度-東	0.68	0.56	0.25	#。
G区第276号土坑	46-G-66	楕円形	北-77度-東	0.70	0.51	0.22	#。
G区第279号土坑	48-G-66	楕丸方形	北-23度-西	0.77	0.77	0.53	#。
G区第281号土坑	47-G-66	円形	——	0.79	0.71	0.31	#。
G区第283号土坑	47-G-67	円形	——	0.71	0.70	0.29	#。
G区第286号土坑	48-G-67	円形	——	0.70	0.62	0.26	#。
G区第291号土坑	47-G-67	楕円形	北-83度-東	0.77	0.62	0.28	#。
G区第303号土坑	46-G-67	不整形	北-49度-西	0.74	0.61	0.38	#。
G区第314号土坑	45-G-67	楕円形	北-86度-東	0.89	0.68	0.24	#。
G区第343号土坑	43-G-62	不整形	北-5度-西	0.82	0.58	0.16	#。
G区第375号土坑	42-G-63	不整形	北-2度-東	1.43	1.35	0.27	不詳。
G区第430号土坑	38-G-60	楕円形	北-26度-西	0.75	0.65	0.28	中世。
G区第451号土坑	36-G-61	楕丸方形	北-76度-西	0.66	0.60	0.13	#。
G区第457号土坑	38-G-63	円形	——	0.67	0.61	0.10	#。
G区第491号土坑	35-G-74	楕丸長方形	北-56度-東	0.94	0.56	0.08	#。
G区第503号土坑	31-G-71	円形	——	0.57	0.54	0.14	#。
G区第512号土坑	32-G-67	長方形	北-80度-東 (0.82)	0.22	0.08	0.08	#。
G区第519号土坑	32-G-67	楕円形	北-87度-西	0.63	0.32	0.04	#。
G区第817号土坑	42-G-65	楕丸方形	北-89度-西	1.19	(0.56)	0.14	#。
G区第870号土坑	33-G-61	不整形	北-51度-西	0.56	0.46	0.50	#。
G区第871号土坑	27-G-65	円形	——	0.70	0.64	0.25	#。

G区ビット深度表

番号	深度	番号	深度	番号	深度	番号	深度	番号	深度	番号	深度	番号	深度	番号	深度				
203	16.0	213	13.0	221	38.5	229	24.5	237	11.0	246	14.0	255	3.0	264	7.5	272	18.0	284	17.0
204	29.5	214	45.0	222	28.5	230	36.0	239	16.5	247	18.0	256	22.5	265	27.0	273	13.0	285	17.5
205	26.0	215	45.0	223	26.5	231	——	240	15.0	248	16.5	257	23.5	266	7.5	274	18.5	287	21.5
206	16.0	216	20.0	224	16.5	232	14.0	241	14.5	249	10.0	258	19.5	267	37.0	275	14.0	288	6.0
207	30.5	217	34.0	225	30.0	233	24.0	242	15.5	251	21.0	259	18.0	268	16.0	277	36.5	289	8.0
209	16.0	218	42.0	226	29.5	234	9.5	243	9.0	252	12.5	260	11.5	269	60.0	278	38.0	290	7.0
211	21.5	219	34.0	227	24.0	235	9.0	244	36.5	253	15.0	261	14.0	270	18.5	280	18.0	292	16.5
212	42.5	220	23.0	228	25.0	236	6.5	245	11.0	254	7.0	262	17.0	271	13.0	282	9.5	293	14.0

294	4.5	313	11.5	342	18.0	361	25.0	380	27.5	398	8.5	419	22.0	438	15.5	458	25.0	484	7.5
295	13.5	315	12.5	344	21.5	362	20.0	381	10.5	399	7.5	420	34.5	439	27.0	459	16.0	485	6.0
296	10.0	316	9.0	345	27.5	363	51.0	382	34.5	400	10.5	421	8.0	440	12.5	460	6.0	486	20.0
297	28.0	317	4.0	346	7.0	364	4.0	383	24.0	401	—	422	9.5	441	27.5	461	8.0	487	15.0
298	9.5	318	7.5	347	13.0	365	26.0	384	30.5	402	26.0	423	23.0	442	16.5	462	19.5	488	7.0
299	9.0	319	4.5	348	—	366	27.0	385	16.0	403	—	424	7.0	443	10.5	463	54.0	489	8.5
300	8.5	320	13.5	349	23.0	367	24.0	386	35.0	406	20.0	425	18.0	444	19.0	464	48.0	490	13.0
301	10.0	321	17.0	350	34.0	368	19.0	387	9.5	407	16.0	426	6.5	445	18.0	465	8.0	491	35.0
302	42.5	332	36.0	351	9.5	369	20.0	388	31.5	408	46.0	427	8.5	446	16.0	466	23.0	492	16.5
304	7.5	333	14.5	352	32.0	370	12.0	389	12.0	409	19.0	428	11.0	447	4.5	467	7.0	493	19.0
305	19.5	334	48.5	353	56.0	371	29.0	390	12.5	410	27.0	429	37.0	448	16.0	476	16.0	494	24.0
306	15.5	335	48.5	354	8.0	372	33.0	391	10.5	411	19.0	431	15.5	449	8.5	477	16.0	495	21.5
307	8.0	336	21.0	355	15.5	373	35.0	392	4.5	412	11.5	432	16.5	450	6.5	478	15.0	496	9.5
308	45.0	337	11.5	356	38.0	374	30.5	393	18.5	413	14.5	433	4.0	452	7.0	479	—	497	12.0
309	7.0	338	84.5	357	26.0	376	26.0	394	20.5	414	19.5	434	7.5	453	17.5	480	—	498	6.0
310	25.5	339	19.6	358	12.0	377	39.5	395	9.0	415	12.0	435	10.0	454	14.5	481	7.5		
311	15.0	340	9.5	359	24.5	378	6.5	396	9.0	417	6.0	436	13.5	455	9.5	482	17.0		
312	10.5	341	8.0	360	35.5	379	29.0	397	6.0	418	5.5	437	23.5	456	9.5	483	9.0		

H区溝状遺構一覽表

遺構名称	断面形状	走行方向	規模 (単位: m)				備考
			長	幅	平均深度	最大深度	
H区第1号溝状遺構	箱型状	北-86度-東	(52.00)	1.20~2.08	0.59	0.75	高井道東第1号船跡の南限の溝。
H区第2号溝状遺構	#	南-31度-東	(19.76)	0.80~1.76	0.27	0.41	高井道東第1号船跡の内郭溝。
H区第4号溝状遺構	「U」字状	南-2度-東	(15.80)	3.77~6.60	0.32	0.38	14世紀。
H区第5号溝状遺構	箱型状	南-88度-東	(7.03)	0.20~0.48	0.72	0.80	中世か? 5~10溝で区画?
H区第6号溝状遺構	#	南-1度-西	10.19	0.38~0.71	0.16	0.23	#
H区第7号溝状遺構	#	南-1度-西	13.20	0.32~0.56	0.16	0.28	#
H区第9号溝状遺構	#	0度	12.62	0.35~0.82	0.14	0.21	#
H区第10号溝状遺構	#	0度	5.76	0.32~0.48	0.11	0.14	#
H区第11号溝状遺構	#	南-71度-東 北-86度-東	(62.40)	3.52~7.20	0.64	0.80	14世紀後半。
H区第12号溝状遺構	#	南-74度-東	(8.40)	0.72~0.96	0.13	0.19	高井道東第1号船跡と関連。
H区第15号溝状遺構	#	南-6度-西	14.96	0.48~1.20	0.17	0.27	耕作に伴うカマ跡, 近世~近代。
H区第16号溝状遺構	#	南-6度-西	(7.76)	0.44~0.64	0.15	0.24	#
H区第18号溝状遺構	#	南-8度-東	16.56	0.34~0.72	0.07	0.10	#
H区第21号溝状遺構	#	0度	(14.28)	0.56~1.16	0.42	0.57	南端部でI区2溝と連接。
H区第22号溝状遺構	#	南-6度-西	12.32	0.24~0.48	0.13	0.19	南端部でI区2溝と連接。

H区土坑一覽表

遺構名称	位置	平面形状	主軸方位	規模 (単位: m)			備考
				長	幅	深度	
H区第2号土坑	10-H-54	楕円形	北-28度-西	0.94	0.84	0.20	近世。
H区第4号土坑	8-H-57	不整形	0度	1.15	0.88	0.54	#
H区第5号土坑	4-H-56	長方形	北-9度-西	2.55	1.30	0.10	近世。
H区第6号土坑	7-H-58	楕円形	北-8度-東	0.95	0.93	0.22	中世。

## 第2節 鎌倉時代以降

Ⅱ区第7号土坑	8-H-59	円形	——	0.74	0.71	0.40	Ⅱ。
Ⅱ区第8号土坑	7-H-60	円形	——	(0.93)	0.90	0.22	Ⅱ。
Ⅱ区第9号土坑	6-H-60	隅丸長方形	0度	1.54	0.45	0.28	Ⅱ。
Ⅱ区第10号土坑	1-H-58	不整形円形	0度	1.84	1.20	0.07	近世。
Ⅱ区第11号土坑	1-H-58	長方形	北-87度-西	1.45	0.95	0.12	中世。
Ⅱ区第12号土坑	12-H-69	隅丸長方形	0度	2.14	1.08	0.38	近世。
Ⅱ区第13号土坑	12-H-70	円形	北-49度-西	1.15	1.10	0.25	中世。
Ⅱ区第14号土坑	12-H-72	長方形	北-1度-東	3.10	1.05	0.24	近世。
Ⅱ区第16号土坑	8-H-76	長方形	北-10度-東	(0.95)	0.76	0.15	Ⅱ。
Ⅱ区第17号土坑	9-H-76	長方形	北-89度-西	3.45	1.07	0.15	Ⅱ。
Ⅱ区第18号土坑	8-H-73	長方形	北-87度-西	3.06	1.14	0.19	Ⅱ。
Ⅱ区第19号土坑	10-H-72	長方形	北-4度-東	3.00	0.80	0.26	Ⅱ。
Ⅱ区第20号土坑	9-H-72	長方形	0度	2.10	0.71	0.19	Ⅱ。
Ⅱ区第21号土坑	1-H-76	方形	0度	1.60	(1.07)	0.20	Ⅱ。
Ⅱ区第22号土坑	3-H-71	隅丸長方形	北-85度-西	1.94	0.48	0.15	Ⅱ。
Ⅱ区第23号土坑	1-H-76	隅丸長方形	0度	1.29	0.95	0.18	Ⅱ。
Ⅱ区第25号土坑	14-H-72	隅丸長方形	北-85度-西	2.09	0.50	0.18	Ⅱ。
Ⅱ区第28号土坑	7-H-58	楕円形	北-66度-東	0.98	0.66	0.13	中世。
Ⅱ区第30号土坑	9-H-55	長方形	北-90度-東	4.00	0.81	0.39	中世か？。
Ⅱ区第37号土坑	9-H-53	不整形方形	北-62度-西	4.26	0.68	0.23	北-84度-西。近世。
Ⅱ区第38号土坑	3-H-73	不整形	北-5度-東	1.48	0.74	0.10	近世。
Ⅱ区第40号土坑	43-H-60	隅丸方形	0度	1.80	1.21	0.55	中世か。
Ⅱ区第42号土坑	1-H-66	円形	——	1.04	1.01	0.41	中世。
Ⅱ区第43号土坑	1-H-65	円形	——	0.82	0.81	0.21	Ⅱ。
Ⅱ区第46号土坑	3-H-64	隅丸方形	0度	0.34	(0.24)	0.22	Ⅱ。
Ⅱ区第47号土坑	9-H-67	楕円形	北-14度-西	1.15	1.03	0.33	Ⅱ。
Ⅱ区第78号土坑	41-H-55	隅丸方形	北-55度-東	0.50	0.45	0.16	Ⅱ。
Ⅱ区第79号土坑	40-H-57	楕円形	北-35度-西	0.45	0.39	0.22	近世。
Ⅱ区第81号土坑	38-H-56	隅丸方形	北-26度-西	0.50	0.43	0.19	Ⅱ。
Ⅱ区第82号土坑	38-H-56	不整形	北-20度-東	0.55	0.48	0.34	Ⅱ。
Ⅱ区第83号土坑	38-H-56	楕円形	北-22度-西	0.31	0.25	0.20	Ⅱ。
Ⅱ区第84号土坑	37-H-56	隅丸方形	北-41度-西	0.44	0.33	0.17	Ⅱ。
Ⅱ区第85号土坑	37-H-56	隅丸方形	北-53度-東	0.45	0.37	0.22	Ⅱ。
Ⅱ区第86号土坑	37-H-57	楕円形	北-75度-東	1.36	0.73	0.28	Ⅱ。
Ⅱ区第87号土坑	37-H-58	円形	0度	0.82	0.78	0.27	中世。
Ⅱ区第88号土坑	38-H-58	隅丸方形	北-72度-西	0.52	0.50	0.27	Ⅱ。
Ⅱ区第89号土坑	37-H-59	隅丸方形	北-86度-東	0.58	0.50	0.36	Ⅱ。
Ⅱ区第90号土坑	38-H-59	不整形	北-87度-東	0.39	0.37	0.32	Ⅱ。
Ⅱ区第91号土坑	38-H-59	長方形	北-85度-東	1.90	0.71	0.16	Ⅱ。
Ⅱ区第92号土坑	33-H-57	不整形円形	北-49度-西	0.63	0.45	0.18	近世。
Ⅱ区第93号土坑	33-H-57	楕円形	北-37度-東	(0.40)	0.36	0.06	Ⅱ。
Ⅱ区第97号土坑	34-H-49	不整形	北-41度-東	2.40	1.77	0.43	不詳。
Ⅱ区第105号土坑	30-H-74	不整形	北-23度-西	1.69	1.05	0.13	中世。
Ⅱ区第115号土坑	43-H-76	楕円形	北-3度-西	1.80	1.07	0.20	近世～近代。
Ⅱ区第118号土坑	41-H-71	隅丸長方形	北-6度-東	2.10	0.75	0.20	中世。
Ⅱ区第130号土坑	42-H-72	楕円形	北-7度-西	2.15	0.81	0.35	Ⅱ。



## H区土坑 I区溝状遺構 I区土坑

H区第132号土坑	30-H-66	不整形	北-16度-西	2.28	1.00	0.20	近世。
H区第148号土坑	-H-						位置等詳ならず。
H区第156号土坑	37-H-62	長方形	北-6度-東	2.25	1.02	0.10	#
H区第200号土坑	14-H-63	楕円形	北-33度-西	0.75	0.38	0.13	中世。
H区第223号土坑	9-H-63	不整形	北-40度-東	1.01	5.09	0.54	#
H区第232号土坑	6-H-62	円形	北-78度-東	0.75	0.73	0.19	#
H区第252号土坑	3-H-76	不整形	北-52度-東	0.79	0.36	0.18	#
H区第295号土坑	5-H-57	隅丸方形	北-10度-西	0.80	0.76	0.06	#
H区第296号土坑	9-H-62	楕円形	北-84度-東	1.03	0.82	0.25	#
H区第297号土坑	3-H-62	楕円形	北-40度-西	1.14	0.98	0.15	#
H区第303号土坑	2-H-61	円形	北-75度-東	0.74	0.65	0.31	#
H区第304号土坑	2-H-63	隅丸長方形	北-4度-西	1.60	0.94	0.18	#
H区第305号土坑	1-H-62	楕円形	北-39度-東	1.02	0.90	0.18	#
H区第306号土坑	5-H-60	隅丸方形	北-88度-西	0.85	0.79	0.46	#
H区第307号土坑	5-H-58	隅丸方形	北-89度-東	0.81	(0.78)	0.38	#
H区第308号土坑	8-H-57	不整形	北-25度-西	1.48	0.40	0.09	#
H区第310号土坑	3-H-72	隅丸長方形	北-83度-西	(1.70)	1.08	0.16	#

## I区溝状遺構一覽表

遺構名称	断面形状	走行方向	規模(単位:m)				備考
			長	幅	平均深度	最大深度	
I区第1号溝状遺構	箱型状	南-81度-東	(50.70)	0.32~1.17	0.13	0.34	15世紀。
I区第2号溝状遺構	#	南-85度-東	(19.48)	0.76~1.14	0.19	0.26	I区~H区にかけて走行。 全長127.43m。 高井道東第1号館跡の外郭溝。
		南-72度-西	23.19	0.66~1.06	0.30	0.33	
		南-4度-西	61.21	0.44~1.14	0.21	0.35	
		南-11度-東	23.55	0.85~1.41	0.26	0.30	
I区第6号溝状遺構	#	南-83度-東	66.27	0.88~1.22	0.62	0.81	15世紀。
I区第8号溝状遺構	薬研型	南-84度-東	65.79	1.81~3.48	0.85	1.15	#
I区第10号溝状遺構	箱型状	南-10度-西	9.56	0.77~1.25	0.14	0.18	#
I区第23号溝状遺構	#	南-9度-西	3.62	0.34~0.42	0.03	0.05	耕作に伴うカマ掘。近世~近代。
I区第24号溝状遺構	#	南-7度-西	7.36	0.42~0.58	0.82	0.11	#
I区第25号溝状遺構	#	南-7度-西	6.11	0.32~0.51	—	—	#

## I区土坑一覽表

遺構名称	位置	平面形状	主軸方位	規模(単位:m)			備考
				長	幅	深度	
I区第4号土坑	44-I-72	隅丸長方形	北-7度-東	1.43	0.72	0.15	近世か?
I区第5号土坑	41-I-67	隅丸長方形	0度	1.13	0.95	0.13	#
I区第6号土坑	41-I-68	隅丸長方形	0度	1.29	0.92	0.24	#
I区第7号土坑	42-I-69	隅丸長方形	北-45度-西	1.06	0.77	0.08	#
I区第8号土坑	42-I-70	長方形	北-10度-東	1.83	0.82	0.18	#
I区第9号土坑	44-I-71	長方形	北-1度-東	1.84	0.90	0.16	#
I区第10号土坑	42-I-77	隅丸長方形	北-4度-東	1.60	1.04	0.18	#
I区第12号土坑	45-I-83	長方形	北-17度-東	2.39	1.00	0.32	#

## 第2節 鎌倉時代以降

I区第13号土坑	45-1-83	長方形	北-70度-西	(0.98)	0.83	0.22	#
I区第14号土坑	41-1-84	隅丸長方形	0度	1.62	0.86	0.10	#
I区第17号土坑	40-1-79	長方形	0度	1.53	0.91	0.20	#
I区第18号土坑	40-1-78	方形	北-2度-西	1.08	0.87	0.11	#
I区第19号土坑	39-1-77	隅丸長方形	北-68度-西	1.75	0.81	0.33	#
I区第20号土坑	38-1-79	長方形	北-80度-西	1.55	0.98	0.21	#
I区第21号土坑	37-1-79	隅丸長方形	北-80度-西	2.12	1.20	0.24	#
I区第22号土坑	38-1-80	方形	北-3度-東	1.15	0.96	0.25	#
I区第23号土坑	48-1-84	長方形	北-82度-西	1.90	0.68	0.19	#
I区第28号土坑	34-1-79	長方形	北-11度-東	3.40	0.90	0.09	#
I区第29号土坑	37-1-65	長方形	北-5度-東	3.17	1.16	0.43	#
I区第30号土坑	34-1-69	隅丸長方形	北-8度-東	2.46	0.87	0.42	#
I区第31号土坑	33-1-69	隅丸長方形	北-20度-東	1.93	0.70	0.23	#
I区第32号土坑	32-1-69	隅丸長方形	北-17度-東	1.17	0.54	0.15	#
I区第33号土坑	33-1-66	長方形	北-12度-東	3.67	0.93	0.23	#
I区第34号土坑	29-1-64	長方形	北-11度-東	4.13	0.78	0.30	#
I区第35号土坑	28-1-66	長方形	北-7度-東	2.78	1.26	0.12	#
I区第36号土坑	27-1-70	隅丸長方形	北-6度-東	5.60	1.36	0.15	#
I区第37号土坑	27-1-72	長方形	北-4度-東	2.27	1.17	0.23	#
I区第39号土坑	37-1-84	正方形	北-22度-東	0.96	0.95	0.20	#
I区第40号土坑	38-1-84	長方形	北-8度-東	3.00	1.05	0.10	#
I区第42号土坑	19-1-78	長方形	北-85度-西	5.50	1.01	0.28	#
I区第43号土坑	18-1-76	長方形	北-83度-東	1.31	0.85	0.16	#
I区第49号土坑	36-1-65	長方形	北-10度-東	(1.56)	0.95	0.35	#
I区第53号土坑	19-1-76	長方形	北-3度-東	1.24	1.03	0.11	#
I区第68号土坑	28-1-55	隅丸長方形	北-10度-東	2.12	1.39	0.06	#
I区第73号土坑	23-1-58	長方形	北-14度-西	2.70	0.99	0.04	#
I区第79号土坑	22-1-52	長方形	北-10度-東	1.99	1.09	0.65	#
I区第81号土坑	20-1-60	長方形	北-4度-東	1.40	0.67	0.18	#
I区第82号土坑	19-1-51	隅丸長方形	北-90度-東	1.37	0.95	0.19	#
I区第99号土坑	30-1-76	長方形	北-84度-西	3.35	0.98	0.35	#
I区第103号土坑	47-1-73	長方形	北-4度-東	5.06	1.40	0.27	#
I区第104号土坑	46-1-73	長方形	北-5度-東	3.96	(0.55)	0.30	#
I区第105号土坑	45-1-72	長方形	北-7度-東	2.80	0.95	0.18	#
I区第175号土坑	38-1-84	隅丸長方形	北-16度-西	1.67	1.15	0.10	#
I区第186号土坑	27-1-64	隅丸長方形	北-86度-東	1.38	1.03	0.20	#
I区第200号土坑	34-1-70	隅丸長方形	北-90度-東	2.02	1.11	0.20	近世か?
I区第239号土坑	42-1-57	隅丸長方形	北-17度-東	1.63	0.75	0.20	#
I区第258号土坑	42-1-56	隅丸長方形	北-72度-西	1.10	0.78	0.17	#
I区第263A号土坑	43-1-56	楕円形	北-37度-西	1.31	1.13	0.47	#
I区第264号土坑	43-1-57	楕円形	北-84度-東	1.39	(1.05)	0.34	#
I区第286号土坑	43-1-56	隅丸長方形	北-74度-西	1.86	1.51	0.39	#
I区第288号土坑	38-1-56	隅丸長方形	北-10度-東	2.51	1.70	0.26	#
I区第460号土坑	50-1-74	長方形	北-3度-東	3.25	1.15	0.53	#
I区第467号土坑	39-1-62	長方形	北-7度-東	2.76	0.64	0.30	#
I区第468号土坑	41-1-62	長方形	北-3度-東	2.29	0.87	0.26	#
I区第478号土坑	26-1-62	隅丸長方形	北-77度-西	1.75	0.92	0.22	#

## I区土坑 J区溝状遺構 J区土坑

I区第481号土坑	4-I-61	長方形	北-4度-東	1.95	1.20	0.10	※
I区第483号土坑	12-I-62	長方形	北-80度-東	(2.43)	0.73	0.28	※
I区第484号土坑	34-I-84	長方形	北-9度-東	1.63	1.38	0.36	※
I区第485号土坑	30-I-74	長方形	北-85度-西	3.27	1.29	0.22	※

J区溝状遺構一覧表

遺構名称	断面形状	走行方向	規模(単位:m)				備考
			長	幅	平均深度	最大深度	
J区第1号溝状遺構	箱型状	南-11度-西	11.82	0.65~0.96	0.23	0.29	中位か?
			11.00	0.83~1.55	0.25	0.34	
J区第2号溝状遺構	〃	南-5度-西	(10.67)	0.45~0.76	0.33	0.43	近世か?
J区第4号溝状遺構	薬研面	北-33度-東	17.95	2.00~	0.74	0.87	近世。
			(23.00)		0.88		
J区第6号溝状遺構	箱型状	南-12度-西	1.89	0.33~0.46	0.11	0.17	近世か?
J区第7号溝状遺構	〃	南-4度-西	3.26	0.44~0.65	0.34	0.36	近世か?

J区土坑一覧表

遺構名称	位置	平面形状	主軸方位	規模(単位:m)			備考
				長	幅	深度	
J区第1号土坑	15-J-80	隅丸長方形	北-89度-西	1.15	0.75	0.41	近世か?
J区第3号土坑	18-J-79	長方形	0度	1.22	0.65	0.30	〃
J区第6号土坑	16-J-76	隅丸長方形	0度	1.09	0.62	0.23	〃
J区第7号土坑	15-J-73	隅丸長方形	北-15度-東	1.04	0.57	0.22	〃
J区第27号土坑	9-J-77	不整形	北-29度-東	4.18	3.72	0.16	〃
J区第28号土坑	8-J-77	長方形	北-87度-西	2.57	1.17	0.20	〃
J区第32号土坑	9-J-76	隅丸長方形	北-42度-東	2.66	1.73	0.30	〃
J区第40号土坑	3-J-82	長方形	北-56度-東	2.75	0.80	0.27	〃
J区第43号土坑	3-J-81	隅丸長方形	北-19度-西	0.80	0.55	0.41	〃
J区第44号土坑	2-J-81	隅丸長方形	北-72度-東	1.44	0.34	0.62	〃
J区第46号土坑	5-J-69	隅丸長方形	北-83度-東	1.46	1.23	0.16	〃
J区第48号土坑	5-J-81	隅丸長方形	北-63度-東	1.97	(0.80)	0.30	〃
J区第60号土坑	1-J-75	隅丸長方形	北-86度-西	1.70	0.91	0.53	〃
J区第64号土坑	4-J-81	長方形	北-31度-西	2.84	0.58	0.14	〃
J区第65号土坑	4-J-81	隅丸長方形	北-19度-東	1.00	0.79	0.18	〃
J区第66号土坑	5-J-80	隅丸長方形	北-62度-東	1.72	1.57	0.56	〃

## 第2節 鎌倉時代以降

遺物一覧表

## D区第8号溝状遺構

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
600-1	土製瓦土器 (カワラタ) 皿	覆土内 ろ残存	□ 底高 (11.9) 7.2 3.3	白色粒子・黒色細粒子若干	酸化焰	茶褐色	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	10点の接合
600-2	土製瓦土器 (カワラタ) 皿	覆土内 破片	底 (7.8)	白色粒子・黒色細粒子若干	酸化焰	茶褐色	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	

## F区第1号溝状遺構

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
605-1 175	土製瓦土器 (カワラタ) 皿	覆土内 破片	□ 底高 (6.6) (3.7) (1.6)	シルト粗粒子	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はD類。	
605-2	土製瓦土器 (カワラタ) 皿	覆土内 破片	□ 底高 (6.6) (4.0) (2.0)	暗赤褐色粒子 微量	酸化焰	鈍い褐	轆轤成形(左回転)。 生地はD類。	
605-3	土製瓦土器 (カワラタ) 皿	覆土内 破片	□ 底高 (6.9) (4.9) (2.0)	淡赤褐色・黒色 鉱物粒微量	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はD類。	
605-4	土製瓦土器 (カワラタ) 皿	覆土内 破片	□ 底高 (7.0) (4.5) (2.1)	赤褐色粒子微量	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はD類。	
605-5	土製瓦土器 (カワラタ) 皿	覆土内 破片	□ 底高 (7.2) (4.5) (2.1)	黒色鉱物粒子 微量	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はD類。	
605-6	土製瓦土器 (カワラタ) 皿	覆土内 ろ残存	□ 底高 7.2 4.5 1.8	黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はD類。	
605-7	土製瓦土器 (カワラタ) 皿	覆土内 破片	□ 底高 (7.4) (5.5) (1.5)	細砂粒混入	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はD類。	
605-8	土製瓦土器 (カワラタ) 皿	覆土内 破片	□ 底高 (7.5) (6.0) (1.8)	細砂粒混入	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はD類。	
605-9 175	土製瓦土器 (カワラタ) 皿	覆土内 浮び突形	□ 底高 7.6 5.5 1.9	赤褐色粒子・ 細砂粒	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はD類。シルト粗粒子多量。	
605-10	土製瓦土器 (カワラタ) 皿	覆土内 破片	□ 底高 (8.0) (6.0) (2.3)	細砂粒	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はD類。	
605-11	土製瓦土器 (カワラタ) 皿	覆土内 破片	□ 底高 (8.0) (6.6) (2.2)	細砂粒	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はD類。	
605-12	土製瓦土器 (カワラタ) 皿	覆土内 破片	□ 底高 (8.0) (5.5) (2.1)	半透明鉱物粒 子	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はD類。	
605-13	土製瓦土器 (カワラタ) 皿	覆土内 破片	□ 底高 (8.1) (4.8) 3.0	黒色粒子若干	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はD類。	

## DE (8号溝) F区 (1号溝)

605-14 175	土層貫土器 (カワタケ) Ⅲ	覆土内 ±残存	□ 口底 底高	(8.2) (6.4) (1.8)	黒色鉱物・半 透明鉱物粒子	酸化焙	褐色	縦縞成形 (左回転)。 生地はC型。	
605-15	土層貫土器 (カワタケ) Ⅲ	覆土内 破片	□ 口底 底高	(8.2) (5.1) (1.8)	赤褐色粒子若 干	酸化焙	鈍い橙	縦縞成形 (左回転)。 生地はD型。	
606-1	土層貫土器 (カワタケ) Ⅲ	覆土内 破片	□ 口底 底高	(9.9) (7.2) (1.9)	白色粒子微量	酸化焙	鈍い橙	縦縞成形 (左回転)。 生地はD型。	
606-2	土層貫土器 (カワタケ) Ⅲ	覆土内 破片	□ 口底 底高	(10.0) (4.9) (2.7)	黒色鉱物粒子	酸化焙	鈍い橙	縦縞成形 (左回転)。 生地はD型。	
606-3	土層貫土器 (カワタケ) Ⅲ	覆土内 破片	□ 口底 底高	(10.1) (6.0) (2.7)	黒色鉱物粒子	酸化焙	鈍い橙	縦縞成形 (左回転)。 生地はD型。	3点の接合
606-4	土層貫土器 (カワタケ) Ⅲ	覆土内 破片	□ 口底 底高	(10.4) (4.9) (2.8)	赤褐色粒子シ ルト粗粒子	酸化焙	鈍い橙	縦縞成形 (左回転)。 生地はD型。	2点の接合
606-5	土層貫土器 (カワタケ) Ⅲ	覆土内 破片	□ 口底 底高	(10.9) (5.2) (3.4)	赤褐色粒子	酸化焙	鈍い橙	縦縞成形 (左回転)。 生地はD型。	
606-6	土層貫土器 (カワタケ) Ⅲ	覆土内 破片	□ 口底 底高	(11.0) (6.3) (3.5)	細砂粒	酸化焙	鈍い橙	縦縞成形 (左回転)。 生地はD型。	2点の接合
606-7	土層貫土器 (カワタケ) Ⅲ	覆土内 ±残存	□ 口底 底高	(11.0) (6.4) (3.3)	細砂粒・赤褐 色粒子	酸化焙	褐色	縦縞成形 (左回転)。 生地はD型。シルト粗粒子混入。	
606-8	土層貫土器 (カワタケ) Ⅲ	覆土内 破片	□ 口底 底高	(11.1) (5.8) (2.7)	赤褐色粒子黒 色鉱物粒子	酸化焙	鈍い褐	縦縞成形 (左回転)。 生地はA型。	
606-9 175	土層貫土器 (カワタケ) Ⅲ	覆土内 ±残存	□ 口底 底高	(11.2) (6.6) (3.7)	黒色鉱物粒子 シルト粗粒子	酸化焙	橙	縦縞成形 (左回転)。 生地はD型。	
606-10	土層貫土器 (カワタケ) Ⅲ	覆土内 破片	□ 口底 底高	(11.8) (7.2) (3.1)	黒色鉱物粒子	酸化焙	鈍い橙	縦縞成形 (左回転)。 生地はD型。	
606-11	土層貫土器 (カワタケ) Ⅲ	覆土内 破片	□	(12.0)	黒色粒子	酸化焙	鈍い橙	縦縞成形 (左回転)。 生地はD型。	
606-12	土層貫土器 (カワタケ) Ⅲ	覆土内 破片	□ 口底 底高	(12.1) (7.0) (3.1)	黒色鉱物粒子	酸化焙	鈍い橙	縦縞成形 (左回転)。 生地はD型。	
606-13	土層貫土器 (カワタケ) Ⅲ	覆土内 破片	□ 口底 底高	(12.4) (6.0) (3.4)	細砂粒 シルト粗粒子	酸化焙	鈍い橙	縦縞成形 (左回転)。 生地はD型。	2点の接合
606-14	土層貫土器 (カワタケ) Ⅲ	覆土内 破片	□ 口底 底高	(12.8) (7.8) (3.1)	赤褐色粒子 細砂粒	酸化焙	鈍い橙	縦縞成形 (左回転)。 生地はD型。	
606-15	土層貫土器 (カワタケ) Ⅲ	覆土内 破片	□ 口底 底高	(12.8) (7.9) (3.3)	細砂粒	酸化焙	鈍い橙	縦縞成形 (左回転)。 生地はD型。	
606-16	土層貫土器 (カワタケ) Ⅲ	覆土内 ±残存	□ 口底 底高	13.1 7.2 3.7	細砂粒 黒色粒子	酸化焙	鈍い橙	縦縞成形 (左回転)。 生地はA型。シルト粗粒子。	
606-17	土層貫土器 (カワタケ) Ⅲ	覆土内 破片	□ 口底 底高	(13.3) (6.9) (3.3)	赤褐色粒子 細砂粒	酸化焙	鈍い橙	縦縞成形 (左回転)。 生地はD型。	
606-18	土層貫土器 (カワタケ) Ⅲ	覆土内 破片	□ 口底 底高	(13.6) (7.3) (4.3)	赤褐色粒子 シルト粗粒子	酸化焙	鈍い橙	縦縞成形 (左回転)。 生地はD型。	2点の接合
606-19	土層貫土器 (カワタケ) Ⅲ	覆土内 破片	□ 口底 底高	(13.7) (5.7) (3.6)	赤褐色粒子 シルト粗粒子	酸化焙	鈍い橙	縦縞成形 (左回転)。 生地はD型。	

第2節 鎌倉時代以降

606-20	土師貫土器 (カワラケ)Ⅲ	覆土内 破片	□ 口底高 (13.9) (7.8) (2.8)	細粒砂	酸化焰	鈍い橙	繊維成形(左回転)。 生地はD類。	
606-21	土師貫土器 (カワラケ)Ⅲ	覆土内 破片	□ 口底高 (13.9) (4.9) (2.0)	細粒砂	酸化焰	鈍い橙	繊維成形(左回転)。 生地はD類。	
606-22	土師貫土器 (カワラケ)Ⅲ	覆土内 破片	□ 口底高 (14.0) (7.5) (4.0)	細粒砂 シルト粗粒子	酸化焰	鈍い橙	繊維成形(左回転)。 生地はD類。	
606-23	土師貫土器 (カワラケ)Ⅲ	覆土内 破片	□ 口底高 (14.0) (7.5) (4.0)	赤褐色粒子 シルト粗粒子	酸化焰	鈍い橙	繊維成形(左回転)。 生地はD類。	
606-24	土師貫土器 (カワラケ)Ⅲ	覆土内 破片	□ 口底高 (14.0) (8.0) (4.4)	赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍い橙	繊維成形(左回転)。 生地はD類。	
606-25	土師貫土器 (カワラケ)Ⅲ	覆土内 破片	□ (14.0)	黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍い橙	繊維成形(左回転)。 生地はD類。	
606-26	土師貫土器 (カワラケ)Ⅲ	覆土内 破片	□ 口底高 (14.0) (6.4) (3.4)	赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍い橙	繊維成形(左回転)。 生地はD類。	
607-1 175	土師貫土器 (カワラケ)Ⅲ	覆土内 %残存	□ 口底高 14.6 8.4 4.8	赤褐色粒子 細砂粒	酸化焰	鈍い橙	繊維成形(左回転)。 生地はD類。	4点の接合
607-2	土師貫土器 (カワラケ)Ⅲ	覆土内 破片	□ (14.6)	赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍い橙	繊維成形(左回転)。 生地はD類。	2点の接合
607-3	土師貫土器 (カワラケ)Ⅲ	覆土内 破片	□ (14.9)	細粒砂 赤褐色粒子	酸化焰	鈍い橙	繊維成形(左回転)。 生地はD類。	
607-4	土師貫土器 (カワラケ)Ⅲ	覆土内 破片	□ 口底高 (15.5) (9.9) (2.9)	赤褐色粒子	酸化焰	鈍い橙	繊維成形(左回転)。 生地はD類。	
607-5	土師貫土器 (カワラケ)Ⅲ	覆土内 破片	□ (16.0)	赤褐色粒子 細砂粒	酸化焰	鈍い橙	繊維成形(左回転)。 生地はD類。	2点の接合
607-6	土師貫土器 (カワラケ)Ⅲ	覆土内 破片	□ 口底高 (16.1) (9.0) (4.2)	赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍い橙	繊維成形(左回転)。 生地はD類。	
607-7	土師貫土器 (カワラケ)Ⅲ	覆土内 破片	□ 口底高 (14.9) (9.3) (3.4)	細粒砂	酸化焰	鈍い橙	繊維成形(左回転)。 生地はD類。	
607-8 175	土師貫土器 (カワラケ)Ⅲ	覆土内 破片	□ 口底高 (16.0) (9.7) (4.3)	シルト粗粒子 黒色粒子	酸化焰	鈍い橙	繊維成形(左回転)。 生地はD類。	
607-9	土師貫土器 (カワラケ)Ⅲ	覆土内 破片	底 4.5	赤褐色粒子 白色粒子	酸化焰	鈍い橙	繊維成形(左回転)。 生地はD類。	
607-10	土師貫土器 (カワラケ)Ⅲ	覆土内 破片	底 (4.8)	黒色鉱物粒子 シルト粗粒子	酸化焰	鈍い橙	繊維成形(左回転)。 生地はA類。	
607-11	土師貫土器 (カワラケ)Ⅲ	覆土内 破片	底 5.0	細粒粒微量	酸化焰	鈍い橙	繊維成形(左回転)。 生地はA類。	
607-12	土師貫土器 (カワラケ)Ⅲ	覆土内 破片	底 5.2	細粒粒	酸化焰	鈍い橙	繊維成形(左回転)。 生地はD類。	
607-13	土師貫土器 (カワラケ)Ⅲ	覆土内 破片	底 (5.7)	シルト粗粒子	酸化焰	鈍い橙	繊維成形(左回転)。 生地はD類。	
607-14	土師貫土器 (カワラケ)Ⅲ	覆土内 破片	底 5.8	細粒粒 シルト粗粒子	酸化焰	鈍い橙	繊維成形(左回転)。 生地はD類。	

## F区(1号溝)

607-15	土部質土層 (カワタケ) Ⅲ	覆土内 破片	底 (6.0)	シルト粗粒子 黒色鉱物粒子	酸化焙	鈍い橙	縦縞成形(左回転)。 生地はD類。	
607-16	土部質土層 (カワタケ) Ⅲ	覆土内 破片	底 6.4	赤褐色粒子	酸化焙	鈍い橙	縦縞成形(左回転)。 生地はD類。	
607-17	土部質土層 (カワタケ) Ⅲ	覆土内 破片	底 6.6	細砂砂 シルト粗粒子	酸化焙	鈍い橙	縦縞成形(左回転)。 生地はD類。	
607-18	土部質土層 (カワタケ) Ⅲ	覆土内 破片	底 6.7	赤褐色粗粒子 砂粒	酸化焙	鈍い橙	縦縞成形(左回転)。 生地はD類。	2点の接合
607-19	土部質土層 (カワタケ) Ⅲ	覆土内 口縁部欠	底 6.7	細砂砂 赤褐色粒子	酸化焙	鈍い橙	縦縞成形(左回転)。 生地はD類。	2点の接合
607-20	土部質土層 (カワタケ) Ⅲ	覆土内 破片	底 6.7	赤褐色粒子	酸化焙	鈍い橙	縦縞成形(左回転)。 生地はD類。	2点の接合
607-21	土部質土層 (カワタケ) Ⅲ	覆土内 破片	底 (6.9)	シルト粗粒子	酸化焙	鈍い橙	縦縞成形(左回転)。 生地はA類。	
607-22	土部質土層 (カワタケ) Ⅲ	覆土内 破片	底 (7.0)	シルト粗粒子 黒色鉱物粒子	酸化焙	鈍い橙	縦縞成形(左回転)。 生地はD類。	
607-23	土部質土層 (カワタケ) Ⅲ	覆土内 破片	底 7.0	赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焙	鈍い橙	縦縞成形(左回転)。 生地はD類。	2点の接合
608-1	土部質土層 (カワタケ) Ⅲ	覆土内 破片	底 (7.0)	シルト粗粒子 黒色鉱物粒子	酸化焙	鈍い橙	縦縞成形(左回転)。 生地はD類。	
608-2	土部質土層 (カワタケ) Ⅲ	覆土内 破片	底 (7.0)	細砂砂	酸化焙	鈍い橙	縦縞成形(左回転)。 生地はD類。	
608-3	土部質土層 (カワタケ) Ⅲ	覆土内 破片	底 7.2	細砂砂 黒色鉱物粒子	酸化焙	鈍い橙	縦縞成形(左回転)。 生地はD類。	2点の接合
608-4	土部質土層 (カワタケ) Ⅲ	覆土内 破片	底 (7.6)	赤色鉱物粒子 細砂砂	酸化焙	鈍い橙	縦縞成形(左回転)。 生地はD類。	
608-5	土部質土層 (カワタケ) Ⅲ	覆土内 口縁部欠	底 8.1	赤色鉱物粒子 砂粒	酸化焙	鈍い橙	縦縞成形(左回転)。 生地はD類。	
608-6	土部質土層 (カワタケ) Ⅲ	覆土内 破片	底 (9.6)	シルト粗粒子 細砂砂	酸化焙	鈍い橙	縦縞成形(左回転)。 生地はD類。	
608-7	土部質土層 (カワタケ) Ⅲ	覆土内 破片	底 (7.8)	赤色鉱物粒子 シルト粗粒子	酸化焙	鈍い橙	縦縞成形(左回転)。 生地はD類。	
608-8	軟質陶器 内 耳 鍋	覆土内 破片	口 (25.0)	胎土はC類。	還元焙	灰	扭作り後縦縞整形(左回転)。 瓦胎土のIV類に対比される。	
608-9	軟質陶器 内 耳 鍋	覆土内 破片	口 (27.9)	胎土はB類。	中性焙	黒褐	扭作り後縦縞整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のIV類に対比される。	
608-10	軟質陶器 内 耳 鍋	覆土内 破片	口 (28.0)	胎土はB類。	必性焙	褐灰	扭作り後縦縞整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のIV類に対比される。	
608-11	軟質陶器 内 耳 鍋	覆土内 破片	口 (29.9)	胎土はB類。	中性焙	黄灰	扭作り後縦縞整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のIV類に対比される。	
608-12	軟質陶器 盤形火鉢	覆土内 破片	口 (32.9)	胎土はA類。	還元焙	灰褐	扭作り後縦縞整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のV類に対比される。	二次焼成あり。

第2節 鎌倉時代以降

608-13	軟質陶器 内耳 鉢	覆土内 破片	—	胎土はB類。	中性焰	褐灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のIV類に対比される。	
608-14	軟質陶器 搦 鉢	覆土内 破片	□ (29.9)	胎土はD類。	酸化焰	明褐色	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨滅。 瓦胎土のV類に対比される。	
608-15	軟質陶器 搦 鉢	覆土内 破片	□ (31.0)	胎土はE類。	酸化焰	鈍い褐	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨滅。 瓦胎土のI類aに対比される。	
608-16	軟質陶器 搦 鉢	覆土内 破片	□ (33.8)	胎土はC類。	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨滅。 瓦胎土のIV類に対比される。	
608-17	軟質陶器 有孔 鉢	覆土内 破片	□ (36.6)	胎土はE類。	中性焰	灰褐	紐作り後轆轤整形(左回転)。口縁部内面に菱 形文を押捺する。瓦胎土のI類aに対比され る。	
609-1	軟質陶器 搦 鉢	覆土内 破片	□ (39.8)	胎土はG類。	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のI類aに対比される。	
609-2	軟質陶器 搦 鉢	覆土内 破片	—	胎土はF類。	還元焰	褐灰	内面は磨滅。 瓦胎土のIV類に対比される。	
609-3 175	軟質陶器 搦 鉢	覆土内 破片	□ (16.1)	胎土はL類。	酸化焰	橙	内面は磨滅。 瓦胎土のI類aに対比される。	二次焼成あ り。
609-4	軟質陶器 搦 鉢	覆土内 破片	□ (27.0)	胎土はG類。	酸化焰	鈍い褐	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のI類aに対比される。	
609-5	軟質陶器 搦 鉢	覆土内 破片	□ (32.7)	胎土はE類。	酸化焰	明褐色	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のI類aに対比される。	
609-6 175	軟質陶器 大 鉢	覆土内 破片	□ (29.0)	胎土はJ類。	酸化焰	赤	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨滅。瓦 胎土のII類に対比される。口縁部外面露文有。	二次焼成あ り。
609-7 175	軟質陶器 大 鉢	覆土内 破片	—	胎土はJ類。	中性焰	鈍黄橙	紐作り後轆轤整形(左回転)。体部外面に菱 形文を押捺する。瓦胎土のII類に対比される。	
609-8 175	軟質陶器 香 炉	覆土内 破片	—	胎土はI類。	還元焰	黒褐	紐作り後轆轤整形(左回転)。体部外面に円管 刺突あり。瓦胎土のII類に対比される。	
609-9	軟質陶器 不 明	覆土内 破片	—	砂粒多量	酸化焰	褐	砂粒(河砂か)を多量に混じえる。 内面は磨滅。	
609-10	軟質陶器 搦 鉢	覆土内 破片	底 (9.8)	胎土はK類。	中性焰	褐灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨滅。 瓦胎土のI類bに対比される。	
609-11	軟質陶器 搦 鉢	覆土内 破片	底 (10.0)	胎土はH類。	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨滅。 瓦胎土のI類bに対比される。	
609-12 175	軟質陶器 盤 形 鉢	覆土内 破片	底 (10.0)	胎土はE類。	酸化焰	鈍い橙	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨滅。 瓦胎土のI類aに対比される。	
609-13	軟質陶器 搦 鉢	覆土内 破片	底 (10.0)	胎土はE類。	酸化焰	灰褐	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨滅。 瓦胎土のI類aに対比される。	2点の接合
609-14 175	軟質陶器 搦 鉢	覆土内 破片	底 (10.0)	胎土はE類。	中性焰	灰褐	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨滅。 瓦胎土のI類aに対比される。	
609-15	軟質陶器 搦 鉢	覆土内 破片	底 (12.0)	胎土はF類。	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨滅。 瓦胎土のIV類に対比される。	
609-16	軟質陶器 搦 鉢	覆土内 破片	底 (13.0)	胎土はK類。	還元焰	黄灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨滅。 瓦胎土のI類bに対比される。	



609-17	軟質陶器 襷	覆土内 破片	底 (13.0)	胎土はG類。	中性焼	褐灰	紐作り後輪縁整形(左回転)。 瓦胎土のI類aに対比される。	
609-18	軟質陶器 襷	覆土内 破片	底 (15.0)	胎土はC類。	還元焼	灰白	紐作り後輪縁整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のIV類に対比される。	
610-2 175	瓦 瓦製円盤	覆土内 完形	長径 3.0 短径 2.7	黒色粒子 白色粒子	還元焼	灰	古代瓦。女瓦。調印き。	秋田系
610-3	軟質陶器 土製円盤	覆土内 完形	長径 4.8 短径 4.2	胎土はC類。	還元焼	褐灰	瓦胎土のIV類に対比される。 襷の体部片を使用。	
610-4 175	軟質陶器 土製円盤	覆土内 完形	長径 4.5 短径 4.4	胎土はC類。	還元焼	褐灰	瓦胎土のIV類に対比される。 襷の体部片を使用。	
610-5 175	軟質陶器 土製円盤	覆土内 完形	長径 5.3 短径 4.4	胎土はA類。	中性焼	灰褐	瓦胎土のV類に対比される。 鉢の体部片を使用。	
610-6 175	軟質陶器 土製円盤	覆土内 欠残存	—	胎土はG類。	中性焼	黒褐	瓦胎土のI類aに対比される。 襷の体部片を使用。	
610-7	軟質陶器 土製円盤	覆土内 一部欠損	長径 6.0 短径 (4.5)	胎土はF類。	還元焼	褐灰	瓦胎土のIV類に対比される。 襷の底部片を使用。	
610-8 175	瓦 瓦製円盤	覆土内 完形	長径 6.8 短径 6.2	白色粒子 黒色粒子	還元焼	褐灰	古代瓦。女瓦片を転用。	藤岡系
611-16 176	石製品 硯石	覆土内 一部欠損	重 150	流紋岩 (破片?)	—	—	ヒケ傷が多量にある。断面山形状。	
611-17 176	石製品 硯石	覆土内 欠残存	重 100	流紋岩 (破片?)	—	—	ヒケ傷が多量にある。断面山形状。	
611-18	石製品 襷	覆土内 破片	口 (34.1)	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	外面に折り痕が著しい。口唇部直下は整形あり。	
611-19	石製品 石白	覆土内 破片	底 (7.8) 重 280	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	外面は磨き整形。	
611-20 176	石製品 茶白	覆土内 破片	底 (19.8) 重 1400	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	挽木の面は菱形を呈する。目は八分割。 風化は著しい。	
611-21	石製品 石白	覆土内 破片	重 1500	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	粉挽白。上臼の挽木穴部分の破片。	
611-22	石製品 石白	覆土内 破片	重 620	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	粉挽白。ふくみは少ない。目は六分割。	
612-1	石製品 石白	覆土内 破片	口 (39.3) 重 90	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	内外面とも棒状工具による整形。外面は粗い 磨き整形。内面はやや丁寧な磨き整形。	茶白の受け 皿か。
612-2	石製品 石白	覆土内 破片	口 (31.7) 重 100	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	内外面とも棒状工具による整形。外面は粗い 磨き整形。内面はやや丁寧な磨き整形。	茶白の受け 皿か。
612-3	石製品 石白	覆土内 破片	重 740	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	芯棒孔の部分を拡大し、凹石としている。 粉挽白の転用か。	
612-4	石造品 宝篋印塔	覆土内 破片	重 440	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	棒状工具による叩き整形。 拾遺間は平盤で成形している。	
612-5	石造品 燈籠?	覆土内 破片	重 390	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	内面を削放きの痕跡あり。宝篋印塔身の転用 か。整形は4と同じ。	

第2節 鎌倉時代以降

612-6 176	石造品 宝篋印塔	覆土内 破片	重 1220	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	側面は磨き整形。軒部に蓮字状の文様を加飾する。	調音突起
612-7 176	石造品 五輪塔	覆土内 完存	重 4450	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	梵字「カ」「キヤ」を施す。(細い平のみ) 外面は磨き整形。	空風輪
612-8 177	石造品 五輪塔	覆土内 完存	重 5955	角閃石安山岩	—	—	外面は磨き整形。	水輪
613-1 177	石造品 板碑	覆土内 5/6残存	残存長49.6 巾 20.0	緑色片岩	—	—	種子キリーク及び蓮座を施す。左側部に転用の痕跡が認められる。	2点の接合
613-2	石造品 板碑	覆土内 破片	残存長15.6 残存巾 6.4	緑色片岩	—	—		
613-3	石造品 板碑	覆土内 破片	残存長19.6 残存巾12.8	緑色片岩	—	—		
614-1 177	石造品 板碑	覆土内 破片	残存長32.8 巾 19.2	緑色片岩	—	—	正面側は基礎部・背面に砥痕を残す。 正面は磨き整形。	
614-2	石造品 板碑	覆土内 破片	残存長19.2 残存巾10.8	緑色片岩	—	—	基礎部の破片。一部に折り痕がある。	
614-3	石造品 板碑	覆土内 破片	残存長14.0 残存巾11.6	緑色片岩	—	—	基礎部の破片。一部に折り痕がある。	
614-4 177	石製品 孔石	覆土内 破片	重 590 孔径 7.6	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	凹面の内面は良く磨かれている。	
614-5 177	石製品 孔石	覆土内 破片	重 1500 孔径 7.5	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	凹面の内面は良く磨かれている。	
614-6 203	銅銭 祥符元宝	覆土内 一部欠損	—	—	—	—	北宋銭。初鑄年は1008年。	
614-7 203	銅銭 不明	覆土内 5/6残存	—	—	—	—		

F区第2号溝状遺構

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
616-1 177	土師質土器 (カワラケ)皿	覆土内 5/6残存	□底高 7.1 4.7 2.1	黒色粒子微量	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	2点の接合
616-2	土師質土器 (カワラケ)皿	覆土内 破片	□底高 (7.1) (5.2) (1.9)	橙褐色粒子混入	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はD類。	
616-3	土師質土器 (カワラケ)皿	覆土内 破片	□底高 (8.0) (5.6) (1.9)	橙褐色粒子混入	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はD類。	
616-4	土師質土器 (カワラケ)皿	覆土内 破片	□底高 (9.1) (5.8) (2.5)	黒色鉱物粒子若干	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はD類。	
616-5 177	土師質土器 (カワラケ)皿	覆土内 5/6残存	□底高 (11.3) (6.6) (3.6)	黒色鉱物粒子混入 シルト粗粒子	酸化焰	稀	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	4点の接合
616-6 177	土師質土器 (カワラケ)皿	覆土内 底部欠損	□底高 (11.7) (5.9) (3.7)	橙褐色粒子 黒色鉱物粒子混入	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	8点の接合

616-7	土師貫土器 (オワラケ)皿	覆土内 破片	口 底高 (12.3) (7.3) (3.3)	黒色鉱物粒子 混入	酸化焙	鈍い橙	輪縁成形(左回転)。 生地はD類。	
616-8	土師貫土器 (オワラケ)皿	覆土内 破片	口 (13.0)	半透明鉱物粒 子混入	酸化焙	鈍い橙	輪縁成形(左回転)。 生地はD類。	
616-9 177	土師貫土器 (オワラケ)皿	覆土内 5%残存	口底高 14.3 7.0 4.0	シルト粗粒子 黒色鉱物粒子 若干	酸化焙	鈍い橙	輪縁成形(左回転)。 生地はD類。	8点の接合
616-10	土師貫土器 (オワラケ)皿	覆土内 破片	底 7.6	橙褐色粒子 シルト粗粒子 若干	酸化焙	鈍い橙	輪縁成形(左回転)。 生地はD類。	3点の接合
616-11	土師貫土器 (オワラケ)皿	覆土内 5%残存	口底高 14.1 7.7 4.5	黒色鉱物粒子 シルト粗粒子 混入	酸化焙	鈍い橙	輪縁成形(左回転)。 生地はD類。	8点の接合
616-12	土師貫土器 (オワラケ)皿	覆土内 破片	口 (15.2)	橙褐色粒子混 入	酸化焙	鈍い橙	輪縁成形(左回転)。 生地はA類。	2点の接合
616-13	土師貫土器 (オワラケ)皿	覆土内 破片	底 (8.4)	橙褐色粒子混 入・砂粒	酸化焙	鈍い橙	輪縁成形(左回転)。 生地はD類。	
616-14	軟質陶器 内耳鉢	覆土内 破片	口 (32.1)	胎土はG類。	中性焙	灰	紐作り後輪縁整形(左回転)。 瓦胎土のI類aに対比される。	
616-15	軟質陶器 内耳鉢	覆土内 破片	口 (33.0)	胎土はC類。	還元焙	黄灰	紐作り後輪縁整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のIV類に対比される。	
617-1	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	口 (35.0)	胎土はB類。	中性焙	灰	紐作り後輪縁整形(左回転)。 瓦胎土のIV類に対比される。	
617-2	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	口 (30.8)	胎土はH類。	還元焙	灰	紐作り後輪縁整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類bに対比される。	
617-3	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	口 (33.0)	胎土はC類。	還元焙	灰	紐作り後輪縁整形(左回転)。 瓦胎土のIV類に対比される。	
617-4	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	口 (35.0)	胎土はE類。	酸化焙	灰褐	紐作り後輪縁整形(左回転)。 瓦胎土のI類aに対比される。	二次焼成あり。
617-5	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	口 (36.6)	胎土はC類。	中性焙	灰	紐作り後輪縁整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のIV類に対比される。	
617-6	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	口 (37.2)	胎土はC類。	還元焙	灰白	紐作り後輪縁整形(左回転)。 瓦胎土のIV類に対比される。	
617-7	軟質陶器 有孔鉢	覆土内 破片	口 (39.0)	胎土はE類。	酸化焙	鈍い橙	紐作り後輪縁整形(左回転)。 瓦胎土のI類aに対比される。	
617-8	軟質陶器 鉢	覆土内 破片		胎土はE類。	還元焙	黄灰	紐作り後輪縁整形(左回転)。 瓦胎土のI類aに対比される。	
617-9	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	底 (15.0)	胎土はF類。	還元焙	灰	紐作り後輪縁整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のIV類に対比される。	
617-15	石製品 砥石	覆土内 5%残存	重 110	流紋岩 (砥沢?)	—	—	研ぎ減が著しい。ヒケ傷が多い。	手持砥
617-16	石製品 砥石	覆土内 5%残存	重 220	流紋岩 (砥沢?)	—	—	四面を使用している。研ぎ減が著しく、ヒケ 傷が多い。砥面は全体に丸みが強い。	手持砥
617-17 177	石造品 宝篋印塔	覆土内 破片	重 980	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	612-6と同様。 石質が異なり別個体と思われる。	隅角突起

第2節 鎌倉時代以降

617-18	石造品 不詳	覆土内 破片	重 480	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	石造品の破片と思われる。二次加工の研り痕が多い。	
617-19	石造品 板碑	覆土内 破片	残存長14.0 残存巾12.8	緑色片岩	—	—	山形部の破片。正面は磨き整形。背面は未調整。	
618-1	石造品 板碑	覆土内 破片	残存長12.8 残存巾14.8	緑色片岩	—	—		
618-2	石造品 板碑	覆土内 破片	残存長30.4 残存巾 6.8	緑色片岩	—	—	基部周辺の破片か？	
618-3 178	石造品 五輪塔	覆土内 破片	重 9655	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	外面は平のみの調整後、磨き整形。	地輪？

F区第3号溝状遺構

発掘番号 図添番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
620-1 177	土製瓦土器 (カワラタ)	覆土内 完形	口 底 7.0 高 4.8 1.9	赤褐色粒子多量・黒色鉱物 粒子混入	酸化焰	鈍い橙	縦縞成形(左回転)。 生地はA類。	
620-2 177	土製瓦土器 (カワラタ)	覆土内 ほぼ完形	口 底 7.1 4.5 1.8	シルト粗粒子 多量・橙褐色粒 子混入	酸化焰	鈍い橙	縦縞成形(左回転)。 生地はD類。	5点の接合
620-3 177	土製瓦土器 (カワラタ)	覆土内 破片	口 底 (7.0) (4.5) (1.7)	橙褐色粒子 砂粒	酸化焰	鈍い橙	縦縞成形(左回転)。 生地はA類。	2点の接合
620-4 178	土製瓦土器 (カワラタ)	覆土内 完形	口 底 7.4 4.9 2.1	橙褐色粒子 黒色鉱物粒子 混入	酸化焰	鈍い褐	縦縞成形(左回転)。 生地はA類。	
620-5 178	土製瓦土器 (カワラタ)	覆土内 3/4残存	口 底 7.8 5.3 2.2	砂粒多量	酸化焰	鈍い橙	縦縞成形(左回転)。 生地はD類。	
620-6	土製瓦土器 (カワラタ)	覆土内 破片	口 底 (15.0) (7.6) (4.0)	白色粒子 砂粒混入	酸化焰	鈍い橙	縦縞成形(左回転)。 生地はA類。	2点の接合
620-7 178	土製瓦土器 (カワラタ)	覆土内 破片	口 底 (10.1) (7.8) (3.7)	微粒砂 雲母鉱物多量	酸化焰	鈍い褐	縦縞成形(左回転)。 生地はA類。	
620-8	土製瓦土器 (カワラタ)	覆土内 破片	底 7.0	黒色鉱物粒子 若干	酸化焰	鈍い橙	縦縞成形(左回転)。 生地はD類。	
620-9	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	口 (31.2)	胎土はE類。	還元焰	赤黒	紐作り後縦縞整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類aに対比される。	
620-10 179	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	口 底 (27.0) (16.0) (10.3)	胎土はB類。	中性焰	赤黒	紐作り後縦縞整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のIV類に対比される。	24点の接合
620-11 178	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	口 (27.9)	胎土はB類。	中性焰	赤黒	紐作り後縦縞整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のIV類に対比される。	9点の接合
620-12	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	口 (27.9)	胎土はC類。	還元焰	灰黄褐	紐作り後縦縞整形(左回転)。 瓦胎土のIV類に対比される。	
620-13	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	口 (28.8)	胎土はH類。	還元焰	黄灰	紐作り後縦縞整形(左回転)。 瓦胎土のI類bに対比される。	
620-14	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	口 (32.0)	胎土はB類。	中性焰	灰褐	紐作り後縦縞整形(左回転)。 瓦胎土のIV類に対比される。	

## F区(3号溝)

620-15 178	軟質陶器 内耳 鉢	覆土内 破片	口 (33.8)	胎土はB類。	酸化焰	黒	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のIV類に対比される。	
620-16	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	底 (13.4)	胎土はF類。	還元焰	灰褐	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のIV類に対比される。	2点の接合
620-17	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	口 (26.0)	胎土はB類。	酸化焰	鈍い褐	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のIV類に対比される。	
620-18 178	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	口 (27.9)	胎土はC類。	還元焰	褐灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のIV類に対比される。	
620-19	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	口 (28.0)	胎土はE類。	還元焰	褐灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のI類aに対比される。	
620-20 178	軟質陶器 播 鉢	覆土内 破片	口底高 (34.2) (11.4) (12.4)	胎土はJ類。	還元焰	黄灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のII類に対比される。	2点の接合
621-1 178	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	口 (29.7)	胎土はE類。	還元焰	褐灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類aに対比される。	
621-2	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	口 (30.9)	胎土はE類。	中性焰	鈍い橙	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類aに対比される。	
621-3	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	口 (32.6)	胎土はE類。	酸化焰	鈍い橙	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類aに対比される。	
621-4	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	口 (33.1)	胎土はC類。	還元焰	褐灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のIV類に対比される。	
621-5 178	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	口 (33.3)	胎土はG類。	酸化焰	褐	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類aに対比される。	
621-6	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	口 (33.9)	胎土はE類。	酸化焰	浅黄橙	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のI類aに対比される。	
621-7 178	軟質陶器 盤形火鉢	覆土内 破片	口 (43.8)	胎土はE類。	中性焰	鈍い褐	紐作り後轆轤整形(左回転)。口縁部内面に菱 形文を押捺する。瓦胎土のI類aに対比され る。	
621-8	軟質陶器 播 鉢	覆土内 破片	—	胎土はE類。	還元焰	灰褐	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類aに対比される。	
621-9	軟質陶器 播 鉢	覆土内 破片	—	胎土はC類。	還元焰	黄灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のIV類に対比される。	
621-10	軟質陶器 播 鉢	覆土内 破片	—	胎土はC類。	還元焰	灰褐	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のIV類に対比される。	
621-11	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	底 (7.2)	胎土はE類。	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類aに対比される。	
621-12	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	底 (10.0)	胎土はE類。	還元焰	鈍い褐	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類aに対比される。	
621-13	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	底 (11.2)	胎土はD類。	還元焰	褐灰と 鈍黄橙	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のV類に対比される。	
621-14	軟質陶器 火 鉢	覆土内 破片	—	胎土はJ類。	還元焰	赤灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のII類に対比される。	
621-15	軟質陶器 播 鉢	覆土内 破片	底 (15.2)	胎土はC類。	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のIV類に対比される。	

第2節 鎌倉時代以降

622-1 178	軟質陶器 火鉢	覆土内 底部	—	胎土はI類。	還元焰	黒褐	瓦胎土の目類に対比される。	
622-10	石製品 磁石	覆土内 破片	重 23.9	軽石	—	—	材質が粗く、金属以外で手持磁として用いられたか？	手持磁？
622-11	石製品 磁石	覆土内 破片	重 56.3	軽石	—	—	10に同じ。	手持磁？
622-12 179	石造品 板碑	覆土内 破片	残存長19.6 残存巾10.8	緑色片岩	—	—	継ぎ目は三尊。転用の痕跡がある。正面側は磨き整形。	
622-13	石造品 板碑	覆土内 破片	残存長16.0 残存巾10.8	緑色片岩	—	—	石の目の節理面での剥片の可能性もある。	
622-14	石造品 板碑	覆土内 破片	残存長11.6 残存巾 9.2	緑色片岩	—	—	石の目の節理面での剥片の可能性もある。	

F区第6号溝状遺構

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
624-1	土師質土器 (カワラク) 皿	覆土内 破片	口 径高 (6.9) (5.0) (1.9)	黒色鉱物粒子 若干	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形 (左回転)。 生地はD類。	
624-2	土師質土器 (カワラク) 皿	覆土内 破片	口 径高 (7.5) (6.0) (1.9)	砂粒多量	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形 (左回転)。 生地はD類。	
624-3	土師質土器 (カワラク) 皿	覆土内 破片	口 径高 (8.0) (6.0) (1.7)	砂粒・シルト 粗粒子混入	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形 (左回転)。 生地はD類。	
624-4	土師質土器 (カワラク) 皿	覆土内 破片	口 径高 (7.8) (6.0) (1.5)	砂粒若干	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形 (左回転)。 生地はA類。	
624-5	土師質土器 (カワラク) 皿	覆土内 破片	口 径高 (9.0) (6.0) (1.8)	白色微粒子混 入	酸化焰	鈍い褐	轆轤成形 (左回転)。 生地はA類。	
624-6	土師質土器 (カワラク) 皿	覆土内 破片	口 径高 (11.4) (5.0) (3.4)	橙褐色粒子若干 白色粒子若干	酸化焰	鈍い褐	轆轤成形 (左回転)。 生地はA類。	2点の接合
624-7	土師質土器 (カワラク) 皿	覆土内 破片	径 (5.8)	シルト粗粒子 混入	酸化焰	鈍い褐	轆轤成形 (左回転)。 生地はA類。	
624-8	土師質土器 (カワラク) 皿	覆土内 破片	径 7.9	赤褐色粒子若 干・砂粒混入	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形 (左回転)。 生地はD類。	4点の接合
624-9	土師質土器 (カワラク) 皿	覆土内 破片	径 7.0	微粒砂多量	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形 (左回転)。 生地はD類。	
624-10	土師質土器 (カワラク) 皿	覆土内 破片	径 (7.8)	砂粒若干	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形 (左回転)。生地はA類。焼成後、 穿孔し底部の立ち上がり部を研いでいる。	
624-11	軟質陶器 内耳 鍋	覆土内 破片	口 (35.0)	胎土はG類。	中性焰	褐灰	紐作り後轆轤整形 (左回転)。耳部の取り付け 痕がある。瓦胎土のI類Aに対比される。	
624-12	軟質陶器 内耳 鍋	覆土内 破片	口 (32.0)	胎土はA類。	酸化焰	明褐色	紐作り後轆轤整形 (左回転)。 瓦胎土のV類に対比される。	
624-13	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	口 (34.0)	胎土はE類。	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (左回転)。 瓦胎土のI類Aに対比される。	

624-14	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	口 (36.0)	胎土はE類。	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類※に対比される。	
624-15	軟質陶器 火鉢	覆土内 破片	口 (32.7)	胎土はA類。	中性焰	褐灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。口縁部外面に差 形文を押捺する。瓦胎土のV類※に対比される。	
624-16 179	軟質陶器 火鉢	覆土内 破片	口 (28.3)	胎土はE類。	還元焰	灰	瓦胎土のI類※に対比される。	
624-17 179	軟質陶器 播鉢	覆土内 破片	底 (10.0)	胎土はG類。	中性焰	褐灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類※に対比される。	
624-18	軟質陶器 播鉢	覆土内 破片	底 (13.0)	胎土はJ類。	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のII類※に対比される。	

## F区第9号溝状遺構

溝番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
626-1 179	土師貫土器 (おワラケ) 皿	覆土内 口縁部欠	口 底 高 6.8 (3.9) 2.1	砂粒混入	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	
626-2	土師貫土器 (おワラケ) 皿	覆土内 片残存	口 底 高 (7.8) (5.8) (2.1)	砂粒若干	酸化焰	褐	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	3点の接合
626-3	土師貫土器 (おワラケ) 皿	覆土内 破片	口 底 高 (10.0) (6.0) (3.0)	赤褐色粒子 黒色紅物粒子	酸化焰	褐	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	
626-4	土師貫土器 (おワラケ) 皿	覆土内 破片	口 (13.1)	砂粒若干	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	
626-5	土師貫土器 (おワラケ) 皿	覆土内 破片	口 底 高 (14.7) (7.9) (3.5)	赤褐色粒子若干 シルト粗粒子混入	酸化焰	褐	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	
626-6	土師貫土器 (おワラケ) 皿	覆土内 破片	口 底 高 (16.0) (8.8) (3.8)	砂粒多量	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	
626-7	土師貫土器 (おワラケ) 皿	覆土内 破片	底 6.2	シルト粗粒子 多量・砂粒	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	
626-8	土師貫土器 (おワラケ) 皿	覆土内 片残存	底 7.4	赤褐色粒子 シルト粗粒子 黒色紅物粒子	酸化焰	褐	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	2点の接合
626-9	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	口 (28.8)	胎土はC類。	還元焰	黄灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のIV類※に対比される。	
626-10	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	口 (31.0)	胎土はC類。	還元焰	暗黄灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のIV類※に対比される。	2点の接合
626-11	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	底 (17.0)	胎土はB類。	中性焰	鈍黄橙	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のIV類※に対比される。	
626-12 179	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	胎土はII類。	還元焰	灰	凹面に横骨痕・隠れ砂痕が認められる。扉位 の跡で整形。凸面寛縁で整形。	一枚作り。
626-13 179	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.6	胎土はII類。	還元焰	灰	12に同じ。凸面に粘土板割ぎ取り痕あり。	一枚作り。

## 第2節 鎌倉時代以降

## F区第48号址

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
629-1	土質土器 (カワラケ)皿	覆土内 破片	口 底 高 (7.1) (4.0) 1.8	赤褐色粒子若干	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	
629-2	土質土器 (カワラケ)皿	覆土内 破片	口 (10.0)	赤褐色粒子若干・砂粒若干	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はD類。	
629-3	土質土器 (カワラケ)皿	覆土内 破片	口 (12.2)	シルト粗粒子若干	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はD類。	
629-4	土質土器 (カワラケ)皿	覆土内 破片	口 (14.0)	シルト粗粒子 砂粒若干	酸化焰	鈍い褐	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	
629-5	土質土器 (カワラケ)皿	覆土内 破片	口 (15.0)	砂粒混入	酸化焰	鈍い褐	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	
629-6 179	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	口 (30.0)	胎土はB類。	中性焰	黒	紐作り後轆轤成形(左回転)。 瓦胎土のIV類に対比される。	
629-7	軟質陶器 火鉢	覆土内 破片	口 (17.0)	胎土はE類。	中性焰	鈍い黄	瓦胎土のI類αに対比される。口縁部外面に 円筒状突起あり。巴文の印花文あり。	
629-8 179	石製品 石臼	覆土内 片残存	口 底 高 30.0 28.4 11.2	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	下白。ふくみは殆ど認められない。目は八分 割。	重 7600
629-9	石造品 板碑	覆土内 破片	残存長20.0 残存巾10.0	緑色片岩	—	—	外面磨き整形。転用されている。	
629-10 179	鉄製品 釘	覆土内 頭部片	—	—	—	—	角釘。鍛えは普通。	
629-11 179	鉄製品 釘	覆土内 頭部片	—	—	—	—	角釘。鍛えは普通。	
629-12 179	鉄製品 釘	覆土内 破片	—	—	—	—	角釘。鍛えは普通。	

## F区第51号址

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
630-1 180	軟質陶器 搦鉢	覆土内 破片	口 (24.2)	胎土はG類。	中性焰	灰褐	紐作り後轆轤成形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類αに対比される。	

## F区第54号址

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
632-1	土質土器 (カワラケ)皿	覆土内 破片	口 底 高 (19.4) (4.9) (2.6)	砂粒若干	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はD類。	
632-2	土質土器 (カワラケ)皿	覆土内 破片	口 底 高 (34.0) (7.9) (4.1)	橙褐色粒子 砂粒若干	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はD類。	



## F区(48・51・54号址、2号井戸跡)

632-3	土師貫土器 〔オウラケ〕 皿	覆土内 破片	口 (12.0)	シルト粗粒子 砂粒若干	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はD類。	2点の接合
632-4	土師貫土器 〔オウラケ〕 皿	覆土内 破片	底 5.3	赤褐色粒子 シルト粗粒子	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はD類。	2点の接合
632-5	土師貫土器 〔オウラケ〕 皿	覆土内 破片	底 4.6	赤褐色粒子微量 シルト粗粒子	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はD類。	
632-6	土師貫土器 〔オウラケ〕 皿	覆土内 破片	底 (5.2)	赤褐色粒子微量 シルト粗粒子	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はD類。	2点の接合
632-8 203	銅 銭 祥符元宝	覆土内 完存	—	—	—	—	北宋銭。初鑄年は1008年。	
632-9 203	銅 銭 治平元宝	覆土内 完存	—	—	—	—	北宋銭。初鑄年は1064年。	
632-10 203	銅 銭 元豊通宝	覆土内 一部欠損	—	—	—	—	北宋銭。初鑄年は1078年。	
632-11 179	鉄 製 品 不 詳	覆土内 断部片	—	—	—	—	先端部は環状を呈する。作りは1本の薄い棒 状の物を熱圧着させている。	
632-12 279	鉄 製 品 不 詳	覆土内 破片	—	—	—	—	11の部分品か?	

## F区第2号井戸跡

博覧番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度量(cm) 量目(g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考
637-1	土師貫土器 〔オウラケ〕 皿	埋土内 一部欠損	口 8.2 底高 5.4 2.2	赤褐色粒子 砂粒多量	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	
637-2 180	土師貫土器 〔オウラケ〕 皿	埋土内 残残存	口 12.9 底高 7.3 3.2	白色黏物粒子 白色粒子混入	酸化焰	褐	轆轤成形(左回転)。 生地はB類。	7点の接合
637-3	土師貫土器 〔オウラケ〕 皿	埋土内 破片	底 (7.6)	黒色黏物粒子 若干	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(左回転)。 生地はD類。	
638-1	軟質陶器 内 耳 鍋	埋土内 破片	口 (30.6)	胎土はB類。	中性焰	灰褐	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のIV類に対比される。	
638-2	軟質陶器 内 耳 鍋	埋土内 破片	口 (30.2)	胎土はB類。	中性焰	灰褐	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のIV類に対比される。	
638-3	軟質陶器 内 耳 鍋	埋土内 破片	口 (36.6)	胎土はG類。	中性焰	鈍赤褐	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のI類aに対比される。	
638-4	軟質陶器 内 耳 鍋	埋土内 破片	口 (39.6)	胎土はE類。	酸化焰	褐	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨滅。 瓦胎土のI類aに対比される。	
638-5	軟質陶器 内 耳 鍋	埋土内 破片	—	胎土はC類。	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のIV類に対比される。	
638-6	軟質陶器 内 耳 鍋	埋土内 破片	—	胎土はC類。	還元焰 気味	灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のIV類に対比される。	
638-7	軟質陶器 内 耳 鍋	埋土内 破片	—	胎土はB類。	中性焰	黒灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のIV類に対比される。	13と同一

## 第2節 鎌倉時代以降

638-8	軟質陶器 内耳 罎	埋土内 破片	底 (20.0)	胎土はB類。	中性焰	鈍い褐	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のIV類に対比される。	
638-9	軟質陶器 内耳 罎	埋土内 破片	底 (20.0)	胎土はC類。	還元焰	灰褐	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のIV類に対比される。	
638-10 180	軟質陶器 鉢	埋土内 破片	口 (36.0)	胎土はE類。	酸化焰	鈍い褐	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類aに対比される。	3点の接合
638-11	軟質陶器 鉢	埋土内 破片	口 (37.6)	胎土はG類。	中性焰	黒褐	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のI類aに対比される。	
638-12	軟質陶器 鉢	埋土内 破片	口 (37.6)	胎土はC類。	還元焰	灰褐	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のIV類に対比される。	
638-13	軟質陶器 罎 鉢	埋土内 破片	口 (28.0)	胎土はE類。	還元焰	鈍赤褐	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のI類aに対比される。二次焼成あり。	3点の接合 7と同一
638-14	軟質陶器 鉢	埋土内 破片	口 (19.0)	胎土はF類。	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。外面横位の研磨。 内面指撫で。瓦胎土のIV類に対比される。	
638-15	軟質陶器 火 鉢	埋土内 破片	口 (39.8)	胎土はE類。	中性焰	褐	紐作り後轆轤整形(左回転)。瓦胎土のI類aに対比される梅花文の印花文あり。	近世か?
638-16	軟質陶器 罎 鉢	埋土内 破片	—	胎土はE類。	中性焰	鈍い褐	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のI類aに対比される。	
638-17	軟質陶器 罎 鉢	埋土内 破片	—	胎土はE類。	還元焰	褐灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類aに対比される。	
638-18	軟質陶器 罎 鉢	埋土内 破片	—	胎土はE類。	酸化焰	鈍い褐	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類aに対比される。	
638-19	軟質陶器 罎 鉢	埋土内 破片	—	胎土はG類。	中性焰	褐	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のI類aに対比される。	
639-3 180	石 製 品 磁 石 完存	埋土内	長径 12.4	流紋岩 (磁沢?)	—	—	研ぎ減が著しい。縦位断面が山形状を呈する。 底面は丸みを帯びる。	手持磁
639-4 180	石 製 品 石 臼 写残存	埋土内 写残存	口 27.2 底 27.2 高 11.2	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	粉艶白。上白。ふくみは少ない。目は八分割。	重 5036
639-5	石 製 品 石 臼 破片	埋土内 破片	口 (33.2) 重 60	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	茶白の受け皿部。粗い碯打成形後、磨き整形 している。	
639-6	石 製 品 不 詳 破片	埋土内 破片	重 380	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	石造品の一部と思われる。研り痕が多い。	
639-7	石 製 品 不 詳 破片	埋土内 破片	重 130	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	石造品の一部と思われる。研り痕が多い。	
639-8 180	石 造 品 板 碑 破片	埋土内 破片	残存長12.0 残存巾16.4	緑色片岩	—	—	山形部周辺の破片。正面側磨き整形。	
640-1 180	石 造 品 板 碑 写残存	埋土内 写残存	残存長44.4 巾 21.6	緑色片岩	—	—	種子は「ネリク」一尊。正面側磨き整形。 背面は研り状態のまま。	
640-2	石 造 品 板 碑 破片	埋土内 破片	残存長22.8 残存巾15.2	緑色片岩	—	—	外面は磨き整形。	
640-3	石 造 品 板 碑 破片	埋土内 破片	残存長 9.6 残存巾11.2	緑色片岩	—	—	山形部の破片か?	

## F区3号井戸跡

641-1 180	石造品 板 碑	埋土内 一部欠損	残存長54.8 巾 18.8	青母石英片岩	—	—	種子は認められず、正・背面は磨き整形。基部の部分に浅い段が正・背面側に認められる。	2点の接合
641-2 180	石造品 板 碑	埋土内 殆ど残存	残存長38.0 残存巾18.8	緑色片岩	—	—	種子は「ネリク」一尊。正面は磨き整形。背面は折り紙を多く残す。	2点の接合
642-1	石造品 板 碑	埋土内 破片	残存長23.2 残存巾16.0	緑色片岩	—	—	種子は三尊。ネリク・サが遺存する。周辺は研磨により磨滅し、転用されている。	
642-2 180	石造品 板 碑	埋土内 殆ど残存	残存長48.0 巾 21.2	緑色片岩	—	—	正面基部以外は磨き整形。背面及び基部は折り紙を残す。	

## F区第3号井戸跡

発掘番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考
643-1	土師瓦土器 (オウラケ) 皿	埋土内 破片	□ (14.0) (8.0) 底 高 (3.7)	砂粒若干	酸化焰	灰白	轆轤成形(左回転)。 生地はD類。	火中?
643-2	土師瓦土器 (オウラケ) 皿	埋土内 破片	□ (14.0) (8.0) 底 高 (3.7)	砂粒若干	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はD類。	
643-3	土師瓦土器 (オウラケ) 皿	埋土内 破片	□ (14.0)	シルト粗粒子 若干	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はD類。	火中?
643-4	土師瓦土器 (オウラケ) 皿	埋土内 破片	□ (14.0)	橙褐色粒子若 干	酸化焰	淡黄橙	轆轤成形(左回転)。 生地はD類。	
643-5	土師瓦土器 (オウラケ) 皿	埋土内 破片	□ (13.0)	シルト粗粒子 混入	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	
643-6	土師瓦土器 (オウラケ) 皿	埋土内 破片	底 (8.4)	シルト粗粒子 黒色粒子若干	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	
643-7	軟質陶器 内 耳 筒	埋土内 破片	底 (19.0)	胎土はC類。	還元焰 気味	灰褐	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のIV類に対比される。	
644-1	軟質陶器 火 鉢	埋土内 破片	底 (14.0)	胎土はC類。	中性焰	淡黄	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のIV類に対比される。	
644-2	石製品 播 鉢	埋土内 破片	口 (35.0)	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	口唇直下が研りの状態のまま。内面は磨滅。	
644-3	石製品 播 鉢	埋土内 破片	底 (21.3)	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	外面磨き整形。内面は磨滅。	
644-4	石造品 板 碑	埋土内 破片	残存長15.2 残存巾 7.2	—	—	—	板碑片か? 転用されている。	
644-5	石造品 板 碑	埋土内 破片	残存長12.4 残存巾12.8	—	—	—	石の目の磨理での剥離片か?	
644-6 181	漆 器 椀	埋土内 破片	底 7.0	—	—	—	高台部分を滑車として転用している。 木取りは榭因参照。	

## 第2節 鎌倉時代以降

## F区第20号土坑

探頭番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
645-1	土師質土器 (カワラケ)皿	覆土内 破片	口 底高 (8.2) (5.1) (2.1)	砂粒多量	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形(左回転)。器内外面に有機質付着。 生地はD類。	
645-2 180	土師質土器 (カワラケ)皿	覆土内 %残存	口 底高 7.5 5.4 2.1	赤褐色粒子多 量・砂粒混入	酸化焰	橙	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	8点の組合
645-3	土師質土器 (カワラケ)皿	覆土内 破片	口 底高 (6.7) (5.0) (2.4)	シルト粗粒子 多量・砂粒	酸化焰	鈍黄褐	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	
645-4	土師質土器 (カワラケ)皿	覆土内 破片	底 (7.0)	細砂粒	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はD類。	
645-5	土師質土器 (カワラケ)香 炉	覆土内 破片	底 (8.2)	赤褐色粒子若 干・細砂粒	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	
645-6	土師質土器 (カワラケ)皿	覆土内 破片	底 (6.8)	シルト粗粒子 多量	酸化焰	褐	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	
645-7	軟質陶器 火鉢	覆土内 破片	—	胎土はE類。	中性焰	灰黄褐	瓦胎土のI類αに対比される。口縁部に珠文 を貼付する。	
645-8	石造品 板碑	覆土内 破片	残存長 7.6 残存巾 6.8	緑色片岩	—	—	石の目の節理の剥離片か?	

## F区第23号土坑

探頭番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
646-1 203	銅銭 開元通宝	覆土内 完存	—	—	—	—	唐銭。初鑄年は621年。	
646-2 203	銅銭 天聖元宝	覆土内 完存	—	—	—	—	北宋銭。初鑄年は1023年。	
646-3 203	銅銭 淳化元宝	覆土内 完存	—	—	—	—	北宋銭。初鑄年は990年。	
646-4 203	銅銭 不詳	覆土内 完存	—	—	—	—		
646-5 203	銅銭 天聖元宝	覆土内 完存	—	—	—	—	北宋銭。初鑄年は1023年。	
646-6 203	銅銭 景祐元宝	覆土内 一部欠損	—	—	—	—	北宋銭。初鑄年は1034年。	
646-7	土師質土器 (カワラケ)皿	覆土内 破片	口 底高 (7.5) (5.0) (1.8)	黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	
646-8	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	—	胎土はC類。	還元焰	灰	紐作り轆轤成形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のIV類に対比される。	

## G区第2号溝状遺構

溝内番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	径目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
650-1	土師貫土器 (カワラケ) 皿	覆土内 破片	□ (7.0)	橙褐色粒子若干	酸化焙	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	
650-2 181	土師貫土器 (カワラケ) 皿	覆土内 ほぼ完形	□ 底高 8.0 4.6 1.6	橙褐色粒子混入・砂粒	酸化焙	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	
650-3 181	土師貫土器 (カワラケ) 皿	覆土内 完形	□ 底高 8.1 4.3 1.9	橙褐色粒子混入・砂粒	酸化焙	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	
650-4	土師貫土器 (カワラケ) 皿	覆土内 破片	底 (4.8)	黒色粒子若干	酸化焙	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はD類。	
650-5 181	土師貫土器 (カワラケ) 皿	覆土内 ほぼ完形	□ 底高 8.4 4.6 1.8	黒色粒子若干	酸化焙	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	
650-6 181	土師貫土器 (カワラケ) 皿	覆土内 完形	□ 底高 11.1 6.9 2.8	橙褐色粒子若干・砂粒多量	酸化焙	橙	轆轤成形(左回転)。 生地はD類。	
650-7	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	□ (22.7)	胎土はE類。	酸化焙	橙	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類aに対比される。	
650-8	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	□ (26.8)	胎土はE類。	中性焙	黄灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類aに対比される。	
650-9	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	□ (31.0)	胎土はB類。	酸化焙	橙	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のIV類に対比される。	
650-10	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	□ (31.4)	胎土はC類。	還元焙	褐灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のIV類に対比される。	
650-11	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	□ (33.0)	胎土はG類。	酸化焙	鈍い橙	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のI類aに対比される。	
650-12	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	□ (36.5)	胎土はC類。	還元焙	赤灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のIV類に対比される。	
650-13	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	底 (12.2)	胎土はE類。	還元焙	灰黄褐	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類aに対比される。	
650-14	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	底 (10.2)	胎土はK類。	還元焙	褐灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類bに対比される。	
650-15	軟質陶器 内耳 鉢	覆土内 破片	底 (19.8)	胎土はE類。	酸化焙	鈍黄橙	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のI類aに対比される。	
650-18	石製品 石 白	覆土内 破片	□ 底高 (24.4) (24.6) 13.0	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	粉挽臼の上臼片。目は八分割。	重 1850
650-19	石製品 石 白	覆土内 破片	重 1320	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	18に同じ。	
650-20	石製品 孔 石	覆土内 片残存	孔径 6.4 重 610	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	二面を使用している。穴は磨減している。	

## 第2節 鎌倉時代以降

## G区第20号溝状遺構

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
652-1 181	土師質土器 (コワラケ) 皿	覆土内 ほぼ完形	□ 6.7 底高 4.7 1.6	橙褐色粒子若干・砂粒多量	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形（左回転）。 生地はA類。	
652-2 181	土師質土器 (コワラケ) 皿	覆土内 片残存	□ 7.5 底高 5.2 1.9	細砂粒多量	酸化焰	灰白	轆轤成形（左回転）。 生地はD類。	
652-3 181	土師質土器 (コワラケ) 皿	覆土内 片残存	□ 8.0 底高 5.2 2.0	黒色鉱物粒子 若干	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形（左回転）。 生地はD類。	3点の接合
652-4 181	軟質陶器 内耳 鉢	覆土内 破片	□ (34.8)	胎土はG類。	中性焰	褐灰	紐作り後轆轤整形（左回転）。 瓦胎土のI類Aに対比される。	
652-5	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	□ (33.0)	胎土はE類。	中性焰	鈍い橙	紐作り後轆轤整形（左回転）。 瓦胎土のI類Aに対比される。	
652-6	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	—	胎土はJ類。	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形（左回転）。内面は磨滅。 瓦胎土のII類に対比される。	
652-7	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	底 (12.0)	胎土はG類。	中性焰	黒褐	紐作り後轆轤整形（左回転）。内面は磨滅。 瓦胎土のI類Aに対比される。	
652-8 181	軟質陶器 火鉢	覆土内 破片	□ (30.3)	胎土はF類。	還元焰	灰	瓦胎土のIV類に対比される。口縁部外面に雷文を押捺する。	
652-20	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	還元焰	淡黄灰	古代瓦。	吉井・藤岡系 一枚作り。
652-21 182	石製品 石臼	覆土内 片残存	高 5.4	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	茶白。目は八分割。底面は棒状工具による槌打整形。	
652-23 181	鉄製品 釘	覆土内 頭部片	—	—	—	—	角釘。頭部は折り返し。鍛えは普通。	
652-24 181	鉄製品 釘	覆土内 頭部片	—	—	—	—	角釘。頭部は折り返し。鍛えは普通。	
652-25 181	鉄製品 釘	覆土内 破片	—	—	—	—	角釘。鍛えは普通。	
652-26 181	鉄製品 釘	覆土内 破片	—	—	—	—	角釘。鍛えは普通。	
652-27 181	鉄製品 釘	覆土内 破片	—	—	—	—	角釘。鍛えは普通。	

## G区第34号溝状遺構

探検番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
654-1 182	土師貫土器 (カワラケ) 皿	覆土内 %残存	口 底 高 7.1 5.7 1.3	シルト粗粒子 砂粒多量	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形 (左回転)。 生地はD類。	
654-2 182	土師貫土器 (カワラケ) 皿	覆土内 破片	口 底 高 (7.3) (6.1) (1.9)	橙褐色粒子多 量・砂粒多量	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形 (左回転)。 生地はD類。	2点の接合
654-3 182	土師貫土器 (カワラケ) 皿	覆土内 ほぼ完形	口 底 高 7.4 5.1 1.6	赤褐色粒子多 量・砂粒多量	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形 (左回転)。 生地はA類。	
654-4 182	土師貫土器 (カワラケ) 皿	覆土内 破片	口 底 高 (7.5) (5.8) (1.4)	シルト粗粒子 砂粒多量	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形 (左回転)。 生地はD類。	
654-5 182	土師貫土器 (カワラケ) 皿	覆土内 %残存	口 底 高 8.6 4.9 2.1	橙褐色粒子 黒色副物粒子	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形 (左回転)。 生地はD類。	4点の接合
654-6	土師貫土器 (カワラケ) 皿	覆土内 破片	口 底 高 (8.9) (5.3) (2.0)	赤褐色粒子若 干・砂粒多量	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形 (左回転)。 生地はD類。	3点の接合
654-7	土師貫土器 (カワラケ) 皿	覆土内 破片	底 3.9	赤褐色粒子若 干・砂粒多量	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形 (左回転)。 生地はD類。	
654-8	土師貫土器 (カワラケ) 皿	覆土内 破片	底 (5.5)	赤褐色粒子若 干・砂粒多量	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形 (左回転)。 生地はA類。	
654-9	土師貫土器 (カワラケ) 皿	覆土内 破片	口 底 高 (11.5) (6.0) (2.6)	赤褐色粒子多 量・砂粒多量	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形 (左回転)。 生地はD類。	
654-10 182	土師貫土器 (カワラケ) 皿	覆土内 %残存	底 5.8	赤褐色粒子若 干・細砂粒	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形 (左回転)。 生地はD類。	2点の接合
654-11 182	土師貫土器 (カワラケ) 皿	覆土内 %残存	口 底 高 12.5 6.7 3.6	橙褐色粒子若 干・砂粒多量	酸化焰	灰白	轆轤成形 (左回転)。 生地はD類。	
654-12	土師貫土器 (カワラケ) 皿	覆土内 破片	口 底 高 (14.0) (8.0) (3.5)	橙褐色粒子混 入・砂粒多量	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形 (左回転)。 生地はD類。	
654-13	土師貫土器 (カワラケ) 皿	覆土内 破片	底 (6.9)	橙褐色粒子若 干・砂粒多量	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形 (左回転)。 生地はD類。	
655-1 182	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	口 底 高 (24.0) (16.0) (14.6)	胎土はC類。	還元焰	黄灰	紐作り後轆轤整形 (左回転)。 瓦胎土のIV類に対比される。	3点の復原 実例
655-2	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	底 (24.0)	胎土はG類。	中性焰	褐灰	紐作り後轆轤整形 (左回転)。 瓦胎土のI類*に対比される。	
655-3	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	口 (27.0)	胎土はE類。	中性焰	褐灰	紐作り後轆轤整形 (左回転)。 瓦胎土のI類*に対比される。	
655-4	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	口 (27.0)	胎土はE類。	中性焰	灰褐	紐作り後轆轤整形 (左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類*に対比される。	
655-5 182	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	口 (28.8)	胎土はE類。	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (左回転)。 瓦胎土のI類*に対比される。	
655-6	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	口 (30.0)	胎土はC類。	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (左回転)。 瓦胎土のIV類に対比される。	

第2節 鎌倉時代以降

655-7	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	□ (30.5)	胎土はE類。	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のI類aに対比される。	
655-8	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	□ (32.0)	胎土はE類。	還元焰	褐灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のI類aに対比される。	2点の接合
655-9	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	□ (32.0)	胎土はC類。	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のIV類に対比される。	
655-10	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	□ (32.8)	胎土はE類。	中性焰	高い褐色	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類aに対比される。	
655-11	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	—	胎土はD類。	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のV類に対比される。	
655-12	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	—	胎土はG類。	酸化焰	橙	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類aに対比される。	
655-13	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	底 (12.0)	胎土はH類。	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類bに対比される。	
655-14	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	底 (12.0)	胎土はJ類。	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類に対比される。	
655-15	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	底 (12.0)	胎土はF類。	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のIV類に対比される。	
655-16	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	底 (12.5)	胎土はJ類。	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類に対比される。	
656-1	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	底 (12.6)	胎土はE類。	酸化焰	橙	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類aに対比される。	
656-2	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	底 (13.3)	胎土はG類。	中性焰	褐灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類aに対比される。	
656-3	軟質陶器 内耳 鉢	覆土内 破片	—	胎土はC類。	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のIV類に対比される。	
656-4 182	軟質陶器 花瓶	覆土内 破片	—	胎土はF類。	還元焰	灰	外面は撫で整形。印花文を三段に施し、沈線 区画する。菱形文・静葉草文あり。	6点の接合
656-11	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	胎土はV類。	還元焰	灰	磨減が著しい。	一枚造り。
656-12 182	石製品 砥石	覆土内 石	重 190	流紋岩 (砥石?)	—	—	砥面は丸みを帯びる。縦断面は山形状を呈する。	手持砥
656-13	石製品 播鉢	覆土内 破片	□ (34.0) 重 270	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	外面口唇直下は折り状態のまま、内面は磨減。	
656-14	石製品 播鉢	覆土内 破片	□ (34.0) 重 90	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	磨き整形。内面は磨減。	
656-15	石製品 石臼	覆土内 破片	□ (29.2) (28.2) 高 10.2	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	粉挽臼の下部。ふくみは少ない。目は八分割。	重 1620
657-1	石造品 宝篋印塔	覆土内 破片	重 720	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	九輪は細い沈線表出。平整整形。単位は細かい。	相輪
657-2	石造品 宝篋印塔	覆土内 破片	重 320	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	九輪は細い沈線表出。平整整形。単位は細かい。	相輪



657-3 182	石造品 宝篋印塔	覆土内 破片	重 220	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	九輪は鋭い沈線表出。平鬚整形。単位は細かい。諸花は単弁蓮華文を表出し、開弁も施す。	相輪
657-4	石造品 宝篋印塔	覆土内 破片	重 190	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	3に同じ。	相輪
657-5	石造品 宝篋印塔	覆土内 破片	重 340	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	3に同じ。	相輪
657-6	石造品 宝篋印塔	覆土内 破片	重 180	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	諸花部。単弁蓮華文を表出し、開弁を施す。平のみ整形。	相輪
657-7	石造品 不詳	覆土内 破片	重 340	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	磨き整形あり。	
657-8	石造品 宝篋印塔?	覆土内 破片	重 560	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	相輪の基部か?平のみ整形。	相輪?
657-9 182	石造品 宝篋印塔	覆土内 破片	重 1340	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	外面は磨き整形。反りは少なく、軒部は低い。	隅飾突起
657-10 182	石造品 宝篋印塔	覆土内 破片	重 1380	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	9に同じ。9と同一個体か?	隅飾突起
657-11	石造品 宝篋印塔	覆土内 破片	重 890	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	梵字を施すが判読不明。磨き整形。	塔身
657-12	石造品 宝篋印塔	覆土内 破片	重 160	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	11に同じ。	塔身
657-13	石造品 宝篋印塔	覆土内 破片	重 190	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	11に同じ。	塔身
657-14	石造品 宝篋印塔	覆土内 破片	重 120	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	11に同じ。	塔身
657-15	石造品 宝篋印塔	覆土内 破片	重 60	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	11に同じ。	塔身
657-16	石造品 宝篋印塔	覆土内 破片	重 110	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	月輪を施す。磨き整形。	塔身
657-17 182	石造品 宝篋印塔	覆土内 破片	重 330	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	基礎の露盤は複弁蓮華文を表出する。比較的 内置が多い。磨き整形。	基礎
657-18	石造品 宝篋印塔	覆土内 破片	重 270	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	17と同様であるが、複弁か単弁の判断がつき 難い。	基礎
657-19 183	石造品 宝篋印塔	覆土内 破片	重 280	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	18に同じ。	基礎
657-20	石造品 宝篋印塔	覆土内 破片	重 390	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	磨き整形されている。	基礎
657-21	石造品 宝篋印塔	覆土内 破片	重 170	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	20に同じ。	基礎
657-22	石造品 宝篋印塔	覆土内 破片	重 360	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	20に同じ。	基礎
657-23	石造品 宝篋印塔	覆土内 破片	重 170	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	20に同じ。	蓮台・基礎

## 第2部 鎌倉時代以降

657-24	石造品 宝篋印塔	覆土内 破片	重 540	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	20に同じ。	基礎
657-25 183	石造品 宝篋印塔	覆土内 破片	重 740	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	20に同じ。	基礎
657-26	石造品 宝篋印塔	覆土内 破片	重 150	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	20に同じ。	基礎
658-1 184	石造品 宝塔	覆土内 破損顯著	巾 31.6 高 20.4	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	格座間には蓮子を施し、軒下は二重の垂木を表出する。屋根・軒は水磨き。格座間・赤彩。	笠
659-1	石造品 宝篋印塔	覆土内 破片	重 3100	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	磨き整形。	基礎
659-2	石造品 石白	覆土内 破片	底 (28.2) 重 120	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	粉挽白の上白片。	
659-3 183	石造品 宝篋印塔	覆土内 破片	重 1810	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	基部に蓮子を施し、上位には単弁・蓮華文を表出する。外面は磨き整形。	蓮台
659-4	石造品 宝篋印塔	覆土内 破片	重 110	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	水磨き整形。	基礎
659-5 183	石造品 宝塔	覆土内 破片	底 21.7 重 1420	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	水磨き整形。梵字・紀年銘を印刷する。 (応永14年)	塔身
659-6 183	石造品 宝塔	覆土内 破片	底 (19.8) 重 480	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	水磨き整形。基部に段を有する。梵字・基・門を印刷する。7と同一個体。	塔身
659-7 185	石造品 宝塔	覆土内 破片	底 19.5 重 3610	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	6と同一個体。内面は丸鋸工具による研り痕あり。梵字を印刷する。	塔身
659-8 185	石造品 宝篋印塔	覆土内 完存	重 8950	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	格座間・露盤・隅飾突起は破壊され欠損する。相輪の挿入部は丸鋸状工具により研り整形。	笠
660-1 184	石造品 宝塔	覆土内 片残存	上径 17.8 下径 21.2 高 21.8	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	659-5と同一個体。成整形は659-7と同一。	塔身
660-2	石造品 板碑	覆土内 破片	残存長14.0 残存巾14.4	緑色片岩	—	—	正面は磨き整形。	
660-3	石造品 板碑	覆土内 破片	残存長18.4 残存巾12.8	緑色片岩	—	—	石の目の磨理面の剥離片か?	
660-4	石造品 板碑	覆土内 破片	残存長 5.2 残存巾 7.8	緑色片岩	—	—	基部か? 転用か?	
660-5	石造品 板碑	覆土内 破片	残存長 4.0 残存巾10.0	緑色片岩	—	—	4に同じ。	
660-6	石造品 板碑	覆土内 破片	残存長 7.2 残存巾10.4	緑色片岩	—	—	4に同じ。	
661-1	石造品 板碑	覆土内 破片	残存長 9.2 巾 8.4	緑色片岩	—	—	660-4に同じ。	
661-2	石造品 板碑	覆土内 破片	残存長17.2 巾 12.0	緑色片岩	—	—	660-4に同じ。	
661-3 185	石造品 石塔	覆土内 基部欠損	重 9600	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	正面側に五輪塔を線刻する。縦断面は舟形を呈する。表面は粗な磨き、背面は研り状態。	

## G区溝状遺構

662-1	石製品 孔石	覆土内 片残存	重 180	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	穴は磨滅している。	
662-2	石製品 孔石	覆土内 一部欠損	孔径 5.2	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	1に同じ。	
662-3 185	石製品 孔石	覆土内 片残存	孔径 9.1 重 1640	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	1に同じ。	
662-4 185	石製品 孔石	覆土内 片残存	孔径 7.1 重 1620	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	1に同じ。	
662-5 185	石製品 孔石	覆土内 片残存	孔径 8.5 重 2820	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	1に同じ。	
662-6 185	石製品 孔石	覆土内 完存	孔径 6.4 重 4050	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	穴の底面に成型時の痕跡が認められる。 磨滅は顕著でない。	
662-7	鉄製品 釘	覆土内 一部欠損	—	—	—	—	角釘。鍛えは普通。	

## G区溝状遺構

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 重量(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
3号溝 663-1	土師瓦土器 (ホケラウ)組	覆土内 破片	底 (7.0)	シルト粗粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	洗黄橙	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。底部に板目圧痕あり。	
3号溝 663-2	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	口 (33.0)	胎土はE類。	還元焰 気味	灰白	紐作り後轆轤成形(左回転)。 瓦胎土のI類aに対比される。	
2号溝 663-4 186	土師瓦土器 (ホケラウ)組	覆土内 ほぼ完形	口 11.6 底高 6.7 3.4	赤褐色粒子若 干	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	
2号溝 663-5	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	底 (9.6)	胎土はB類。	還元焰	黒	紐作り後轆轤成形(左回転)。内面は磨滅。 瓦胎土のI類bに対比される。静止糸切り。	
2号溝 663-7	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	—	胎土はE類。	中性焰	黒	紐作り後轆轤成形(左回転)。磨滅は認められ ない。瓦胎土のI類aに対比される。	
27号溝 663-19	軟質陶器 火鉢	覆土内 破片	—	胎土はE類。	酸化焰?	明赤褐	瓦胎土のI類aに対比される。内面は磨滅。 体部外面に菱形文を押捺する。	二次焼成あり。
38号溝 663-20	土師瓦土器 (ホケラウ)組	覆土内 破片	底 (5.8)	赤褐色微粒子 混入	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	
1号溝 663-21	鉄製品 釘	覆土内 頭部周辺	—	—	—	—	角釘。頭部は折り返し。鍛えは普通。	
1号溝 663-22	鉄製品 釘	覆土内 一部欠損	—	—	—	—	丸釘か?	
12号溝 663-23 203	銅銭 元祐通宝	覆土内 完存	—	—	—	—	北宋銭。初鑄年は1093年。	
20号溝 663-24 203	銅銭 永樂通宝	覆土内 完存	—	—	—	—	明銭。初鑄年は1408年。	
20号溝 663-25 203	銅銭 聖宋元宝	覆土内 完存	—	—	—	—	北宋銭。初鑄年は1101年。	

## 第2節 鎌倉時代以降

20号溝 963-26 203	銅 銭	覆土内 完存	—	—	—	—	北宋銭。初鑄年は1208年。	
38号溝 963-27 203	銅 銭	覆土内 一部欠損	—	—	—	—	北宋銭。初鑄年は1078年。	
38号溝 963-28 203	銅 銭	覆土内 配享元宝 完存	—	—	—	—	北宋銭。初鑄年は1068年。	

## G区第9号址

棟号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考
664-1 186	軟質陶器 火 鉢	覆土内 破片	口 (33.8)	胎土はF型。	還元焰	褐色	瓦胎土のIV類に対比される。内面は磨減。口縁部に格子(蓮子文)を押捺する。	
664-6 203	銅 銭	覆土内 永業通宝 完存	—	—	—	—	明銭。初鑄年は1408年。	

## G区第36号址

棟号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考
666-1	壁 材	床直層 破片	—	ローム土を主 体とする。	—	褐色	外面は面で整形。縦位に格子状で木質の痕跡が認められる。一部には縄の痕跡もある。	
666-2	壁 材	床直層 破片	—	ローム土を主 体とする。	—	褐色	1に同じ。	
666-3	壁 材	床直層 破片	—	ローム土を主 体とする。	—	褐色	1に同じ。	
666-4	壁 材	床直層 破片	—	ローム土を主 体とする。	—	褐色	1に同じ。	

## G区第38号址

棟号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考
667-1	土師貫土器 (コワツケ) 皿	覆土内 破片	口 径 高 (7.5) (4.5) (1.8)	黒色鉱物粒子 混入	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	
667-2	土師貫土器 (コワツケ) 皿	覆土内 破片	底 5.8	白色鉱物粒子 赤褐色粒子	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	
667-3	土師貫土器 (コワツケ) 皿	覆土内 破片	底 9.0	シルト粗粒子 混入	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	

## G区第63号址

棟号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考
668-1 203	銅 銭	覆土内 景祐元宝 完存	—	—	—	—	北宋銭。初鑄年は1034年。	

## G区 (9・36・38・63・82・92・93号址、西側ピット群)

668-2 203	銅 銭 船塚元宝	覆土内 完存	—	—	—	—	北宋銭。初鑄年は1068年。	
--------------	-------------	-----------	---	---	---	---	----------------	--

## G区第82号址

調査番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考
669-1 203	銅 銭 開元通宝	覆土内 一部欠損	—	—	—	—	唐銭。初鑄年は621年。	

## G区第92号址

調査番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考
674-1 186	鉄 製 品 鏃	覆土内 先端部欠損	—	—	—	—	鍛えは不良。	
674-2 186	鉄 製 品 不 詳	覆土内 破片	—	—	—	—	鍛えは普通。	

## G区第93号址

調査番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考
674-3	鉄 製 品 不 詳	覆土内 破片	—	—	—	—		
674-4	鉄 製 品 釘	覆土内 頭部周辺	—	—	—	—	角釘。頭部は折り返し。鍛えは普通。	
674-5	鉄 製 品 不 詳	覆土内 破片	—	—	—	—	断面は三角形の点から刃物と思われるが、 分別でない。	
674-6	鉄 製 品 釘	覆土内 一部欠損	—	—	—	—	4に同じ。	
674-7	鉄 製 品 釘	覆土内 完存	—	—	—	—	丸釘。一寸釘。	

## G区西側ピット群

調査番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考
675-2 186	石 製 品 孔 石	覆土内 完存	孔径 10.4 重 4560	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	穴は磨減している。	

第2節 鎌倉時代以降

G区土坑

調査番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
27号土坑 679-8	軟質陶器 内 鉢	覆土内 破片	□ (36.8)	胎土はE類。	中性焰	純黄橙	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類aに対比される。	
54号土坑 679-13	軟質陶器 内 耳 鍋	覆土内 破片	□ (27.4)	胎土はC類。	還元焰	褐灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のIV類に対比される。	
54号土坑 679-14 190	軟質陶器 角形火鉢	覆土内 足部	—	胎土はD類。	還元焰	灰	瓦胎土のV類に対比される。	
54号土坑 679-15	軟質陶器 内 耳 鍋	覆土内 破片	底 (19.0)	胎土はB類。	中性焰	黒褐	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のIV類に対比される。離れ砂あり。	
54号土坑 679-16	軟質陶器 内 耳 鍋	覆土内 破片	—	胎土はB類。	中性焰	黒 灰黄褐	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のIV類に対比される。	
27号土坑 679-23 190	石製品 硯	覆土内 3/4残存	—	不詳	—	黒	使用面が著しい。底面に成作時の磨きの痕跡 が多く見られる。	
27号土坑 679-24 190	軟質陶器 火 鉢	覆土内 足部	—	胎土はG類。	酸化焰	純黄橙	瓦胎土のI類aに対比される。	
12号土坑 679-26	鉄製品 釘	覆土内 完存	長径 9.0	—	—	—	角釘。四寸釘か? 頭部は折り返し。鍛えは普通。	
54号土坑 679-27	鉄製品 不詳	覆土内 完存	長径 4.7	—	—	—	洋鉄か?	
54号土坑 679-28	鉄製品 不詳	覆土内 破片	—	—	—	—		
67号土坑 679-29 203	銅 銭	覆土内 完存	—	—	—	—	北宋銭。初鑄年は1064年。	

G区第1号井戸跡

調査番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
681-2	石製品 石 臼	埋土内 破片	□ (28.0) 底 (26.8) 高 7.2	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	粉挽臼の小白。表面は磨減している。	重 1000
681-3	石造品 板 碑	埋土内 破片	残存長25.6 残存巾13.6	緑色片岩	—	—	転用か? 又は基部の不明。	
681-4 186	石造品 板 碑	埋土内 一部欠損	長径 45.2 巾 15.6	黒色片岩	—	—	種子は認められない。基部周辺が欠損する。 転用か?	
682-1 186	石造品 板 碑	埋土内 破片	残存長40.2 巾 24.8	緑色片岩	—	—	紀年銘は推定4年と判読される。種子は三尊。 「サ」・「サク」が認められる。	

## G区第2号井戸跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
682-2 186	土質土器 (カワラテ) 皿	埋土内 ほぼ完形	口 底高 8.1 5.2 2.2	赤褐色粒子多 量・砂粒多量	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はD類。	2点の接合
682-3 186	土質土器 (カワラテ) 皿	埋土内 破片	口 底高 (10.9) (7.5) (2.7)	赤褐色顔料 若干・砂粒	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	4点の接合
682-4	軟質陶器 罐 鉢	埋土内 破片	底 (7.8)	胎土はF類。	還元焰	褐色	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のIV類に対比される。	
682-5	軟質陶器 罐 鉢	埋土内 破片	口 (32.0)	胎土はE類。	還元焰	褐色	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のI類*に対比される。	
682-6	軟質陶器 罐 鉢	埋土内 破片	口 (48.0)	胎土はD類。	中性焰	褐色	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のV類に対比される。	
682-7 186	石製品 罐 鉢	埋土内 破片	重 1310	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	外面は磨き整形。内面は磨減している。底部 は作り出し高台。	
682-8 186	石製品 孔 石	埋土内 完存	孔径 8.4 重 2800	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	穴は磨減している。	

## G区第7号井戸跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
684-1	土質土器 (カワラテ) 皿	埋土内 破片	口 (11.9)	砂粒多量	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はD類。	
684-3 186	石造品 板 碑	埋土内 破片	残存長27.6 残存巾16.0	緑色片岩	—	—	基部周辺のものか? 転用されている。両面 とも磨き整形。	
684-4	石造品 板 碑	埋土内 破片	残存長23.2 残存巾12.0	緑色片岩	—	—	転用か? 正面側は磨き整形。	
685-1 187	石造品 板 碑	埋土内 片残存	残存長52.4 残存巾28.0	黒色片岩	—	—	種子は認められない。基部周辺か? 正背面 は磨き整形。転用か?	
685-2	石造品 板 碑	埋土内 破片	残存長20.0 残存巾 9.0	緑色片岩	—	—	石の目の節理面での剥離か? 転用されてい る。	
685-3	石造品 板 碑	埋土内 破片	残存長12.8 残存巾10.8	緑色片岩	—	—	節理面での剥離か?	
686-1 187	石造品 板 碑	埋土内 基部欠損	残存長48.0 巾 20.4	黒色片岩	—	—	種子は「キリーク」一尊。正面は雑な磨き整 形。	2点の接合
686-2 187	石造品 板 碑	埋土内 片残存	残存長40.4 巾 20.0	緑色片岩	—	—	正面はやや磨かかれている。 左側部に加工痕が認められる。(転用)	

## 第2節 鎌倉時代以降

## G区第9号井戸跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
688-1 187	土師甕土器 (カワラケ) 皿	埋土内 ほぼ完形	口底高 7.5 4.5 2.2	砂粒多量	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。内外面の口縁部周辺に有機質付着。生地はD類。	
688-2 187	土師甕土器 (カワラケ) 皿	埋土内 ほぼ完形	口底高 7.5 5.2 1.9	砂粒多量	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。内外面の口縁部周辺に有機質付着。生地はD類。	
688-3	土師甕土器 (カワラケ) 皿	埋土内 破片	口底高 (7.8) (5.7) (1.9)	橙褐色粒子若干・砂粒多量	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。	
688-4 187	土師甕土器 (カワラケ) 皿	埋土内 完形	口底高 7.8 5.2 2.1	シルト粗粒子 細粒子多量	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	
688-5 187	土師甕土器 (カワラケ) 皿	埋土内 ほぼ完形	口底高 7.8 5.1 2.0	細砂粒多量	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。内外面の口縁部周辺に有機質付着。生地はD類。	底部に板目 庄痕あり
688-6 187	土師甕土器 (カワラケ) 皿	埋土内 完形	口底高 7.8 5.2 1.9	橙褐色粒子多量	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はD類。	
688-7 187	土師甕土器 (カワラケ) 皿	埋土内 完形	口底高 7.9 5.4 2.2	橙褐色粒子多量	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はD類。	
688-8 187	土師甕土器 (カワラケ) 皿	埋土内 3/4残存	口底高 (7.9) (5.2) (2.1)	細粒砂 橙褐色粒子	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	
688-9 187	土師甕土器 (カワラケ) 皿	埋土内 3/4残存	口底高 8.1 6.0 2.1	細砂粒混入	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	4点の接合
688-10 187	土師甕土器 (カワラケ) 皿	埋土内 3/4残存	口底高 (8.2) 5.4 (1.9)	細砂粒多量	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	
688-11	土師甕土器 (カワラケ) 皿	埋土内 破片	底 (6.3)	白色粒子微量	酸化焰	濁	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	
688-12	土師甕土器 (カワラケ) 皿	埋土内 破片	底 6.0	細粒砂多量	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	
688-13 187	土師甕土器 (カワラケ) 皿	埋土内 3/4残存	底 5.4	砂粒多量・赤褐色粒子若干	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	3点の接合
689-1	土師甕土器 (カワラケ) 皿	埋土内 破片	口底高 (11.0) (5.7) (3.1)	細砂粒多量 シルト粗粒子	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	
689-2 187	土師甕土器 (カワラケ) 皿	埋土内 3/4残存	口底高 11.6 5.4 3.4	赤褐色粒子微量・細砂粒	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はD類。	
689-3	土師甕土器 (カワラケ) 皿	埋土内 破片	底 (7.8)	細砂粒多量	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はD類。	底部に板目 庄痕あり
689-4	土師甕土器 (カワラケ) 皿	埋土内 破片	口底高 (12.4) (6.3) (3.1)	細砂粒・赤褐色粒子若干	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	3点の接合
689-5	土師甕土器 (カワラケ) 皿	埋土内 破片	口底高 (12.7) (7.3) (2.8)	黒色鉱物粒子 混入	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	
689-6 187	土師甕土器 (カワラケ) 皿	埋土内 一部欠損	口底高 12.8 6.6 3.4	赤褐色粒子若干 細砂粒多量	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	



## G区(9・11号井戸跡)

689-7	軟質陶器鉢	埋土内破片	□ (25.2)	胎土はC類。	還元焰	褐色	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のIV類に対比される。	
689-8	軟質陶器鉢	埋土内破片	□ (25.2)	胎土はC類。	還元焰	褐色	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のIV類に対比される。	
689-9 187	軟質陶器鉢	埋土内破片	□ (47.8)	胎土はJ類。	酸化焰	鈍い橙	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のI類に対比される。	二次焼成か?
689-18 188	石製品 石臼	埋土内 片残存	□底高 31.6 31.4 12.8	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	粉接白の上口。供給口が遺存する。目は八分割。ふくみはやや認められる。	重 9050

## G区第11号井戸跡

調査番号 図面番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
690-1 188	土師質土器 (カワラケ)皿	埋土内 片残存	□底高 7.0 5.1 2.1	白色粒子微量	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	
690-2 188	土師質土器 (カワラケ)皿	埋土内 ほぼ完形	□底高 7.5 4.5 1.9	砂粒混入	酸化焰	茶褐	轆轤成形(左回転)。底部を平坦に磨り減らす。 生地はC類。	
690-3 188	土師質土器 (カワラケ)皿	埋土内 片残存	□底高 7.6 5.1 1.8	シルト粗粒子 混入	酸化焰	褐	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	3点の接合
690-4 188	土師質土器 (カワラケ)皿	埋土内 ほぼ完形	□底高 7.8 4.5 2.2	赤褐色粒子若 干・細粒砂	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	
690-5	土師質土器 (カワラケ)皿	埋土内 破片	□底高 (12.1) (5.7) (2.7)	赤褐色粒子若 干・細粒砂	酸化焰	茶褐	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	
690-6 188	土師質土器 (カワラケ)皿	埋土内 ほぼ完形	□底高 10.7 4.5 2.8	赤褐色粒子微 量・細粒砂	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(右回転)。 生地はA類。	6点の接合
690-7 188	土師質土器 (カワラケ)皿	埋土内 片残存	□底高 11.0 5.7 2.8	赤褐色粒子若 干・細粒砂	酸化焰	茶褐	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	
690-8 188	土師質土器 (カワラケ)皿	埋土内 完形	□底高 11.8 7.0 2.8	赤褐色粒子若 干・細粒砂	酸化焰	褐	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	
690-9 188	土師質土器 (カワラケ)皿	埋土内 ほぼ完形	□底高 11.8 5.2 2.8	赤褐色粒子若 干・細粒砂	酸化焰	褐	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。底部に板目圧痕あり。	5点の接合
691-1	土師質土器 (カワラケ)皿	埋土内 破片	□底高 (14.2) (6.7) (3.6)	シルト粗粒子 細粒砂	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	
691-2	軟質陶器 内耳鍋	埋土内 破片	□ (20.0)	胎土はC類。	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のIV類に対比される。	
691-3 188	軟質陶器 内耳鍋	埋土内 破片	□ (33.8)	胎土はE類。	中性焰	鈍い橙	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類*に対比される。	
691-4	軟質陶器 内耳鍋	埋土内 破片	—	胎土はB類。	中性焰	鈍い橙	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のIV類に対比される。	2点の接合
691-5	軟質陶器 内耳鍋	埋土内 破片	□ (27.0)	胎土はC類。	中性焰	灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のIV類に対比される。	6・7と同 一個体か?
691-6	軟質陶器 内耳鍋	埋土内 破片	□ (26.9)	胎土はC類。	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のIV類に対比される。	5・7と同 一個体か?

第2節 鎌倉時代以降

691-7	軟質陶器 内耳鍋	埋土内 破片	口 (26.9)	胎土はC類。	還元焰	灰	紐作り後継継ぎ形(左回転)。瓦胎土のIV類に対比される。5・6と同一個体か。	2点の接合
691-8	軟質陶器 内耳鍋	埋土内 破片	—	胎土はB類。	中性焰	灰褐	紐作り後継継ぎ形(左回転)。瓦胎土のIV類に対比される。	4点の接合
691-9 188	軟質陶器 内耳鍋	埋土内 破片	口 (34.0)	胎土はC類。	中性焰	鈍い褐	紐作り後継継ぎ形(左回転)。瓦胎土のIV類に対比される。	21点の接合
691-10	軟質陶器 内耳鍋	埋土内 破片	底 (18.2)	胎土はB類。	中性焰	鈍い褐	紐作り後継継ぎ形(左回転)。瓦胎土のIV類に対比される。	
691-11	軟質陶器 内耳鍋	埋土内 破片	底 (19.6)	胎土はC類。	還元焰 欠味	鈍い褐	紐作り後継継ぎ形(左回転)。瓦胎土のIV類に対比される。	3点の接合
691-12 188	軟質陶器 内耳鍋	埋土内 破片	底 (17.8)	胎土はC類。	中性焰	鈍黄橙	紐作り後継継ぎ形(左回転)。瓦胎土のIV類に対比される。	
691-13 188	軟質陶器 内耳鍋	埋土内 破片	底 (21.8)	胎土はA類。	中性焰	鈍黄橙	紐作り後継継ぎ形(左回転)。瓦胎土のV類に対比される。	2点の接合
691-14 188	軟質陶器 内耳鍋	埋土内 破片	底 (20.0)	胎土はF類。	中性焰	鈍黄橙	紐作り後継継ぎ形(左回転)。瓦胎土のIV類に対比される。	4点の接合
691-15	軟質陶器 内耳鍋	埋土内 破片	底 (22.4)	胎土はA類。	中性焰	鈍黄橙	紐作り後継継ぎ形(左回転)。瓦胎土のV類に対比される。	
692-10 189	石製品 石臼	埋土内 一部欠損	口 底高 29.2 28.8 8.0	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	将挽臼の下臼。目は粗雑で六分割。ふくみはややある。	重 6020
692-11 190	石製品 臼鉢	埋土内 破片	口 底高 (35.4) (23.2) (16.6)	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	口唇部は磨き整形。体部は折り仕上げ。	重 13600

G区第15号井戸跡

掘削番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
695-1	軟質陶器 鉢	埋土内 破片	口 (32.2)	胎土はA類。	中性焰	褐灰	紐作り後継継ぎ形(左回転)。瓦胎土のV類に対比される。	
696-1	軟質陶器 鉢	埋土内 破片	口 (34.7)	胎土はA類。	中性焰	褐灰	紐作り後継継ぎ形(左回転)。内面は磨減。瓦胎土のV類に対比される。	
696-2	軟質陶器 鉢	埋土内 破片	底 (14.0)	胎土はG類。	中性焰	褐灰	紐作り後継継ぎ形(左回転)。内面はやや磨減。瓦胎土のI類aに対比される。	
696-3 189	軟質陶器 鉢	埋土内 破片	口 底高 (32.4) (13.4) (12.4)	胎土はA類。	中性焰	褐灰と 明褐灰	紐作り後継継ぎ形(左回転)。内面は磨減。瓦胎土のV類に対比される。	3点の接合
696-4	軟質陶器 内耳鍋	埋土内 破片	口 (32.0)	胎土はH類。	還元焰	灰褐	紐作り後継継ぎ形(左回転)。瓦胎土のI類bに対比される。	
696-5	軟質陶器 内耳鍋	埋土内 破片	底 (24.4)	胎土はJ類。	還元焰	灰褐	紐作り後継継ぎ形(左回転)。瓦胎土のII類に対比される。	
696-8	鉄製品 釘?	埋土内 断片	—	—	—	—	L字状の折り返しあり。鍛えは悪い。	
696-9	鉄製品 釘?	埋土内 断片	—	—	—	—	角状の棒状を呈する。鍛えは普通。	

## H区第1号溝状遺構

溝跡番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
697-1	土師貫土器 (ホウラク) 皿	覆土内 破片	□ (14.0)	赤褐色粒子 砂粒若干	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形(左回転)。 生地はD類。	
697-2	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	□ (33.0)	胎土はE類。	酸化焰	鈍黄橙	紐作り後轆轤成形(左回転)。互胎土のI類a に対比される。口縁部から垂直な切り込みが 入る。	
697-3	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	—	胎土はA類。	中性焰	橙	紐作り後轆轤成形(左回転)。 互胎土のV類に対比される。	
697-4	軟質陶器 火鉢	覆土内 破片	—	胎土はC類。	酸化焰	黒褐	互胎土のIV類に対比される。	
697-5	軟質陶器 火鉢	覆土内 破片	—	胎土はC類。	酸化焰	灰褐	互胎土のIV類に対比される。	
697-6	軟質陶器 土管	覆土内 破片	□ (17.0)	胎土はE類。	酸化焰	鈍い褐	紐作り後轆轤成形(左回転)。 互胎土のI類aに対比される。	
697-7	軟質陶器 土管状	覆土内 破片	□ (14.0)	胎土はE類。	酸化焰	橙	紐作り後轆轤成形(左回転)。 互胎土のI類aに対比される。	
697-8 190	軟質陶器 火おこし	覆土内 写残存	□ (23.0) 高 (19.6)	胎土はE類。	酸化焰	橙	互胎土のI類aに対比される。体部下平に孔 を8つ施す。脚部に焚口を設ける。型作り。	11点の接合
697-20 191	本瓦(女) 円盤状製品	覆土内 完存	厚 2.0	胎土はVI類。	還元焰	灰	凹面に15本一単位の曜目を横位に施す。破片 の周縁を研ぎ整形している。	
697-21 191	瓦 隅巴瓦	覆土内 男瓦部欠	厚 2.4	胎土はVII類。	還元焰	黒褐	瓦当は右巻巴を中扉の一つ配し、周縁に大き い抜文キズを配する。器名種椀瓦当。 平滑な面で仕上げあり。	
697-22	瓦 椀瓦か?	覆土内 破片	厚 1.8	胎土はVI類。	還元焰	褐灰	表面面ともに平滑な面で仕上げ。側面に面取 りあり。二次焼成の痕跡が認められる。	
697-23	瓦 椀瓦	覆土内 破片	厚 1.3	胎土はVI類。	還元焰	褐灰	左下の切り込み部、側面面取りあり。外面だ け丁寧な面仕上げ。	

## H区第11号溝状遺構

溝跡番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
698-1	土師貫土器 (ホウラク) 皿	覆土内 破片	□ (7.5) (5.1) 底高 (2.1)	赤褐色粒子若 干・砂粒多量	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はD類。	
700-1	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	—	胎土はB類。	中性焰	灰	紐作り後轆轤(左回転)。 互胎土のIV類に対比される。	
700-2	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	—	胎土はB類。	中性焰	黄灰	紐作り後轆轤成形(左回転)。 互胎土のIV類に対比される。	
700-3	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	□ (24.0)	胎土はB類。	中性焰	灰黄	紐作り後轆轤成形(左回転)。 互胎土のIV類に対比される。	
700-4	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	□ (26.0)	胎土はC類。	中性焰	灰	紐作り後轆轤成形(左回転)。 互胎土のIV類に対比される。	

## 第2節 鎌倉時代以降

700-5	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	□ (30.0)	胎土はF類、	還元焰	暗灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のIV類に対比される。	
700-6	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	□ (31.9)	胎土はE類、	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のI類aに対比される。	
700-7	軟質陶器 播鉢	覆土内 破片	□ (25.8)	胎土はE類、	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類aに対比される。	
700-8	軟質陶器 播鉢	覆土内 破片	□ (28.0)	胎土はE類、	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のI類aに対比される。	
700-9	軟質陶器 播鉢	覆土内 破片	□ (29.0)	胎土はF類、	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のIV類に対比される。	
700-10	軟質陶器 播鉢	覆土内 破片	□ (30.0)	胎土はE類、	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類aに対比される。	
700-11	軟質陶器 播鉢	覆土内 破片	□ (30.5)	胎土はC類、	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のIV類に対比される。	
700-12	軟質陶器 播鉢	覆土内 破片	□ (32.9)	胎土はC類、	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のIV類に対比される。	
700-13	軟質陶器 播鉢	覆土内 破片	□ (31.0)	胎土はC類、	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のIV類に対比される。	
700-14	軟質陶器 播鉢	覆土内 破片	□ (31.4)	胎土はG類、	還元焰	灰褐色	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類aに対比される。	
700-15	軟質陶器 播鉢	覆土内 破片	□ (24.0)	胎土はL類、	中性焰	灰褐色	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のI類aに対比される。	
700-16	軟質陶器 播鉢	覆土内 破片	□ (25.0)	胎土はE類、	還元焰	鈍い橙	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のI類aに対比される。	
700-17	軟質陶器 播鉢	覆土内 破片	—	胎土はF類、	酸化焰	赤褐色 鈍い橙	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のIV類に対比される。	
700-18	軟質陶器 播鉢	覆土内 破片	—	胎土はC類、	酸化焰	暗灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のIV類に対比される。	
700-19	軟質陶器 播鉢	覆土内 破片	—	胎土はG類、	還元焰	鈍い橙	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類aに対比される。	
700-20	軟質陶器 播鉢	覆土内 破片	—	胎土はF類、	酸化焰	灰黄褐色	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のIV類に対比される。	
700-21	軟質陶器 播鉢	覆土内 破片	—	胎土はE類、	還元焰	鈍黄橙	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類aに対比される。	
700-22	軟質陶器 播鉢	覆土内 破片	—	胎土はC類?	酸化焰	灰白	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のIV類に対比される。	
700-23	軟質陶器 播鉢	覆土内 破片	—	胎土はD類、	中性焰	灰白	紐作り後轆轤整形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のV類に対比される。	
701-1	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	□ (33.5)	胎土はC類、	還元焰	褐灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のIV類に対比される。	
701-2	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	□ (34.0)	胎土はC類、	中性焰	黄灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土のIV類に対比される。	

701-3	軟質陶器 盤形火鉢	覆土内 破片	□ (39.8)	胎土はE類。	還元焰	灰褐	組作り後轆轤整形 (左回転)。 瓦胎土のI類aに対比される。	
701-4	軟質陶器 盤形火鉢	覆土内 破片	□ (42.0)	胎土はE類。	中性焰	灰黄褐	組作り後轆轤整形 (左回転)。口縁部内面に菱形文を押捺する。瓦胎土のI類aに対比される。	
701-5	軟質陶器 椀 鉢	覆土内 破片	底 (18.0)	胎土はC類。	中性焰	灰	組作り後轆轤整形 (左回転)。 瓦胎土のIV類に対比される。	
701-6	軟質陶器 椀 鉢	覆土内 破片	底 (13.6)	胎土はC類。	還元焰	灰	組作り後轆轤整形 (左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のIV類に対比される。	
701-7	軟質陶器 椀 鉢	覆土内 破片	底 (11.1)	胎土はC類。	還元焰	黄灰	組作り後轆轤整形 (左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のIV類に対比される。	
701-8	軟質陶器 椀 鉢	覆土内 破片	底 (11.8)	胎土はH類。	還元焰	灰白	組作り後轆轤整形 (左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類bに対比される。	
701-9	軟質陶器 椀 鉢	覆土内 破片	底 (13.2)	胎土はG類。	還元焰	鈍い褐	組作り後轆轤整形 (左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類aに対比される。	
701-10	軟質陶器 椀 鉢	覆土内 破片	底 (14.0)	胎土はC類。	中性焰	灰	組作り後轆轤整形 (左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のIV類に対比される。	
701-11	軟質陶器 椀 鉢	覆土内 破片	底 (10.0)	胎土はC類。	還元焰	灰	組作り後轆轤整形 (左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のIV類に対比される。	
701-12	軟質陶器 椀 鉢	覆土内 破片	底 (12.0)	胎土はG類。	還元焰	鈍い橙	組作り後轆轤整形 (左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類aに対比される。	
701-13	軟質陶器 椀 鉢	覆土内 破片	底 (12.2)	胎土はE類。	中性焰	鈍黄橙	組作り後轆轤整形 (左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類aに対比される。	
701-14	陶 器 椀 鉢	覆土内 破片	底 (16.0)	半透明粗粒状 物粒子多量	中性焰	鈍い橙	組作り後轆轤整形 (左回転)。	
701-15	軟質陶器 椀 鉢	覆土内 破片	底 (14.0)	胎土はC類。	還元焰	黄灰	組作り後轆轤整形 (左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のIV類に対比される。	
701-16	軟質陶器 椀 鉢	覆土内 破片	底 (18.1)	胎土はE・J 類。	還元焰	鈍黄橙	組作り後轆轤整形 (左回転)。内面は磨減。	
701-17	軟質陶器 椀 鉢	覆土内 破片	底 (19.0)	胎土はK類。	中性焰	黄灰	組作り後轆轤整形 (左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類bに対比される。	
701-18	軟質陶器 椀 鉢	覆土内 破片	底 (11.0)	胎土はG類。	還元焰	鈍い橙	組作り後轆轤整形 (左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類aに対比される。	
701-19	軟質陶器 椀 鉢	覆土内 破片	底 (23.0)	胎土はL類。	還元焰	灰	組作り後轆轤整形 (左回転)。 瓦胎土のI類aに対比される。	
701-20	軟質陶器 椀 鉢	覆土内 破片	底 (18.8)	胎土はC類。	還元焰	黄灰	組作り後轆轤整形 (左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のIV類に対比される。	
702-1	軟質陶器 角形火鉢	覆土内 破片	——	胎土はL類。	還元焰	灰褐	瓦胎土のI類aに対比される。	
702-2	軟質陶器 火 鉢	覆土内 足部	——	胎土はE類。	中性焰	鈍い褐	瓦胎土のI類aに対比される。	
702-3	軟質陶器 火 鉢	覆土内 破片	□ (26.0)	胎土はL類。	中性焰	わずみ	瓦胎土のI類aに対比される。	

第2節 鎌倉時代以降

702-4	軟質陶器 火鉢	覆土内 破片	底 (28.0)	胎土はJ類。	—	灰	紐作り後轆轤整形 (左回転)。 瓦胎土の目類に対比される。	
703-5 191	軟質陶器 円盤	覆土内 破片	長径 4.8 短径 4.8	白色鉱物粒子	中性焰	鈍い橙	轆轤右回転水洗成形。体部を打ち抜き円盤に 転用している。	
703-6 191	瓦(女瓦) 瓦割円盤	覆土内 完存	長径 5.3 短径 5.1	半透明鉱物粒子 多量	中性焰 焼締	鈍黄橙	古代瓦を転用。凹面布目。凸面撫で仕上げ。	吉井・藤岡系
703-7 191	瓦(龍瓦) 瓦割円盤	覆土内 完存	長径 5.4 短径 4.3	白色鉱物粒子 多量	還元焰 焼締	灰	単弁8葉の瓦当面片を転用。背面撫で。 周縁を研いでいる。	吉井・藤岡系
703-8 191	瓦(女瓦) 円盤	覆土内 完存	長径 5.1 短径 5.0	黒色粒子若干 白色粒子混入	還元焰 焼締	灰	女瓦片を転用。凹面布目。凸面鈍叩き。 周縁を打ち抜き。	秋岡系
703-11 192	瓦(女瓦) 円盤	覆土内 完存	長径 5.3 短径 4.8	白色鉱物微粒子 ・黒色粒子	還元焰 焼締	灰	女瓦片を転用。凹面布目。凸面斜格子の叩き。 周縁を打ち抜き。	笠懸系 (山内堂)
703-12 192	軟質陶器 鉢・灰皿	覆土内 破片	径 (10.2)	黒色鉱物粒子混入 (粉っぽい)	中性焰	灰黄白	上面撫で仕上げ。下面は離れ砂の痕跡あり。 推定1.7cmの孔を13ヶ穿孔する。	
703-13 192	軟質陶器 内耳鍋?	覆土内 破片	底 (19.2)	胎土はB類。	酸化焰	暗褐	紐作り後轆轤整形。(左回転)。 底部は離れ砂。	近世?
703-14 192	軟質陶器 内耳鍋形	覆土内 破片	—	白色鉱物粒子 若干・瓦質	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (左回転)。底部は離れ砂。 耳部は扁平状のものを施す。	近世
703-15 192	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	底 (34.0)	赤褐色粒子 黄色鉱物粒子多量 白色黒粒子混入	中性焰	鈍黄橙	外面立ち上がり型肌がある。内面に轆轤成 形。回転方向は不明。	近世 (吉井系?)
703-16 192	瓦 棧瓦	覆土内 破片	高 4.4	胎土はVI類。	還元焰	灰		
703-17 192	瓦 棧瓦	覆土内 破片	高 4.8	胎土はVI類。	還元焰	暗褐		
703-18 192	瓦 棧瓦	覆土内 破片	厚 1.6	胎土はVI類。	還元焰	暗褐	背面に離れ砂確認できず。撫で。9本一単位 の抜き目あり。	
703-19 192	瓦 棧瓦	覆土内 破片	厚 2.2	胎土はVI類。	還元焰	暗灰		
703-20 192	瓦 棧瓦	覆土内 破片	厚 1.6	胎土はVI類。	還元焰	暗灰	背面撫で。離れ砂確認できず。やや酸化あり。	
704-1	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	胎土はIX類。	還元焰	淡灰	離れ砂確認できず。内外側丁寧な撫でを施す。 凹面上面角が面取り。	
704-2	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.0	胎土はIX類。	還元焰	淡灰		
704-3 192	瓦 女瓦?	覆土内 破片	厚 2.0	胎土はVIII類。	還元焰	暗灰	離れ砂あり。刻印跡が小口側に正位。小口の 上段角を削る。焼締りあり。銀化あり。	
704-4	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.4	胎土はVI類。	還元焰	灰		
704-5	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	胎土はIX類。	還元焰	淡灰	内外面に離れ砂あり。一枚作り。	
704-6	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.8	胎土はVI類。	還元焰	灰		

704-7	瓦 棧瓦	覆土内 破片	厚 1.6	胎土はVI類。	還元焰	灰	背面に離れ砂あり。	
704-8	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.8	胎土はIX類。	還元焰	淡灰褐色		
704-9	瓦 棧瓦	覆土内 破片	厚 1.8	胎土はVI類。	還元焰	灰	波形。離れ砂確認できず。蓋で。有機質の付着あり。	
704-10	瓦 棧瓦	覆土内 破片	厚 1.8	胎土はVI類。	還元焰	灰	波形。離れ砂確認できず。蓋無で。外面の仕上げやや粗い。	
705-1	瓦 棧瓦	覆土内 破片	厚 1.6	胎土はVI類。	還元焰	灰	山形。背面に離れ砂あり。	
705-2	瓦 棧瓦	覆土内 破片	厚 2.0	胎土はVI類。	還元焰	灰	波形。離れ砂あり。銀化あり。	
705-3	瓦・角棧 付伏間瓦	覆土内 破片	厚 1.6	胎土はVI類。	還元焰	灰		
705-4	瓦・角棧 付伏間瓦	覆土内 破片	厚 1.6	胎土はVI類。	還元焰	灰		
705-5	瓦 棧瓦	覆土内 破片	厚 2.0	胎土はVI類。	還元焰	灰	離れ砂確認できず。蓋で。背面に一単位9条の擡き目が二段施される。銀化あり。	
706-1 193	石製 砥石	覆土内 破片	重 37.0	流紋岩 (砥沢?)	—	—	使用による磨減が著しい。砥面は丸みを帯びる。(古代のものか?)	置砥
706-2 193	石製 砥石	覆土内 破片	重 57.0	流紋岩 (砥沢?)	—	—	使用による磨減が認められる。側面部には鋸歯状(工具による)のならしあり。	手持砥
706-3 193	石製 砥石?	覆土内 片残存	重 38.0	流紋岩 (砥沢?)	—	—	使用による磨減あり。	置砥
706-4 193	石製 砥石	覆土内 完存	重 54.0	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	自然礫を使用して研磨している。顕著な磨減はない。	手持砥
706-5 193	石製 砥石	覆土内 一部欠損	重 90.0	流紋岩 (砥沢?)	—	—	使用による磨減が著しい。縦断面山形。砥面は丸みを帯びる。	手持砥
706-6 193	石製 砥石	覆土内 完存	重 86.0	流紋岩 (砥沢?)	—	—	4に同じ。	手持砥
706-7 192	石製 砥石	覆土内 片残存	重 32.4	流紋岩 (砥沢?)	—	—	使用による磨減あり。四面使用している。砥面は丸みを帯びる。	置砥
706-8 192	石製 砥石?	覆土内 片残存	重 200	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	くぼみを有している。研磨による磨減が判断しがたい。	
706-9 192	石製 砥石	覆土内 片残存	重 1240	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	断面五角形を呈する。使用による磨減は認められる。研磨主体は大きいと考えられる。	置砥
706-10	石製 磨鉢	覆土内 破片	口(26.4) 重 260	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	外面は折り畳形。内面磨減あり。	
706-11	石製 磨鉢	覆土内 破片	口(33.0) 重 570	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	外面平盤成形後、磨きにより整形。	
706-12	石製 磨鉢	覆土内 破片	口(36.0) 重 260	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	11に同じ。把手を有する。	

第2節 鎌倉時代以降

706-13	石製品 鏝	覆土内 破片	口 (38.0)	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	11に同じ。片口を有する。	
706-14	石製品 石臼	覆土内 破片	重 1020	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	粉挽臼の上臼。ふくみはややある。	
706-15	石製品 石臼	覆土内 破片	重 1080	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	粉挽臼。	
707-1	石製品 石臼	覆土内 破片	口 (34.6) 重 500	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	茶臼。下臼の受け皿部。粗い成形後、磨き整形。	
707-2	石製品 石臼	覆土内 破片	重 200	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	粉挽臼。上臼か？	
707-3	石製品 石臼	覆土内 破片	口 (29.2) (28.4) 底高 12.6	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	粉挽臼。上臼。ふくみは認められる。共給口も遺存する。	
707-4	石製品 石臼	覆土内 破片	口 (28.0) (27.2) 底高 8.0	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	粉挽臼。上臼。使用により著しく磨滅したもののか？	
707-5 193	石製品 石臼	覆土内 破片	径 29.0 重 4320	流紋岩	—	—	粉挽臼。下臼。底部側面は折り整形仕上げ。底面は鑿による平滑仕上げ。目は八分割。	
708-1	石造品 五輪塔？	覆土内 破片	重 460	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	基部だけが遺存し、上位の部分は欠損している。	空風輪？ 相輪？
708-2	石造品 五輪塔	覆土内 破片	重 460	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	軒隅部の破片。磨き整形。	火輪
708-3	石造品 五輪塔	覆土内 破片	重 940	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	磨き仕上げ。	地輪
708-4	石造品 宝篋印塔	覆土内 破片	重 280	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	中央に月輪を施す。梵字を刻むが判読できない。	塔身
708-5	石造品 宝塔	覆土内 破片	重 480	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	658-1と同一個体と思われる。	
708-6	石造品 宝篋印塔	覆土内 破片	重 340	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	磨き整形。隅部上縁の中央側は渦巻状を呈する。	隅飾突起
708-7	石造品 板碑	覆土内 破片	残存長10.0 残存巾 5.2	緑色片岩	—	—	正面は磨き仕上げ。	
708-8	石造品 板碑	覆土内 破片	残存長 9.0 残存巾 7.5	緑色片岩	—	—	7に同じ。	
708-9	石造品 板碑	覆土内 破片	残存長12.0 残存巾 8.4	緑色片岩	—	—	7に同じ。	
708-10	石造品 板碑	覆土内 破片	残存長10.0 残存巾 8.8	緑色片岩	—	—	7に同じ。	
708-11 193	石製品 孔石	覆土内 破片	孔径 6.4 重 340	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	穴部は磨滅する。	
708-12 193	石製品 孔石	覆土内 破片	孔径 6.8 重 1040	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	11に同じ。	
708-13 203	銅銭 磨首銭	覆土内 完存	—	—	—	—	キセルの磨首を押しつぶしている。	



## H区溝状 H区（1・2号井戸跡）

708-14 203	銅 鉄 寛永通宝	覆土内 完存	—	—	—	—	初跡年は不明。	
---------------	-------------	-----------	---	---	---	---	---------	--

## H区溝状遺構

掘削番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考
4号溝 709-1 193	軟質陶器 壺形火鉢	覆土内 破片	□ (46.0)	胎土はE類。	中性焼	灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。口縁部内面に菱形文を押捺する。瓦胎土のI類aに対比される。	2点の接合
4号溝 709-2 193	軟質陶器 内 耳 鍋	覆土内 破片	□ (26.7)	胎土はB類。	中性焼	黒褐	紐作り後轆轤整形(左回転)。瓦胎土のIV類に対比される。	3点の接合
4号溝 709-3 193	軟質陶器 内 耳 鍋	覆土内 破片	□ (30.0)	胎土はG類。	中性焼	黒	紐作り後轆轤整形(左回転)。瓦胎土のI類aに対比される。	5点の接合
4号溝 709-4	軟質陶器 内 耳 鍋	覆土内 破片	底 (22.0)	胎土はB類。	中性焼	明増灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。瓦胎土のIV類に対比される。	
13号溝 709-6	軟質陶器 内 耳 鍋	覆土内 破片	底 (12.8)	黒色・白色微 粒子混入	中性焼	鈍い橙	紐作り後轆轤整形(左回転)。瓦胎土のII類に対比される。	
21号溝 709-9	土師貢土器 (カツラケ) 皿	覆土内 破片	□底高 (8.0) (5.8) (2.0)	橙褐色鉱物粒 子若干	酸化焼	浅黄橙	轆轤成形(左回転)。 生地はD類。	
21号溝 709-10	土師貢土器 (カツラケ) 皿	覆土内 破片	□ (12.8)	橙褐色粒子 砂粒	酸化焼	浅黄橙	轆轤成形(左回転)。 生地はD類。	
21号溝 709-12 194	石 造 品 板 碑	覆土内 破片	残存長31.6 残存巾10.4	—	—	—	板碑を転用し、円形状に整形している。	

## H区第1・2号井戸跡

掘削番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考
1号井戸 711-1 194	土師貢土器 (カツラケ) 皿	埋土内 完形	□底高 7.6 4.9 2.4	橙褐色粒子 黒色鉱物粒子 混入	酸化焼	灰黄橙	轆轤成形(左回転)。口唇部内外面に有機質付着。生地はA類。	2点の接合
1号井戸 711-2 194	土師貢土器 (カツラケ) 皿	埋土内 瓦残存	□底高 8.5 5.4 2.6	橙褐色粒子若 干・砂粒若干	酸化焼	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	
1号井戸 711-3 194	土師貢土器 (カツラケ) 皿	埋土内 破片	□底高 (10.1) (6.4) (3.1)	橙褐色粒子若 干・砂粒若干	酸化焼	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	
1号井戸 711-4 194	土師貢土器 (カツラケ) 皿	埋土内 破片	□底高 (9.7) (6.0) (2.1)	赤褐色粒子若 干・砂粒若干	酸化焼	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	
1号井戸 711-5	土師貢土器 (カツラケ) 皿	埋土内 瓦残存	□底高 (7.5) (5.4) (2.4)	橙褐色・白色 微粒子微量	酸化焼	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	2点の接合
1号井戸 711-6	土師貢土器 (カツラケ) 皿	埋土内 ほぼ完形	□底高 7.8 5.1 2.1	橙褐色粒子若 干・砂粒混入	酸化焼	鈍い橙	轆轤成形(左回転)。 生地はA類。	
2号井戸 711-8 203	銅 鉄 神符元定	埋土内 完存	—	—	—	—	北宋銭。初跡年は1068年。	

第2節 鎌倉時代以降

H区第148号土坑

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
713-1	軟質陶器 盤形内耳	覆土内 破片	口 (22.4) (19.8) 底高 (3.6)	(胎土はJ類。)	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。 瓦胎土の耳型に対比される。	
713-2	軟質陶器 土管?	覆土内 破片	口 (17.9)	(胎土はG類。)	酸化焰	橙	紐作り後轆轤整形(右回転)。	
713-3	軟質陶器 火鉢	覆土内 破片	口 (28.0)	胎土はF類。	中性焰	褐灰	瓦胎土のIV類に対比される。 口唇部を研磨する。	
713-4	軟質陶器 土管	覆土内 破片	底 (13.0)	(胎土はG類。)	酸化焰	橙	紐作り後轆轤整形(右回転)。 内面は糠により黒色に変色している。	4点の接合
713-5	軟質陶器 土管	覆土内 破片	径 (18.0)	(胎土はE類。)	酸化焰	橙	紐作り後轆轤整形(右回転)。	3点の接合
714-12 195	石製品 石板	覆土内 破片	厚 0.25	不詳	—	—	小単位の擦痕が方向性なく入る。	
714-13 195	石製品 砥石	覆土内 破片	—	流紋岩	—	—	使用による磨減が認められる。裏面は折りの 痕跡を残す。	置砥
714-14 195	石製品 砥石	覆土内 破片	—	流紋岩	—	—	使用による磨減が認められるが、砥面は刃傷 の切先に割突されている。	置砥
714-15 195	石製品 砥石	覆土内 完存	—	泥岩	—	—	使用による磨減が認められる。ヒケ傷が多く 残る。	置砥
714-16	石製品 砥石	覆土内 破片	—	不詳	—	—	使用による磨減が認められる。	置砥
717-1 195	瓦 軒瓦	覆土内 瓦当面	高 15.2	胎土はVI類。	還元焰	灰		
717-2 195	瓦 軒瓦	覆土内 破片	—	胎土はVII類。	還元焰	淡灰		
717-3 196	瓦 軒棧瓦	覆土内 与残存	高 4.6	胎土はIX類。	還元焰	灰	瓦当意匠の第1種棧瓦瓦当。	
717-4 195	瓦 軒棧瓦	覆土内 破片	高 7.6	胎土はVI類。	還元焰	灰	外面は撫で(ミガキ)。指撫で。 瓦当意匠の第2種棧瓦瓦当。	
717-5 196	瓦 軒棧瓦	覆土内 破片	高 8.0	胎土はIX類。	還元焰	灰	外面は撫で。抜き破り痕あり。接合痕あり。	
717-6 196	瓦 軒棧瓦	覆土内 破片	高 7.6	胎土はIX類。	還元焰	灰	外面は撫で。抜き破り痕あり。接合痕あり。	
717-7 196	瓦 軒棧瓦	覆土内 破片	高 7.6	胎土はIX類。	還元焰	灰	外面は撫で。抜き破り痕あり。接合痕あり。	
717-8 195	瓦 軒棧瓦	覆土内 破片	—	胎土はIX類。	還元焰	灰		
718-1 196	瓦 軒棧瓦	覆土内 破片	高 (4.6)	胎土はVIII類。	還元焰	灰	外面は撫で(ミガキ)。抜き破り痕あり。 接合痕あり。背面に離れ破痕あり。	

## H区 (148号土坑)

718-2 196	瓦 軒 棧 瓦	覆土内 破片	—	胎土はVI類。	還元焰	純黄橙	外面は無で。
718-3 196	瓦 軒 棧 瓦	覆土内 破片	高 4.4	胎土はVII類。	還元焰	灰	内外面とも無で。
718-4 195	瓦 軒 棧 瓦	覆土内 破片	高 7.6	胎土はVI類。	還元焰	暗灰	外面は無で(ミガキ)。背面に離れ砂痕あり。 掻き盛り痕あり。
718-5 197	瓦 軒 棧 瓦	覆土内 破片	—	胎土はIX類。	還元焰	灰	凹面に離れ砂痕あり。
718-6 197	瓦 軒 棧 瓦	覆土内 破片	高 5.0	胎土はVI類。	還元焰	灰	外面は無で(ミガキ)。「梅改」の刻印あり。
718-7 197	瓦 軒 棧 瓦	覆土内 %残存	厚 1.6	胎土はVI類。	還元焰	灰	片二寸。外面は無で(ミガキ)。内面は無で銀 化あり。
719-1	瓦 軒 棧 瓦	覆土内 %残存	厚 1.6	胎土はVII類。	還元焰	灰	片二寸(山形)。背面に離れ砂あり。
719-2	瓦 軒 棧 瓦	覆土内 %残存	厚 1.8	胎土はVI類。	還元焰	暗灰	(断面山形)。背面に離れ砂あり。
719-3	瓦 軒 棧 瓦	覆土内 破片	厚 2.0	胎土はVIII類。	還元焰	灰	波形。背面に離れ砂あり。小口上段角削り。 外面やや粗い整形。
719-4	瓦 軒 棧 瓦	覆土内 破片	厚 1.6	胎土はVIII類。	還元焰	灰	波形。離れ砂確認できず。横無で。銀化あり。 小ぶりの瓦。
720-1	瓦 棧 瓦	覆土内 破片	厚 1.2	胎土はVI類。	還元焰	暗灰	片二寸(波形)。背面は横無で。離れ砂確認で きず。
720-2	瓦 棧 瓦	覆土内 破片	厚 1.8	胎土はVI類。	還元焰	暗灰	離れ砂確認できず。横無で。銀化が著しい。
720-3	瓦 棧 瓦	覆土内 破片	厚 1.8	胎土はIX類。	還元焰	灰	離れ砂確認できず。横無で。
720-4	瓦 棧 瓦	覆土内 破片	厚 1.6	胎土はIX類。	還元焰	灰	水返し付。ひっかけ付。銀化あり。
721-1	瓦 軒 棧 瓦	覆土内 破片	厚 2.0	胎土はVI類。	還元焰	灰	「梅改」の刻印あり。
721-2	瓦 棧 瓦	覆土内 破片	厚 1.8	胎土はVI類。	還元焰	暗灰	離れ砂確認できず。背面に8+α本の掻き目 あり。
721-3	瓦 棧 瓦	覆土内 破片	厚 2.0	胎土はVIII類。	還元焰	灰	背面に離れ砂あり。銀化あり。釘穴あり。
721-4	瓦 棧 瓦	覆土内 破片	厚 2.0	胎土はVI類。	還元焰	灰	背面に離れ砂あり。無で。銀化あり。
721-5	瓦 棧 瓦	覆土内 破片	厚 1.8	胎土はVI類。	還元焰	灰	離れ砂確認できず。無で。銀化あり。
722-1	瓦 女 瓦	覆土内 %残存	厚 1.8	胎土はIX類。	還元焰	灰	風化が認められる。凸面に離れ砂痕あり。
722-2	瓦 伏 間 瓦	覆土内 破片	厚 1.8	胎土はIX類。	還元焰	灰	

第2節 鎌倉時代以降

722-3	瓦 棟瓦	覆土内 破片	厚 1.8	胎土はⅧ類。	還元焰	灰	破損後、鉄錆が認められる。	
722-4	瓦 棟瓦	覆土内 破片	厚 2.0	胎土はⅥ類。	還元焰	灰	背面に離れ砂確認できず。一単位11本の掻き目を二条撫す。釘穴あり。	
722-5	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	胎土はⅨ類。	還元焰	鈍黄橙	背面に離れ砂あり。釘穴あり。	
723-1	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.0	胎土はⅦ類。	還元焰	灰	背面に刺子あり。釘穴2ヶ所あり。	
723-2	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.0	胎土はⅥ類。	還元焰	灰	背面に刺子あり。	
723-3	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.8	胎土はⅥ類。	還元焰	灰	背面に刺子あり。凸面に「吉」の刻印あり。	
723-4	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.8	胎土はⅦ類。	還元焰	灰	凸面に「小山」の刻印あり。	
723-5	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.8	胎土はⅥ類。	還元焰	灰	背面に刺子あり。	
723-6	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.0	胎土はⅥ類。	還元焰	灰	背面に刺子あり。	
724-1	瓦 角伏 付瓦	覆土内 破片	厚 2.4	胎土はⅥ類。	還元焰	灰	接合部は櫛目の掻き破り。	
724-2	瓦 角伏 付瓦	覆土内 破片	厚 2.0	胎土はⅥ類。	還元焰	灰	接合部は櫛目の掻き破り。	
724-3	瓦 鬼瓦	覆土内 破片	厚 1.8	胎土はⅦ類。	還元焰	淡灰	離れ砂に滑石の粉末を使っている。	
724-4 197	瓦 鬼瓦	覆土内 破片	厚 1.6	胎土はⅦ類。	還元焰	淡灰	3に同じ。	
724-5 197	瓦 鬼瓦	覆土内 破片	—	胎土はⅦ類。	還元焰	淡灰	3に同じ。	
724-6 197	瓦 鬼瓦	覆土内 破片	—	胎土はⅦ類。	還元焰	淡灰	3に同じ。	
724-7 197	瓦 鬼瓦	覆土内 破片	—	胎土はⅦ類。	還元焰	淡灰	3に同じ。	
724-11 198	石造品 板碑	覆土内 破片	残存長23.2 巾 16.0	緑色片岩	—	—	破片の転用。	
725-1 198	鉄製品 鎌	覆土内 完存	—	—	—	—	洋鉄。柔切り鎌。鍛えは不良。	
725-2 198	鉄製品 鎌	覆土内 一部欠損	—	—	—	—	洋鉄。鍛えは不良。	
725-3 198	鉄製品 鎌	覆土内 一部欠損	—	—	—	—	洋鉄。鍛えは不良。	
725-4 198	鉄製品 鎌	覆土内 一部欠損	—	—	—	—	洋鉄。鍛えは不良。	

## I 区溝状遺構

725-5 196	鉄製品 平 壘	覆土内 完存	—	—	—	—	木質が遺存する。最被部の断面は楕円方形。	
725-6 196	鉄製品 釘	覆土内 完存	長径 11.8	—	—	—	洋鉄。角釘。	
725-7 196	鉄製品 釘	覆土内 完存	長径 11.8	—	—	—	洋鉄。丸釘。	
725-8 196	鉄製品 釘	覆土内 完存	長径 10.4	—	—	—	洋鉄。丸釘。	
725-9 196	鉄製品 釘	覆土内 完存	長径 9.4	—	—	—	洋鉄。丸釘。	
725-10 196	鉄製品 釘	覆土内 完存	長径 9.0	—	—	—	洋鉄。角釘。	
725-11 196	鉄製品 釘	覆土内 完存	長径 6.8	—	—	—	洋鉄。角釘。	
725-12 196	鉄製品 釘	覆土内 完存	長径 6.8	—	—	—	洋鉄。角釘。	
725-13 196	鉄製品 釘	覆土内 完存	長径 6.5	—	—	—	洋鉄。角釘。	
725-14 196	鉄製品 釘	覆土内 完存	長径 6.8	—	—	—	洋鉄。角釘。	
725-15 196	鉄製品 釘	覆土内	長径 6.8	—	—	—	洋鉄。角釘。	
725-16 196	鉄製品 不詳	覆土内	長径 8.2	—	—	—	洋鉄か。	
725-17 196	鉄製品 釘	覆土内 一部欠損	—	—	—	—	洋鉄。角釘。	

## I 区溝状遺構

調査番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考
6号溝 728-3	土師瓦土器 (カブツケ) 皿	覆土内 破片	□ (6.8) 底高 (6.0) (1.5)	赤褐色粒子散 量	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形 (左回転)。 生地はD型。	
6号溝 728-4	軟質陶器 播 鉢	覆土内 破片	底 (16.0)	胎土はG型。	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI型aに対比される。	
8号溝 728-8	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	□ (28.8)	胎土はN型。	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI型類に対比される。	
8号溝 728-11	軟質陶器 播 鉢	覆土内 破片	—	胎土はC型。	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (左回転)。上面の三辺に研 きあり。転用か。瓦胎土のIV型類に対比される。	
8号溝 728-14	軟質陶器 播 鉢	覆土内 破片	底 (10.0)	胎土はC型。	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のIV型類に対比される。	
2号溝 728-22 203	銅 鉄 至和元瓦	覆土内 完存	—	—	—	—	北宋銭。初铸年は1054年。	

第2節 鎌倉時代以降

8号溝 728-23 203	厨 鏡 ?定?宝	覆土内 片残存	—	—	—	—	高定蓮宝か? (南宋銭・初鑄年は1208年か?)	
----------------------	-------------	------------	---	---	---	---	--------------------------	--

I区第5・7号井戸跡

検出番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考
5号井戸 731-1 199	鉄製 鋸 刃	埋土内 完存	重 130	—	—	—	調化著しい。考察参照。	
7号井戸 732-3 199	軟質陶器 内 耳 鍋	埋土内 片残存	口 (31.0)	胎土はG類。	中性焰	褐灰	紐作り後継継整形(左回転)。 瓦胎土のI類*に対比される。	8点の復原 実例

J区第4号溝状遺構

検出番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考
733-4 199	石造 品 板 碑	覆土内 破片	残存長10.4 残存巾 8.0	緑色片岩	—	—	石の目の節理面での刻線か?	
733-5 199	石造 品 五 輪 塔	覆土内 一部欠損	巾 25.2 高 14.0	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	空風輪の基部の挿入部は丸型による成形。 外面は磨き整形。	火輪
733-6 199	石造 品 五 輪 塔	覆土内 一部欠損	巾 22.0 高 12.0	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	5に同じ。	火輪

J区第51号址

検出番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考
736-1 199	軟質陶器 罌	覆土内 破片	口 (41.0)	白色・黒色鉱 物粒子若干	中性焰	鈍赤褐	継継成形(右回転)。 (鍋の罌か。)	在地系

遺構外

検出番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考
737-1	土師質土器 (カクラク) 皿	F区不明 破片	口 (6.6) 底 (4.4) 底 高 (1.9)	橙褐色粒子若 干	酸化焰	灰白	継継成形(左回転)。 生地はD類。	
737-2	土師質土器 (カクラク) 皿	F区不明 破片	底 (3.8)	砂粒若干	酸化焰	浅黄橙	継継成形(左回転)。 生地はD類。	
737-3 200	土師質土器 (カクラク) 皿	F区表土 ほぼ完形	口 7.2 底 4.0 底 高 1.7	砂粒混入・赤 褐色粒子若干	酸化焰	鈍い橙	継継成形(左回転)。 生地はA類。	
737-4	土師質土器 (カクラク) 皿	F区表土 破片	口 (6.8) 底 (4.2) 底 高 (1.8)	赤褐色粒子 砂粒若干	酸化焰	浅黄橙	継継成形(左回転)。 生地はD類。	
737-5	土師質土器 (カクラク) 皿	F区表土 片残存	口 (7.4) 底 (4.5) 底 高 (1.9)	赤褐色粒子 砂粒若干	酸化焰	鈍い橙	継継成形(左回転)。 生地はA類。	
737-6	土師質土器 不 詳	G区表土 破片	口 (8.1)	砂粒混入	酸化焰	灰白	研き整形。	

## I区(5・7号井戸跡) J区(4号溝、51号址) 遺構外

737-7	土質土層 (カワラテ) Ⅲ	G区表土 破片	口 底高	(8.9) (4.8)	赤褐色鉱物粒 子・砂粒若干	酸化焰	鈍い橙	縦縞成形(左回転)。口唇部に有機質付着。 生地はB類。	2点の接合
737-8	土質土層 (カワラテ) Ⅲ	F区表土 破片		(9.0)	シルト粗粒子 白色鉱物粒子若干	酸化焰	鈍い橙	縦縞成形(左回転)。 生地はD類。	
737-9	土質土層 (カワラテ) Ⅲ	G区6井 戸 破片	底	(4.5)	砂粒多量	酸化焰	鈍い橙	縦縞成形(左回転)。静止未切り。 生地はA類。	
737-10	土質土層 環	G区6井 戸 破片	口	(9.9)	砂粒混入・白 色微粒子多量	酸化焰	鈍い橙	縦縞成形(右回転)。 生地はB類。	平安時代の 遺物
727-11	土質土層 (カワラテ) Ⅲ	F区43址 破片	口	(11.0)	褐色色粒子 砂粒	酸化焰	鈍い橙	縦縞成形(左回転)。口唇部に有機質付着。 生地はD類。	
737-12	土質土層 (カワラテ) Ⅲ	F区表土 破片	口 底高	(11.8) (6.0) (2.8)	赤褐色粒子 砂粒混入	酸化焰	鈍い橙	縦縞成形(左回転)。内面やや磨減。 生地はA類。	
737-13	土質土層 (カワラテ) Ⅲ	G区表土 破片	口	(11.9)	暗赤褐色粒子 若干	酸化焰	浅黄橙	縦縞成形(左回転)。 生地はD類。	
737-14	土質土層 (カワラテ) Ⅲ	F区 103 坑 破片	口	(12.0)	赤褐色粒子微 量・砂粒若干	酸化焰	鈍い橙	縦縞成形(左回転)。 生地はD類。	
737-15	土質土層 (カワラテ) Ⅲ	G区表土 片残存	底	(6.9)	赤褐色粒子微 量	酸化焰	鈍い橙	縦縞成形(左回転)。 生地はA類。	2点の接合
737-16	土質土層 (カワラテ) Ⅲ	F区表土 破片	口 底高	(12.1) (8.1) (2.2)	シルト粗粒子 混入	酸化焰	鈍い橙	縦縞成形(左回転)。 生地はA類。	
737-17	土質土層 (カワラテ) Ⅲ	F区表土 破片	口	(14.0)	砂粒混入	酸化焰	鈍い橙	縦縞成形(左回転)。 生地はD類。	
737-18	土質土層 (カワラテ) Ⅲ	G区表土 片残存	口 底高	(15.1) (8.2) (3.4)	シルト粗粒子 若干	酸化焰	鈍い橙	縦縞成形(左回転)。 生地はD類。	3点の接合
737-19	土質土層 (カワラテ) Ⅲ	F区表土 破片	口 底高	(15.1) (9.0) (3.5)	赤褐色粒子微 量・砂粒若干	酸化焰	鈍い橙	縦縞成形(左回転)。 生地はD類。	
737-20	土質土層 (カワラテ) Ⅲ	F区表土 破片	底	(7.0)	赤褐色粒子微 量・白色粒子	酸化焰	鈍い橙	縦縞成形(左回転)。 生地はD類。	
737-21	軟質陶器 撚 鉢	F区表土 破片	口	(30.0)	胎土はJ類。	還元焰	灰	紐作り後縦縞成形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類*に対比される。	
737-22	軟質陶器 撚 鉢	G区 133 住 破片	口	(30.6)	胎土はG類。	中性焰	明赤褐	紐作り後縦縞成形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類*に対比される。	
737-23	軟質陶器 撚 鉢	G区表土 破片	口	(33.8)	胎土はG類。	中性焰	褐灰	紐作り後縦縞成形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類*に対比される。	
737-24	軟質陶器 撚 鉢	G区表土 破片	口	(21.9)	胎土はG類。	中性焰	黒褐	紐作り後縦縞成形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類*に対比される。	
737-25	軟質陶器 撚 鉢	G区表土 破片	口	(39.6)	胎土はE類。	還元焰	黄灰	紐作り後縦縞成形(左回転)。口唇部内面磨減。 瓦胎土のI類*に対比される。	
737-26	軟質陶器 撚 鉢	J区表土 破片	—	—	胎土はJ類。	中性焰	褐灰	紐作り後縦縞成形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類*に対比される。	
737-27	軟質陶器 撚 鉢	G区98址 覆土破片	—	—	胎土はG類。	還元焰 焼締	黄灰	紐作り後縦縞成形(左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類*に対比される。	

## 第2節 鎌倉時代以降

737-28	軟質陶器 鉢	G区6井 戸 破片	□ (18.5)	胎土はA類。	酸化焰	褐灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。被熱の痕跡あり。瓦胎土のV類に対比される。	近世?
737-29	軟質陶器 鉢	G区4井 戸 破片	□ (18.8)	胎土はA類。	酸化焰	灰褐	紐作り後轆轤整形(左回転)。被熱の痕跡あり。瓦胎土のV類に対比される。	28と同一2 点の接合
738-1	軟質陶器 鉢	F区表土 破片	□ (48.6)	胎土はB類。	中性焰	鈍い橙	紐作り後轆轤整形(左回転)。瓦胎土のIV類に対比される。	
738-2	軟質陶器 内耳 鉢	G区71坑 破片	底 (28.8)	胎土はJ類。	中性焰	褐灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。瓦胎土のII類に対比される。火鉢か?	
738-3	軟質陶器 擂 鉢	G区141 住 破片	□ (34.0)	胎土はH類。	還元焰	鈍い褐	紐作り後轆轤整形(左回転)。瓦胎土のI類bに対比される。	
738-4	軟質陶器 擂 鉢	G区溝 破片	□ (37.0)	胎土はE類。	中性焰	褐灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。瓦胎土のI類aに対比される。	
738-5	軟質陶器 焙 烙	G区表土 破片	□ (43.5)	703-14と同一	還元焰	黒	紐作り後轆轤整形(左回転)。	近世
738-6	軟質陶器 内耳 鉢	G区表土 破片	□ 表高 (29.3) (25.8) (12.6)	(胎土はE類、 697-6と同一)	酸化焰	鈍赤褐	紐作り後轆轤整形(左回転)。底部に離れ砂あり。	
738-7	軟質陶器 焙 烙	G区表土 破片	□ (34.7)	白色粒子混入 黒色微粒子若干	酸化焰	鈍い橙	紐作り後轆轤整形(左回転)。底部に離れ砂あり。器外面に管付状植物多量に付着。	
738-8	軟質陶器 鉢	G区表土 破片	□ (39.4)	703-14と同一	還元焰	暗灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。	近世 9・ 10と同一個 体?
738-9	軟質陶器 鉢	G区表土 破片	—	703-14と同一	還元焰	黒	紐作り後轆轤整形(左回転)。	近世 8・ 10と同一個 体?
738-10	軟質陶器 鉢	G区表土	底 (16.0)	703-14と同一	還元焰	暗灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。	近世 8・ 9と同一個 体?
738-11	軟質陶器 火 鉢	I区表土 破片	□ (22.4)	胎土はF類。	還元焰	白灰	瓦胎土のIV類に対比される。口縁部外面に格子文を押捺する。	1-612-12 と同一個 体?
738-12	軟質陶器 角形火鉢	I区表土 破片	—	胎土はM類。	中性焰	褐灰	瓦胎土のV類に対比される。方形火鉢。底部に離れ砂あり。	
741-18 202	瓦 軒 枝 瓦	H区表土 破片	高 7.6	胎土はVI類。	還元焰	灰	瓦当彫は第7種様瓦当。	
741-19 201	瓦 丸 付 伏 瓦	H区151 付 破片	厚 1.8	胎土はVII類。	還元焰	灰	外面は磨き。	
741-20 201	石 製 品 硯	I区覆土 破片	—	不詳	—	—	二次的な傷が多い。	
741-21 200	石 製 品 硯	G区141 住一部欠	—	不詳	—	—	湾曲している。砥成の面は三条の浅い窪状になっている。研磨主体はこの市に見合うものと思われる。	手持砥
741-22	石 製 品 石 臼	F区表土 破片	□ (36.0)	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	茶臼の受け皿部。内外面ともに叩成形後、磨き整形を施している。	
742-1 202	石 造 品 宝篋印塔	J区表土 完存	巾 32.4 高 22.0	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	露盤は四段。潤飾突起は外傾して立ち上がり、上縁は括れを有する弧線を生じ、外面磨き整形。	笠
742-2 200	石 造 品 五輪塔	J区表土 完存	重巾 6540 23.2 12.2	輝石安山岩	—	—	笠部に梵字状の模刻を施すが判読不能。外面磨き整形。空風輪の基部は細い丸盤整形。	火輪



## 遺構外

742-3 201	石造品 類	J区表土 破片	重 2580	輝石安山岩 (粗粒)	—	—	J区に存在した神明宮の額と考えられる。正面は磨き整形後、赤色顔料を塗彩する。背面は平鑿の成形仕上げ。	
743-1	鉄製品 釘?	G区36住 覆土破片	—	—	—	—	断面四角形を呈する。先端部は折れ曲がる状態であり、欠損する。鍛えは普通。	
743-2 203	銅銭 天聖元宝	F区表土 完存	—	—	—	—	北宋銭。初鑄年は1023年。	
743-3 203	銅銭 治平通宝	G区トレ ンチ破片	—	—	—	—	北宋銭。初鑄年は1064年。	
743-4 203	銅銭 元豊通宝	I区表土 完存	—	—	—	—	北宋銭。初鑄年は1078年。	
743-5 203	銅銭 元祐通宝	G区表土 完存	—	—	—	—	北宋銭。初鑄年は1093年。	
743-6 203	銅銭 元祐通宝	G区表土 一部欠損	—	—	—	—	北宋銭。初鑄年は1093年。	
743-7 203	銅銭 元符通宝	F区II層 片残存	—	—	—	—	北宋銭。初鑄年は1098年。	
743-8 203	銅銭 政和通宝	G区表土 一部欠損	—	—	—	—	北宋銭。初鑄年は1111年。	
743-9 203	銅銭 永樂通宝	G区表土 完存	—	—	—	—	北宋銭。初鑄年は1408年。	
743-10 203	銅銭 寛永通宝	I区表土 完存	—	—	—	—	寛永銭は鑄造場所が判断されない限りその個体の初鑄年代は明らかにし難い。また、寛永銭が江戸時代を通じ主たる流通貨幣であった点もあり、江戸時代260年間での存在は考えられるが、上述のように鑄造期間が長いため鑄造地の判別が必須である。 上述の点から当該の寛永通宝は現状で江戸時代の(260年間)時間内での存在としておく。	
743-11 203	銅銭 寛永通宝	J区9住 完存	—	—	—	—		
743-12 203	銅銭 寛永通宝	J区II層 完存	—	—	—	—		
743-13 203	銅銭 寛永通宝	J区不明 完存	—	—	—	—		
743-14 203	銅銭 寛永通宝	J区表土 完存	—	—	—	—		
743-15 203	銅銭 寛永通宝	I区表土 完存	—	—	—	—		
743-16 203	銅銭 祥符元宝?	I区II層 片残存	—	—	—	—		北宋銭。初鑄年は1008年。
743-17 203	貨幣 一銭銅貨	G区表土 完存	—	—	—	—	明治時代。初鑄年は明治16年。	
743-18 203	貨幣 一銭銅貨	F区表土 完存	—	—	—	—	大正時代。初鑄年は大正10年。	
743-19 203	アルミ貨 一銭	G区表土 完存	—	—	—	—	昭和時代。初鑄年は不詳(昭和17~20年)。	

## 第2節 鎌倉時代以降

## 南側調査区遺構外

探検番号 図面番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
744-1	土師瓦土器 (カワラケ) 皿	C区1坑 瓦残存	口 底 高 14.9 7.6 4.5	シルト粗粒子多量 黒色泥物粒子多量	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形 (左回転)。 生地はA類。	23点の接合
744-3	土師瓦土器 足高両台碗	D区8基 完形	口 底 高 14.7 8.7 5.1	白色泥物粒子多量 黒色泥物粒子多量 赤褐色粒子若干	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形 (右回転)。 生地はA類。	3点の接合 吉井・藤岡系
744-4	土師瓦土器 (カワラケ) 完形	D区8基 完形	口 底 高 9.0 4.8 2.7	白色泥物粒子多量 黒色泥物粒子多量 赤褐色粒子若干	酸化焰	鈍い橙	轆轤成形 (右回転)。底部に離れ砂付着。 生地はA類。	吉井系
745-1	軟質陶器 鉢	IVB 1〜 2・破片	口 (36.6)	胎土はC類。	還元焰	暗灰	紐作り後轆轤整形 (左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のIV類に對比される。	
745-2	軟質陶器 鉢	43-C- 1・破片	底 (14.0)	胎土はG類。	中性焰	橙	紐作り後轆轤整形 (左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類に對比される。	
745-10	軟質陶器 不明	C区西南 破片	底 (7.9)	胎土はH類。	還元焰	鈍灰	外面僅で整形。内面は簀な顔で、中心部に正 方形の未貫通孔に更に円形状の穿孔を施す。	
746-1	土師瓦土器 (カワラケ) 皿	C区西南 瓦残存	口 底 高 7.9 5.1 2.0	赤褐色粒子若 干	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形 (左回転)。 生地はA類。	3点の接合
746-2	土師瓦土器 (カワラケ) 皿	C区西南 瓦残存	口 底 高 11.5 6.0 3.5	砂粒多量 シルト粗粒子	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形 (左回転)。 生地はA類。	19点の接合
746-3	土師瓦土器 (カワラケ) 皿	C区西南 瓦残存	口 底 高 11.6 5.0 3.1	砂粒多量 シルト粗粒子	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形 (左回転)。 生地はA類。	18点の接合
746-4	土師瓦土器 (カワラケ) 皿	C区表土 瓦残存	口 底 高 (12.8) (8.0) (3.3)	砂粒若干	酸化焰	黄橙	轆轤成形 (左回転)。内面は剥落が多い。 生地はA類。	
746-5	軟質陶器 内耳鍋	VE-2 破片	—	胎土はC類。	中性焰	浅黄橙	紐作り後轆轤整形 (左回転)。 瓦胎土のIV類に對比される。	
746-6	軟質陶器 内耳鍋	C41-C —2破片	—	胎土はE類。	中性焰	橙	紐作り後轆轤整形 (左回転)。 瓦胎土のI類に對比される。	
746-7	軟質陶器 内耳鍋	C区表土 破片	口 (27.8)	胎土はG類。	酸化焰	橙褐	紐作り後轆轤整形 (左回転)。 瓦胎土のI類に對比される。	2点の接合
746-8	軟質陶器 内耳鍋	C区表土 破片	口 (26.0)	胎土はC類。	中性焰	灰黄褐	紐作り後轆轤整形 (左回転)。 瓦胎土のIV類に對比される。	
746-9	軟質陶器 内耳鍋	IV 4-C 破片	口 (30.0)	胎土はG類。	還元焰	暗灰	紐作り後轆轤整形 (左回転)。 瓦胎土のI類に對比される。	
746-10	軟質陶器 内耳鍋	D区表土 破片	口 (26.0)	胎土はJ類。	還元焰	鈍黄橙	紐作り後轆轤整形 (左回転)。 瓦胎土のII類に對比される。	
746-11	軟質陶器 内耳盤形	C41-C —02破片	—	胎土はC・G 類。	中性焰	黄橙	紐作り後轆轤整形 (左回転)。 瓦胎土のI類に對比される。	
746-12	軟質陶器 撰鉢	C41-C —2破片	—	胎土はG類。	酸化焰	浅黄橙	紐作り後轆轤整形 (左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のI類に對比される。	
746-13	軟質陶器 撰鉢	IV表土 破片	口 (34.4)	胎土はC類。	中性焰	橙	紐作り後轆轤整形 (左回転)。内面は磨減。 瓦胎土のIV類に對比される。	

## 南側調査区遺構外 F区 (1号溝)

746-14	軟質陶器 罎 鉢	表土 破片	□ (34.3)	胎土はE類。	還元焰	灰褐	扭作り後繼續整形 (左回転)。内面は磨減。瓦胎土のI類aに対比される。	
746-15	軟質陶器 罎 鉢	C45・18 皿破片	□ (34.2)	胎土はG類。	還元焰	暗灰	扭作り後繼續整形 (左回転)。内面は磨減。瓦胎土のI類aに対比される。	
746-16	軟質陶器 罎 鉢	V1B 破片	□ (38.0)	胎土はG類。	還元焰	暗灰 黄橙	扭作り後繼續整形 (左回転)。瓦胎土のI類aに対比される。	

## 陶器・磁器観察表

## F区第1号溝状遺構

陶器番号 調査区 調査番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	摘 要	備 考
陶-2 609-19 175	火締陶器 大 壺	覆土内 口縁部片		密	軟	褐	頸部に口縁部が貼り付き若干の空洞が見られる。常滑焼IV期。	常滑焼 14C後半
陶-3 609-20 175	火締陶器 大 壺	覆土内 口縁部片		密	並	暗褐	頸部に口縁部が付く、空洞は認められない。常滑焼V期。	常滑焼 15C後半
陶-4 609-21 176	火締陶器 大 壺	覆土内 肩部片		密	硬	褐	大壺の肩部上方の破片で大きな印が施され、内面に紐作痕あり。	常滑焼 14・15C
陶-5 610-1	火締陶器 罎	覆土内 底部片	底 (13.9)	密	並	赤褐	外面がカサケ。底面に僅ながら砂の付着あり。底と体部との接合面あり。	常滑焼 13~16C
陶-6 610-9 176	火締陶器 壺	覆土内 体部片		密	軟	赤褐	内面に紐作痕あり。外面に4と類似の印が施されている。	常滑焼 14・15C
陶-7 610-10	火締陶器 大 壺	覆土内 体部片		密	並	赤褐	内面に紐作痕あり。外面に整形及び刷状の工具整形痕あり。	常滑焼 13~16C
陶-8 610-11	火締陶器 壺	覆土内 底部片	底 (6.4)	密	焼締	淡褐	壺の体部下半から底部片で内面に自然輪あり。底面に砂付着。	常滑焼 14・15C
陶-9 610-12	施釉陶器 耳 壺	覆土内 底部片	底 (12.3)	密	並	淡黄	底面に轆轤右回りの糸切り痕あり。内部に磨痕。外面に浸掛による錆色の鉄釉が施される。	瀬戸美濃 15・16C
陶-10 610-13	火締陶器 大 壺	覆土内 底部片	底 (18.5)	密	硬	褐	底面に石英を多く含む砂付着。外面に磨痕あり。割れ口に底の接合面あり。	常滑焼 13~16C
陶-11 610-14	施釉陶器 瓶 壺	覆土内 体部片		並	硬	淡灰	外面に厚い灰釉が施され淡緑色を呈し、他は安定している。内面に扭作後の水挽成形。	瀬戸美濃 14・15C
陶-12 610-15 176	施釉陶器 鉢	覆土内 体部片		並	並	淡灰	外面下半が露出となり、他は淡緑色の灰釉が刷毛塗りがされる。	瀬戸美濃 15C
陶-13 610-16 176	施釉陶器 鉢	覆土内 口縁部片	□ (33.9)	並	並	淡灰	体部上半に淡黄緑色の灰釉が施され、全体にカサケ気味である。	瀬戸美濃 15C前半
陶-14 610-17 176	施釉陶器 即 皿	覆土内 体部片	底 (11.6)	並	並	淡灰	体部外面下方が露出となり、他は淡緑色を呈する灰釉が刷毛塗りがされる。	瀬戸美濃 15C
陶-15 610-18 176	施釉陶器 罎	覆土内 底部片	底 (6.3)	並	並	淡灰	高台端部から外面・内面に淡黄緑色の灰釉が施される。	瀬戸美濃 17C

## 第2節 鎌倉時代以降

陶-16 611-1 176	施釉陶器 鉢	覆土内 底部片	底 (15.8)	並	並	淡灰	外面体部下平が露出となり、他は淡黄緑色の 灰釉が刷毛塗される。	瀬戸美濃 15C
陶-17 611-2 176	施釉陶器 碗	覆土内 口縁部片		並	並	淡灰	内外面に暗黒褐色を呈する天目釉が施され る。口縁端部は尖る。	瀬戸美濃 16C前半
陶-18 611-3 176	施釉陶器 耳 壺	覆土内 体部片		密	硬	淡灰	外面に黒褐色を呈し、刷毛塗による鉄釉が施 される。内面に轆轤目が立立つ。	瀬戸 16C
陶-19 611-4 176	施釉陶器 耳 壺	覆土内 体部片		密	硬	淡灰褐	外面に黒褐色を呈する鉄釉が施される。内面 に紐作後の水洗痕あり。	不詳 17C
陶-20 611-5 176	施釉陶器 皿	覆土内 口縁部片	口 (11.8)	並	並	淡灰	端反りの皿の口縁部片で内外面施釉。釉は薄 く安定していない。	美濃 16C前半
陶-21 611-6 176	施釉陶器 皿	覆土内 底部片	底 (6.3)	並	並	淡黄灰	厚い志野釉が全面に施される。高台部は削出 し。	美濃 16C後半
陶-22 611-7 176	施釉陶器 皿	覆土内 底部片		並	並	淡黄灰	内外面に厚い志野釉が施される。底部調整か ら察すれば美濃大衆のIV・Vか。	美濃 16C後半
陶-23 611-8 176	磁 器 重ね鉢	覆土内 口縁から 体部片		並	並	白	色絵磁器で赤・淡緑・紫・金三彩が上絵とな り、下絵に染付。金彩から銀手。	伊万里焼 18C
陶-24 611-9 176	施釉陶器 碗	覆土内 口縁部片	口 (11.8)	並	並	淡灰	内外面に透明釉が施され、外面口縁部下に染 付が施される。	唐津系 18C
陶-25 611-10 176	磁 器 小 碗	覆土内 口縁部片		並	並	白	内外面に自然釉が施され、外面に山伏須によ る染付が施される。	伊万里 18C
陶-26 611-11 176	施釉陶器 碗	覆土内 口縁部片		並	並	淡灰	内外面に透明釉が施され、外面口縁部下に須 須による染付が施される。	唐津系 18C
陶-27 611-12 176	施釉陶器 小 碗	覆土内 底部片	底 (3.0)	並	並	淡灰	内面に長石釉が施され、他は露胎となる。高 台は貼り付。	京焼系 18C
陶-28 611-13 176	磁 器 鉢	覆土内 口縁部片		並	並	淡灰白	青磁である。内外面に厚く淡黄緑色を呈し、 天龍寺手の色合いとなる。元代。	龍泉窯系 14C
陶-29 611-14 176	磁 器 皿	覆土内 底部片	底 (4.2)	並	並	淡灰白	内面及び外面体部上半に薄い白磁釉が施され る。高台に特徴的な例込あり。	中国 15C
陶-30 611-15 176	磁 器 皿	覆土内 口縁部片	口 (10.8)	並	並	淡灰白	内外面に白磁釉が施される。下半部を察すれ ば24と同様であるが別個体である。	中国 15C

## F区第2号溝状遺構

陶器番号 調査番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	摘 要	備 考
陶-31 617-10 177	焼締陶器 大 壺	覆土内 肩部片		並	並	淡灰	外面は淡褐色に酸化し格子印が施される。内 面に紐作痕と指頭正痕あり。	常滑焼 14C
陶-32 617-11 177	磁 器 碗	覆土内 体部片		並	並	淡灰	内外面にオリーブ色を呈する青磁釉が薄く施 される。内面に劃文が施される。	龍泉窯系 13C
陶-33 617-12 177	磁 器 鉢	覆土内 体部片		並	並	淡暗灰	体部外面下半を除いて淡黄緑色の灰釉が刷毛 塗される。	瀬戸美濃 15C

## F区(2・3・6・8号溝)

陶-34 617-13 177	磁器 皿	覆土内 口縁部片	口(9.2)	並	並	淡乳白	体部下半を除いて白磁釉が施される。体部 下半から察すれば29・30と同様。	中国 15C
陶-35 617-14 177	磁器 碗	覆土内 体部片		並	並	淡灰	内外面に淡灰色を呈する青磁釉が施される。 外面に菊手刺花蓮弁文あり。	龍泉窯系 13C

## F区第3号溝状遺構

陶器番号 器種 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	摘要	備考
陶-36 622-2	焼締陶器 壺	覆土内 体部片		並	並	暗褐	外面に僅ながら自然釉が認められ擦痕あり。 内面に紐作痕と指頭圧痕あり。	常滑焼 13~16C
陶-37 622-3	焼締陶器 壺	覆土内 体部下平 片		並	並	暗褐	内外面は酸化気味である。内外面に擦痕あり。 破片の器内からすればいまま少しで底部か。	常滑焼 13~16C
陶-38 622-4	焼締陶器 壺	覆土内 体部下平 片		並	硬	暗灰	内外面に自然釉が厚くおよぶ。破片の器内か らすればいまま少しで底部か。	常滑焼 13~16C
陶-39 622-5	焼締陶器 壺	覆土内 体部下平 片	底(24.3)	並	軟	暗灰	内外面は僅に酸化気味。外面に工具による擦 痕あり。内面に指頭圧痕あり。底面に砂付着。	常滑焼 13~16C
陶-40 622-6 178	施釉陶器 碗	覆土内 口縁から 体部片		密	硬	淡灰	外面体部下平を除いて内外面に暗黒褐色の天 目釉が施される。	瀬戸 15C後半
陶-41 622-7 178	施釉陶器 瓶	覆土内 体部片		密	並	淡黄灰	梅瓶が判別しがたい器形状で、外面に三条の 浅い沈線がつく。釉は黄灰色を呈する灰釉。	不詳 17C以降
陶-42 622-8 178	磁器 皿	覆土内 底部片		密	硬	淡灰	内外面に淡灰緑色の青磁釉が厚く施される。 内面に使用時の擦痕が見られる。	龍泉窯系 13・14C
陶-43 622-9 178	磁器 碗	覆土内 口縁部片	口(14.0)	密	並	淡灰	内外面に厚く淡緑色の青磁釉が施される。外 面に刺花文で蓮弁を施す。明代。	龍泉窯系 15C

## F区第6号溝状遺構

陶器番号 器種 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	摘要	備考
陶-44 624-17 179	施釉陶器 碗	覆土内 底部片	底(5.2)	密	硬	淡灰	平碗。内面に淡緑色の灰釉が施される。底面 は磨輪右回転の糸切後。高台を削出す。やや 酸化気味。	瀬戸 15C後半
陶-45 624-20 179	施釉陶器 碗	覆土内 底部片	底(5.0)	密	硬	淡灰	外側体部下平を除いて鮮やかな淡緑色を呈す る灰釉が施され、全体的にやや酸化。高台は 糸切後、削出す。	
陶-46 624-21 179	施釉陶器 碗	覆土内 口縁部片	口(25.2)	密	硬	淡灰	平碗。内外面に淡暗緑色の灰釉が施される。 口縁部の端反が特徴的。	瀬戸 15C後半

## F区第8号溝状遺構

陶器番号 器種 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	摘要	備考
陶-47 625-1 179	施釉陶器 碗	覆土内 口縁部片	口(15.6)	密	並	淡灰白	内外面に暗黒褐色の天目釉が施される。体部 外面下半に僅ながら糸目状態がある。	瀬戸 15C後半

第2節 鎌倉時代以降

F区第54号址

陶器番号 検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	摘 要	備 考
陶-48 632-7 180	焼締陶器 壺	覆土内 口縁部片	□ (37.8)	密	硬	暗黒灰	内外面に淡緑色の自然釉がおよぶ。全体的に酸化。常滑焼田期。	常滑焼 13C後半

F区第1号埋設陶器

陶器番号 検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	摘 要	備 考
陶-49 647-1 181	施釉陶器 小 壺	覆土内 口縁部欠損	□ (15.6)	密	並	淡灰褐	内面に柿釉、口縁部内外に鉄釉。外面に鉛釉を下地とし白土、淡緑色釉が施される。	松代焼か 19C

F区第2号并戸跡

陶器番号 検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	摘 要	備 考
陶-50 639-1	焼締陶器 壺	埋土内 体部片		並	並	淡褐	内外面に擦痕あり。内面に組作痕と指頭圧痕あり。	常滑焼 14・15C
陶-51 639-2	焼締陶器 壺	埋土内 体部片		並	並	淡褐	内外面に擦痕あり。内面に組作痕と指頭圧痕あり。	常滑焼 14・15C

G区第2号溝状遺構

陶器番号 検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	摘 要	備 考
陶-52 650-16 181	焼締陶器 大 壺	覆土内 口縁部片		並	軟	淡暗褐	内外面は僅に酸化気味。内外面に横溝であり、常滑焼田期。	常滑焼 14C前半
陶-53 650-17 181	磁 器 鉢	覆土内 口縁部片	□ (23.2)	密	並	淡灰	内外面に淡灰緑色の青磁釉が厚く施される。元代。	瓶泉窯系 14C

G区第20号溝状遺構

陶器番号 検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	摘 要	備 考
陶-54 652-9	焼締陶器 壺	覆土内 体部片		並	並	暗黒灰	内外面に擦痕あり。内面に組作痕と指頭圧痕あり。	常滑焼 13~16C
陶-55 652-10	焼締陶器 壺	覆土内 体部片		並	硬	淡灰	全体的に器表面は酸化し、外面に自然釉がおよぶ。内面に指頭圧痕あり。	常滑焼 13・14C
陶-56 652-11	焼締陶器 壺	覆土内 底部片	底 (14.0)	並	軟	赤褐	内外面器内とも強く酸化。内面にカセ顯著。底面に砂付着。*	常滑焼 13~16C
陶-57 652-12 182	施釉陶器 皿	覆土内 口縁部片	□ (13.6)	密	硬	淡灰	体部下半を除いて内外面に淡緑色の灰釉が施される。釉は安定。	瀬戸 <sup>1)</sup> 15C後半

F区(54号址、1号埋設陶器、2号井戸跡) G区(2・20・34号溝、溝状遺構)

陶-58 652-13 182	施軸陶器 片口皿	覆土内 口縁部片	口(20.4)	並	並	淡黄灰	体部下半を除いて内外面に灰軸が施される。 貼り付による片口あり。	瀬戸黄瀬 15C後半
陶-59 652-14 182	施軸陶器 鉢	覆土内 底部片	底(13.0)	並	並	淡灰	体部下半を除いて刷毛塗による淡緑色の灰 軸が施される。釉液は鉄沈状に酸化。	瀬戸黄瀬 15C
陶-60 652-15 182	施軸陶器 襷鉢	覆土内 体部片		密	並	暗黒褐	外面に茶褐色の鉄軸が施され、内面は還元気 味に酸化し工具による細かな節目あり。	不詳 18C以降
陶-61 652-16 182	施軸陶器 碗	覆土内 口縁部片	口(12.2)	並	並	淡黄灰	内外面に長石軸が施される。口縁部は直口気 味となる。	京焼系 17C後半
陶-62 652-17 182	磁器 碗	覆土内 底部片	底(5.0)	密	並	淡灰	高台端部から内面を除き、内外面に淡緑色の 青磁軸が厚く施軸される。内面に印花文あり。	龍泉窯 13C
陶-63 652-18 182	磁器 皿	覆土内 底部片	底(6.8)	密	並	淡灰	底部を除き、白磁軸が施軸される。軸は透明 感の強い淡灰色を呈す。	中国 13C
陶-64 652-19 182	磁器 大皿	覆土内 底部片	底(10.5)	並	並	淡灰	高台内面を除き、内外面に厚い淡緑灰色の青 磁軸が施される。	龍泉窯系 14C
陶-65 652-22 182	道具、御 弾・碁石	覆土内 完品	径(0.8)	ガラス		白	表面割漆類著なガラス製品で緑目があり、古 代ガラスの碁石近代以降の御弾か。風化によ る古びは古く見えるため後日再検討。	古代～近代 不詳

G区第34号溝状遺構

陶器番号 埋設品番号 調査番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	摘要	備考
陶-66 656-5	施軸陶器 壺	覆土内 体部片		並	並	暗灰	内外面に擦痕あり。内面に指頭圧痕あり。器 面全体は僅に酸化。	常滑焼 13～16C
陶-67 656-6 182	施軸陶器 大形耳壺	覆土内 肩部片		密	並	灰	外面に暗黒褐色の鉄軸が施される。内面は水 洗による成形。	中国 15・16C
陶-68 656-7 182	施軸陶器 鉢	覆土内 体部片		並	並	淡黄灰	外面体部下半を除いて淡黄色の灰軸が刷毛塗 される。釉調はカセで発色は悪い。	美濃 15C
陶-69 656-8 182	磁器 碗	覆土内 体部片		並	硬	淡灰	内外面に淡いオリーブ色を呈する青磁軸が施 される。内面に刺花文あり。	龍泉窯系 13C
陶-70 656-9 182	磁器 碗	覆土内 体部片		密	硬	淡灰	内外面に淡青緑色の青磁軸が施される。内面 に刺花文あり。	龍泉窯系 13C
陶-71 656-10 182	磁器 皿	覆土内 底部片	底(4.4)	並	軟	乳灰	内面に卵白色を呈する白磁軸が施され、軸は 露胎となる。高台は刺込が施される。	中国 15C

G区溝状遺構

陶器番号 埋設品番号 調査番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	摘要	備考
陶-72 663-3 186	施軸陶器 碗	G-3溝 覆土内 体部片		並	並	淡黄灰	内外面に長石軸が施され、細面に刷毛塗。器 面にラスターが見られる。	美濃 18C
陶-73 663-6	施軸陶器 壺・壺	G-2溝 覆土内 体部片		並	並	淡灰	内外面に擦痕あり。内面に指頭圧痕あり。全 体的に磨面は酸化する。	常滑焼 13～16C
陶-74 663-8 186	磁器 碗	G-2溝 覆土内 体部片		密	硬	淡灰	内外面に淡緑色を呈する青磁軸が薄く施ら れる。内面に刺花による磨線あり。	龍泉窯 13C

第2節 鎌倉時代以降

陶-75 663-9 186	磁器 小碗	G-9調 覆土内 底部片		並	並	白	内外面に白磁釉が施される。細片を察すれば伊万里系 伊万里系 18~19C
陶-76 633-10 186	磁器 碗	G-9調 覆土内 底部片	底 (3.8)	密	硬	白	高台端部を除き白磁釉が施される。器形か ら飯碗と考えられ、染付磁器かもしれない。伊万里系 19C
陶-77 663-11 186	磁器 小磁	G-17調 覆土内 底部片	底 (4.1)	密	硬	白	高台端部から高台内面を除き白磁釉が施され、具須の絵付が施される。具須は近代。伊万里系 20C前半
陶-78 663-12 186	施釉陶器 鉢	G-9調 覆土内 口縁部片	口 (22.2)	密	硬	灰	内外面に銅色を呈する鉄釉が施される。口縁 部は玉縁となる。不詳 18・19C
陶-79 663-13 186	磁器 猪口	G-17調 覆土内 口縁部欠 損	口 (5.1)	密	硬	白	外面にペロ直による印判松文が施される。高 台体部は露胎となる。伊万里系 20C前半
陶-80 663-14 186	磁器 仏飯器	G-17調 覆土内 脚台部片	底 (3.4)	密	硬	白	外面のみ白磁釉が施される。寛治部はやや酸 化気味で釉は鉄足状に酸化する。伊万里系 18・19C
陶-81 663-15 186	施釉陶器 皿	G-17調 覆土内 口縁部片	口 (11.2)	並	並	淡黄灰	口縁部の内外面に淡緑灰色を呈する灰釉が施 される。釉は鉄足状に酸化し露胎に至る。美濃 15C後半
陶-82 663-16 186	磁器 小坏	G-17調 覆土内 口縁部片	口 (9.0)	密	硬	白	外面にペロ直により施陶器が施される。口縁 部外反傾向あり。伊万里系 19後~20前
陶-83 663-17 186	磁器 不詳	G-17調 覆土内 底部下半 片		密	硬	白	外面はクロームと見られる青磁釉が施され、 僅ながら鉄絵あり。内面に染付による施文及 び白磁釉が施される。伊万里系 20C前半
陶-84 663-18 186	磁器 皿	G-17調 覆土内 底部片	底 (6.4)	密	並	白	器底平部を除き、白磁釉が施され、内外面 に染付施文あり。具須は淡い青色。伊万里系 18C後半

G区第9号址

陶器番号 調査番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	摘要	備考
陶-85 664-2	施釉陶器 壺	覆土内 体部片		並	並	淡褐	内外面に磨灰あり。内面に指頭圧痕あり。器 面はやや酸化気味。常滑焼 13~16C	
陶-86 664-3	施釉陶器 壺	覆土内 体部片		並	並	暗灰	内外面に磨灰あり。器表面は僅ながら酸化傾 向あり。常滑焼 13~16C	
陶-87 664-4 186	施釉陶器 耳壺	覆土内 体部片		密	並	黒褐	外面に暗い銅色を呈する鉄釉が施され、内面 に水洗の磨練目あり。瀬戸美濃 16C	
陶-88 664-5 186	磁器 碗	覆土内 口縁部片	口 (11.2)	密	硬	淡黄灰	小さな玉縁を設けたり世紀の古代白磁で、内 外面に卵白色の白磁釉が施される。中国 9C	

G区西側ピット群

陶器番号 調査番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	摘要	備考
陶-89 675-1 186	施釉陶器 壺	覆土内 口縁部片	口 (15.8)	並	硬	暗灰	内外面に自然釉がおよぶ。器表面はやや酸化 気味。常滑焼前期。常滑焼 14C前半	



## G区(9号址、西側ピット群、84号土坑、土坑)

## G区第84号土坑

陶器番号 (調査区 図表番号)	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	摘要	備考
陶-90 677-1	焼締陶器 大 差	覆土内 体部片		否	硬	暗灰	内外面に擦痕あり。内面に起作痕と指面圧痕あり。器面は酸化気味。	常備焼 13~16C

## G区土坑

陶器番号 (調査区 図表番号)	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	摘要	備考
陶-91 679-1 190	旋軸陶器 碗	G-3坑 覆土内 口縁部片	口 (11.2)	差	硬	淡黄灰	口縁部が直口する。内外面に淡黄緑色を呈する灰釉が施される。	瀬戸美濃 18C
陶-92 679-2 190	旋軸陶器 碗	G-7坑 覆土内 体部片		差	差	淡灰	内外面に灰釉が施される。内面に磨蝕目あり。釉は鉄分粒と見られる小粒が酸化灰化している。	不詳 18・19C
陶-93 679-3 190	旋軸陶器 碗	G-8坑 覆土内 口縁部片		差	差	淡黄灰	内外面に茶褐色の磨蝕が施される。口縁部は直口気味となる。	美濃 18C
陶-94 679-4 190	旋軸陶器 碗	G-18坑 覆土内 体部片		差	差	白	内外面に淡緑色の青磁釉が厚く施され、器肉の成から口縁部は外反すると考えられる。	龍泉京系 14C
陶-95 679-5 190	磁器 小 碗	G-27坑 覆土内 口縁部片		差	硬	白	外面に染付による施文あり。呉須は淡い青色を呈す。	伊万里系 16C
陶-96 679-6 190	旋軸陶器 皿	G-27坑 覆土内 口縁部片		差	差	淡黄灰	菊型の口縁部片で緑釉と黄灰色の灰釉が施される。内外面に押型による菊花弁刻みあり。	美濃 17C
陶-97 679-7 190	旋軸陶器 碗	G-32坑 覆土内 体部片		差	差	淡黄灰	内外面に長石釉が施され細貫入が多く入る。内外面に顕著な磨蝕目は見られない。	瀬戸美濃 18C
陶-98 679-9 190	旋軸陶器 皿	G-43坑 覆土内 口縁部片		差	差	淡黄灰	口縁部が特徴的に端反となる。内外面に長石釉を施す。	美濃 18C
陶-99 679-10 190	旋軸陶器 碗	G-43坑 覆土内 体部片		差	差	淡黄灰	体部下半が磨蝕となり、内外面に鉛釉調の鉄釉が施される。	美濃 18C
陶-100 679-11 190	旋軸陶器 碗	G-45坑 覆土内 口縁部片		差	差	淡灰	左右に溝分を内外に行なう。一方が明錆色の鉄釉で、他方が灰釉。	瀬戸美濃 18C後半
陶-101 679-12 190	旋軸陶器 碗	G-45坑 覆土内 体部片		差	差	淡灰	内外の器表面に磨蝕が施され、磨蝕目が見られる。	美濃 18C
陶-102 679-17 190	旋軸陶器 碗	G-62坑 覆土内 口縁部片		差	差	淡灰	外面に染付施文あり。呉須は淡い青色を呈す。口縁部は特徴的に直口する。	唐津系 18C
陶-103 679-18 190	旋軸陶器 碗	G-63坑 覆土内 体部片		差	差	淡黄灰	内外面に長石釉が施される。外面に四条の沈線帯あり。	美濃 18C
陶-104 679-19 190	磁器 不 詳	G-63坑 覆土内 体部片		差	差	白	内外面に自然釉が施され、外面に染付施文あり。呉須は淡い青色を呈す。	伊万里系 18C後半
陶-105 679-20 190	旋軸陶器 碗	G-71坑 覆土内 底部片		差	差	淡黄灰	内外面に透明釉が施される。内外ともに割傷が顕著である。	美濃 18C
陶-106 679-21 190	旋軸陶器 鉢	G-71坑 覆土内 口縁部片		差	差	淡黄灰	内外面に淡黄灰色の灰釉が施される。全体的に割れ口の磨耗が顕著。	美濃 15C

第2節 鎌倉時代以降

陶-107 679-22	焼締陶器 壺	G-71坑 覆土内 体部片		並	並	暗灰	内外ともに酸化気味で摩痕あり。内面に指頭 圧痕あり。	常滑焼 13~16C
陶-108 679-25 190	施釉陶器 碗	G-78坑 覆土内 口縁部欠 損	口 (11.0)	密	硬	淡黄灰	高台端部を除き陶釉が施され、外周に葎千鳥 文が施される。器面に山位391の製造番号あ り。	不詳 20C前半

G区第1号井戸跡

陶器番号 発掘調査 記録番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	摘 要	備 考
陶-109 681-1 186	焼締陶器 壺	埋土内 胴部片		密	並	淡灰	外面に自然釉がおよぶ。器面は全体的に酸化。 内面に指頭圧痕あり。	常滑焼 13~16C

G区第7号井戸跡

陶器番号 発掘調査 記録番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	摘 要	備 考
陶-110 684-2 186	磁器 碗	埋土内 口縁部片		密	硬	淡灰	外面に刷文による獅子舞弁が施される。内外 面に淡暗緑色の青磁釉が厚く施される。	龍泉窯 13C

G区第9号井戸跡

陶器番号 発掘調査 記録番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	摘 要	備 考
陶-111 689-10 188	施釉陶器 瓶	埋土内 体部片		密	硬	灰	外面に二条を一単位とする沈線帯が二条施さ れる。外面に淡緑色の灰釉が厚く施される。 内面に発達した網目が見られる。	瀬戸 14後~15前
陶-112 689-11 188	磁器 碗	埋土内 体部片		密	硬	白	外面に獅子舞弁文の一部が見える。釉は淡い 青色を呈し、硝手を呈する。	龍泉窯 13C
陶-113 689-12 188	磁器 花瓶	埋土内 頸部片		密	硬	淡灰	糸線を多く施した長頸型花瓶の頸部片である。 内外面に淡青緑色の青磁釉が厚く施される。 上手製品。	龍泉窯 14C
陶-144 689-13 188	磁器 碗	埋土内 体部片		密	硬	淡灰	内外面に淡青緑色の青磁釉を施す。発色は良 く硝手を施す。器表面は火中し発泡する。	龍泉窯 13・14C
陶-115 689-14 188	磁器 小碗	埋土内 口縁部片	口 (8.0)	密	硬	淡灰	内外面に淡暗緑色の青磁釉を厚く施す。器表 面は火中し発泡する。	龍泉窯 15C
陶-116 689-15 188	磁器 小碗	埋土内 口縁部片	口 (8.2)	密	硬	淡灰	器形は八角様的小鉢片で、内外に暗青緑色の 青磁釉を厚く施す。器表面は火中し発泡する。	龍泉窯 15C
陶-117 689-16 188	磁器 小碗	埋土内 口縁部片	口 (12.2)	密	硬	淡灰	内外面に淡暗緑色の青磁釉が厚く施され器表 面は火中し発泡している。	龍泉窯 15C
陶-118 689-17 188	磁器 皿	埋土内 底部片	底 (7.2)	密	硬	淡灰	高台端部・高台内面を除き淡暗緑色の青磁釉 を施す。内面に印文あり、器表面は火中し発 泡する。	龍泉窯 13・14C

## G区(1・7・9・11号井戸跡、1号溝)

## G区第11号井戸跡

陶器番号 埋蔵品番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	摘要	備考
陶-119 692-1	焼締陶器 大 甕	埋土内 口縁部片		並	並	暗灰	器面全体が僅に酸化する。内外面に横溝あり。常滑焼Ⅳ期。	常滑焼 14C後半
陶-120 692-2	焼締陶器 大 甕	埋土内 体部片		密	硬	淡灰	内外面に磨痕あり。内面に紐作痕と指頭正痕あり。器面は僅に酸化。	常滑焼 13~16C
陶-121 692-3 188	磁 器 碗	埋土内 底部片	底 (5.8)	密	硬	淡灰	高台端部から高台内面を除き淡青緑色の青磁釉。器表面は火中のため発色している。	龍泉窯 13C
陶-122 692-4 189	施釉陶器 脚 皿	埋土内 口縁部片	口 (15.8)	並	並	淡灰	体部上半の内外に淡緑色の安定した灰釉が施される。内面体部下半に斜格子状の節目あり。火中している。	美濃 15C前半
陶-123 692-5 189	施釉陶器 鉢	埋土内 底部片	底 (13.4)	並	並	淡黄灰	体部上半の内外に淡暗緑色の灰釉が施される。内面に磨痕あり。	美濃 15C
陶-124 692-6 189	施釉陶器 鉢	埋土内 体部片		並	並	淡黄灰	内外面に淡黄色の灰釉が施される。火中のため発色あり。	美濃 15C
陶-125 692-7 189	施釉陶器 碗	埋土内 口縁部片		チョーク状	並	淡黄灰	内外面に淡黄緑色を呈する緑釉が施される。起釉。	東海以西 9・10C
陶-126 692-8 189	施釉陶器 碗	埋土内 体部片		密	並	淡黄灰	外面体部下半を除いて淡黄色の灰釉が施されトナシあり。大形平碗。	瀬戸美濃 15C前半
陶-127 692-9 189	施釉陶器 不 詳	埋土内 不詳		粗	硬	淡黄灰	天地の縦断面に紐作痕あり。内面に乳白濁した顔深井輪面の白土釉が施される。	不詳 不詳
陶-128 696-6 189	焼締陶器 鉢	埋土内 口縁部片	口 (36.6)	密	並	暗褐	内面下半は平滑で、外面に指頭圧痕あり。口縁部の内外に横溝あり。	常滑焼 16C前半
陶-129 696-7 189	焼締陶器 大 甕	埋土内 体部上半 を文頂		密	硬	暗灰	外面に工具による整形痕あり。内面に紐作痕と指頭圧痕、磨痕あり。内面或は平滑な擦痕。底部に砂付着。	常滑焼 13後~14前

## H区第1号溝状遺構

陶器番号 埋蔵品番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	摘要	備考
陶-130 697-9	焼締陶器 煮 釜	覆土内 口縁部片	口 (21.4)	粗	並	暗灰	口縁部を玉縁状に折り返す。内外面に横溝あり。常滑焼Ⅴ期。	常滑焼 15後~16前
陶-131 697-10	焼締陶器 甕	覆土内 体部片		密	並	淡褐	内外面に磨痕あり。外面に細かな格子状節目あり。全体的に酸化気味。	常滑焼 14C
陶-132 697-11 191	施釉陶器 不 詳	覆土内 底部片		並	並	暗灰	内面のみ黒褐色の鉄釉を施す。実測図右端は接合面のため延長形状不詳。	不詳 18~20C
陶-133 697-12 191	施釉陶器 燈 火 皿	覆土内 底部片	底 (13.4)	密	並	暗灰	内面に淡灰色の鉄釉が施される。底面は上げ底気味。	不詳 18・19C
陶-134 697-13 191	磁 器 皿	覆土内 口縁部片	口 (11.0)	密	軟	乳白	内外面に乳白色の白磁釉が施される。体部外面に縦溝目あり。	中国 15C
陶-135 697-14 191	施釉陶器 碗	覆土内 口縁部片		並	並	淡灰	外面体部下半を除いて青色の天目釉が施される。釉はやや薄い。	中国 15C

## 第2節 鎌倉時代以降

陶-136 697-15 191	施釉陶器 壺 利	覆土内 体部片		並	並	淡灰	内外面に灰釉を施釉。外面に酒屋名と考えられる鉄絵銘が描かれる。	不詳 19・20C
陶-137 697-16 191	施釉陶器 壺 利	覆土内 体部片		並	並	淡灰	内外面に灰釉が施される。外面に酒屋名と考えられる「酒屋」鉄絵銘あり。	不詳 19・20C
陶-138 698-17 191	磁 器 碗	覆土内 口縁部片	口 (13.0)	密	硬	淡灰	内外面にベロ藍による墨紙印の染付あり。発色は全体にくすんでいる。	伊万里系 19C後半
陶-139 697-18 191	磁 器	覆土内 底部片	底 (9.9)	密	硬	淡灰白	高台端部を除き内外面に結手色を呈する厚い青磁釉が施される。二重貫入あり。上手。	龍泉窯 14C
陶-140 697-19 191	焼締陶器 壺	覆土内 体部片		密	並	淡灰	二次加工の土製円盤。表面はやや酸化気味。外面に刷毛目用の工具痕あり。	常滑焼 13~16C

## H区第11号溝状遺構

陶器番号 発掘調査 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	摘 要	備 考
陶-141 702-5 191	焼締陶器 大 壺	覆土内 口縁部片	口 (26.8)	密	並	暗褐	外面はやや酸化気味となる。N字状の口縁の退化の口作り。常滑焼IV期。	常滑焼 15C前
陶-142 702-6	焼締陶器 大 壺	覆土内 肩部片		密	並	暗褐	表面はやや酸化する。内外面に擦痕あり。内面に紐作痕と指頭圧痕あり。	常滑焼 13~16C
陶-143 702-7 191	焼締陶器 大 壺	覆土内 体部片		密	硬	淡灰	外面に自然釉およぶ。外面に格子目印及び印花文あり。内面に紐作痕と指頭圧痕あり。	常滑焼 14・15C
陶-144 702-8 191	施釉陶器 皿	覆土内 口縁部片	口 (23.8)	並	並	淡黄灰	内外面に灰釉が施される。内面に口縁下部の返りを作り出す。	美濃 16・17C
陶-145 702-9 191	施釉陶器 鉢	覆土内 口縁部片	口 (24.0)	密	並	淡灰	内外面に施釉。口縁端部を屈折に作る。体部外面に轆轤目あり。	不詳 17・18C
陶-146 702-10 191	施釉陶器 鉢	覆土内 体部片		密	並	淡灰	体部上半の内外に灰釉が施される。灰釉は淡増緑色を呈し浸透。内面に節目あり。	瀬戸美濃 15C前半
陶-147 702-11 191	施釉陶器 皿	覆土内 口縁部片	口 (12.0)	密	並	淡黄灰	外面体部下半を除いて灰釉が施される。灰釉は淡灰色を呈す。	瀬戸美濃 17C前半
陶-148 702-12 191	施釉陶器 碗	覆土内 口縁部片	口 (11.3)	並	並	淡灰	内外面に暗褐色の薄い鉄釉を施す。口縁端部は幾分外反する。	美濃 17C
陶-149 702-13 191	施釉陶器 皿	覆土内 底部片	底 (7.3)	並	並	淡黄灰	全面に志野釉を施し、内面に鉄絵を描く高台は削出高台。	美濃 17C前半
陶-150 702-14 191	施釉陶器 皿	覆土内 底部片	底 (6.0)	並	並	淡黄灰	外面下半と高台内面を除き、灰釉が施される。内面に菊花印文あり。	美濃 17C
陶-151 702-15 191	施釉陶器 皿	覆土内 底部片	底 (4.7)	並	並	灰	高台端部と高台内面を除き、長石釉が施される。高台は削出高台。	唐津系 17C前半
陶-152 702-16 191	施釉陶器 鉢	覆土内 底部片	底 (20.4)	並	並	淡黄灰	外面体部下半が露胎となり、他は刷毛塗による灰釉が施される。	美濃 15C
陶-153 702-17 191	施釉陶器 鉢	覆土内 底部片	底 (16.8)	並	並	淡黄灰	内外面を除き灰釉が施される。内面の一部に緑色釉が施される。	美濃 18C
陶-154 702-18 191	施釉陶器 耳 壺	覆土内 底部片	底 (12.5)	密	硬	淡黄灰	外面に僅ながら褐釉が認められるが、大半は露胎となる。内面に水洗痕あり。	中国 16C

## H区(11号溝、溝状遺構)

陶-155 702-19 191	焼締陶器 壺	覆土内 底部片	底 (17.4)	並	硬	灰	内外面に自然釉および襷灰あり。底面に砂付着。	常滑焼 13~16C
陶-156 702-20 191	施釉陶器 碗	覆土内 口縁部片		並	硬	灰	内外面に施釉され、外面に濃い青色の染付が施される。	唐津系 18C
陶-157 702-21 191	磁器 小 罎	覆土内 底部片	底 (3.4)	密	硬	白	高台肩部を除き自然釉が施される。高台は削出。	伊万里系 18・19C
陶-158 702-22 191	磁器	覆土内 底部片 底	底 (5.8)	密	硬	白	高台肩部を除き自然釉が施される。内面に濃い黒須による染付が施される。	伊万里系 17C
陶-159 703-1	施釉陶器 撰 鉢	覆土内 口縁部片		密	並	淡黄灰	内外面に淡い緑色を施す。内外面に横線が顕著である。	美濃 17~19C
陶-160 703-2	磁器 不 詳	覆土内 不詳		密	硬	白	外面のみ青白磁釉が施される。内面は露胎。特殊器形・器種として重要。	景徳鎮 13C
陶-161 703-3 191	磁器 碗	覆土内 底部片	底 (6.3)	密	硬	淡灰	高台内面を除き淡緑色の青磁釉が施される。内面に印花文用の凸凹あり。	龍泉窯系 13C
陶-162 703-4 191	磁器 袋 物	覆土内 底部片	底 (11.6)	並	硬	淡灰	底面及び内面を除き青白磁が施される。外面に二乗沈線がある。	景徳鎮 13C
陶-163 703-9 192	施釉陶器 碗	覆土内 底部片		密	並	淡黄灰	二次加工の土製円盤。内面に襷釉が施される。丁寧に二次加工されて円形となる。	瀬戸美濃 18C
陶-164 703-10 192	焼締陶器 壺	覆土内 体部片		密	硬	淡灰	外面に自然釉がおよぶ。内面に紐作痕と指頭圧痕あり。丁寧に二次加工した土製円盤。	常滑焼 13~16C

## H区溝状遺構

陶器 番号 出土 位置 図面 番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	摘 要	備 考
陶-165 709-5 193	磁器 碗	H-4溝 覆土内 体部片		密	硬	淡灰	内外面に淡緑灰色の薄い青磁釉が施される。内面に劃文あり。	龍泉窯系 13C
陶-166 709-7 193	施釉陶器 耳 着	H-1溝 覆土内 体部片		密	硬	灰	外面に茶褐色を呈する鉄釉が施され、内面に顕著な横線目あり。	中国 15・16C
陶-167 709-8 193	施釉陶器 壺	H-13溝 覆土内 口縁部片	口 (13.8)	粗	並	淡灰	内外面に緑色の鉄釉が施され、外面に灰釉が施される。199・202と同一個体。	中国 15・16C
陶-168 709-11	焼締陶器 壺	H-21溝 覆土内 体部片		密	並	暗褐	内外面に摺痕あり。割れ口に紐作痕が見える。裏面は僅に酸化する。	常滑焼 13~16C

## 第2節 鎌倉時代以降

## H区第148号土坑

陶器番号 H区第148号 土坑番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	摘要	備考
陶-169 713-6 195	施釉陶器 婁	覆土内 体部片		密	硬	淡灰	内外面に茶褐色の鉄釉が施され、外面に黒色の鉄釉が流転される。	不詳 18~20C
陶-170 713-7 194	焼締陶器 植木鉢	覆土内 頸部片		密	硬	明褐	内外面に回転力の高い轆轤成形痕あり。整型ではない。	不詳 20C
陶-171 713-8 194	施釉陶器 碗	覆土内 体部片		密	並	淡灰	内外面に鉛釉が施される。外面に莢形、内面に轆轤目あり。	瀬戸美濃 18C
陶-172 713-9 194	施釉陶器 筒・袋物	覆土内 体部片		密	並	淡黄灰	外面に鉛釉が施される。内面に轆轤目あり。内面は無釉なので器種を判別しがたい。	瀬戸美濃 18・19C
陶-173 713-10 194	施釉陶器 燈火皿	覆土内 底部片	底 (3.8)	密	硬	淡灰	内面に長石釉が施される。外面は無釉で、底部はやや上げ底となる。	不詳 18・19C
陶-174 713-11 195	施釉陶器 婁	覆土内 底部片	底 (19.0)	密	硬	赤褐	内面に褐色の鉄釉が施され、外面は無釉で整形に轆轤使用。底面に砂付着。	不詳 19・20C
陶-175 714-1 194	磁器 皿	覆土内 5個体	底 (15.4)	密	硬	白	内面は帯紙印判による染付。外面は手描による唐草を絵付。具須は深青を呈するべろ藍。	伊万里系 19C後半
陶-176 714-2 194	磁器 合子	覆土内 蓋部片		密	硬	白	外面に染付による梅花が施される。そして具須は淡い青色を呈する精製具須。	伊万里系 18・19C
陶-177 714-3 194	施釉陶器 碗	覆土内 口縁部片	口 (10.4)	密	硬	暗灰	内外面に長石釉が施され、外面に具須による口縁部絵付あり。	唐津系 18C
陶-178 714-4 194	磁器 小坏	覆土内 口縁部欠損	口 (6.5)	密	硬	白	外面に銅版摺絵による菊花と風凰が描かれる。体部下半は六面体となる。	伊万里系 19後~20前
陶-179 714-5 194	磁器 小坏	覆土内 5個体	口 (7.5)	密	硬	白	外面に銅版摺絵による絵付あり。具須は淡い青色を呈する。染付。	伊万里系 19後~20前
陶-180 714-6 194	磁器 小坏	覆土内 口縁部欠損	口 (7.0)	密	硬	白	外面に銅版摺絵による風神雷神?と七星文が染付される。具須はべろ藍。	伊万里系 19後~20前
陶-181 714-7 194	磁器 碗	覆土内 5個体	口 (10.8)	密	硬	白	内外面に帯紙印判による染付あり。外面に菊・蓮文、内面に喫瑠文あり。べろ藍。	伊万里系 19C後半
陶-182 714-8 194	磁器 小坏	覆土内 5個体	口 (6.3)	密	硬	白	外面に銅版摺絵による風神雷神?と七星文が染付される。具須はべろ藍。	伊万里系 19後~20前
陶-183 714-9 194	磁器 碗	覆土内 5個体	口 (10.8)	密	硬	白	外面に銅版摺絵による鹿・桜花・楓文あり。内面に喫瑠文あり。具須は淡い青色。	伊万里系 19後~20前
陶-184 714-10 194	磁器 皿	覆土内 5個体	口 (11.9)	密	硬	白	内面に銅版摺絵による菊花文あり。釉は深緑色を呈す。	伊万里系 19後~20前
陶-185 714-11 195	施釉陶器 摺鉢	覆土内 体部片		密	硬	黒灰	外面に茶褐色をした鉄釉が施され、内面に粗かな節目あり。土製調整として二次加工。	不詳 19・20前半

## H区第132号土坑

陶器名 内 部 図 録 番 号	種 別 種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎 土	焼 成	色 調	摘 要	備 考
陶-186 726-1 194	磁 器 筒 花生	覆土内 口縁から 体部片		密	硬	白	外面と内面上部に淡い若葉色の青磁釉を厚く 施し、輪縁に鉄足が見られる。器形は竹形。	不詳 20C 前半以降

## H区第155号住居跡

陶器名 内 部 図 録 番 号	種 別 種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎 土	焼 成	色 調	摘 要	備 考
陶-187 727-1 194	磁 器 小 碗	覆土内 完器	口 (7.6)	密	硬	白	外面に南天図あり。葉は赤、茎は緑、実 は白の絵とする。	伊万里系 20前半以降
陶-188 727-2 194	磁 器 小 碗	覆土内 口縁部欠 損	口 (7.8)	密	硬	白	外面に印刷による白線文あり。梅花は抜き、 葉は深緑青を施す。	伊万里系 昭和
陶-189 727-3 194	磁 器 小 碗	覆土内 口縁部欠 損	口 (8.1)	密	硬	白	外面に春蘭の葉を具置で、花を白で絵付する。 鳥須は近代の淡い良須。底面に製造場別銘有。	伊万里系 20後半以降
陶-190 727-4 194	磁 器 碗	覆土内 口縁部欠 損	口 (10.8)	密	硬	白	外面にペロ藍により葡萄の葉を描き、葉と実 は茶の色絵とする。	伊万里系 20前半以降
陶-191 727-5 194	磁 器 皿	覆土内 口縁部欠 損	口 (8.2)	密	硬	白	型押角小皿で内面に梅花などを隔刻し部分的 に染付を施す。	伊万里系 18C以降
陶-192 727-6 194	磁 器 穀	覆土内 完品		密	硬	白	型押で穀目に一は黄色、三は桃色、四は赤色 六は青色の顔料彩色が施され、他不明。	伊万里系 19C以降

## H区第2号井戸跡

陶器名 内 部 図 録 番 号	種 別 種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎 土	焼 成	色 調	摘 要	備 考
陶-193 711-7 194	磁 器 碗	埋土内 口縁部片	口 (16.1)	並	硬	淡灰	内外面に淡緑緑色の青磁釉を施す。発色は 悪い。	龍泉窯 13

## I区第8号溝状遺構

陶器名 内 部 図 録 番 号	種 別 種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎 土	焼 成	色 調	摘 要	備 考
陶-194 728-1 198	磁 器 碗	覆土内 口縁部片		並	硬	淡灰	内外面に淡青緑色の青磁釉が薄く施される。 外面に騎手蓮弁が施される。	龍泉窯 13C
陶-195 728-2 198	磁 器 小 鉢	覆土内 口縁部片		密	硬	淡灰	内外面に防手色を呈する青磁釉を厚く施し、 出来壊れる。	龍泉窯 14C
陶-196 728-5 198	磁 器 碗	覆土内 底部片	底 (6.1)	密	硬	淡灰	高台内面を除き、暗緑色の青磁釉を薄く施す。 内面の標線顕著。	龍泉窯系 13C
陶-197 728-6 198	焼締陶器 壺	覆土内 体部片		密	硬	淡灰	外面に自然釉がおよぶ。内面に紐作痕と指環 圧痕あり。外面に巴文らしき印文あり。 198と同一遺体。	常滑焼 14・15C
陶-198 728-7 198	焼締陶器 壺	覆土内 体部片		密	硬	淡灰	外面に自然釉がおよぶ。内面に紐作痕と指環 圧痕あり。外面に巴文らしき印文あり。	常滑焼 14・15C

第2節 鎌倉時代以降

陶-199 728-9	施釉陶器 壺	覆土内 体部片		密	硬	淡灰	167・202と同一個体。外面に施釉を施し、部分的に白土掛が流れる。	中国 15・16C
陶-200 728-12	焼締陶器 壺	覆土内 体部片		密	硬	淡灰	内外面に磨痕あり。内面に組作痕と指頭圧痕あり。器面はやや酸化。	常滑焼 13~16C
陶-201 728-10	焼締陶器 壺	覆土内 体部片		密	硬	黒灰	内外面に磨痕あり。内面に組作痕と指頭圧痕あり。器面はやや酸化。	常滑焼 13~16C
陶-202 728-13	施釉陶器 壺	覆土内 体部片		密	硬	黒灰	167、199と同一個体。	中国 15・16C
陶-230 728-15 198	施釉陶器 皿	覆土内 口縁部片	□ (11.8)	密	硬	淡灰	内外面に淡緑色の灰釉が施される。口縁部内面に返りあり。	瀬戸 15C前半
陶-204 728-16 198	施釉陶器 皿	覆土内 口縁部片	□ (11.9)	並	並	淡黄灰	口縁部の内外面に淡緑色の灰釉が施される。釉境は鉄足状に酸化する。	美濃 15C前半
陶-205 728-17 198	施釉陶器 鉢	覆土内 口縁部片	□ (23.1)	密	硬	淡灰	内外面に淡灰緑色の灰釉が施される。釉は全体的にかせている。	瀬戸美濃 17C
陶-206 728-18 198	磁器 碗	覆土内 口縁部か ら体部片	□ (13.8)	密	硬	淡黄褐	淡黄褐色の青磁釉が施される。黄色は越州窯に見えるが、酸化気味の瀬泉窯青磁とも見られるので後日検討を要す。	越州窯か瀬泉窯 9~13C
陶-207 728-19 198	磁器 碗	覆土内 体部片		密	硬	白	体部外面最下方を除き、明褐色の天日釉が施される。表地は磁胎。	中国 15C
陶-208 728-20 198	施釉陶器 鉢	覆土内 口縁部片	□ (23.9)	粗	並	淡黄灰	内外面に長石釉を施す。口縁部は玉縁となり折り返す。	美濃 18・19C
陶-209 728-21 198	磁器 皿	覆土内 底部片	底 (10.1)	密	硬	白	内外面に染付藍文あり。高台端部のみ白磁釉を欠く。白磁釉は青味を帯び青白磁色に近い。	伊万里系 18C

I区第6号井戸跡

陶器番号 棟内発掘 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	摘 要	備考
陶-210 732-1	焼締陶器 壺	埋土内 体部片		密	硬	淡灰	踵手の器内から小形壺と考えられる。内面に自然釉がおよぶ。全体的にやや酸化気味。	常滑焼 13~16C
陶-211 732-2 199	磁器 碗	埋土内 口縁部片		密	硬	淡灰	内外面に淡増緑褐色の青磁釉が施され、内面に劃文あり。釉は暗く黄色が覆れない。	瀬泉窯系 13C

J区第4号溝状遺構

陶器番号 棟内発掘 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	摘 要	備考
陶-212 733-1 199	施釉陶器 皿	覆土内 口縁部片	□ (13.0)	並	並	淡黄灰	外面体部下半を除き、内外面に胎釉を施す。胎釉は淡褐色を呈す。	不詳 18・19C
陶-213 733-2 199	施釉陶器 壺	覆土内 体部片		密	硬	淡灰	外面に暗茶褐色を呈する鉄釉が施され、内面に長石釉が施される。	不詳 18・19C
陶-214 733-3 199	施釉陶器 鉢	覆土内 口縁部片	□ (24.3)	密	硬	淡小豆	内面に印文があり、白土塗られ、淡い釉が掛けられる。	唐津系 17後~18前



## J区第51号址

陶器番号 (調査番号)	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	摘 要	備 考
陶-215 736-2	焼締陶器 壺	覆土内 体部片		密	並	淡小豆	内外面に照りが強く、後出の常滑焼か。内外面に磨痕あり。	常滑焼 16・17C
陶-216 736-3 199	煎輪陶器 鉢	覆土内 体部片		並	並	淡黄灰	内外面に黒褐色を呈した鉄釉が施される。体部上半に工具による比線3条が逆る。	美濃 18C
陶-217 736-4 199	煎輪陶器 鉢	覆土内 体部片		並	並	淡黄灰	外面体部下半を除き、黄灰色釉が施される。内面にトチン痕あり。	美濃 18C
陶-218 736-5 199	煎輪陶器 碗	覆土内 底部片	底 (4.8)	密	硬	淡黄灰	高台端部を欠失するが、輪は全面に施輪。輪は透明の長石釉。	京焼系 18C

## 遺構外

陶器番号 (調査番号)	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	摘 要	備 考
陶-219 739-1 200	焼締陶器 鉢	G一表土 口縁部片	口 (40.0)	密	硬	暗褐	内面の磨痕は顕著でない。外面に整形時の擦痕あり。外面口縁部下に横痕あり。	常滑焼 15C前半
陶-220 739-3	焼締陶器 壺	J一表土 胴部片		密	硬	黒灰	内外面に横痕あり。割れ口に紐作痕が見られる。	常滑焼 14後～15前
陶-221 739-2 200	焼締陶器 壺	F一表土 口縁部片		密	硬	黒灰	内外面に横痕あり。割れ口に紐作痕が見られる。常滑焼II期。	常滑焼 14C前半
陶-222 739-4 200	焼締陶器 壺	17 I 82住 肩部片		並	硬	灰	内面に紐作痕と指頭圧痕あり。外面に平円の車用の印文あり。	不詳 13～16C
陶-223 739-5 200	焼締陶器 鉢	40H99 体部片		並	硬	赤褐	内面に9+α条の節目あり。器面全体は酸化気味。	不詳 17～19C
陶-224 739-6	焼締陶器 壺	J一表土 体部片		密	並	淡灰	全体的に磨耗している。外面に自然釉がおよぶ。内面に指頭圧痕あり。	常滑焼 13～16C
陶-225 739-7	焼締陶器 壺	G一表土 体部片		密	硬	黒灰	全体的に還元気味。内外面に磨痕あり。内面に指頭圧痕と紐作痕あり。	常滑焼 13～16C
陶-226 739-9	焼締陶器 壺	II J一西 体部片		密	硬	淡小豆	外面に自然釉がおよぶ。内面に紐作痕と指頭圧痕あり。	不詳 13～16C
陶-227 739-10	焼締陶器 壺	IX-B-1 体部片		密	硬	淡褐	器表面は酸化している。内外面に磨痕あり。内面に紐作痕あり。	常滑焼 13～16C
陶-228 739-11	焼締陶器 壺	不明 体部片		密	硬	赤褐	内外面に磨痕あり。内面に指頭圧痕と紐作痕あり。	常滑焼 13～16C
陶-229 739-12	焼締陶器 壺	F一表土 体部下 半片		密	硬	黒灰	内外面に磨痕あり。外面に工具による整形痕あり。	常滑焼 13～16C
陶-230 739-13	焼締陶器 壺	不明 体部下 半片	底 (10.1)	密	硬	黒灰	内外面に磨痕あり。外面に工具による整形痕あり。底面に砂付着。	常滑焼 13～16C
陶-231 739-14 200	煎輪陶器 鉢	IX-B-1 0-3 口縁部片		並	並	淡黄灰	内外面に黒褐色を呈する鉄釉が施される。全体に磨耗顕著。	瀬戸美濃 18・19C

第2節 鎌倉時代以降

陶-232 739-15 200	高軸陶器 鉢	VI-E-2 口縁部片	□ (16.0)	並	並	淡黄灰	内外面に長石軸を施軸。内面に玉緑用の返りが設けられ、口縁部外面下に沈線帯あり。	瀬戸美濃 18・19C
陶-233 739-16 200	高軸陶器 鉢	F-表土 口縁部片	□ (29.4)	並	並	淡灰	体部下半の内外面を除き、淡黄灰色の灰軸が施される。	瀬戸美濃 15C後半
陶-234 739-17 200	焼締陶器 鉢	38H82 口縁部片	□ (28.4)	密	硬	灰	内外面に自然軸がおよぶ。内面に5+α条の筋目あり。	不詳 17・18C
陶-235 740-1 200	高軸陶器 燈火皿	VI45 口縁部片	□ (7.9)	密	硬	灰	体部外面下方を除き、淡緑色の灰軸が施される。軸境は鉄足状に酸化。	不詳 17・18C
陶-236 740-2 200	高軸陶器 皿	48G77 口縁部から 底部片		密	硬	灰	内外面に淡黄灰色の灰軸が施される。高台は削出。口縁部は外反する。	瀬戸美濃 17C
陶-237 740-3 200	高軸陶器 皿	VI-0- A-D 口縁部片	□ (12.8)	並	並	淡黄灰	外面体部下半を除き、淡緑灰色の灰軸が施される。	美濃 17C
陶-238 740-4 200	高軸陶器 皿	6 F83 口縁部片	□ (13.4)	並	並	淡黄灰	外面体部下半を除き、淡緑灰色の灰軸を施軸。軸境が鉄足状に酸化。火中のため軸が発泡。	美濃15米～ 16初葉
陶-239 740-5 200	高軸陶器 皿	WDA 8 口縁部から 体部片		並	硬	淡灰	外面体部下半を除き、淡灰色の灰軸が施される。高台縁はシャープに削られる。	美濃 17C
陶-240 740-6 200	高軸陶器 燈火皿	WIC-3 5-1 口縁部片	□ (9.8)	並	硬	灰	口縁部外面から内面にかけ、褐色軸が施される。外面体部下半の筋目がシャープ。	不詳 18・19C
陶-241 740-7 200	高軸陶器 燈火皿	J-表土 5/6個体	□ (10.0)	密	硬	灰	外面体部下半を除き、鉄軸が施軸される。内面に繪部の線を設ける。	不詳 18・19C
陶-242 740-8 200	高軸陶器 燈火皿	J-表土 3/4穴 完器	□ (10.8)	並	硬	灰	外面体部下半を除き、灰軸が施軸される。油溜の境は低く、燈芯受の切込あり。	不詳 18・19C
陶-243 740-9 200	高軸陶器 徳利	VI-E-2 頸部片		密	硬	灰	らっきょう形の小徳利片で、内外面に錆色の	不詳 17・18C
陶-244 740-10 200	高軸陶器 碗	G-トレン チ 体部片		並	並	淡黄灰	内外面に淡黄緑色の灰軸が施軸される。軸は安定し、発色は優れる。	美濃 15C後半
陶-245 740-11 200	高軸陶器 鉢	F-表土 体部片		並	並	淡黄灰	内外面に淡黄色の灰軸が施される。体部外面に工具による縦縞目顯著。	美濃 15C
陶-246 740-12 201	高軸陶器 鉢	J-表土 体部片		並	並	赤褐	内面に白土掛による印文象嵌あり。内外面に淡褐色軸が施される。	唐津系 17・18前半
陶-247 740-13 201	高軸陶器 鉢	VI-E-2 体部片		並	並	淡黄灰	内外面に淡黄灰色の長石軸が施される。外面に梵網目が見える。	美濃 17～19C
陶-248 740-14 201	高軸陶器 袋物	河川敷IV 類 天上部片		密	硬	灰	外面に筋軸、内面に淡黄灰色で透明感の強い軸が施される。内面に工具による筋目あり。外面に3+α条の沈線施文あり。	不詳 18・19C
陶-249 740-15 201	高軸陶器 鉢	X-B- 0-3 体部片		並	並	灰	体部下半が窪胎となり、他は浸掛による灰軸が施され、軸は淡黄灰色を呈し、少し不安定。	美濃 15C
陶-250 740-16 201	高軸陶器 碗	I-1層 フ 体部片		並	並	淡灰	内外面に暗褐色の天目軸を施す。軸は茶色味を帯びている所が糸目状となる。	美濃 15～17C
陶-251 740-17 201	高軸陶器 鉢	不明 体部片		並	並	淡黄灰	内外面に淡黄色軸が薄く施軸され、縦縞目が見られる。	瀬戸美濃 17・18C
陶-252 740-18 201	高軸陶器 鉢	H-トレン チ 底部片		並	並	黄灰	高台環部・高台内面を除き、灰軸が掛けられ内面に3+α条の沈線帯と中央に花文らしき印花あり。	美濃 17C

陶-253 740-19 201	施釉陶器 香 炉	中 J 表 底部片	底 (10.1)	並	並	淡黄灰	外面側部のみ淡褐色が施され、他は露胎となる。底面に足付着。	美濃 18C
陶-254 740-20 201	施釉陶器 碗	F-P群 体部片		並	並	淡黄灰	外面体部下半を除き、黒褐色の天目釉が施される。	美濃 15~17C
陶-255 740-21 201	施釉陶器 碗	1 PVI- 1 底部片	底 (5.8)	並	硬	淡黄灰	内面のみ胎釉が施される。高台は貼付後、削込の。	美濃 17・18C
陶-256 740-22 201	施釉陶器 皿	X-□- 0-3 底部片	底 (4.0)	並	並	淡黄灰	内面に生掛緑色釉を蛇目に削出す。高台は削出し高台。釉は刷釉か。	唐津系 17・18C
陶-257 740-23 201	施釉陶器 碗	J-表土 底部片		並	並	淡黄灰	高台内面を除き、長石釉が施される。釉境は鉄足状に變化。	京焼系 17・18C
陶-258 740-24 201	施釉陶器 碗	J-表土 底部片	底 (4.6)	並	並	淡灰	外面体部下半を除き、淡灰色釉が施される。釉は透明感が強い。	不詳 17~19C
陶-259 740-25 201	施釉陶器 碗	IX-E- 5 底部片	底 (4.1)	並	並	淡灰	外面体部下半を除き、黒褐色の天目釉が施される。高台は削出。	美濃 15末 ~16前半
陶-260 740-26 201	施釉陶器 皿	J-表土 底部片	底 (4.1)	並	硬	淡灰	外面体部下半を除き、淡灰色釉が施される。内面に鉄絵が施される。	京焼系 18・19C
陶-261 740-27 201	磁 器 皿	G-表土 底部片	底 (3.6)	並	硬	灰	底面を除き、淡緑色の青磁釉が施される。内面に笠掻き手の施文あり。	同安楽系 13C
陶-262 740-28 201	施釉陶器 鉢	J-表土 底部片	底 (10.2)	密	硬	灰	高台を除き、内外面に施釉される。外面は、淡緑色の長石釉、内面は淡褐色釉が施される。	不詳 18・19C
陶-263 740-29	施釉陶器 鉢	J-ワゴ ミ穴 底部片	底 (10.8)	並	並	黄灰	底面を除き、淡黄色釉が施される。内・底面にトチン痕あり。	瀬戸美濃 18・19C
陶-264 740-30 201	施釉陶器 鉢	G-表土 底部片	底 (16.0)	並	並	黄灰	内面のみ黄灰色釉が施され、トチン痕あり。高台は貼付後、削出。	美濃 17・18C
陶-265 740-31 200	施釉陶器 鉢	J-表土 口縁部欠 損	口 (31.0)	並	並	黄灰	高台を除き、内外面に黄色釉が施される。口縁部三ヶ所に緑色 (刷釉) 釉が施される。	不詳 18・19C
陶-266 741-1 201	施釉陶器 碗	J-一方周 口縁部片	口 (11.0)	密	硬	淡灰	内外面に淡灰色釉が施され、外面に具須絵あり。	唐津系 17・18C
陶-267 741-2 201	施釉陶器 碗	J-表土 底部片	底 (4.4)	密	硬	淡灰	内外面に淡灰色釉が施され、外面に具須で貼付あり。	唐津系 17・18C
陶-268 741-3 201	磁 器	J-表土 換部片		密	硬	白	内外面に精製具須による染付施文あり。胴内に「□□□製」銘あり。	伊万里系 19C
陶-269 741-4 201	磁 器 皿	J-ワゴ ミ穴 底部片	底 (8.7)	密	硬	白	高台内面を除き、白磁釉を施す。内面に具須により染付施文される。土製円盤様の打欠。	伊万里系 18後~19前
陶-270 741-5 201	磁 器 碗	不明 口縁部片	口 (12.8)	密	硬	淡黄灰	内外面に淡褐色の青磁釉が施される。外面に割文あり。元代。	龍泉窯系 14C
陶-271 741-6 201	磁 器 皿	43 I 77 口縁部片	口 (11.8)	密	硬	白	内外面に青白磁色の青磁釉が施され、口縁部は紫口状を呈す。	伊万里系 17・18C
陶-272 741-7 201	磁 器 碗	G-11番 口縁部片	口 (17.8)	密	硬	灰	内外面に淡青緑色の青磁釉が施される。器面は火中のため変色している。元代。	龍泉窯系 14C
陶-273 741-8 201	磁 器 四 耳 壺	G-121地 口縁部片	口 (14.0)	密	硬	淡灰	内外面に白磁釉が厚く施される。口縁は玉縁状となる。器表面に使用時の傷多数あり。	中国 13C

## 第2節 鎌倉時代以降

陶-274 741-9 201	磁器 椀 花皿	H-表土 口縁部片		粗	軟	灰	内外面に淡青緑色の青磁釉が施される。口縁内側に三条の藍文あり。火中している。	龍泉窯系 15・16C
陶-275 741-10 201	磁器 碗	F-24溝 口縁部片		密	硬	白	内外面に若黄色を呈する青磁釉が厚く施される。釉は火中のため、ハゼが生じている。	龍泉窯系 14C
陶-276 741-11 201	磁器 碗	G-表土 体部片		密	硬	淡灰	内外面に淡青緑色の青磁釉が施される。外面に荒彫か劃文か不明瞭な刻線あり。	龍泉窯系 13~16C
陶-277 741-12 201	磁器 碗	G-10趾 体部片		密	硬	淡灰	内外面に淡青緑色の青磁釉が施される。破片の曲率からすれば、口縁部直下の破片か。	13・14C
陶-278 741-13 201	磁器 碗 炭物	H-79柱 腹片 体部片		密	硬	白	二条の凹凸が体部外面に認められ、内面は露胎となる。釉は乳濁した淡青緑色を呈す。	龍泉窯系 13~16C
陶-279 741-14 201	磁器 碗	F-50柱 体部片		密	硬	灰	内外面に淡緑灰色の青磁釉が施される。外面に劃文の遺存が認められる。明代。	龍泉窯系 15C
陶-280 741-15 201	磁器 碗	G-表土 体部片		密	硬	灰	内外面に淡青緑色の青磁釉が施される。外面に劃花文あり。	龍泉窯系 13・14C
陶-281 741-16 201	磁器 大皿	H-表土 底部片		密	軟	白	内外面に白磁釉を施す。内面に印花用の凹凸あり。	中国 14~16C
陶-282 741-17 201	磁器 碗	J-IV 3 体部片		密	軟	白	内外面に胎手色の青磁釉が厚く施される。二重貫入あり。外面に鍋手鎌弁を施す。上手。	龍泉窯 14C
陶-283 744-2	磁器 壺	C-1溝 体部片		密	軟	淡灰	燒締であるが、胎土は磁質。内面に指頭圧痕あり。外面は酸化気味。前田報告の第471図一15と同一個体。	中国 15・16C
陶-284 745-3	焼締陶器 壺	C-41- C 2 口縁 口縁部片		並	並	淡褐	内外面に横割であり。器面は全体的に酸化。口縁端部は折返し。	常滑焼 13C後半
陶-285 745-4	焼締陶器 壺	C-表土 口縁部片		並	並	暗褐	内外面に横割であり。器面は全体的に酸化。口縁端部は折返し。	常滑焼 14C前半
陶-286 745-5	焼締陶器 大壺	C-表土 S 肩部片		並	硬	淡灰	外面に自然釉がおよび、内面に紐作痕あり。外面に格子印目あり。	常滑焼 13・14C
陶-287 745-6	焼締陶器 壺	C-表土 体部片		密	硬	灰	外面に自然釉がおよび、内面に紐作痕あり。外面に細かい格子印目あり。	常滑焼 13・14C
陶-288 745-7	焼締陶器 壺	C-表土 体部片		密	並	淡灰	外面に自然釉がおよび、内面に指頭圧痕あり。外面に変形雷文様の印目あり。	常滑焼 14C
陶-289 745-8	焼締陶器 壺	C-表土 体部片		密	硬	淡灰	外面に自然釉がおよび、内面に紐作痕あり。外面に格子様の印目あり。	常滑焼 13・14C
陶-290 745-9	焼締陶器 壺	C-C46 体部片		密	並	灰	外面に自然釉がおよび、格子様の印目あり。内面に紐作痕と指頭圧痕あり。	常滑焼 13・14C
陶-291 745-11	焼締陶器 壺	C-西南 体部片		密	硬	灰	内外面に黒褐釉が施される。破片の曲率からすれば、炭物と考えられるが、施釉は均等。	不詳 15~17C
陶-292 745-12	焼締陶器 碗	C-西南 口縁部片	口 (18.2)	密	硬	淡灰	平碗の口縁部片。釉は淡緑灰色を呈し、内外面に施釉される。	瀬戸美濃 15C前半
陶-293 745-13	磁器 碗	C-表土 S 口縁部片	口 (16.8)	密	硬	淡灰	内外面に淡緑灰色を呈する青磁釉が厚く施される。	龍泉窯系 14C

上野国分僧寺・  
尼寺中間地域(2)

《図表編》  
一関越自道車道(新潟線)地域埋蔵  
文化財発掘調査報告書第20集一

---

昭和63年3月25日印刷

昭和63年3月31日発行

編集・発行／群馬県埋蔵文化財調査事業団  
勢多郡北橋村下箱田784番地の2  
電話(0279)52-2511(代表)

発行／群馬県教育委員会  
前橋市大手町1丁目1番1号  
電話(0272)23-1111

印刷／朝日印刷工業株式会社

---